

ARCACLAVIS NEXT

V1.5
管理者ガイド

株式会社両備システムズ

改訂履歴

2024/4/26

12 版

目次

1. 本書について	11
1.1. 本書の表記	11
1.2. 用語	12
2. 概要	13
2.1. システム構成	13
2.2. 動作環境	15
2.3. セットアップ	15
3. サインイン、サインアウト	16
3.1. サインイン	18
3.1.1. パスワード認証でのサインイン	18
3.1.2. ワンタイムパスワード認証でのサインイン	21
3.2. サインアウト	24
4. 管理画面の基本操作	25
4.1. 画面構成	25
4.2. 基本操作	28
4.3. 初期管理者の設定	31
4.3.1. NEXT パスワードの変更	31
4.3.2. 管理者アカウントの追加	31
4.4. バージョンの確認	32
4.4.1. NEXT サーバーのバージョンの確認	32
4.4.2. NEXT クライアントのバージョンの確認	32

4.4.3.	NEXT クライアントの展開後のバージョンの確認	32
4.5.	プラグイン情報	33
4.6.	通知	35
4.6.1.	メールアイコン通知	36
4.6.2.	ライセンス通知	38
5.	コントロール設定	39
5.1.	Active Directory ユーザー自動インポート設定	39
5.2.	自動認証設定	40
5.2.1.	自動入力設定	41
5.2.2.	自動認証設定	42
5.3.	アプリケーション設定	44
5.3.1.	アプリケーション情報	45
5.3.2.	システム設定	46
5.3.3.	ライセンス管理	48
6.	クライアント一覧	56
6.1.	概要	56
6.2.	NEXT クライアントの閲覧	58
6.3.	NEXT クライアントの検索	59
6.4.	NEXT クライアントのアップデート状況の確認	61
7.	クライアント設定	65
7.1.	概要	65
7.1.1.	クライアント設定のNEXT クライアントインストール時の取り込み	65

7.1.2.	複数のクライアント設定	66
7.1.3.	クライアント設定の変更の反映.....	67
7.2.	クライアント情報の設定.....	70
7.2.1.	基本設定	70
7.2.2.	利用する認証方式.....	75
7.2.3.	離席モニター設定.....	82
7.3.	クライアント設定の作成/編集/削除	86
7.3.1.	クライアント設定の個別作成	87
7.3.2.	クライアント設定の用途別作成.....	89
7.3.3.	クライアント設定の編集	91
7.3.4.	離席モニター設定の編集	92
7.3.5.	クライアント設定の削除	93
7.4.	クライアント設定のダウンロード.....	95
8.	ポリシー設定	96
8.1.	概要	96
8.2.	ポリシー設定の編集.....	100
9.	NEXT ユーザー管理	101
9.1.	概要	101
9.2.	NEXT ユーザー情報の設定.....	104
9.2.1.	基本設定	104
9.2.2.	Windows アカウント.....	106
9.3.	NEXT ユーザーの管理	109
9.3.1.	NEXT ユーザーの作成	109

9.3.2.	NEXT ユーザーの編集	110
9.3.3.	NEXT ユーザーの削除	111
9.3.4.	NEXT ユーザーの検索	112
9.3.5.	NEXT ユーザーのロックアウトの解除.....	116
9.3.6.	NEXT ユーザーのロール設定	118
9.4.	IC カードマスタ管理.....	121
9.4.1.	対応している IC カードのシリアル情報	122
9.4.2.	IC カードの登録.....	123
9.4.3.	IC カードの編集.....	124
9.4.4.	IC カードの削除.....	124
9.5.	顔認証マスタ管理	126
9.5.1.	顔情報の登録	128
9.5.2.	顔認証のオプションの設定	130
9.5.3.	顔情報の削除	133
9.5.4.	顔情報の自動更新.....	134
9.6.	NEXT 緊急パスワードの発行.....	136
9.7.	自動認証設定	138
9.7.1.	利用する自動認証設定の設定	138
9.8.	自動入力設定	140
9.8.1.	管理者による自動入力設定の設定.....	141
9.8.2.	利用者による自動入力設定の設定.....	143
9.8.3.	管理者による自動入力設定の編集.....	143
9.9.	ワンタイムパスワード.....	144

9.9.1.	対応しているスマートフォンの Authenticator アプリ	146
9.9.2.	ワンタイムパスワードシークレットの発行	147
9.9.3.	スマートフォンの Authenticator アプリへの登録	149
9.9.4.	ワンタイムパスワードシークレットのリセット	151
9.10.	NEXT ユーザー情報のエクスポート/インポート	153
10.	自動認証	154
10.1.	概要	154
10.2.	自動認証の設定、利用の流れ	156
10.3.	NEXT 自動認証クリエイター	158
10.3.1.	起動	158
10.3.2.	画面構成	162
10.3.3.	基本操作	163
10.3.4.	自動入力設定の概要	165
10.3.5.	自動入力設定の設定	169
10.3.6.	自動認証設定の概要	172
10.3.7.	自動認証設定の基本操作、設定項目	174
10.3.8.	自動認証が対応できる要素	194
10.3.9.	自動認証設定の設定	199
10.3.10.	さまざまな設定	241
10.3.11.	サーバー同期	248
10.3.12.	自動認証サンプル	252
10.3.13.	製品情報	256
10.3.14.	エラーメッセージ	257
10.4.	NEXT 自動認証スタンドアロン版	265

10.4.1. 起動.....	266
10.4.2. 画面構成	268
10.4.3. 基本操作	269
10.4.4. 自動認証設定	271
10.4.5. 再生.....	273
10.4.6. 自動認証サンプル.....	273
10.4.7. 製品情報	274
10.4.8. エラーメッセージ.....	275

11. ログ管理 278

11.1. 概要	278
11.2. ログの格納.....	279
11.3. ログの閲覧.....	280
11.4. ログの検索.....	284
11.5. 顔認証ログの閲覧	287
11.6. 顔認証ログの検索	289
11.7. ログの出力.....	291
11.8. ローカル CSV ファイルの出力失敗	295
11.9. ログの一覧.....	296
11.10. ログ管理用タスクスケジューラの時間変更.....	297
11.11. NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合	301
ログの保存先、閲覧	301
11.11.1. NEXT ログサーバーのユーザー管理	302
11.11.2. CSV ファイル、顔画像ファイルの保存先	303

11.11.3.	システム設定	303
11.11.4.	ログ管理用タスクスケジューラの時間変更	303
12.	バックアップ	304
12.1.	概要	304
12.2.	NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをバックアップする	305
12.2.1.	バックアップ用バッチファイルを作成	305
12.2.2.	バッチファイルをタスクスケジューラに登録	308
12.2.3.	バックアップ用タスクスケジューラの動作確認	315
12.3.	NEXT ログ DB ファイルをバックアップする	317
12.3.1.	バックアップ用バッチファイルを作成	317
12.3.2.	バッチファイルをタスクスケジューラに登録	319
12.3.3.	バックアップ用タスクスケジューラの動作確認	326
13.	リストア	328
13.1.	概要	328
13.2.	NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをリストアする	329
13.2.1.	現在の NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB をバックアップ	329
13.2.2.	IIS の停止	332
13.2.3.	タスクスケジューラの無効化	334
13.2.4.	NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB のリストア用バッチファイルを作成	337
13.2.5.	NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをリストア	339
13.2.6.	IIS の開始	340
13.2.7.	タスクスケジューラの有効化	342
13.3.	NEXT ログ DB ファイルをリストアする	345

13.3.1. 現在のNEXT ログ DB ファイルをバックアップ 345

13.3.2. IIS の停止 347

13.3.3. タスクスケジューラの無効化 348

13.3.4. NEXT ログ DB ファイルのリストア用バッチファイルを作成 348

13.3.5. NEXT ログ DB ファイルをリストア 350

13.3.6. IIS の開始 350

13.3.7. タスクスケジューラの有効化 351

付録 352

IC カードを忘れた/紛失した、カメラを忘れた/壊れてしまった 352

 NEXT 緊急パスワードを発行する 352

 NEXT 緊急パスワードを利用して Windows へサインインする 352

NEXT ユーザーのロックアウト 353

NEXT マネージャーの Web サイト再起動 354

NEXT ユーザーの状態と NEXT 認証の可否 356

 NEXT 緊急パスワードの発行 356

 NEXT マネージャーへの NEXT パスワードでのサインイン 356

 NEXT マネージャーへのワンタイムパスワードでのサインイン 357

NEXT ユーザーの状態ごとの復帰 358

NEXT パスワードの変更 360

1. 本書について

株式会社両備システムズ 認証セキュリティ製品「ARCACLAVIS NEXT」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

ARCACLAVIS NEXT（アルカクラヴィス ネクスト、以下、NEXT）は、パスワードによる認証にICカード認証や生体認証を組み合わせた二要素認証により、多くの情報を扱うコンピューター利用時の確実な本人認証を実現し、なりすまし、不正行為、情報漏えいを防ぐための認証強化を行うことができるセキュリティ製品です。

本書は、ARCACLAVIS NEXT の管理ツールであるNEXT マネージャーの操作、設定方法などについて説明する管理者ガイドです。

1.1. 本書の表記

本書は、以下に示す表記、記号、四角囲い付きスタイルで記載しています。

表記例	説明
<OK>、<キャンセル>、<次へ>、<適用>	ボタン名は、“<>”で囲んで表しています。
[ファイル]-[開く]	メニューのコマンドの選択順を表しています。
「ダイアログ名」、「入力値」、「画面名」、「ファイル名」	“「」”で囲んでいる箇所は、ダイアログ名や入力値などを表しています。
チェックする、チェックしない、チェックをはずす、オンする、オフする	チェックボックスなどを選択する/選択しない、ON/OFF することを表しています。
[Ctrl]キー	キーは、“[]”で囲んで表しています。
[Ctrl]+[Alt]+[Del]キー	“+”で連結しているキー表記は、同時に複数のキーを押すことを表しています。
※	注釈を表しています。補足説明、コメントを記載しています。
サインイン/サインアウト	「サインイン/サインアウト」「ログオン/ログオフ」の操作、機能名称は「サインイン/サインアウト」を使用して記載しています。



ご利用にあたり、注意いただきたい事項について説明します。



補足的な情報について説明します。

1.2. 用語

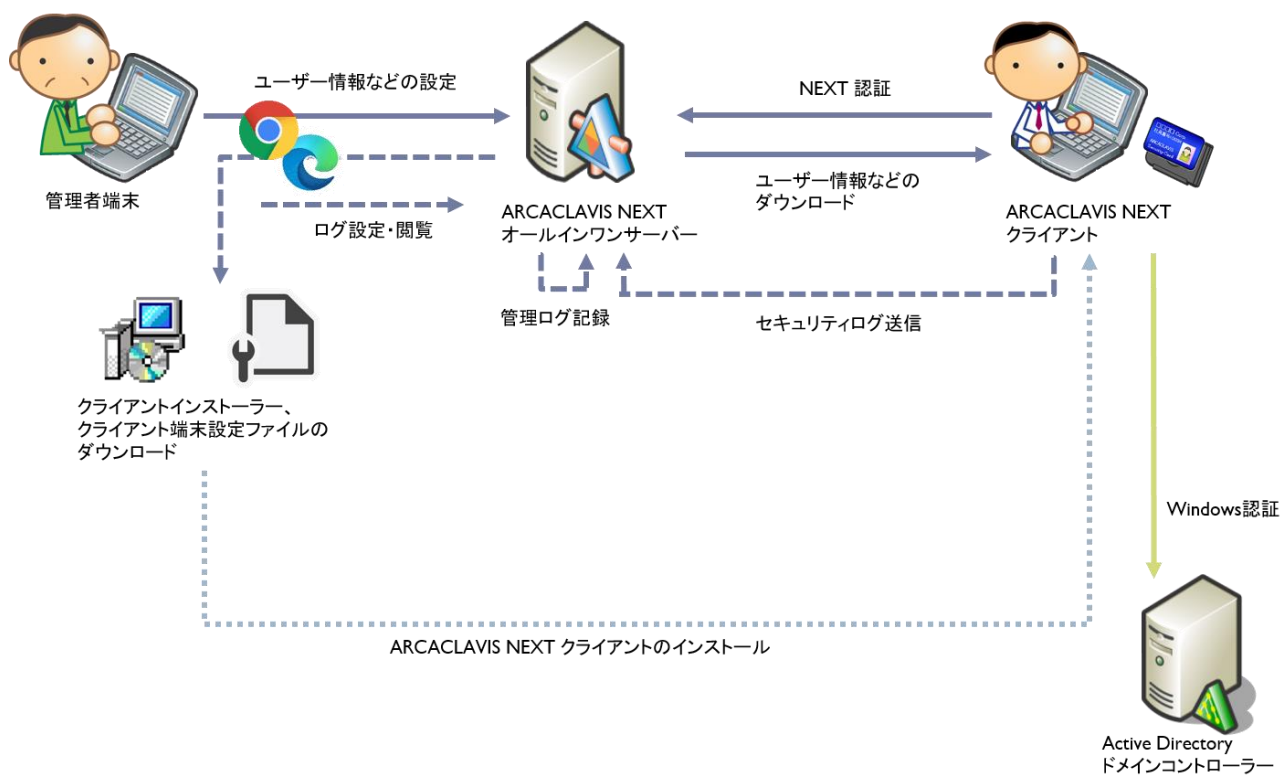
ARCACLAVIS NEXT の用語については、「ARCACLAVIS NEXT 用語集」を参照してください。

2. 概要

この章では、ARCACLAVIS NEXT システムおよびNEXT マネージャーの概要について説明します。

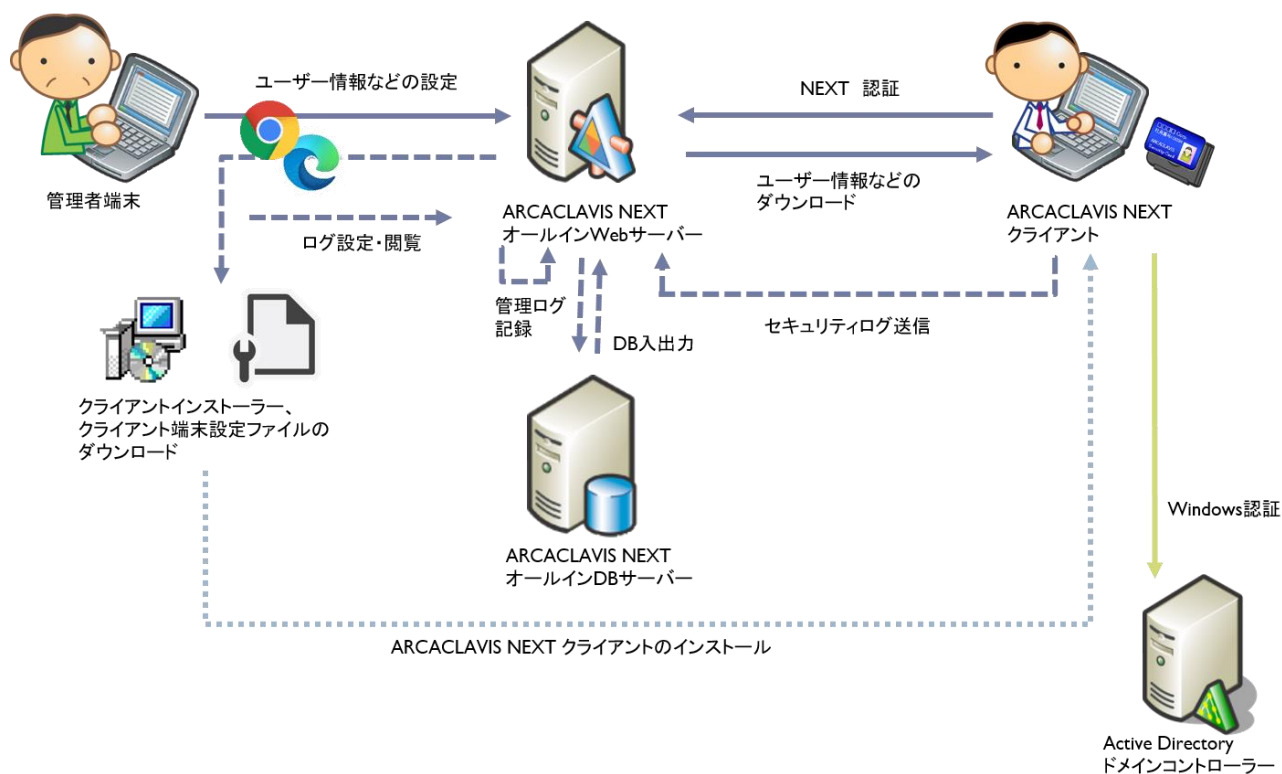
2.1. システム構成

ARCACLAVIS NEXT は、サーバーとクライアントで構成されます。サーバーに管理者がユーザー情報などを設定し、利用者はクライアントからの認証を経て、ユーザー情報などをダウンロードし、管理者の設定に従ってクライアントの利用が行われます。



NEXT マネージャーは、NEXT サーバーに保存されるデータの登録/編集/削除を行うために利用する管理ツールです。ARCACLAVIS NEXT を利用するユーザー情報の設定、ユーザーが利用するICカードなどの認証情報の登録、NEXT クライアントで利用する認証方式などの設定、利用するパスワードのポリシー、直近の利用状況を確認できるログの閲覧などを集中的に行うことができます。

NEXT マネージャーは、Webブラウザで利用できます。各拠点の管理者による分散管理を行うことも可能です。



ARCACLAVIS NEXT で使用するコンポーネントと役割は、「ARCACLAVIS NEXT 用語集」を参照してください。

Info 本マニュアルは「NEXT オールインワンサーバー」を使用する手順を記載しています。「NEXT オールイン Web サーバー」と「NEXT オールイン DB サーバー」の構成を使用する場合は、「NEXT オールイン Web サーバー」で設定を行ってください。

2.2. 動作環境

動作環境については、「ARCACLAVIS NEXT 動作環境一覧」を参照してください。

2.3. セットアップ

NEXT サーバー、NEXT クライアント、NEXT 離席モニターのセットアップについては、「ARCACLAVIS NEXT セットアップガイド」を参照してください。

3. サインイン、サインアウト

NEXT マネージャーのサインイン画面は、「管理者ポータル」と「ユーザーポータル」の2つがあります。

サインイン画面	利用する人	機能
管理者ポータル	管理者	管理者権限のあるユーザーのみサインインすることができ、NEXT サーバー全体の設定、および全ユーザーのユーザー情報の設定をすることができます。
ユーザーポータル	利用者	各利用者が NEXT マネージャーにサインインして、自分自身のユーザー情報の設定をすることができます。

NEXT マネージャーへサインインする認証方式は、「パスワード認証」と「ワンタイムパスワード認証」の2つがあります。

認証方式	利用する ID、 利用するパスワード	説明
パスワード認証	NEXT ユーザーID、 NEXT パスワード	各 NEXT ユーザーに設定されている NEXT パスワードを利用してサインインする認証方式です。
ワンタイムパスワード認証	NEXT ユーザーID、 ワンタイムパスワード	各 NEXT ユーザーに設定されているワンタイムパスワードを利用してサインインする認証方式です。 ワンタイムパスワード認証を使用する場合は、あらかじめ下記の設定が必要となります。 <ul style="list-style-type: none"> ワンタイムパスワード認証の有効化 NEXT ユーザーにワンタイムパスワードシークレットを発行 スマートフォンの Authenticator アプリへワンタイムパスワードシークレットを登録 ワンタイムパスワードの詳細は、「7.2.2. 利用する認証方式」「9.9. ワンタイムパスワード」を参照してください。

Info NEXT マネージャーの URL の初期値は以下です。
<https://<ホスト名または IP アドレス>/>

Info 初期設定時の NEXT マネージャーにサインインできる NEXT ユーザーID、パスワードは以下です。

NEXT ユーザーID : admin

NEXT パスワード : password

NEXT ユーザー名 : 管理者(ビルトイン)

ロール : 管理者

3.1. サインイン

管理者ポータルへのサインインについて説明します。
管理者ポータルは、管理者のみがサインインできます。

Info ユーザーポータルについては、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

3.1.1. パスワード認証でのサインイン

パスワード認証を利用して NEXT マネージャーの管理者ポータルへサインインする場合は、以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの URL を Web ブラウザで開きます。
2. ユーザーポータルのサインイン画面が表示されます。



3. <管理者サインイン>をクリックすると、管理者ポータルのサインイン画面が表示されます。



4. 管理者権限のあるユーザーの「NEXT ユーザーID」を入力し、<サインイン>をクリックしてください。

5. 「NEXT パスワード」を入力し、<次へ>をクリックしてください。

Info ワンタイムパスワード認証が有効時は、下記画面が表示されるので、<NEXT パスワードでサインインする>をクリックしてください。

6. 管理者ポータルへのダッシュボードが表示されます。

The screenshot displays the NEXT Manager dashboard with a dark blue sidebar and a light gray main content area. The sidebar contains navigation options for system settings, control settings, client management, logs, authentication, and user management. The main content area is titled 'ダッシュボード' and features several widgets: a log overview table, a plugin status list, and version information for the product and modules.

ログ情報(一週間) (最終更新日時: 2024/01/23 15:06:16)

イベント	情報	エラー
セキュリティ	0	0
管理	69	8

プラグイン情報

有効	基本プラグイン	▼
有効	PostgreSQL	▼
有効	ログマネージャー	▼
無効	データマネージャー	▼
有効	クライアント設定	▼
有効	クライアント情報	▼

プロダクトバージョン:
1.5.0.401170921

モジュールバージョン

Js.Common.dll	1.5.0.0
Js.Common.ServiceLocator.dll	1.5.0.0
Js.Ssol.Common.dll	1.5.0.0
Js.Ssol.Common.Interface.dll	1.5.0.0

3.1.2. ワンタイムパスワード認証でのサインイン

ワンタイムパスワード認証を利用して NEXT マネージャーの管理者ポータルへサインインする場合は、以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの URL を Web ブラウザで開きます。
2. ユーザーポータルサインイン画面が表示されます。



3. <管理者サインイン>をクリックすると、管理者ポータルサインイン画面が表示されます。



4. 管理者権限のあるユーザーの「NEXT ユーザーID」を入力し、<サインイン>をクリックしてください。

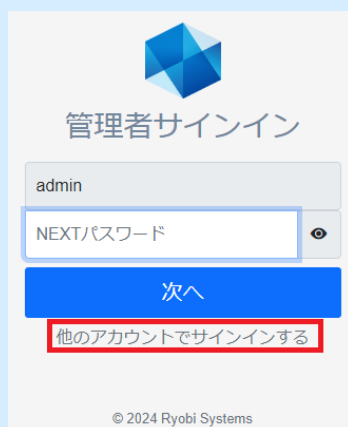


5. スマートフォンの Authenticator アプリを開き、表示されているワンタイムパスワードを入力して、<次へ>をクリックしてください。



The screenshot shows the administrator login interface. At the top is a blue cube logo and the text '管理者サインイン'. Below this is a text input field containing 'admin'. Underneath is a field for 'ワンタイムパスワード' (One-time password) with an eye icon to its right. A blue button labeled '次へ' (Next) is positioned below the password field. At the bottom, there are two links: 'NEXTパスワードでサインインする' and '他のアカウントでサインインする'. The footer contains the copyright notice '© 2024 Ryobi Systems'.

Info <NEXT パスワードでサインインする>をクリックした場合、パスワード認証の画面に切り替わりますが、再度ワンタイムパスワード認証の画面に切り替えることはできません。
ワンタイムパスワード認証でサインインする場合は、<他のアカウントでサインインする>をクリックし、再度手順 4 からやり直してください。



This screenshot is similar to the previous one, but the 'NEXTパスワード' field is now active. The '他のアカウントでサインインする' link is highlighted with a red rectangular box. The 'ワンタイムパスワード' field is now empty. The rest of the interface, including the 'admin' username, the '次へ' button, and the footer, remains the same.

6. 管理者ポータルへのダッシュボードが表示されます。

The screenshot displays the NEXT Manager dashboard interface. On the left is a dark blue sidebar with navigation options. The main content area is titled 'ダッシュボード' (Dashboard) and contains several informational panels.

システム (System) sidebar menu items:

- ダッシュボード (Dashboard)
- コントロール設定 (Control Settings)
- クライアント一覧 (Client List)
- ログ管理 (Log Management)
- 顔認証ログ (Face Recognition Log)
- 認証設定 (Authentication Settings)
- ポリシー設定 (Policy Settings)
- クライアント設定 (Client Settings)
- ユーザー管理 (User Management)
- NEXTユーザー一覧 (NEXT User List)
- NEXTユーザー作成 (NEXT User Creation)

ダッシュボード (Dashboard) main content:

- ログ情報(一週間)** (Log Information (One Week)):

イベント	情報	エラー
セキュリティ	0	0
管理	69	8

 (最終更新日時: 2024/01/23 15:06:16)
- プラグイン情報** (Plugin Information):

有効	基本プラグイン	▼
有効	PostgreSQL	▼
有効	ログマネージャー	▼
無効	データマネージャー	▼
有効	クライアント設定	▼
有効	クライアント情報	▼
- プロダクトバージョン:** 1.5.0.401170921
- モジュールバージョン** (Module Versions):

Js.Common.dll	1.5.0.0
Js.Common.ServiceLocator.dll	1.5.0.0
Js.Ssol.Common.dll	1.5.0.0
Js.Ssol.Common.Interface.dll	1.5.0.0

3.2. サインアウト

NEXT マネージャーからのサインアウトについて説明します。

NEXT マネージャーからのサインアウトは、以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの右上に表示されている「サインインした NEXT ユーザー名」をクリックします。
2. 「サインアウト」をクリックします。



3. サインアウトされ、サインイン画面が表示されます。



4. 管理画面の基本操作

4.1. 画面構成

NEXT マネージャーは、左側のメニューと右側のメインパネルから構成されています。各メニューをクリックすると、メインパネルに対応するページが表示されます。

The screenshot shows the NEXT Manager dashboard. The left sidebar is labeled 'システム' and contains a 'メニュー' section with various management options. The main panel is titled 'ダッシュボード' and features several data panels. A red box highlights the main content area, with the label 'メインパネル' overlaid in red text.

ログ情報(一週間) (最終更新日時: 2023/11/06 10:26:09)

イベント	情報	エラー
セキュリティ	0	0
管理	13	0

プラグイン情報

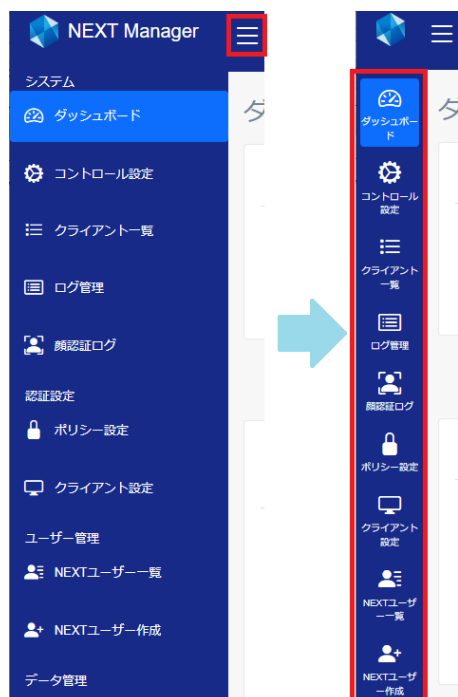
有効	基本プラグイン	▼
有効	PostgreSQL	▼
有効	ログマネージャー	▼
有効	データマネージャー	▼
有効	クライアント設定	▼
有効	クライアント情報	▼
有効	Active Directoryユーザーインポート	▼

プロダクトバージョン:
1.4.9.311020507

モジュールバージョン

Js.Common.dll	1.4.9.0
Js.Common.ServiceLocator.dll	1.4.9.0
Js.Ssol.Common.dll	1.4.9.0
Js.Ssol.Common.Interface.dll	1.4.9.0

メインパネルの左上のアイコンをクリックすると、メニューを折りたたむことができます。もう一度、クリックすると元の表示に戻ります。



NEXT マネージャーのメニューに表示される項目は、以下のとおりです。

カテゴリ	項目	説明
システム	ダッシュボード	NEXT マネージャーにログイン後、最初に表示される画面です。バージョン情報の他、管理者向けの情報を表示します。
	コントロール設定	Active Directory ユーザー自動インポートの設定、自動認証設定の確認、アプリケーション設定の設定、および設定の確認を行う画面です。 Active Directory ユーザー自動インポートの詳細は、「ARCACLAVIS NEXT Active Directory ユーザー自動インポートガイド」を参照してください。 自動認証設定の詳細は、「10. 自動認証」を参照してください。 アプリケーション設定の詳細は、「5.3. アプリケーション設定」を参照してください。
	クライアント一覧	オンラインで NEXT 認証を行ったクライアント情報を閲覧する画面です。
	ログ管理	NEXT マネージャー、NEXT クライアントの直近の操作ログを閲覧、検索できます。一定期間を経過したログは、ログ管理ではなく、ログ格納機能から出力された CSV ファイルのログをご確認ください。

カテゴリ	項目	説明
	顔認証ログ	NEXT クライアントでの直近の顔認証時の顔画像ファイルをログとして閲覧、検索できます。一定期間を経過したログは、ログ管理ではなく、ログ格納機能から出力された CSV ファイルと顔画像ファイルをご確認ください。
認証設定	ポリシー設定	パスワードポリシーなどの設定を行います。
	クライアント設定	NEXT クライアントの端末設定を行います。
ユーザー管理	NEXT ユーザー一覧	NEXT ユーザー情報の管理を行います。
	NEXT ユーザー作成	NEXT ユーザーの作成を行います。
データ管理	ジョブ管理	インポート処理のジョブを管理する画面です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT CSV ファイルインポート・エクスポートガイド」、または「ARCACLAVIS NEXT 顔情報一括インポートガイド」を参照してください。
	ユーザーインポート	CSV ファイルを利用して、NEXT ユーザーを一括登録することができます。
	顔画像一括インポート	「ARCACLAVIS NEXT 顔情報一括インポートガイド」に沿って作成した顔情報インポートファイルで、顔情報の一括登録することができます。

メインパネルに表示される項目は、以下のとおりです。

項目	説明
ログ情報(一週間)	一週間分のログ情報を集計して表示します。 集計結果はキャッシュされ、キャッシュが有効な間はキャッシュした集計結果を表示します。 キャッシュの有効期間は 1 時間です。
プラグイン情報	NEXT サーバーで適用されているプラグイン情報を表示します。 詳細は、「4.5. プラグイン情報」を参照してください。
プロダクトバージョン	プロダクトバージョンとモジュールバージョンを表示します。 プロダクトバージョンは NEXT サーバーのインストーラーバージョンを表示します。 モジュールバージョンはプラグインモジュール毎のバージョンを表示します。

4.2. 基本操作

NEXT マネージャーでの値の入力、選択などの基本操作を、例を用いながら説明します。

値の入力：

「NEXT ユーザー作成」の「NEXT ユーザーID」などは入力規則に従った値を入力してください。

NEXTユーザーID*

ツールチップ：

「NEXT ユーザーID」などのラベルにマウスをフォーカスすると、入力する値の説明をツールチップとして表示します。画面上での入力する値の参考にしてください。なお、ツールチップはすべてのラベルには設定されておりません。

一意のユーザーIDを入力してください
半角英数、記号(ハイフン、アンダーバー、ドットのみ)

NEXTユーザーID*

NEXT パスワードの入力：

入力した NEXT パスワードは[●]で表示されます。

既存の NEXT ユーザーを編集する場合は、現在設定されている NEXT パスワードは表示されず、空白で表示されます。

NEXTパスワード* 

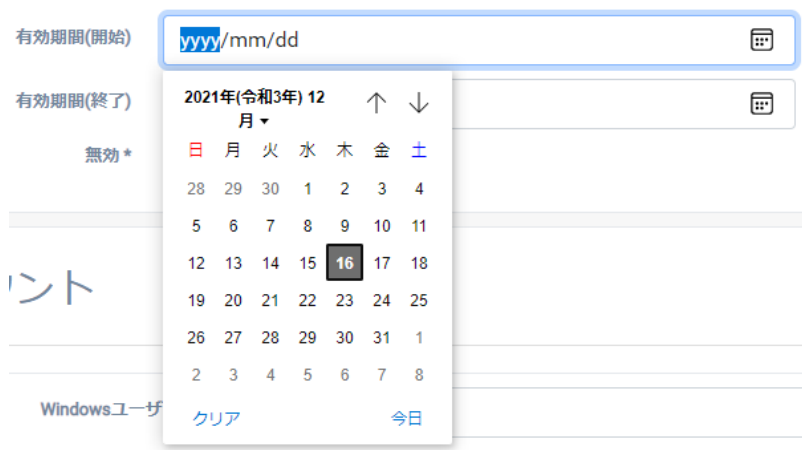
右の[目]のアイコンをクリックすることで入力した値そのものの表示に切り替えることができます。もう一度、クリックすることで[●]の表示に戻ります。周囲に注意してご利用ください。

既存の NEXT ユーザーを編集する場合は、右の[目]のアイコンをクリックしても現在設定されている NEXT パスワードは表示されず、空白で表示されます。

NEXTパスワード* 

日付の入力：

日付の入力は、キーボードで直接、数字入力も可能ですが、右の[カレンダー]のアイコンをクリックすることで、年月日を選択して入力することができます。



カレンダーを表示した後、「2021年(令和3年)12月」の部分をクリックすることで、年月の選択カレンダーを表示することもできます。



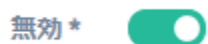
オン/オフの入力：

選択肢のオン、オフはクリックすることで切り替えることができます。

下図の例では、「オフ」なので、「無効がオフ」、つまり、「有効」状態を表しています。



下図の例では、「オン」なので、「無効がオン」、つまり「無効」状態を表しています。



必須項目の入力：

設定により、入力や選択が必須の項目があります。必須項目に入力、選択がない場合、下図のようにエラーが通知されます。

クライアント設定

• 入力エラーがあります

基本設定

クライアント設定名*

入力が必要です

4.3. 初期管理者の設定

初期設定の NEXT ユーザーは、そのまま使用せず、以下の手順でパスワードの変更を行ってください。また、初期設定の NEXT ユーザー以外に管理者権限を持つアカウントを作成する手順も合わせてご確認ください。

4.3.1. NEXT パスワードの変更

1. 「3.1. サインイン」の手順に従って初期設定の NEXT ユーザーで NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 初期設定の NEXT ユーザーの行の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<NEXT パスワードリセット>ボタンをクリックしてください。
4. 「新しい NEXT パスワード」「確認用 NEXT パスワード」を入力してください。
5. <登録>ボタンをクリックしてください。

Info 「パスワードポリシーに反しています。」と表示される場合があります。NEXT ユーザーのパスワードポリシーは「ポリシー設定」で設定します。詳細は、「8. ポリシー設定」を参照してください。

4.3.2. 管理者アカウントの追加

1. 「3.1. サインイン」の手順に従って初期設定の NEXT ユーザーで NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー作成」をクリックしてください。
3. 必要な項目を入力してください。
4. <登録>ボタンをクリックしてください。
5. メニューの「NEXT ユーザー一覧」から今、作成した NEXT ユーザーの行の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<ロール設定>ボタンをクリックしてください。
6. 「管理者」をオンにします。
7. <登録>ボタンをクリックしてください。

Info NEXT ユーザーの各項目の詳細は、「9.2. NEXT ユーザー情報の設定」を参照してください。

4.4 バージョンの確認

4.4.1. NEXT サーバーのバージョンの確認

NEXT サーバーのバージョンの確認は以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. ダッシュボードが表示されます。
3. ダッシュボードに「プロダクトバージョン」が表示されます。

4.4.2. NEXT クライアントのバージョンの確認

NEXT クライアントのバージョンの確認方法は、「6. クライアント一覧」を参照してください。

4.4.3. NEXT クライアントの展開後のバージョンの確認

NEXT クライアントを展開後に、NEXT マネージャーから確認する場合は以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. 「検索条件」の「クライアント PC 名」、「クライアント IP アドレス」に確認したい NEXT クライアントの情報を入力してください。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。
5. 下の検索結果に該当の NEXT クライアントのログがあれば表示されますので、「クライアントバージョン」列をご確認ください。

Info

「ログ管理」で表示されるログは一定期間内のログです。

一定期間を過ぎたログは、ログ格納機能の指定フォルダに CSV ファイルで出力されますので、CSV ファイルでご確認ください。

詳細は、「11. ログ管理」を参照してください。

4.5. プラグイン情報

NEXT サーバーで適用されているプラグイン情報は以下の手順で確認ができます。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. ダッシュボードが表示されます。
3. ダッシュボードに「プラグイン情報」が表示されます。

プラグイン情報の表示内容の説明は以下のとおりです。



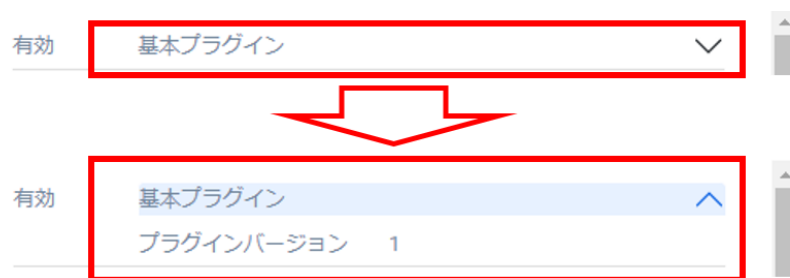
	項目名	説明
1	プラグインの状態	プラグインの状態を「有効」、または「無効」で表示します。
2	プラグイン名	適用されているプラグイン名です。 プラグイン名をクリックした場合の動作は後述します。

プラグインの状態が無効となった場合、状態に「無効」が表示されます。



無効が表示されている場合は NEXT サーバーのインストールに失敗しているため、NEXT サーバーをアンインストールした後、再度インストールを実行してください

プラグイン名をクリックすると、プラグインに紐づく情報を表示します。
再度クリックすることで非表示に切り替えます。

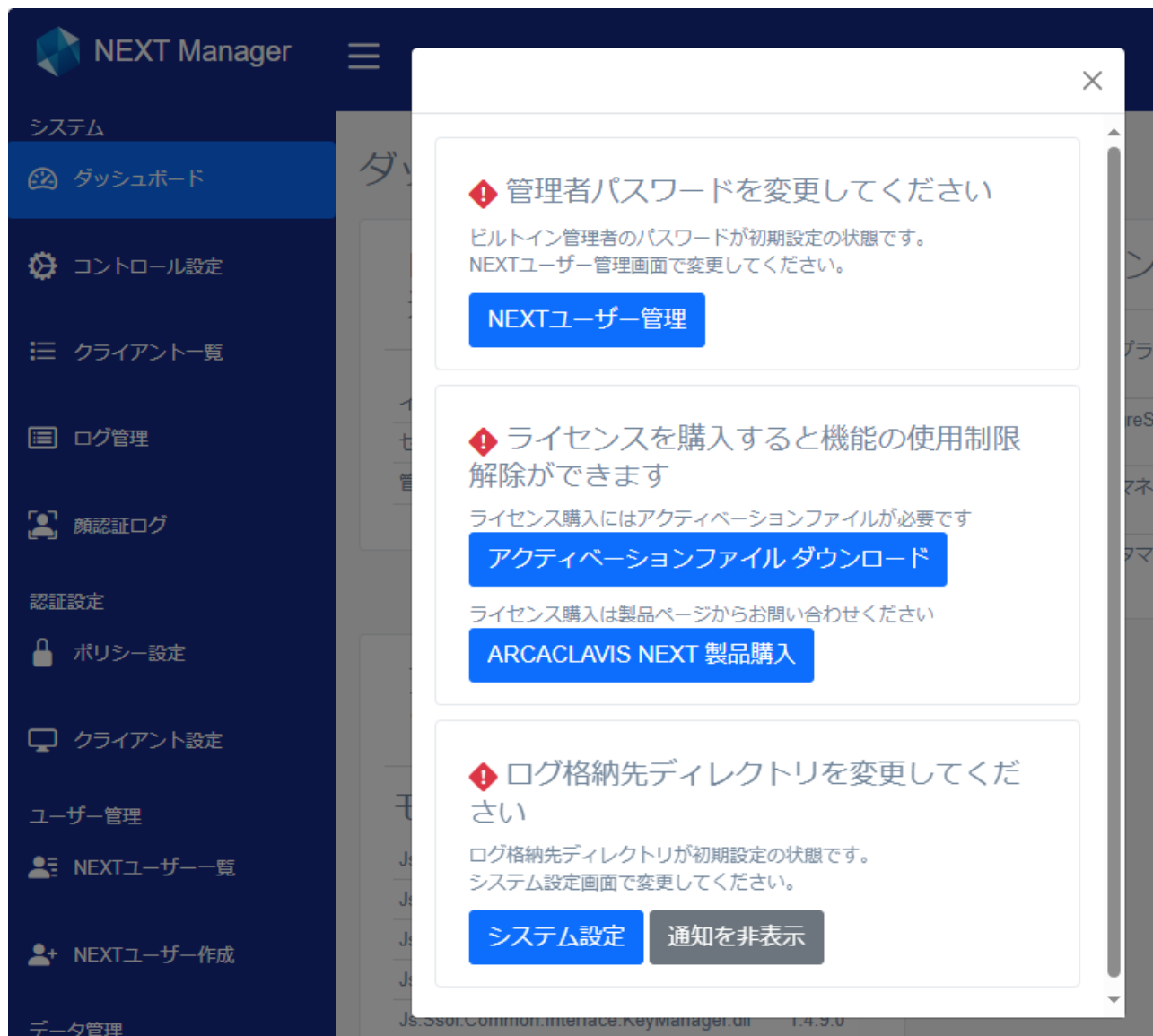


プラグインに紐づく情報は以下のとおりです。

	項目名	説明
1	プラグインバージョン	プラグイン設定ファイルのバージョンです。

4.6. 通知

NEXT マネージャーへサインインした際に通知する内容がある場合は、通知ダイアログが表示されます。



4.6.1. メールアイコン通知

ビルトインユーザーの初期パスワード、ログ格納先ディレクトリが初期値から変更されていない、ライセンスが未登録などの情報を通知します。

通知情報の有無は、管理画面右上のメールアイコンの表示を確認してください。

- ・通知ありの場合

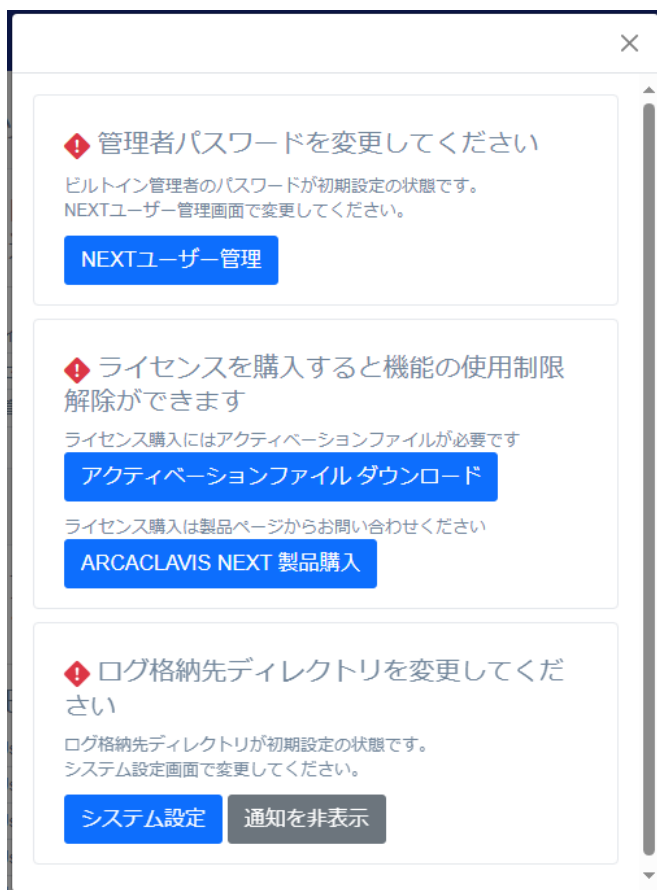


- ・通知なしの場合



通知情報の内容は、以下の手順で確認してください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. 画面右上の<メール>アイコンをクリックしてください。
3. 通知ダイアログが表示されます。



通知情報には関連したボタンも表示されます。上記、<システム設定>ボタンの場合、クリックするとログ格納先ディレクトリ設定を変更するシステム管理画面に遷移します。

今後、その通知情報を表示したくない場合は<通知を非表示>ボタンをクリックしてください。今後、その通知情報は表示されなくなります。

Info 通知情報に表示されるボタンは通知情報により異なります。
非表示にできない通知情報の場合は<通知を非表示>ボタンは表示されません。

4.6.2. ライセンス通知

現在ご利用中の NEXT サーバーのライセンス状態を通知します。

現在のライセンス状態は、下図のように管理画面右下に表示されます。

The screenshot shows the NEXT Manager interface. On the left is a navigation menu with items like 'システム', 'ダッシュボード', 'コントロール設定', 'クライアント一覧', 'ログ管理', '顔認証ログ', '認証設定', 'ポリシー設定', 'クライアント設定', 'ユーザー管理', 'NEXTユーザー一覧', and 'NEXTユーザー作成'. The main area is titled 'ダッシュボード' and contains several widgets: 'ログ情報(一週間)' with a table of events, 'プラグイン情報' with a list of active and inactive plugins, 'プロダクトバージョン: 1.4.9.311020507', and 'モジュールバージョン' with a list of DLL files. A red box in the bottom right corner of the dashboard area contains the text '製品ライセンスが未登録です'.

各エディションのライセンス状態の表示は以下のとおりです。

エディション	ライセンス状態	管理画面のライセンス状態の表示
エンタープライズ版	ライセンス登録済	※何も表示されません
	ライセンス未登録	製品ライセンスが未登録です
無料版	ライセンス登録済 ※インストール時に無料ライセンスが登録されます	※何も表示されません

Info 各エディションの詳細については、「ARCACLAVIS NEXT エディションガイド」を参照してください。

5. コントロール設定

NEXT マネージャーのメニューの「コントロール設定」について説明します。

コントロール設定では、Active Directory ユーザー自動インポートの設定、自動認証設定の確認、アプリケーション設定の設定、および設定の確認を行えます。

5.1. Active Directory ユーザー自動インポート設定

Active Directory ユーザー自動インポートに関する設定を行うことができます。

Active Directory ユーザー自動インポート設定



Active Directory接続設定



Active Directoryテンプレート設定



Active Directoryグループ優先順位設定



除外ユーザー設定

Info Active Directory ユーザー自動インポート設定については、「ARCACLAVIS NEXT Active Directory ユーザー自動インポートガイド」を参照してください。

5.2. 自動認証設定

自動認証に関する設定内容の確認を行うことができます。



自動入力設定では自動認証設定で自動入力する項目の確認、自動認証設定では NEXT 自動認証クリエイターで登録した自動認証設定の確認を行うことができます。


Info 自動入力設定画面、および自動認証設定画面では、設定の作成・編集はできません。設定の作成・編集は NEXT 自動認証クリエイターで行います。NEXT 自動認証クリエイターについては、「10.3. NEXT 自動認証クリエイター」を参照してください。

5.2.1. 自動入力設定

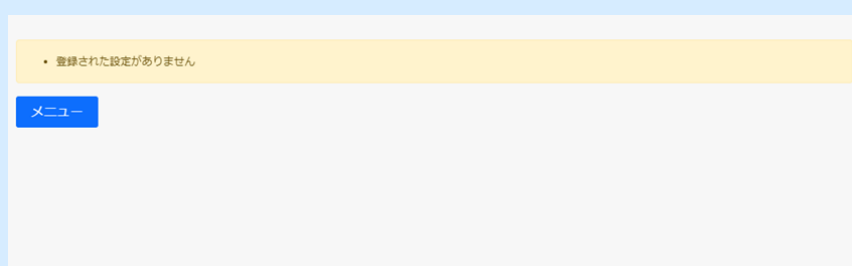
自動入力設定画面では、登録済の自動入力設定を確認することができます。



Info 自動入力設定画面では、自動入力設定の作成・編集はできません。

項目	説明
自動入力設定	パスワード以外の自動入力設定の設定名です。
自動入力設定(パスワード)	パスワードの自動入力設定の設定名です。
<ハンバーガー>アイコン	下記のダイアログが表示され、登録済の自動入力設定一覧が表示されます。 登録済設定一覧ダイアログの自動入力設定名をクリックすると、該当の自動入力設定内容が表示されます。 
<メニュー>ボタン	コントロール設定画面に戻ります。

Info 自動入力設定が未登録の場合は、下記画面が表示されます。



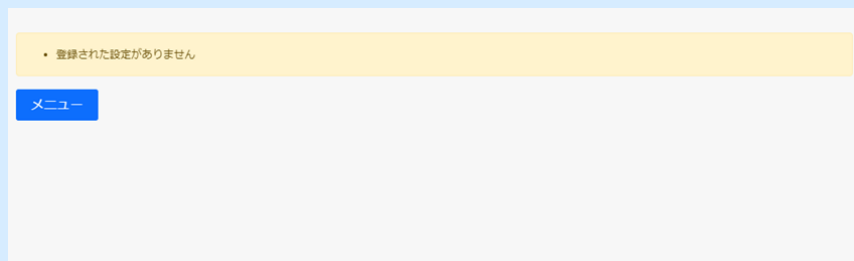
5.2.2. 自動認証設定

自動認証設定画面では、登録済の自動認証設定を確認することができます。

Info 自動認証設定画面では、自動認証設定の作成・編集はできません。

項目	説明
設定名	自動認証設定の設定名が表示されます。
自動化タイプ	自動認証設定の認証タイプ識別子が表示されます。
自動入力操作	自動認証設定の操作タイプ識別子が表示されます。
<ハンバーガー>アイコン	<p>下記のダイアログが表示され、登録済の自動認証設定一覧が表示されます。</p> <p>登録済設定一覧ダイアログの自動入力設定名をクリックすると、該当の自動認証設定内容が表示されます。</p>
<メニュー>ボタン	コントロール設定画面に戻ります。

Info 自動認証設定が未登録の場合は、下記画面が表示されます。



5.3. アプリケーション設定

アプリケーション設定に関する設定、および内容の確認を行うことができます。

アプリケーション設定



アプリケーション
情報



システム設定




ライセンス管理

5.3.1. アプリケーション情報

アプリケーション情報画面では、NEXT サーバーのアプリケーション情報の設定を確認することができます。



Info アプリケーション情報画面では、設定項目の作成・編集はできません。
アプリケーション情報の設定は、NEXT サーバーのインストール時に自動で設定が行われます。

項目	説明
API バージョン	NEXT サーバーの API バージョンです。 NEXT サーバーと NEXT クライアントアプリケーションが同一であることで通信可能になります
<ハンバーガー>アイコン	下記のダイアログが表示され、登録済のアプリケーション情報の設定一覧が表示されます。 登録済設定一覧ダイアログのアプリケーション情報名をクリックすると、該当のアプリケーション情報の設定内容が表示されます。 
<メニュー>ボタン	コントロール設定画面に戻ります。

5.3.2. システム設定

システム設定画面では、NEXT サーバー構成に係る設定が行えます。

コントロール設定

システム設定

NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数*

ログ格納先ディレクトリ*

[メニュー](#) [キャンセル](#) [登録](#)

ログ閲覧可能日数設定

項目名	説明
NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数 (必須)	NEXT Web サーバー、NEXT クライアントの動作に関するログの閲覧可能日数です。 閲覧可能日数を過ぎたログは NEXT マネージャーのログ管理や顔認証ログに表示されません。 設定範囲は、「10」～「60」です。 初期値：60

設定は以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「コントロール設定」をクリックしてください。
3. コントロール設定画面の「システム設定」をクリックしてください。
4. 「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」に、ログの閲覧可能日数を入力してください。
5. <登録>ボタンをクリックしてください。

ログ格納先設定

NEXT サーバー、NEXT クライアントの動作に関するログのファイルでの出力先を設定できます。設定項目は以下です。

項目名	説明
ログ格納先ディレクトリ	NEXT Web サーバー、NEXT クライアントの動作に関するログのファイルでの出力先です。 初期値：C:¥ProgramData¥ARCACLAVIS NEXT

設定は以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「コントロール設定」をクリックしてください。
3. コントロール設定画面の「システム設定」をクリックしてください。
4. 「ログ格納先ディレクトリ」に、出力したいファイルパスを絶対パスで入力してください。
5. <登録>ボタンをクリックしてください。

Info 出力されるログの詳細は、「11.6. ログの出力」を参照してください。

5.3.3. ライセンス管理

ライセンスの登録、および登録内容の確認を行うことができます。

ライセンス管理

ライセンス状態

状態 ライセンスがありません

ライセンス登録

ここからライセンスの取得に必要なアクティベーションファイルをダウンロードします

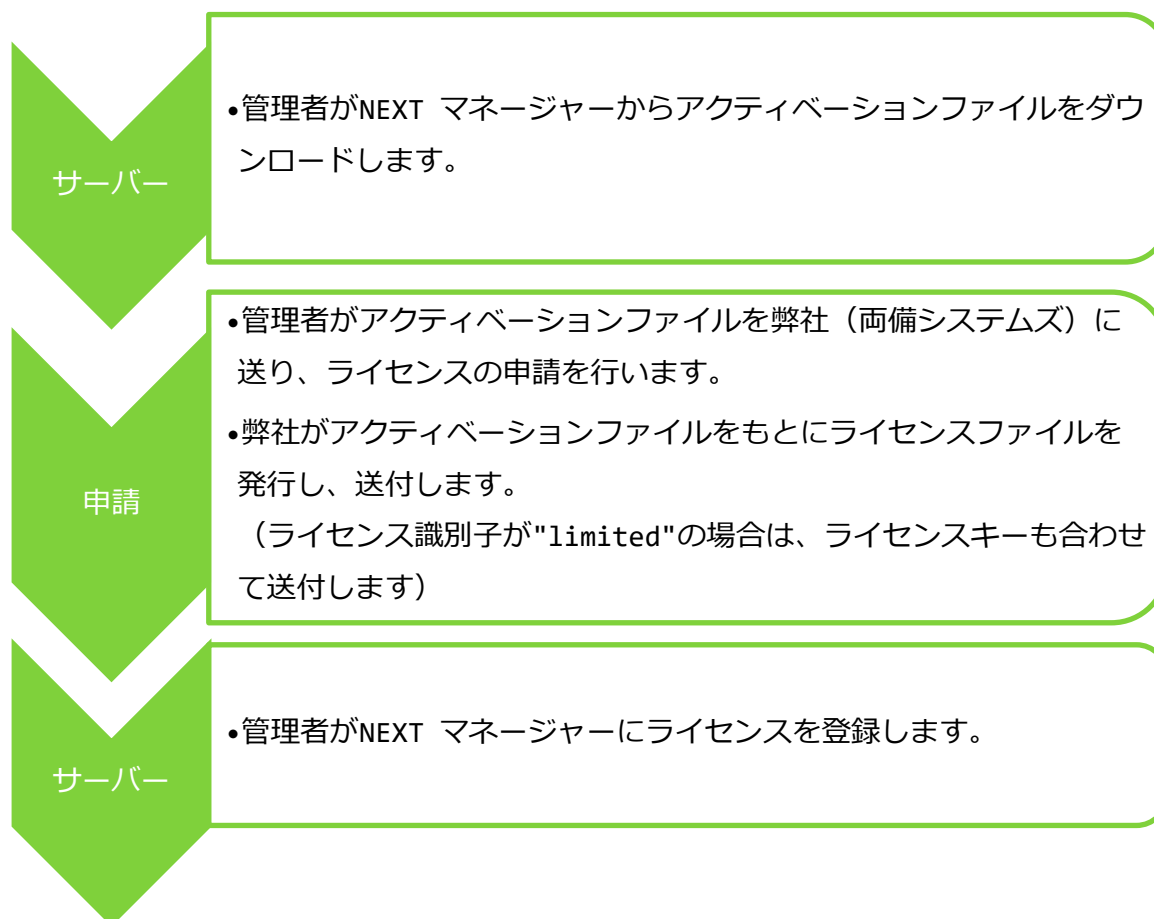
ライセンスファイル ファイルの選択 ファイルが選択されていません

メニュー ライセンスファイル登録

ARCACLAVIS NEXT はライセンス登録を行わない場合、機能が制限された無料版として動作します。ライセンスを登録することでライセンスの種類に応じた機能の制限を解除することができます。

Info エディションやライセンスの種類については、「ARCACLAVIS NEXT エディションガイド」を参照してください。

ライセンスの登録は以下の手順で行います。



ライセンスにより使用できるプラグインは以下のとおりです。

プラグイン名	機能	機能説明
顔認証	顔認証	顔情報を利用して行う生体認証機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。
データマネージャ	CSV ファイルインポート・エクスポート	NEXT ユーザーのインポート・エクスポートをする機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT CSV ファイルインポート・エクスポートガイド」を参照してください。
	顔情報一括インポート	顔認証を行うための顔情報を一括でインポートして登録する機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT 顔情報一括インポートガイド」を参照してください。
Active Directory ユーザーインポート	CSV ファイルインポート・エクスポート	「データマネージャ」プラグインの「CSV ファイルインポート・エクスポート」と同じ機能です。
	顔情報一括インポート	「データマネージャ」プラグインの「顔情報一括インポート」と同じ機能です。
	Active Directory ユーザーインポート	Microsoft Active Directory 上で管理されているドメインユーザーの更新情報を取得し、NEXT サーバーに NEXT ユーザー情報として登録、削除をするための機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT Active Directory ユーザー自動インポートガイド」を参照してください。
自動認証	自動認証	あらかじめ設定した操作／入力情報を使用して、別アプリケーションやリモートデスクトップへのログインなどの操作を自動で行う機能です。 詳細は、「10. 自動認証」を参照してください。
離席モニター	離席モニター	NEXT クライアントへのサインイン、または、ロック解除後、定期的に顔を検出・照合し離席を監視する機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。
CSV ロガー	ログの CSV 出力	NEXT Web サーバー、NEXT クライアントの動作に関するログを CSV ファイルに出力する機能です。 詳細は、「ARCACLAVIS NEXT ログ出力内容一覧」を参照してください。

アクティベーションファイルのダウンロード

アクティベーションファイルのダウンロードは以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「コントロール設定」をクリックしてください。
3. コントロール設定画面の「ライセンス管理」をクリックしてください。
4. ライセンス管理画面の<アクティベーションファイル>のリンクをクリックしてください。



5. 「名前を付けて保存」などの Web ブラウザのファイル保存ダイアログが表示されます。
6. 保存場所を選択して保存してください。

Info アクティベーションファイルは「activation.txt」のファイル名でダウンロードします。

ライセンスの申請

ダウンロードしたアクティベーションファイルを弊社（両備システムズ）に送り、ライセンスの申請を行います。

弊社よりアクティベーションファイルをもとにライセンスを発行し、ライセンスファイルをお送りします。

Info ライセンスファイルは「license.lic」のファイル名でお送りします。
ライセンス識別子が“limited”の場合は、ライセンスキーも合わせて送付します。
ライセンス申請の詳細は、「ARCACLAVIS NEXT エディションガイド」を参照してください。

ライセンス登録

弊社（両備システムズ）からお送りしたライセンスファイルの登録は以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「コントロール設定」をクリックしてください。
3. コントロール設定画面の「ライセンス管理」をクリックしてください。
4. ライセンス管理画面の「ライセンスファイル」にライセンスファイルを指定してください。

ライセンス管理

ライセンス状態

状態 ライセンスがありません

ライセンス登録

ここからライセンスの取得に必要なアクティベーションファイルをダウンロードします

ライセンスファイル ファイルの選択 license.lic

メニュー ライセンスファイル登録

5. <ライセンスファイル登録>ボタンをクリックしてください。
6. ライセンスキーを入力し、<登録>ボタンをクリックしてください。

ライセンス管理

ライセンスキー登録

ライセンスキー*

メニュー 登録

Info ライセンス識別子が“enterprise”の場合はライセンスキーが不要なため、本画面は表示されません。

7. 「ライセンス認証に成功しました。追加のプラグインを有効にする場合は NEXT マネージャーの Web サイトを再起動してください」のメッセージが表示されます。

ライセンス管理


- ライセンス認証に成功しました。追加のプラグインを有効にする場合はNEXT マネージャーのWebサイトを再起動してください

ライセンス状態

状態 ライセンスされています

Info ライセンス登録時のエラーメッセージについては、「ライセンス登録のエラーメッセージと対処方法」を参照してください。

8. NEXT マネージャーの Web サイトを再起動します。手順は、「付録. NEXT マネージャーの Web サイト再起動」を参照してください。

 ライセンス登録後に NEXT サーバーのサーバーマシンを移行した場合は、改めてライセンス登録をする必要がありますが、移行前に申請したライセンスファイルは使用できません。

移行後の NEXT サーバーで改めてライセンス申請、登録を行ってください。

ライセンス登録のエラーメッセージと対処方法

ライセンス登録で表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
ライセンスファイルがありません	ライセンスファイルが指定されていません。 「ライセンスファイル」にライセンスファイルを指定して再実行してください。
ライセンスの検証に失敗しました	ライセンスファイルの検証に失敗したため、ライセンス登録ができませんでした。 弊社より発行されたライセンスファイルを指定している、または正しいライセンスキーが入力されているか確認いただき、再実行してください。

ライセンス登録の確認

登録済みのライセンス内容の確認は以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「コントロール設定」をクリックしてください。
3. コントロール設定画面の「ライセンス管理」をクリックしてください。
4. ライセンス管理画面に登録済みのライセンス内容が表示されます。

ライセンス管理

ライセンス状態

状態

ライセンス情報

カスタマーID	<input type="text" value="123"/>
アプリID	<input type="text" value="NEXTServer"/>
ライセンス識別子	<input type="text" value="enterprise"/>
ライセンスバージョン	<input type="text" value="サブスクリプション"/>
登録ユーザー数	<input type="text" value="無制限"/>
シリアル番号	<input type="text" value="c242da53-cbe8-44ec-a565-2cfb01ca5540"/>
ライセンス有効期限	<input type="text" value="無し"/>
発行日	<input type="text" value="2023/08/07"/>

利用可能プラグイン

顔認証
 顔認証ログ
 データマネージャー
 顔画像一括インポート
 Active Directoryユーザーインポート
 自動認証
 離席モニター
 CSVロガー

ライセンス管理で確認できる情報は以下のとおりです。

項目		説明
ライセンス状態	状態	ライセンスの登録状態です。
ライセンス情報	カスタマーID	ライセンス申請時に割り振られる固有の ID です。 ライセンスに関するサポートへのお問い合わせの際に使用します。
	アプリ ID	NEXT サーバーの ID です。 エンタープライズ版：NEXTServer 無料版：NEXTOneClient
	ライセンス識別子	ライセンスの種類です。 エンタープライズライセンス：enterprise 期間限定ライセンス：limited 無料ライセンス：free ※ライセンスの種類については、「ARCACLAVIS NEXT エディションガイド」を参照してください。
	ライセンスバージョン	ライセンスが有効なバージョンです。 全てのライセンスバージョンが有効な場合は、「サブスクリプション」と表示されます。
	登録ユーザー数	登録できる NEXT ユーザー数の上限です。
	シリアル番号	ライセンスファイルを一意に識別する ID です。 ※無料版では表示されません。
	ライセンス有効期限	ライセンスの有効期限です。 無期限の場合は「無し」と表示されます。 ※無料版では表示されません。
	発行日	ライセンスを発行した日付です。 ※無料版では表示されません。
利用可能プラグイン		ライセンスにより使用できるプラグインが全て表示されます。

6. クライアント一覧

6.1. 概要

NEXT マネージャーのクライアント一覧画面ではオンラインで NEXT 認証を行ったクライアント情報を一覧表示することができます。

Info クライアント情報はハードウェア識別子で一意的に識別しています。
ハードウェア構成（CPU、マザーボード、Cドライブシリアル番号）に変更があれば別のクライアントとして識別されます。

NEXT マネージャーのメニューから「クライアント一覧」をクリックすることで、クライアント一覧画面が表示されます。

クライアント一覧

検索条件

PC名 アプリケーション名

IPアドレス アプリケーションバージョン

OSバージョン

(1 - 20) 100 [20] [50] [100]

最初 前へ 1 2 3 4 5 次へ 最後

	PC名	IPアドレス	OSバージョン	登録日時	更新日時	アプリケーション	
<input type="button" value="操作"/>	WIN10X64-001	192.168.1.1	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/01 0:00:00	2020/01/01 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000000000
<input type="button" value="操作"/>	WIN10X64-001	192.168.1.2	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/02 0:00:00	2019/12/31 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000000000
<input type="button" value="操作"/>	WIN10X64-001	192.168.1.3	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/11 0:00:00	2019/12/22 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000000000

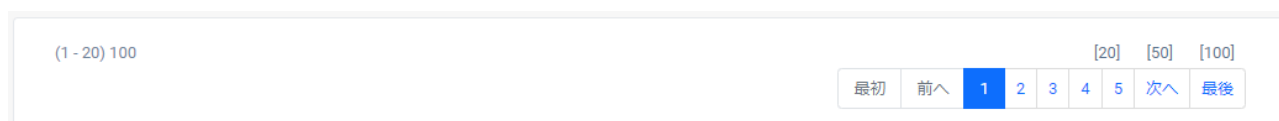
クライアント一覧に表示される各列は以下のとおりです。

項目	説明
操作	操作ボタンからクライアント情報の削除ができます。 クライアント PC からクライアントアプリケーションをアンインストールしても自動的にクライアント情報の削除は行われません。 不要になったクライアント PC のクライアント情報を削除したい場合に削除してください。
PC 名	クライアント PC のコンピューター名を表示します。 コンピューター名は 15 文字までの表示になります。 例：Win10x64FCU-1
IP アドレス	クライアント PC の IP アドレス(IPv4)を表示します。 複数存在する場合は、カンマ区切りで表示します。 例：192.168.1.1
OS バージョン	クライアント PC の OS バージョンを表示します。 例：Microsoft Windows NT 10.0.19043.0
登録日時	クライアント情報が登録された日時を表示します。 例：2020/01/01 0:00:00
更新日時	クライアント情報が更新された日時を表示します。 例：2020/01/01 0:00:00
アプリケーション	クライアントにインストールされているアプリケーション名とアプリケーションバージョンを表示します。 例：NEXT クライアント 1.0.0.2112091812

クライアント一覧画面ではクライアント情報を検索して、閲覧することができます。メインパネルに表示されるクライアント一覧では、「PC 名」などの各項目名をクリックすることで、昇順/降順の並べ替えができます。

PC名	IPアドレス	OSバージョン	登録日時	更新日時	アプリケーション
-----	--------	---------	------	------	----------

メインパネルに表示されるクライアント一覧の上部には、クライアント情報の総件数、ページ送りなどが表示されています。下図を例に説明します。



項目	説明
クライアント情報を表示している番号範囲	メインパネルのクライアント一覧に表示している番号範囲です。 図では、左の「(1-20)」と表示している部分です。
クライアント情報の総件数	登録されているクライアント情報の総件数です。 図では、左の「100」と表示している部分です。
1 ページで表示する件数	1 ページで表示する件数です。 20,50,100 から選択でき、クリックすることで、1 ページで表示する件数を変更することができます。 図では、右の「[20] [50] [100]」と表示している部分です。
ページ送り	メインパネルのクライアント一覧のページ送りを行うことができる表示部分です。 図は、「[最初][前へ][1]….[次へ][最後]」と表示している部分です。

6.2. NEXT クライアントの閲覧

NEXT マネージャーでクライアント情報を閲覧する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. メインパネルにクライアント一覧が表示されます。

6.3. NEXT クライアントの検索

クライアント一覧画面では PC 名/IP アドレスなどを入力して検索や、アプリケーション名/アプリケーションバージョンの条件を除外して検索、またはそれらを組み合わせた検索ができます。

・入力して検索

PC 名/ IP アドレスなどで検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. 検索したい「PC 名」、「IP アドレス」などを検索条件に入力してください。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。
5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
6. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

・入力した条件を除外して検索

アプリケーション名/アプリケーションバージョンの条件を除外して検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. 条件を除外したい「アプリケーション名」、「アプリケーションバージョン」を検索条件に入力してください。
4. 入力ボックス右にあるスイッチをオンにしてください。
5. <検索>ボタンをクリックしてください。
6. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
7. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

※下図ではアプリケーションバージョンが「1.0」ではないクライアント情報が表示されます。

検索条件

PC名	<input type="text"/>	アプリケーション名	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
IPアドレス	<input type="text"/>	アプリケーションバージョン	1.0	<input checked="" type="checkbox"/>
OSバージョン	<input type="text"/>			

・組み合わせでの検索

検索は、各項目を組み合わせで行うことができます。以下に各項目について説明します。

項目	説明
PC名	PC名を入力された文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
IPアドレス	IPアドレスを入力された文字列で検索します。 検索条件：中間一致
OSバージョン	OSバージョンを入力された文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
アプリケーション名	アプリケーション名を文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
アプリケーション名の条件除外スイッチ	アプリケーション名を条件除外する場合はオンにします。
アプリケーションバージョン	アプリケーションバージョンを文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
アプリケーションバージョンの条件除外スイッチ	アプリケーションバージョンを条件除外する場合はオンにします。

6.4. NEXT クライアントのアップデート状況の確認

クライアント一覧画面の検索機能を使用し NEXT クライアントのアップデート状況を確認することができます。

例を用いて確認手順を説明します。

前提：

- バージョン「1.0.0.0000000000」の NEXT クライアントが 100 台稼働
- 新バージョン配置の 1 週間後に NEXT クライアントのアップデート状況を確認する
 - NEXT クライアントの総件数を確認する
 - アップデートが完了した NEXT クライアントの件数を確認する
 - アップデートできていない NEXT クライアントを確認する



以下のクライアントが含まれている場合、当確認手順では正確な状況は把握できません。

- NEXT クライアントをインストールしているが、1 度も NEXT 認証を実施していない
 - ⇒この場合、クライアント一覧に表示されません。
- バージョン 2.0.0.0000000000 にアップデートしたが、アップデート後に NEXT 認証を実施していない
 - ⇒この場合、クライアント一覧にバージョン「1.0.0.0000000000」で表示されます。

例 1. NEXT クライアントの総件数を確認する

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. クライアント一覧の左上に表示されているクライアントの総件数を確認する。

検索条件

PC名

IPアドレス

OSバージョン

アプリケーション名

アプリケーションバージョン

検索
条件クリア

(1 - 0) 100

[20] [50] [100]

最初 前へ 1 2 3 4 5 次へ 最後

	PC名	IPアドレス	OSバージョン	登録日時	更新日時	アプリケーション	
操作 ▼	WIN10X64-001	192.168.1.1	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/01 0:00:00	2020/01/01 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000 000000
操作 ▼	WIN10X64-002	192.168.1.2	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/02 0:00:00	2019/12/31 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000 000000

例2. アップデートが完了した NEXT クライアントの件数を確認する

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. 検索条件の「アプリケーションバージョン」に「2.0.0.0000000000」を入力してください。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。
5. クライアント一覧の左上に表示されているクライアントの総件数を確認する。

検索条件

PC名

IPアドレス

OSバージョン

アプリケーション名

アプリケーションバージョン

検索
条件クリア

(1 - 9) 76

[20] [50] [100]
最初 前へ 1 2 3 4 次へ 最後

	PC名	IPアドレス	OSバージョン	登録日時	更新日時	アプリケーション	
操作	WIN10X64-014	192.168.1.14	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/12 0:00:00	2019/12/21 0:00:00	NEXT クライアント	2.0.0.0000000000
操作	WIN10X64-025	192.168.1.25	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/13 0:00:00	2019/12/20 0:00:00	NEXT クライアント	2.0.0.0000000000

Info 例 1,2 の結果により「2.0.0.0000000000」へアップデートが完了した割合は 100 台中 76 台の 76%であることが分かります。

例3. アップデートできていないNEXT クライアントを確認する

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント一覧」をクリックしてください。
3. 検索条件の「アプリケーションバージョン」に「2.0.0.0000000000」を入力してください。
4. 検索条件の「アプリケーションバージョンの条件除外スイッチ」をオンにしてください。
5. <検索>ボタンをクリックしてください。
6. クライアント一覧を確認する。

検索条件

PC名

IPアドレス

OSバージョン

アプリケーション名

アプリケーションバージョン

検索
条件クリア

(1 - 20) 24 [20] [50] [100]

最初 前へ 1 2 次へ 最後

	PC名	IPアドレス	OSバージョン	登録日時	更新日時	アプリケーション	
操作 ▼	WIN10X64-001	192.168.1.1	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/01 0:00:00	2020/01/01 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000000000
操作 ▼	WIN10X64-002	192.168.1.2	Microsoft Windows NT 10.0.19043.0	2020/01/02 0:00:00	2019/12/31 0:00:00	NEXT クライアント	1.0.0.0000000000

Info 例3の結果によりPC名・IPアドレスが判明するため、NEXT クライアント使用者に対してアップデートを促すことができます。

7. クライアント設定

NEXT マネージャーのメニューの「クライアント設定」について説明します。

クライアント設定では、NEXT クライアントが接続するサーバーの情報、利用する認証方式、離席モニターの設定など NEXT クライアントに係る設定を行えます。

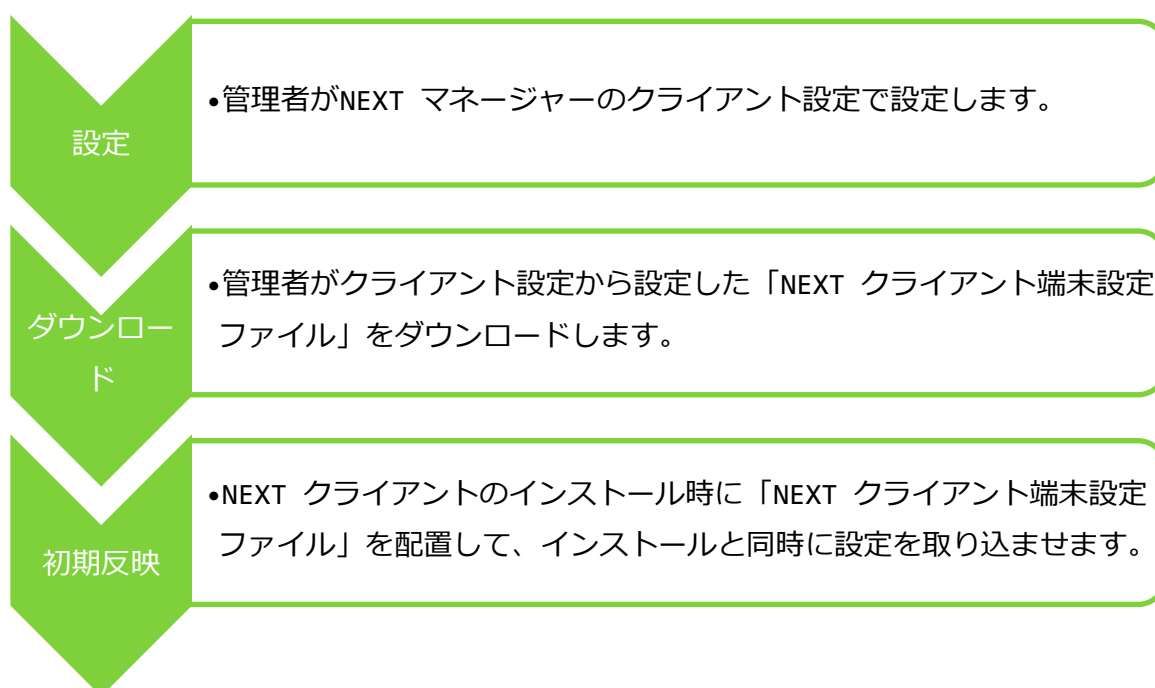
7.1. 概要

NEXT クライアントは設定によって、「IC カード認証のみが利用できる NEXT クライアント」、「IC カード認証と顔認証が利用できる NEXT クライアント」など利用できる認証方式の限定や、複数の認証方式を許可する、といった柔軟な環境構築が可能になります。このような設定の中心となるのが「クライアント設定」です。

7.1.1. クライアント設定の NEXT クライアントインストール時の取り込み

クライアント設定は、NEXT マネージャーで設定した後、「NEXT クライアント端末設定ファイル」として NEXT マネージャーからダウンロードすることができます。

ダウンロードした「NEXT クライアント端末設定ファイル」を、NEXT クライアントインストーラーと同じフォルダに配置してインストールすることで、クライアント設定をインストール時に取り込ませることができます。以下に流れを説明します。



7.1.2. 複数のクライアント設定

NEXT サーバーインストール初期は 1 つのクライアント設定「default」だけが登録されています。組織・団体に利用する NEXT クライアントがすべて同じ設定であれば、初期設定の「default」のクライアント設定を用途に合わせて編集の上、ご利用いただいても構いません。

たとえば、以下の例のように端末ごとに利用する認証方式を変えたい場合、Windows 自動ログオン利用を変えたい場合は、初期設定の「default」に加えて、クライアント設定を追加作成してご利用いただくこともできます。

・利用する認証方式を端末ごとに設定

クライアント設定タイプ名	説明
default	初期設定のクライアント設定。
一般職員用	「IC カード認証」を利用可能。
管理職員用	「IC カード認証」と「顔認証」を利用可能。

・基本設定を端末ごとに設定

クライアント設定タイプ名	説明
default	初期設定のクライアント設定。
一般職員用	Windows 自動ログオンする。（Windows アカウントを固定化する）
情報システム部門職員用	Windows 自動ログオンしない。（Windows アカウントを固定化しない）

7.1.3. クライアント設定の変更の反映

クライアント設定は、NEXT マネージャーで変更することで、インストール済みの NEXT クライアントに反映されます。運用当初は「Windows 自動ログオンしない設定」で開始し、その後、「Windows 自動ログオンする設定」に変える、などということが可能です。

NEXT マネージャーでのクライアント設定の変更は、以下のタイミングで NEXT クライアントに反映されます。

タイミング：

- ・ Windows サインイン、または画面ロックの解除に成功したあと

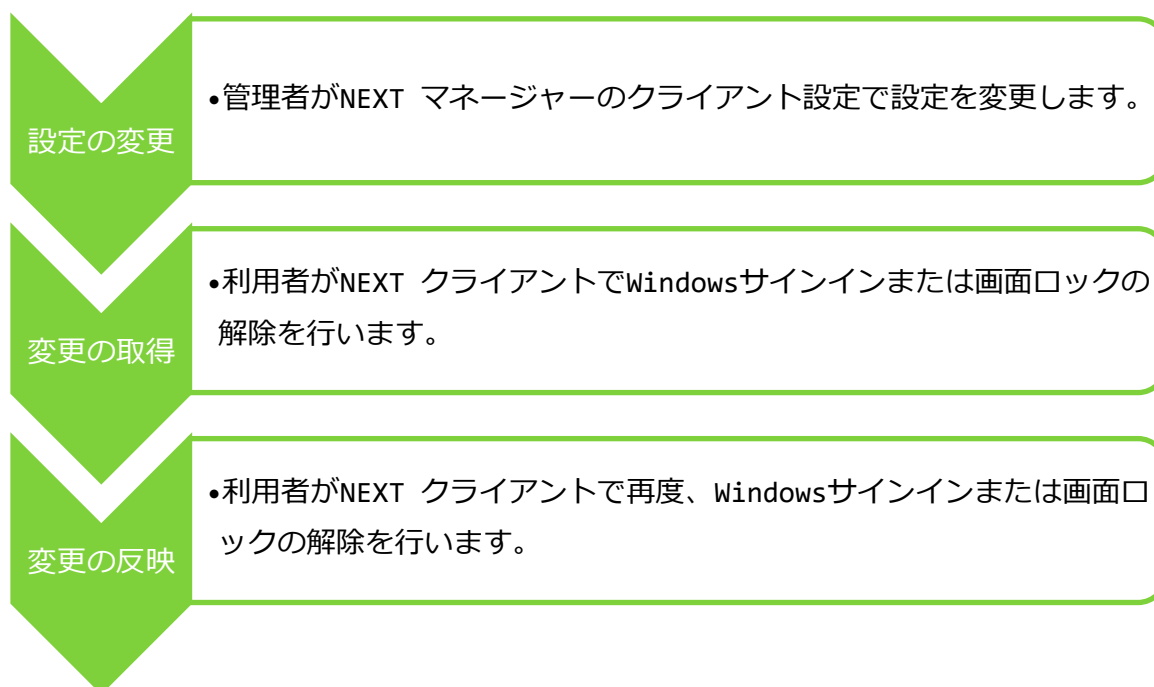
変更の取得の条件：

- ・ NEXT マネージャーのクライアント設定と、同一のクライアント設定を持つ端末であること
- ・ NEXT クライアントが NEXT サーバーと接続できる状態であること

取得後の反映の条件：

- ・ 変更取得後の Windows サインイン、または画面ロックの解除時

上記のタイミングでの変更の取得の内容にはクライアント設定だけでなく、ポリシー設定も含まれます。以下に流れを説明します。



たとえば、利用する認証方式を「IC カード認証のみ許可」しているクライアント設定を、「IC カード認証と顔認証も許可」と変更した場合の流れは以下になります。

設定の変更

- 管理者がNEXT マネージャーのクライアント設定で利用する認証方式の「顔認証」をオフからオンに変更します。

変更の取得

- 利用者がNEXT クライアントで「ICカード認証」で画面ロックの解除を行います。このときはまだ変更が取得できていないので「顔認証」は選択できません。

変更の反映

- 利用者がNEXT クライアントで再度、画面ロックの解除を行うときには「ICカード認証」だけでなく「顔認証」も選択できるようになります。

Info クライアント設定の変更の取得の内容にはクライアント設定だけでなく、ポリシー設定も含まれます。

たとえば、クライアント設定で「顔認証」をオフからオンのように変更し、加えてポリシー設定で「顔認証マスタに画像を登録しない」をオフからオンのように変更した場合の流れは以下になります。

設定の変更

- 管理者がNEXT マネージャーのクライアント設定で利用する認証方式の「顔認証」をオフからオンに、ポリシー設定で「顔認証マスタに画像を登録しない」をオフからオンに変更します。

変更の取得

- 利用者がNEXT クライアントで「顔認証」以外のNEXT 認証で画面ロックの解除を行います。このときはまだ変更が取得できていないので「顔認証」は選択できません。
(顔認証マスタに画像も登録されません)

変更の反映

- 利用者がNEXT クライアントで再度、画面ロックの解除を行うときには「顔認証」が選択でき、顔認証マスタに画像が登録されるようになります。

7.2. クライアント情報の設定

クライアント設定には「基本設定」、「利用する認証方式」、「離席モニター」があります。以下にそれぞれの設定項目について説明します。

7.2.1. 基本設定

「基本設定」では、クライアント情報の基本的な設定を行います。

基本設定



クライアント設定名 *	<input type="text" value="default"/>
NEXTWebサーバーURL *	<input type="text" value="https://192.168.2.145"/>
NEXTログサーバーURL *	<input type="text" value="https://192.168.2.145"/>
プロキシサーバーURL	<input type="text"/>
オンライン認証タイムアウト値 *	<input type="text" value="10"/>
オフラインネットワークアドレス利用方式 *	<input type="text" value="利用しない"/>
オフラインネットワークアドレス	<input type="text"/>
NEXTパスワード入力をする *	<input type="checkbox"/>
WindowsユーザーIDを自動入力する *	<input type="checkbox"/>
Windowsに自動サインインする *	<input type="checkbox"/>

項目	説明
クライアント設定名 (必須)	<p>クライアント設定の名前を指定してください。</p> <p>既に登録済みのクライアント設定と同じ名前を指定することはできません。</p> <p>使用可能文字：半角および全角文字</p> <p>文字数：最大 50 文字</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
NEXT Web サーバーURL (必須)	<p>接続先の NEXT Web サーバーを URL 書式で指定してください。</p> <p>初期値：https://<NEXT サーバーIP アドレス></p> <p>文字数：最大 255 文字</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
NEXT ログサーバーURL (必須)	<p>接続先の NEXT ログサーバーを URL 書式で指定してください。</p> <p>初期値：https://<NEXT サーバーIP アドレス></p> <p>文字数：最大 255 文字</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
プロキシサーバーURL	<p>接続先のプロキシサーバーを URL 書式で指定してください。</p> <p>初期値：なし</p> <p>文字数：最大 255 文字</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
オンライン認証タイムアウト値	<p>NEXT 認証の通信でタイムアウトするまでの時間（秒）を指定してください。</p> <p>タイムアウトした場合はオフラインで認証します。</p> <p>最小値：10</p> <p>最大値：50</p> <p>初期値：10</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
オフラインネットワークアドレス利用方式	<p>NEXT 認証のオフラインまでのタイムアウトをスキップさせる機能を有効とするかを指定します。</p> <p>詳細は、表下の「オフラインネットワークアドレスとは？」を参照してください。</p> <p>選択値：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用しない ● ホワイトリスト方式 ● ブラックリスト方式 <p>初期値：利用しない</p> <p>※無料版では表示されません。</p>

項目	説明
オフラインネットワークアドレス	<p>「オフラインネットワークアドレス利用方式」をホワイトリスト方式、またはブラックリスト方式に設定した場合のネットワークアドレスを指定します。</p> <p>ネットワークアドレス/サブネットマスクの書式で入力し、カンマで複数指定できます。</p> <p>詳細は、表下の「オフラインネットワークアドレスとは？」を参照してください。</p> <p>初期値：なし</p> <p>文字数：最大 255 文字</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
NEXT パスワード入力をする	<p>NEXT 認証を行うときに、NEXT パスワードをユーザーに入力させたい場合は、オンにしてください。</p> <p>なお、オフにした場合でも、IC カードの登録や顔情報の登録時などは NEXT パスワードの入力が必要になります。本設定は NEXT 認証時の NEXT パスワード入力にのみ反映されます。</p> <p>初期値：オフ</p>
Windows ユーザーID を自動入力する	<p>Windows サインインを行うときに、NEXT ユーザーに設定した Windows ユーザーID で自動入力させたい場合は、オンにしてください。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>設定がオン時、認証を行う NEXT ユーザーの Windows アカウントが未登録 (0 件) の場合、認証エラーとなります。ただし、緊急パスワード認証時は除きます。</p>
Windows に自動サインインする	<p>Windows サインインを行うときに、NEXT ユーザーに設定した Windows ユーザーID とパスワードで自動サインインさせたい場合は、オンにしてください。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>設定がオン時、認証を行う NEXT ユーザーの Windows アカウントが未登録 (0 件) の場合、認証エラーとなります。ただし、緊急パスワード認証時は除きます。</p>

Info 「プロキシサーバーURL」を設定した場合は、NEXT クライアントと NEXT サーバー間の通信は、設定されたプロキシサーバーを使用して通信が行われます。ただし、「localhost」、「127.0.0.1」は除外アドレスとして扱われます。また、「プロキシサーバーURL」を設定した場合は、環境変数「http_proxy」、「https_proxy」、「no_proxy」の値は使用されません。

Windows の設定画面や、インターネットオプションで設定したプロキシ設定は使用されません。

Info 「プロキシサーバーURL」を設定をしない場合は、NEXT クライアントから NEXT サーバーへの通信は、以下の仕様で行われます。

- 環境変数のプロキシ設定が適用されます。
- この場合の環境変数は、「http_proxy」、「https_proxy」、「no_proxy」です。

Windows の設定画面や、インターネットオプションで設定したプロキシ設定は使用されません。

Info オフラインネットワークアドレスとは？

テレワークなどで、NEXT サーバーとは直接通信できないがネットワークを利用されている場合、認証時に NEXT サーバーと通信が試みられ、通信タイムアウトされるまで、待ち時間が発生します。

この待ち時間を避けるため、「オフィスの社内 LAN のネットワークアドレスでは無い場合、オフラインと判断させる」ことができます。この設定を行うのが「オフラインネットワークアドレス利用方式」と「オフラインネットワークアドレス」の項目です。

例：オフィスの社内 LAN のネットワークアドレスでは無い場合、オフラインと判断させる以下の環境とします。

- オフィスの社内 LAN 上の NEXT サーバーの IP アドレス：172.16.0.100/23
- オフィスの社内 LAN のネットワークアドレス：172.16.0.0/23
- テレワークなどで利用されるネットワークアドレス：192.168.0.0/24, 192.168.1.0/23

テレワークなどで利用されるネットワークアドレスの場合、オフラインと即時判断させるためには、以下の設定を行います。

- ブラックリスト方式の場合：
オフラインネットワークアドレス利用方式：ブラックリスト方式
オフラインネットワークアドレス：172.16.0.0/23
- ホワイトリスト方式の場合：
オフラインネットワークアドレス利用方式：ホワイトリスト方式
オフラインネットワークアドレス：192.168.0.0/24,192.168.1.0/23

※この場合、テレワークなどで利用されるネットワークアドレスが環境により変わる場合、追加が随時必要になります。

- ・環境変数のプロキシ設定が適用されます。
- ・この場合の環境変数は、“http_proxy”、“https_proxy”、“no_proxy”です。

Windows の設定画面や、インターネットオプションで設定したプロキシ設定は使用されません。

7.2.2. 利用する認証方式

「利用する認証方式」では、NEXT クライアントで利用する認証方式の設定を行います。NEXT クライアントで利用できる認証方式は以下のとおりです。

認証方式	説明
IC カード認証	IC カードを利用して行う認証です。 IC カードと NEXT パスワードを組み合わせることで多要素認証を行えます。
顔認証	顔情報を利用して行う生体認証です。 顔情報と NEXT パスワードを組み合わせることで多要素認証を行えます。
NEXT 管理者パスワード認証	NEXT 管理者パスワードは、NEXT クライアントで、IC カード認証や顔認証の代わりに使用できるパスワードです。管理者が IC カード認証や顔認証を利用せず、NEXT Signin の機能を有効にしたままコンピューターを利用することができます。管理者パスワードは通常、クライアント設定を作成した管理者だけが把握し、利用します。 この管理者パスワードで行う認証のことです。
NEXT 緊急パスワード認証	NEXT 緊急パスワードは、NEXT クライアントで、IC カード認証や顔認証の代わりに使用できる有効期限付きのパスワードです。IC カードを忘れた、外出先でカメラが壊れた場合などに NEXT ユーザーID と緊急パスワードの入力による認証を行うことにより、NEXT Signin の機能を有効にしたままコンピューターを利用することができます。緊急パスワードは通常、管理者が NEXT マネージャーで NEXT ユーザーごとに発行します。 この緊急パスワードで行う認証のことです。
ワンタイムパスワード認証	ワンタイムパスワードを利用して行う認証です。 ワンタイムパスワードと NEXT パスワードを組み合わせることで多要素認証を行えます。
Windows 標準認証	マイクロソフト社が用意しているパスワードによる Windows のサインイン認証です。通常、Windows OS の初期設定の認証手段です。 NEXT Signin による本人認証の強化を IC カード認証や顔認証で行い、多要素認証を必須にする場合は本機能をオフにする必要があります。

次に各認証方式の設定項目を説明します。

利用する認証方式

ICカード認証

ICカードの登録を許可する

ICカードの再登録を許可する

顔認証

顔照合時に照合画面を表示する

照合精度

顔認証オプション

マスクを使用する

顔情報の登録を許可する

顔情報の再登録を許可する

認証時の顔画像を送信しない

定期的に顔情報を自動更新する

NEXT管理者パスワード認証

管理者パスワード*

確認用管理者パスワード*

NEXT緊急パスワード認証

ワンタイムパスワード認証

Windows標準認証

・ICカード認証の設定

項目	説明
ICカード認証	ICカード認証を使用する場合は、オンにします。 初期値：オン
ICカードの登録を許可する	ユーザーによるICカードの登録を許可する場合は、オンにします。 オフにするとユーザーによるICカードの登録はできず、管理者がNEXT マネージャーで予め登録したICカードを利用させる運用を行うことができます。 初期値：オン
ICカードの再登録を許可する	ユーザーによるICカードの登録し直しを許可する場合は、オンにします。 オフにすると管理者が登録済みのICカードを削除しない限り、ユーザーによるICカードの登録し直しはできません。 初期値：オフ ※無料版での初期値は「オン」となります。

・顔認証の設定

項目	説明
顔認証	<p>顔認証を使用する場合は、オンにします。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>※無料版での初期値は「オン」となります。</p>
顔照合時に照合画面を表示する	<p>顔認証で照合画面を表示する場合は、オンにします。設定をオフにしても、顔登録時は照合画面を表示します。</p> <p>顔認証オプションで「強化する」が設定されている場合は、登録時に自動的にオンになります。</p> <p>初期値：オン</p>
照合精度	<p>顔の認証しやすさを設定します。高くすると、他人受入率を下げることはできませんが本人拒否率が上がります。低くすると、本人拒否率は下がりますが他人受入率が上がります。</p> <p>設定は、以下を参考に行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い <p>使用するクライアント端末、カメラ、明るさ、カメラとの距離など多くの条件が顔情報を登録した時と同じ環境で認証可能な設定です。多くの条件が異なる場合は、認証がしにくい場合があります。</p> ・やや高い <p>「高い」と「中」の中間の設定です。</p> ・中 <p>登録時と異なるクライアント端末、カメラ、明るさでも認証が可能な設定です。屋内/社内で利用するユーザーに適しています。</p> ・やや低い <p>「中」と「低い」の中間の設定です。</p> ・低い <p>使用するクライアント端末、カメラ、明るさ、カメラとの距離など多くの条件が顔情報を登録した時と異なる環境で認証可能な設定です。屋内/屋外や社内/社外など異なる場所でクライアント端末を使用するユーザーに適しています。</p> <p>なお、「照合精度」の設定はユーザーごとに設定することも可能です。ユーザー情報の設定は、ここでの設定より優先されます。ユーザー情報の設定については、「9.5. 顔認証マスタ管理」を参照してください。</p> <p>初期値：中</p>

項目	説明
顔認証オプション	<p>顔認証の標準の機能に加えて「強化する」を設定すると、まばたきを検知します。</p> <p>「強化する」を設定すると検知を行うため、顔認証にかかる時間が長くなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準 生体動作の検知を行いません。 ・強化する 対象人物のまばたきをチェックします。 <p>初期値：標準</p>
マスクを使用する	<p>設定をオンにすると、マスクを着用している状態でも顔認証を行えます。</p> <p>なお、「マスクを使用する」の設定はユーザーごとに設定することも可能です。ユーザー情報の設定は、ここでの設定より優先されます。ユーザー情報の設定については、「9.5. 顔認証マスタ管理」を参照してください。</p> <p>初期値：オン</p>
顔情報の登録を許可する	<p>ユーザーによる顔情報の登録を許可する場合は、オンにします。オフにするとユーザーによる顔情報の登録はできず、管理者が NEXT マネージャーで予め登録した顔情報を利用させる運用を行うことができます。</p> <p>初期値：オン</p>
顔情報の再登録を許可する	<p>ユーザーによる顔情報の登録し直しを許可する場合は、オンにします。オフにすると管理者が登録済みの顔情報を削除しない限り、ユーザーによる顔情報の登録し直しはできません。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>※無料版での初期値は「オン」となります。</p>
認証時の顔画像を送信しない	<p>ユーザーによる顔認証が行われたときに、顔画像ファイルを NEXT サーバーに送信しない場合は、オンにします。</p> <p>オフにすると顔画像ファイルを NEXT サーバーに送信します。</p> <p>認証の成功、失敗を表すテキストベースのログは、この設定にかかわらず、NEXT サーバーに送信します。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>※無料版では表示されません。</p>
定期的に顔情報を自動更新する	<p>顔情報の経年劣化に対応するため、ユーザーによる顔認証が行われたときに、定期的に顔情報を自動更新する場合は、オンにします。</p> <p>詳細は、「9.5.4. 顔情報の自動更新」を参照してください。</p> <p>初期値：オフ</p>

・NEXT 管理者パスワード認証の設定

項目	説明
NEXT 管理者パスワード認証	NEXT 管理者パスワード認証を使用する場合は、オンにします。 初期値：オン
管理者パスワード (「NEXT 管理者パスワード 認証」がオンの場合、必須)	管理者パスワードを指定してください。 使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 127 文字 初期値：password
確認用管理者パスワード (「NEXT 管理者パスワード 認証」がオンの場合、必須)	確認用に同じ管理者パスワードを指定してください。 使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 127 文字 初期値：password



IC カード認証、顔認証が何らかの理由で利用できない場合の対応として、管理者向けには NEXT 管理者パスワード認証が用意されています。しかし、NEXT 管理者パスワードを管理者が失念した場合、NEXT 管理者パスワード認証で画面ロックを解除することはできませんので NEXT 管理者パスワードは忘れないよう注意が必要です。

NEXT 管理者パスワード認証をオフにすると、IC カード認証、顔認証が何らかの理由で利用できない場合に画面ロックを解除することができなくなる恐れがあります。

・NEXT 緊急パスワード認証の設定

項目	説明
NEXT 緊急パスワード認証	NEXT 緊急パスワード認証を使用する場合は、オンにします。 初期値：オン ※無料版での初期値は「オフ」となります。

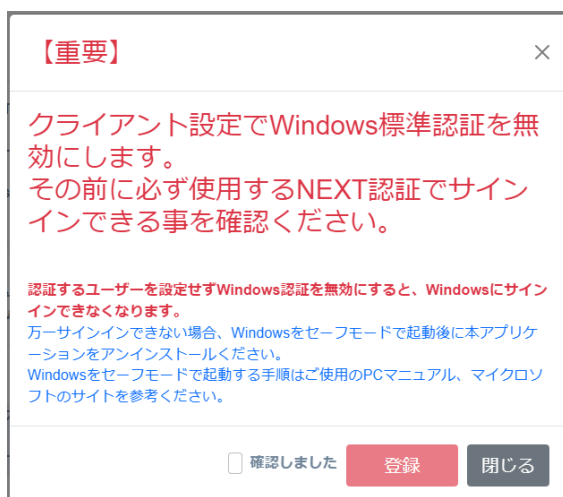
・ワンタイムパスワード認証の設定

項目	説明
ワンタイムパスワード認証	ワンタイムパスワード認証を使用する場合は、オンにします。 初期値：オン

・ Windows 標準認証の設定

項目	説明
Windows 標準認証	Windows 標準認証を使用する場合は、オンにします。 NEXT 認証による二要素認証での運用を必須にするためにはオフにします。オフにすると、Windows 標準認証が利用できなくなり、IC カード認証、顔認証、NEXT 緊急パスワード認証、NEXT 管理者パスワード認証などによる画面ロック解除が必須になります。 初期値：オン

Windows 標準認証の設定をオフにした状態で<登録>ボタンをクリックすると下記の警告画面が表示されますので、内容をご確認ください。



Windows 標準認証の設定をオフにする場合は、<確認しました>にチェックを入れて<登録>ボタンをクリックしてください。

Windows 標準認証の設定をオンにする場合は、<閉じる>ボタンをクリックして Windows 標準認証の設定をオンに設定してください。

Windows 標準認証をオフにすることで、利用者は IC カード認証や顔認証の利用が必須となり、多要素認証による本人認証を強化する運用が可能になります。

一方、Windows 標準認証をオフにすると、NEXT ユーザーの登録、IC カードの登録、顔情報の登録などが正しく行えていないと、IC カード認証、顔認証を利用して画面ロックを解除することができなくなり、業務に支障をきたすこととなります。

IC カード認証、顔認証が何らかの理由で利用できない場合の対応として、管理者向けには NEXT 管理者パスワード認証が用意されています。しかし、NEXT 管理者パスワードを管理者が失念した場合、NEXT 管理者パスワード認証で画面ロックを解除することはできませんので、NEXT 管理者パスワードは忘れないよう注意が必要です。

同様に、利用者向けには NEXT 緊急パスワード認証が用意されています。しかし、NEXT 緊急パスワードは管理者があらかじめ、利用者向けに発行しておく必要がありますので注意が必要です。

Windows 標準認証の設定がオフの状態、何らかの理由で IC カード認証や顔認証の利用が不可となった場合、エンタープライズ版では、別途構築されている NEXT サーバーで NEXT 緊急パスワードの発行を行って Windows へのサインインが可能です。

しかし、NEXT クライアント(無料版)では、NEXT サーバーと NEXT クライアントが 1 台の PC で構成されていることにより、NEXT 緊急パスワードの発行が不可となり、Windows へのサインインが不可となります。

7.2.3. 離席モニター設定

「離席モニター」では、NEXT クライアントで利用する離席モニターの設定を行います。

Info 離席モニターは、NEXT クライアントへのサインイン、または、ロック解除後、定期的に顔を検出・照合し離席を監視する機能です。
 離席モニターの詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

アプリケーション設定

離席モニター

モニタリング間隔(秒)*	<input type="text" value="60"/>
照合時間(秒)*	<input type="text" value="20"/>
照合失敗時に離席モニター画面を表示する*	<input checked="" type="checkbox"/>
カメラ使用不能時にモニターを一時停止する*	<input type="checkbox"/>
離席モニター停止時間(秒)*	<input type="text" value="60"/>
照合精度*	<input type="text" value="中"/>

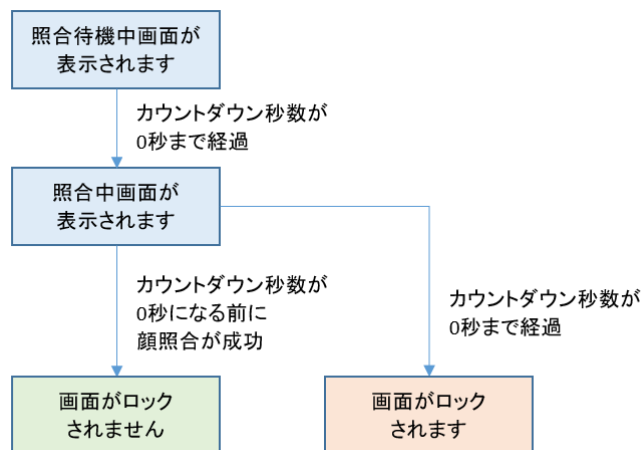
項目	説明
モニタリング間隔(秒) (必須)	離席監視（顔検出・照合）を実行する間隔（秒）を設定してください。 設定した間隔で離席監視（顔検出・照合）を実施します。 最小値：60 最大値：3600 初期値：60
照合時間(秒) (必須)	離席監視（顔検出・照合）を実行する時間（秒）を設定してください。 離席監視は、設定された時間、顔検出・照合を繰り返し、時間内に顔照合に成功しなかった場合、コンピューターがロックされます。 最小値：20 最大値：60 初期値：20

項目	説明
照合失敗時に離席モニター画面を表示する (必須)	<p>離席監視（顔検出・照合）失敗時に、再度、顔検出・照合を行いたい場合はオンに設定してください。</p> <p>オンに設定した場合、離席監視（顔検出・照合）失敗時に離席モニター画面を表示して、再度、離席監視を実施します。</p> <p>ただし、離席監視（顔検出・照合）失敗時にカメラ使用不能の場合は、離席監視の再実施は行われません。</p> <p>※設定による画面遷移は、次ページの図を参照ください。</p> <p>初期値：オフ</p>
カメラ使用不能時にモニターを一時停止する (必須)	<p>離席監視でカメラ使用不能時に、離席監視を一時停止させたい場合はオンに設定してください。</p> <p>オンの場合、カメラ使用不能時に「ロック保留画面」を表示し、離席監視を一時停止することができます。</p> <p>※設定による画面遷移は、次ページの図を参照ください。</p> <p>初期値：オフ</p>
離席モニター停止時間(秒) (必須)	<p>離席監視でカメラ使用不能時に「ロック保留画面」から離席モニターを一時停止する場合の停止時間を設定してください。</p> <p>最小値：60 最大値：3600 初期値：900</p>
照合精度 (必須)	<p>離席監視の顔照合の照合精度を設定してください。</p> <p>離席モニターは、コンピューター使用時の離席を監視する用途のため、サインイン時の顔認証よりも照合精度が低く設定されます。</p> <p>クライアント設定「利用する認証方式」の「照合精度」からどのくらい低くするかを設定します。</p> <p>高：クライアント設定「利用する認証方式」の照合精度より少し緩い 中：クライアント設定「利用する認証方式」の照合精度より緩い 低：クライアント設定「利用する認証方式」の照合精度よりかなり緩い</p> <p>初期値：中</p>

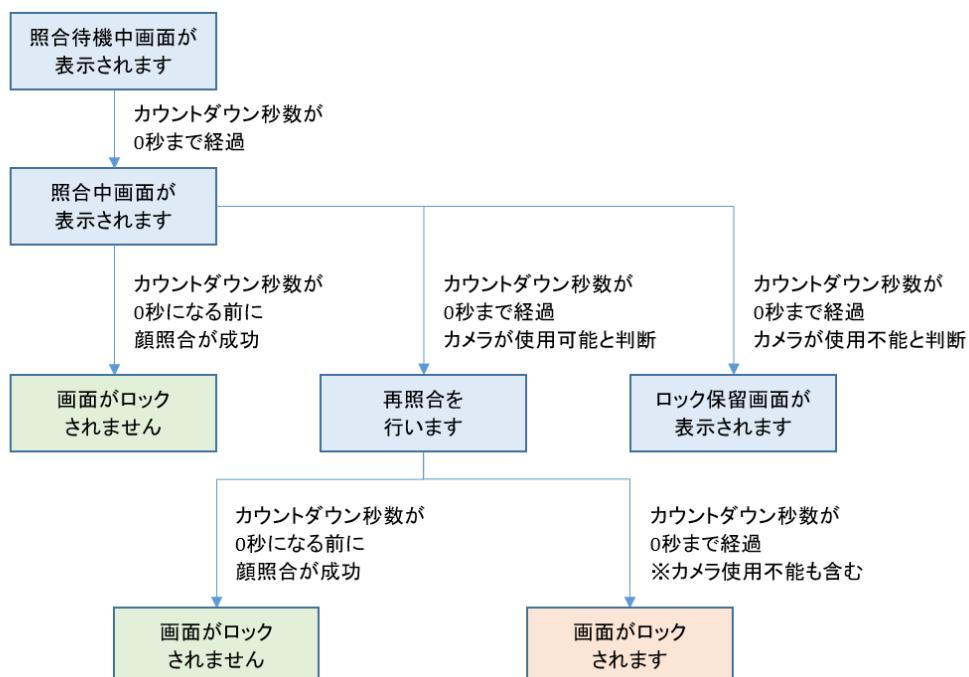
Info 「クライアント設定」新規作成時の「離席モニター」の設定値は、初期（default）のクライアント設定「離席モニター」の設定値ではなく、上記、表の初期値が設定されます。設定変更が必要な場合は、「7.3.4. 離席モニター設定の編集」の手順で変更してください。

離席モニターの設定によって画面の遷移が変わるため、下図を参照ください。

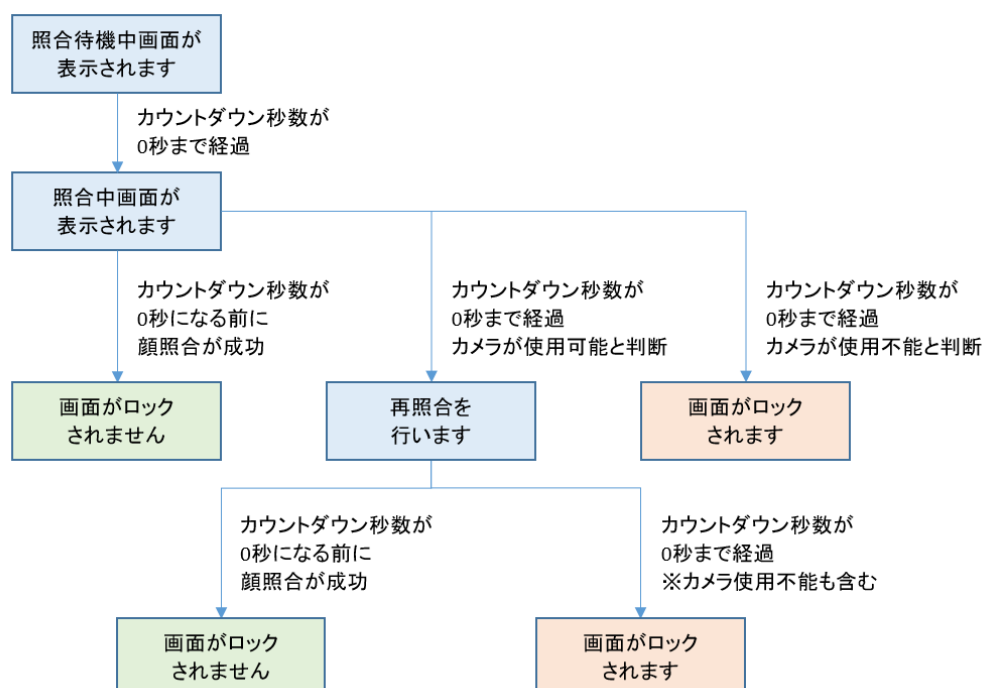
- ・「照合失敗時に離席モニター画面を表示する」「カメラ使用不能時にモニターを一時停止する」の設定がいずれもオフの場合



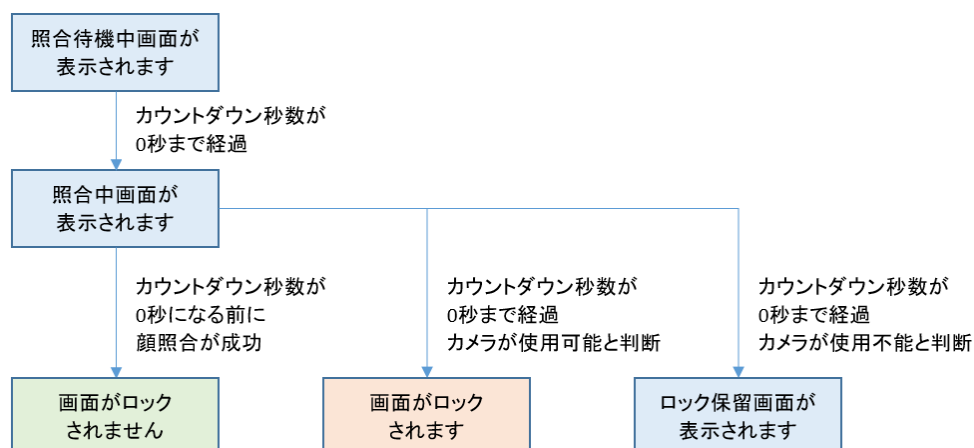
- ・「照合失敗時に離席モニター画面を表示する」「カメラ使用不能時にモニターを一時停止する」の設定がいずれもオンの場合



- 「照合失敗時に離席モニター画面を表示する」がオン、「カメラ使用不能時にモニターを一時停止する」がオフの場合



- 「照合失敗時に離席モニター画面を表示する」がオフ、「カメラ使用不能時にモニターを一時停止する」がオンの場合



7.3. クライアント設定の作成/編集/削除

クライアント設定の作成、および編集する場合、PCの用途を指定してクライアントの設定を変更する機能があり、分かりづらい設定項目をより簡単に設定できます。

クライアント設定の作成方法には2つの方法があります。

クライアント設定の作成方法	説明
個別作成	クライアント設定の全ての項目を個別にカスタマイズして作成できます。 用途別設定の作成ウィザード画面を閉じることでクライアント設定の個別作成ができます。
用途別設定の作成	用途別設定の作成ウィザード画面から選択ができます。 現在は「個人 PC 用」と「共有 PC 用」があります。 個人 PC 用：個人で利用する PC を二要素認証でセキュリティ強化します。 パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。 共有 PC 用：窓口など複数の利用者で Windows アカウントを共有する PC を二要素認証でセキュリティを強化します。 パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。

7.3.1. クライアント設定の個別作成

新しくクライアント設定を個別作成する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<プラス>アイコンをクリックしてください。



5. 「新規作成しますか?」と確認ダイアログが表示されます。<新規作成>ボタンをクリックしてください。



6. 用途別設定の作成ウィザード画面が表示されますので、<x>ボタンをクリックして閉じてください。



個人PC用

個人で利用するPCを二要素認証でセキュリティ強化します。
パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。

使用するパスワード

- × NEXTパスワード使用
- ✓ Windowsパスワード使用

適用される基本設定

- × NEXTパスワード入力をする
- × WindowsユーザーIDを自動入力する
- × Windowsに自動サインインする

適用

共有PC用

窓口など複数の利用者でWindowsアカウントを共有するPCを二要素認証でセキュリティを強化します。
パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。

使用するパスワード

- ✓ NEXTパスワード使用
- ✓ Windowsパスワード使用

適用される基本設定

- ✓ NEXTパスワード入力をする
- ✓ WindowsユーザーIDを自動入力する
- × Windowsに自動サインインする

適用

7. デフォルトのクライアント設定画面が表示されます。クライアント設定をカスタマイズする場合は、各項目を設定してください。

クライアント設定

基本設定

クライアント設定名*	<input type="text" value="新しいクライアント設定名"/>
NEXTWebサーバーURL*	<input type="text" value="https://192.168.2.162"/>
NEXTログサーバーURL*	<input type="text" value="https://192.168.2.162"/>
プロキシサーバーURL	<input type="text"/>
オンライン認証タイムアウト値*	<input type="text" value="10"/>
オフラインネットワークアドレス利用方式*	<input type="text" value="利用しない"/>
オフラインネットワークアドレス	<input type="text"/>
NEXTパスワード入力をする*	<input checked="" type="checkbox"/>
WindowsユーザーIDを自動入力する*	<input checked="" type="checkbox"/>
Windowsに自動サインインする*	<input checked="" type="checkbox"/>

利用する認証方式

ICカード認証	<input checked="" type="checkbox"/>
ICカードの登録を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>

8. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

7.3.2. クライアント設定の用途別作成

クライアント設定を用途別に作成する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<プラス>アイコンをクリックしてください。



5. 「新規作成しますか?」と確認ダイアログが表示されます。<新規作成>ボタンをクリックしてください。



6. 用途別設定の作成ウィザード画面が表示されます。「個人 PC 用」、または「共有 PC 用」の<適用>ボタンをクリックしてください。

個人PC用



個人で利用するPCを二要素認証でセキュリティ強化します。
パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。

使用するパスワード

- × NEXTパスワード使用
- ✓ Windowsパスワード使用

適用される基本設定

- × NEXTパスワード入力をする
- × WindowsユーザーIDを自動入力する
- × Windowsに自動サインインする

適用

共有PC用



窓口など複数の利用者でWindowsアカウントを共有するPCを二要素認証でセキュリティを強化します。
パスワード以外に所持するもの、または存在を示す特徴の情報を利用します。

使用するパスワード

- ✓ NEXTパスワード使用
- ✓ Windowsパスワード使用

適用される基本設定

- ✓ NEXTパスワード入力をする
- ✓ WindowsユーザーIDを自動入力する
- × Windowsに自動サインインする

適用

7. 用途別設定の作成ウィザード画面で選択したクライアント設定が表示されます。あらかじめ項目が設定されていますので、クライアント設定をカスタマイズする場合は、各項目を設定してください。

クライアント設定

基本設定

クライアント設定名*	<input type="text" value="新しいクライアント設定名"/>
NEXTWebサーバーURL*	<input type="text" value="https://192.168.2.162"/>
NEXTログサーバーURL*	<input type="text" value="https://192.168.2.162"/>
プロキシサーバーURL	<input type="text"/>
オンライン認証タイムアウト値*	<input type="text" value="10"/>
オフラインネットワークアドレス利用方式*	<input type="text" value="利用しない"/>
オフラインネットワークアドレス	<input type="text"/>
NEXTパスワード入力をする*	<input type="checkbox"/>
WindowsユーザーIDを自動入力する*	<input type="checkbox"/>
Windowsに自動サインインする*	<input type="checkbox"/>

利用する認証方式

ICカード認証	<input checked="" type="checkbox"/>
ICカードの登録を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>

8. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

7.3.3. クライアント設定の編集

既存のクライアント設定を編集する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<ハンバーガー>アイコンをクリックしてください。



5. 「クライアント設定一覧」が表示されます。編集するクライアント設定の「クライアント設定名」をクリックしてください。



6. 「クライアント設定」の編集画面が表示されます。
7. 各項目を設定してください。
8. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

7.3.4. 離席モニター設定の編集

離席モニターの設定を編集する場合は、以下の手順で行います。

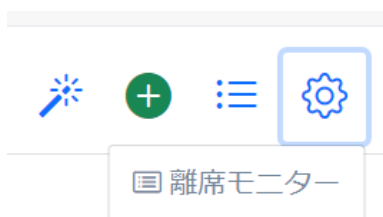
1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<ハンバーガー>アイコンをクリックしてください。



5. 「クライアント設定一覧」が表示されます。編集するクライアント設定の「クライアント設定名」をクリックしてください。



6. 「クライアント設定」の編集画面が表示されます。
7. 「基本設定」の右上の<設定 (歯車)>アイコン、「離席モニター」の順で、クリックしてください。



8. 「離席モニター」の設定画面が表示されます。
9. 各項目を設定してください。
10. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

Info 「クライアント設定」新規作成時の画面では、右上に<設定 (歯車)>アイコンは表示されません。「離席モニター」の編集を行いたい場合は、「クライアント設定」の登録を行ってください。登録後に<設定 (歯車)>アイコンが表示されます。

Info 離席モニター設定はライセンスで有効になっている場合にのみ設定することができます。離席モニターがライセンスで有効になっていない場合は、<設定（歯車）>アイコンをクリックしても「離席モニター」のリンクは表示されません。また、離席モニター以外に表示する項目が無い場合、<設定（歯車）>アイコンは非表示となります。



登録されているライセンスの確認は、「ライセンス登録の確認」を参照してください。

7.3.5. クライアント設定の削除

クライアント設定を削除する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<ハンバーガー>アイコンをクリックしてください。



5. 「クライアント設定一覧」が表示されます。削除するクライアント設定の「クライアント設定名」をクリックしてください。



6. 「クライアント設定」の編集画面が表示されます。
7. <削除>ボタンをクリックしてください。

8. 「警告」ダイアログが表示されます。本当に削除する場合は、「同意します」にチェックをした後、<削除>ボタンをクリックしてください。



- ・削除したクライアント設定は、元に戻すことはできません
- ・クライアント設定の削除は、このクライアント設定を使用してインストールした NEXT クライアントで、NEXT クライアントソフトウェアのアンインストール後に行ってください。または、別のクライアント設定を使用して NEXT クライアントソフトウェアの再インストール後に行ってください。クライアント設定を削除しても NEXT クライアントは使用できますが、NEXT マネージャーのクライアント設定での管理はできなくなります。

7.4. クライアント設定のダウンロード

クライアント設定は、「NEXT クライアント端末設定ファイル」として管理者がダウンロードしておき、NEXT クライアントのインストール時に、NEXT クライアントインストーラーによって取り込むことができます。

クライアント設定のダウンロードは以下の手順で行ってください。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「クライアント設定」をクリックしてください。
3. 初期設定のクライアント設定が表示されます。
4. 「基本設定」の右上の<ハンバーガー>アイコンをクリックしてください。



5. 「クライアント設定一覧」が表示されます。ダウンロードするクライアント設定の<ダウンロード>アイコンをクリックしてください。



6. 「名前を付けて保存」などの Web ブラウザのファイル保存ダイアログが表示されます。
7. 保存場所を選択して保存してください。
このとき、ファイル名は変更せず、格納するフォルダ名で管理されることを推奨します。
NEXT クライアントインストーラーで取り込む際には「NEXT クライアント端末設定ファイル」のファイル名は保存時の"client.json"という固定の名前である必要があるためです。
ダウンロード後の「NEXT クライアント端末設定ファイル」の配置の詳細は、「ARCACLAVIS NEXT セットアップガイド」を参照してください。

8. ポリシー設定

8.1. 概要

ポリシー設定では、主に NEXT ユーザーの NEXT パスワードなどの設定を行えます。

ポリシー設定は、サーバー共有で 1 つです。クライアント設定のように複数の設定を持つことはできません。

ポリシー設定は、NEXT マネージャーで変更することで、インストール済みの NEXT クライアントに反映されます。運用当初は「NEXT ユーザーのロックアウトのしきい値」を"7"で開始し、その後、"5"に変える、などということが可能です。

NEXT マネージャーでのポリシー設定の変更は、クライアント設定の変更の反映と同じタイミング、条件で NEXT クライアントに反映されます。

詳細は「7.1.3. クライアント設定の変更の反映」を参照してください。

クライアントポリシー設定

ポリシー設定

初回サインイン時にNEXTパスワードを変更する *

NEXTパスワードの複雑さ *

NEXTパスワードの長さ(最小) *

8

NEXTパスワードの長さ(最大) *

32

NEXTパスワード有効日数 *

42

NEXTユーザーのロックアウトのしきい値 *

7

無期限のNEXTユーザーを許可しない *

オフライン有効日数 *

90

顔認証マスタに画像を登録しない *

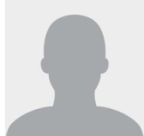
キャンセル

登録

以下にそれぞれの設定項目について説明します。

項目	説明
<p>初回サインイン時に NEXT パスワードを変更する (必須)</p>	<p>NEXT クライアント、NEXT マネージャーの初回サインイン時に NEXT パスワードを変更させる場合は、オンにしてください。</p> <p>オンにした場合、NEXT クライアントで以下の操作を行った際に NEXT パスワード変更画面が表示されます。NEXT パスワードを変更しないと、いずれの処理も行えません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サインイン時 ・画面ロック解除時 ・認証情報の登録時 ・NEXT マネージャーで NEXT ユーザーのパスワードをリセットした時 <p>初期値：オフ</p>
<p>NEXT パスワードの複雑さ (必須)</p>	<p>NEXT パスワードが複雑さの要件を満たす必要があるかどうかを設定します。</p> <p>オンの場合、NEXT パスワードは次の要件をすべて満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英字 (a から z、または A から Z)を含む。 ・数字 (0 から 9)を含む。 ・記号を含む。 <p>初期値：オフ</p>
<p>NEXT パスワードの長さ(最小) (必須)</p>	<p>NEXT パスワードの最小文字列長を設定します。</p> <p>次の「NEXT パスワードの長さ(最大)」より大きい値は設定できません。</p> <p>最小値：1 最大値：32 初期値：8</p>
<p>NEXT パスワードの長さ(最大) (必須)</p>	<p>NEXT パスワードの最大文字列長を設定します。</p> <p>前の「NEXT パスワードの長さ(最小)」より小さい値は設定できません。</p> <p>最小値：1 最大値：32 初期値：32</p>

項目	説明
NEXT パスワード有効日数 (必須)	<p>設定した NEXT パスワードを使用できる期間 (日数) を指定します。この期間を過ぎると、変更するよう要求されます。(顔照合エラー時はオフライン認証となるため、NEXT パスワードの有効期限切れのチェックは行われません)</p> <p>1 から 365 までの日数を指定するか、0 に設定して NEXT パスワードの有効期限が切れないように指定します。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 365 初期値 : 42</p>
NEXT ユーザーのロックアウトのしきい値 (必須)	<p>指定された回数 NEXT 認証に失敗すると、NEXT ユーザーがロックアウトされます。(顔照合エラー時はオフライン認証となるため、ロックアウトのしきい値のエラー回数としてカウントしません)</p> <p>ロックアウト状態を解除する場合は、「パスワードリセット」を行ってください。</p> <p>0 に設定すると、ロックアウトしません。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 30 初期値 : 7</p>
無期限の NEXT ユーザーを許可しない (必須)	<p>オンにすると、NEXT ユーザーの有効期限を設定しない状態での NEXT ユーザーの作成/編集ができなくなります。</p> <p>初期値 : オフ</p>
オフライン有効日数 (必須)	<p>NEXT クライアントで保持するキャッシュの有効期限を指定します。キャッシュを利用することで、NEXT クライアントが NEXT サーバーと接続できないオフライン環境でも NEXT Signin などの機能が利用できます。</p> <p>0 に設定すると、無期限になります。</p> <p>最小値 : 0 最大値 : 3650 初期値 : 90</p> <p>※無料版では表示されません。</p>

項目	説明
顔認証マスタに画像を登録しない (必須)	<p>オンにすると顔認証マスタに顔情報のみ登録し、画像を登録しません。</p> <p>画像を登録しない場合、顔認証マスタ管理画面の顔画像は表示されずにシルエット表示となります。</p> <div data-bbox="699 465 906 779" style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">顔情報一覧</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center; font-size: x-small; margin-top: 5px;"> 🗑️ 2023/01/10 14:25:57 </div> </div> <p>初期値：オフ</p>

Info NEXT パスワードの有効期限は、「NEXT パスワードの最終更新日」に「ポリシーで設定した NEXT パスワード有効日数」を加算し、その日時が過ぎた場合に「期限切れ」と判定します。「NEXT パスワードの最終更新日」は以下で設定/更新されます。

- ・NEXT クライアントで NEXT パスワードを変更した時
- ・NEXT マネージャーへのサインイン時に NEXT パスワードを変更した時
- ・NEXT マネージャーの管理者ポータルで NEXT ユーザーを新規作成した時
- ・NEXT マネージャーの管理者ポータルで NEXT ユーザーの NEXT パスワードを変更した時 (CSV インポート含む)
- ・NEXT マネージャーの管理者ポータルで NEXT パスワードをリセットした時
- ・NEXT マネージャーのユーザーポータルで NEXT パスワードを変更した時

Info NEXT ユーザーのロックアウトの詳細は、「付録.NEXT ユーザーのロックアウト」を参照してください。

Info キャッシュを利用するオフライン時の詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

8.2. ポリシー設定の編集

ポリシー設定を編集する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「ポリシー設定」をクリックしてください。
3. 各項目を設定してください。
4. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

9. NEXT ユーザー管理

9.1. 概要

ユーザー管理では、NEXT ユーザーの情報の設定、NEXT ユーザーの運用に係る操作を行います。メニューの「NEXT ユーザー一覧」では、登録されている NEXT ユーザーの一覧が表示されます。

ユーザー管理

検索条件

NEXTユーザーID

NEXTユーザー名

アカウントのロックアウト

NEXT/パスワードの有効期限切れ

NEXTユーザーの有効期限切れ

無効ユーザー

検索オプション

検索 条件クリア ダウンロード





(1 - 2) 2

[20] [50] [100]

最初 前へ 1 次へ 最後

	NEXTユーザーID	NEXTユーザー名	無効	有効期間(開始)	有効期間(終了)	エラー回数	NEXT/パスワード最終更新日時	最終オンラインログイン日時	作成日時	更新日時
詳細	admin	管理者(ビルトイン)				0	2023/11/06 10:45:19		2023/11/02 17:17:49	2023/11/06 10:45:19
詳細	subsystem	サブシステム利用者(ビルトイン)				0			2023/11/02 17:17:49	2023/11/02 17:17:49

メインパネルに表示される NEXT ユーザー一覧の各 NEXT ユーザーの状態を表すステータスアイコンが表示される場合があります。下図に説明します。

ステータスアイコン	ツールチップでの表示
	NEXT ユーザーの有効期限が切れています
	NEXT パスワードの有効期限が切れています
	アカウントがロックアウトされています
	無効なユーザー

「NEXT ユーザー一覧」からユーザーを検索して、編集などの操作が行えます。メインパネルに表示されるユーザー一覧では、「NEXT ユーザーID」などの各項目名をクリックすることで、昇順/降順の並べ替えができます。

NEXTユーザーID	NEXTユーザー名	無効	有効期間(開始)	有効期間(終了)	エラー回数	NEXTパスワード最終更新日時	最終オンラインログイン日時	作成日時	更新日時
admin	管理者(ビルトイン)				0	2023/11/06 10:45:19		2023/11/02 17:17:49	2023/11/06 10:45:19

メインパネルに表示される NEXT ユーザー一覧の上部には、総登録 NEXT ユーザー数、ページ送りなどが表示されています。下図を例に説明します。

(1 - 20) 150

[20] [50] [100]
最初 前へ 1 2 3 4 5 6 7 8 次へ 最後

項目	説明
NEXT ユーザーの表示している番号範囲	メインパネルの NEXT ユーザー一覧に表示している番号範囲です。 図では、左の「(1-20)」と表示している部分です。
総登録 NEXT ユーザー数	登録されている NEXT ユーザー数です。 図では、左の「150」と表示している部分です。
1 ページで表示する NEXT ユーザー数	1 ページで表示する NEXT ユーザー数です。 20,50,100 から選択でき、クリックすることで、1 ページで表示する NEXT ユーザー数を変更することができます。 図では、右の「[20] [50] [100]」と表示している部分です。
ページ送り	メインパネルの NEXT ユーザー一覧のページ送りを行うことができる表示部分です。 図は、「[最初][前へ][1]….[次へ][最後]」と表示している部分です。

メインパネルに表示される NEXT ユーザー一覧の各 NEXT ユーザーの左のボタンから、その NEXT ユーザーに関する各種の操作が行えます。各項目の概要を説明します。詳細は以降の本マニュアルで説明します。



項目	説明
編集	NEXT ユーザーの編集を行います。
削除	NEXT ユーザーの削除を行います。
NEXT パスワードリセット	NEXT 認証を一定回数、失敗した場合、アカウントがロックアウトされます。このロックアウトを解除するためにパスワードのリセットを行います。
ロール設定	NEXT ユーザーのロールを設定します。
ICカードマスタ管理	NEXT ユーザーの利用する IC カードの情報を設定、確認します。
顔認証マスタ管理	NEXT ユーザーの顔認証で利用する顔情報を設定、確認します。
ワンタイムパスワード	NEXT ユーザーのワンタイムパスワードシークレットを発行して、スマートフォンの Authenticator アプリに登録するための QR コードを表示します。
NEXT 緊急パスワード発行	NEXT ユーザーの NEXT 緊急パスワードを発行します。
自動認証設定	NEXT ユーザーの自動認証設定を設定、確認します。
自動入力設定	NEXT ユーザーの自動入力設定を設定、確認します。

9.2. NEXT ユーザー情報の設定

NEXT ユーザー設定には「基本設定」、「Windows アカウント」があります。以下にそれぞれの設定項目について説明します。

9.2.1. 基本設定

「基本設定」では、NEXT ユーザーの基本的な設定を行います。

基本設定

NEXTユーザーID*

NEXTパスワード*

確認用NEXTパスワード*

NEXTユーザー名*

有効期間(開始)

有効期間(終了)

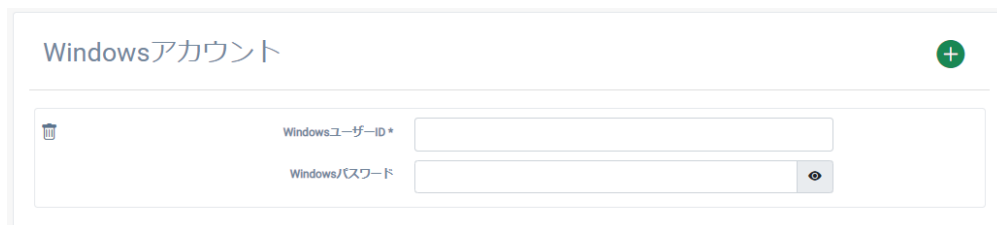
無効*

項目	説明
NEXT ユーザーID (必須)	NEXT ユーザーID を指定してください。 NEXT ユーザーID は一意である必要があります。既に登録済みのNEXT ユーザーID と同じ ID を指定することはできません。 使用可能文字：半角英数、記号（ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)のみ) 文字数：最大 20 文字 初期値：設定なし
NEXT パスワード (必須)	NEXT 認証に使用する NEXT パスワードを指定してください。 入力値はポリシー設定により制限されます。 使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 32 文字 初期値：設定なし
確認用 NEXT パスワード (必須)	確認用に再度、NEXT パスワードを指定してください。 入力値はポリシー設定により制限されます。 使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 32 文字 初期値：設定なし

項目	説明
NEXT ユーザー名 (必須)	NEXT ユーザー名を指定してください。 使用可能文字：半角および全角文字 文字数：最大 50 文字 初期値：設定なし
有効期間(開始) (ポリシー設定の「無期限の NEXT ユーザーを許可しない」がオンの場合、必須)	NEXT ユーザーが利用できる期間の開始日を指定してください。 次の「有効期間(終了)」より後の日は設定できません。 初期値：設定なし
有効期間(終了) (ポリシー設定の「無期限の NEXT ユーザーを許可しない」がオンの場合、必須)	NEXT ユーザーが利用できる期間の終了日を指定してください。 前の「有効期間(開始)」より前の日は設定できません。 初期値：設定なし
無効	オンにすると、NEXT ユーザーを無効にします。 初期値：オフ

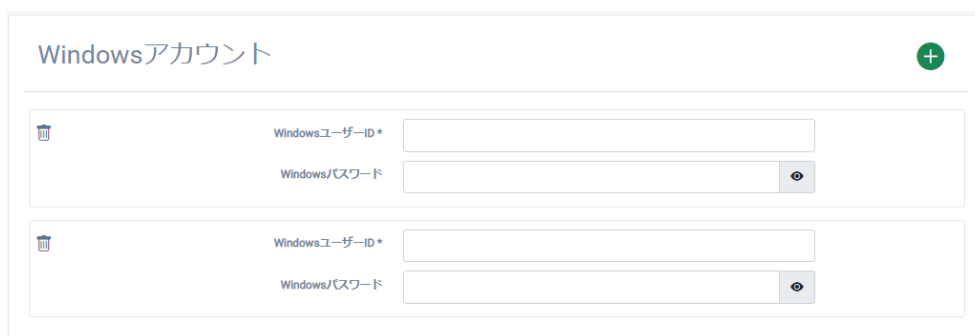
9.2.2. Windows アカウント

「Windows アカウント」では、NEXT Signin による Windows サインイン時に、クライアント設定により利用する Windows アカウントの情報の設定を行います。



The screenshot shows a form titled "Windowsアカウント" with a green plus icon in the top right corner. Below the title is a trash can icon and two input fields: "WindowsユーザーID*" and "Windowsパスワード". The password field has a toggle icon to its right.

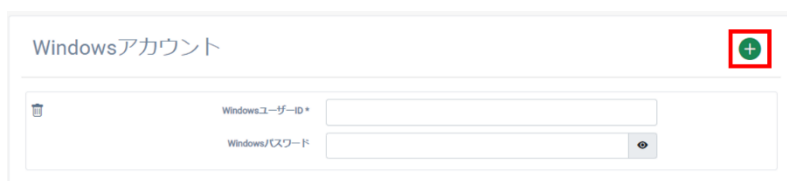
Windows アカウントの情報は、1つのNEXTユーザーに32個まで登録できます。下図は、2つのWindowsアカウントが登録されているNEXTユーザーの編集画面の例です。



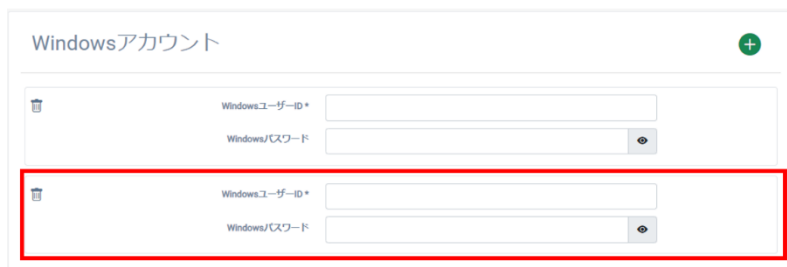
The screenshot shows the same "Windowsアカウント" form, but with two identical account entry sections stacked vertically. Each section includes a trash can icon, a "WindowsユーザーID*" field, and a "Windowsパスワード" field with a toggle icon.

初期は1つのWindowsアカウントを入力する欄しか表示されていません。

Windowsアカウントを追加登録する場合は、「Windowsアカウント」の入力エリアの右上にある<+>アイコンをクリックします。

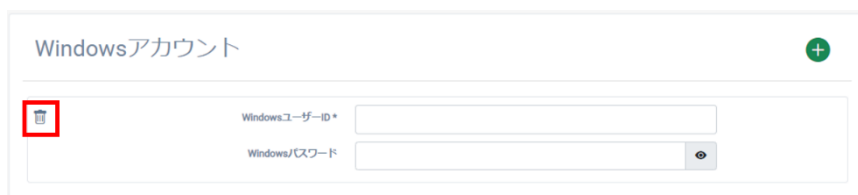


This screenshot is identical to the previous one, but a red box highlights the green plus icon in the top right corner of the form.



This screenshot is identical to the previous one, but a red box highlights the entire second account entry section at the bottom of the form.

Windows アカウントを削除する場合は、削除したい Windows アカウントの入力エリアの左上にある<ゴミ箱>アイコンをクリックします。



Windowsアカウント +

🗑️ WindowsユーザーID*

Windowsパスワード



Windowsアカウント +

項目	説明
Windows ユーザーID	<p>Windows アカウントを指定してください。</p> <p>Windows アカウントは以下のいずれかの形式で指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカウント名のみ 例) user017 ※ドメイン参加 PC でドメイン名を省略すると、「domain¥user017」のように参加ドメイン名が補完されサインインを実行します。 ※ドメイン参加 PC でローカルコンピューターにサインインする場合は、アカウント名の前に「.¥」を入力してください。 ・ドメイン名¥アカウント名 例) domain¥user017 ・MicrosoftAccount¥Microsoft アカウント名 例) MicrosoftAccount¥user017@example.co.jp ※PIN 認証はできません <p>文字数：最大 256 文字 初期値：設定なし。ただし、新規作成時は 1 つ目の Windows アカウントの Windows ユーザーID の入力値がない場合、NEXT ユーザーID を自動的に補完して保存します。編集時は自動的に補完しません。</p>
Windows パスワード	<p>Windows アカウントのパスワードを指定してください。</p> <p>文字数：最大 127 文字 初期値：設定なし</p>

Info Windows アカウントを複数登録した時の登録後の表示順は、Windows ユーザーID の英数字の昇順に表示します。

Info Windows アカウントが不要な NEXT ユーザーの場合は、ごみ箱アイコンをクリックして Windows アカウントが 0 件の状態で登録してください。

9.3. NEXT ユーザーの管理

9.3.1. NEXT ユーザーの作成

新しく NEXT ユーザーを作成する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー作成」をクリックしてください。
3. 各項目を設定してください。
4. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

Info <登録>ボタンで保存すると登録した NEXT ユーザーの編集画面が表示されます。

Info 登録後に続けて NEXT ユーザーを作成する場合は<連続登録>ボタンをクリックすることで、NEXT ユーザーの新規登録画面が表示されます。



9.3.2. NEXT ユーザーの編集

既存のNEXT ユーザーを編集する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 編集するNEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<編集>ボタンをクリックしてください。
4. 各項目を設定してください。
5. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

入力したNEXT パスワードは[●]で表示されますが、現在設定されているNEXT パスワードは表示されず、空白で表示されます。

また、右の[目]のアイコンをクリックした場合についても、入力した値そのものの表示に切り替えることができますが、現在設定されているNEXT パスワードは表示されず、空白で表示されます。

NEXT パスワードを空白のまま<登録>ボタンをクリックした場合は、NEXT パスワードの変更は行われません。

9.3.3. NEXT ユーザーの削除

NEXT ユーザーを削除する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 削除する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<削除>ボタンをクリックしてください。
4. 削除を確認するダイアログが表示されます。



5. 削除して良ければ、<削除>ボタンをクリックします。

9.3.4. NEXT ユーザーの検索

「NEXT ユーザー一覧」ではNEXT ユーザーID/NEXT ユーザー名を入力して検索、アカウントのロックアウト/無効ユーザーなどの条件で検索、組み合わせた検索ができます。

- ・NEXT ユーザーID/NEXT ユーザー名を入力して検索

NEXT ユーザーID/NEXT ユーザー名で検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 検索したい「NEXT ユーザーID」、「NEXT ユーザー名」を検索条件に入力します。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。

検索条件

NEXTユーザーID

NEXTユーザー名

アカウントのロックアウト

NEXTパスワードの有効期限切れ

NEXTユーザーの有効期限切れ

無効ユーザー

検索オプション ^

検索
条件クリア
ダウンロード ▼

5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
6. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

	NEXTユーザーID	NEXTユーザー名	無効	有効期間(開始)	有効期間(終了)	エラー回数	NEXTパスワード最終更新日時	最終オンラインログイン日時	作成日時	更新日時
詳細 ▼	User1	ユーザー-1				0	2022/04/26 12:07:25		2022/04/26 12:07:25	2022/04/26 12:07:25

・条件での検索

無効状態のユーザーを検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 検索条件の「無効ユーザー」をオンにします。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。

検索条件

NEXTユーザーID

NEXTユーザー名

アカウントのロックアウト

NEXTパスワードの有効期限切れ

NEXTユーザーの有効期限切れ

無効ユーザー

検索オプション ^

検索
条件クリア
ダウンロード

5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
6. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

	NEXTユーザーID	NEXTユーザー名	無効	有効期間(開始)	有効期間(終了)	エラー回数	NEXTパスワード最終更新日時	最終オンラインログイン日時	作成日時	更新日時
詳細	User2	ユーザー2	❌			0	2022/04/26 12:07:46		2022/04/26 12:07:46	2022/04/26 12:07:46

・ Active Directory ユーザー自動インポートで作成されたユーザーの検索

Active Directory ユーザー自動インポートで作成されたユーザーを検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 「検索オプション」をクリックして、「Active Directory ユーザー」をオンにします。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。

Info 特定の時間で追加した Active Directory ユーザーを検索したい場合は、作成日時(開始)、作成日時(終了)に Active Directory ユーザー自動インポートを実行した時間を設定してください。

5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
<条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

	NEXTユーザーID	NEXTユーザー名	無効	有効期間(開始)	有効期間(終了)	エラー回数	NEXTパスワード最終更新日時	最終オンラインログイン日時	作成日時	更新日時
詳細	AdUser1	ユーザー1		2022/02/02		0	2022/04/26 12:15:19		2022/04/26 12:15:19	2022/04/26 12:15:19

・組み合わせでの検索

検索は、各項目を組み合わせで行うことができます。以下に各項目について説明します。

項目	説明
NEXT ユーザーID	NEXT ユーザーID を入力された文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
NEXT ユーザー名	NEXT ユーザー名を入力された文字列で検索します。 検索条件：中間一致、大文字小文字を区別しません。
アカウントのロックアウト	オンにすると「ロックアウト」状態のNEXT ユーザーを検索します。
NEXT パスワードの有効期限切れ	オンにすると「NEXT パスワードの有効期限が切れている」状態のNEXT ユーザーを検索します。
NEXT ユーザーの有効期限切れ	オンにすると「NEXT ユーザーの有効期限が切れている」状態のNEXT ユーザーを検索します。
無効ユーザー	オンにすると「無効」状態のNEXT ユーザーを検索します。
作成日時(開始)	「作成日時(開始)」以降の作成日時に対応するユーザーを検索します。
作成日時(終了)	「作成日時(終了)」以前の作成日時に対応するユーザーを検索します。
Active Directory ユーザー	オンにすると「Active Directory ユーザー自動インポートで作成されたユーザー」を検索します。

9.3.5. NEXT ユーザーのロックアウトの解除

指定された回数 NEXT 認証に失敗すると、NEXT ユーザーがロックアウトされます。
ロックアウト状態を解除する場合は、「NEXT パスワードリセット」を行います。

NEXT ユーザーの「NEXT パスワードリセット」は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. NEXT パスワードリセットしてロックアウトを解除する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<NEXT パスワードリセット>ボタンをクリックしてください。
このとき、NEXT ユーザーがロックアウトされている場合、<鍵>アイコンが表示されます。



4. NEXT パスワードを再設定する画面が表示されます。
現在設定されている NEXT パスワードは表示されず、空白で表示されます。

A screenshot of the 'NEXTパスワードリセット' (NEXT Password Reset) form. The form title is 'NEXTパスワードリセット'. Below the title, the user ID 'user0 user0' is displayed next to a gear icon. A note reads: 'パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを入力してください' (If you want to change the password, please enter a new password). There are two input fields: '新しいNEXTパスワード' (New NEXT Password) and '確認用NEXTパスワード' (Confirmation NEXT Password). Both fields are currently empty and have eye icons to the right of the input boxes.

5. 再設定する NEXT パスワードを「新しい NEXT パスワード」、「確認用 NEXT パスワード」に入力して、<登録>ボタンをクリックします。

項目	説明
新しい NEXT パスワード	<p>NEXT 認証に使用する NEXT パスワードを指定してください。</p> <p>入力値はポリシー設定により制限されます。</p> <p>「新しい NEXT パスワード」を空白のまま<登録>ボタンをクリックした場合は、NEXT パスワードの変更は行われません。</p> <p>使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 32 文字 初期値：なし</p>
確認用 NEXT パスワード	<p>確認用に再度、NEXT パスワードを指定してください。</p> <p>入力値はポリシー設定により制限されます。</p> <p>使用可能文字：半角英数、記号 文字数：最大 32 文字 初期値：なし</p>

Info NEXT パスワードの再設定は、NEXT ユーザーの編集でも行えます。ただし、ロックアウト状態の NEXT ユーザーの解除は、この NEXT パスワードリセットで行う必要があります。

9.3.6. NEXT ユーザーのロール設定

NEXT ユーザーは、ロール(役割)によって利用制限があります。ロールによる利用制限は以下のとおりです。

項目	説明
管理者 (必須)	<p>オンにすると、NEXT マネージャーにサインインが行え、また、すべての設定が行えます。</p> <p>オフの場合、NEXT マネージャーにサインインができませんので、すべての設定が行えません。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>利用可能機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT マネージャーの管理者ポータルへのサインイン ・NEXT マネージャーのユーザーポータルへのサインイン ・NEXT クライアントでの NEXT 認証 ・NEXT Active Directory ユーザー自動インポートの初期設定の実行
サブシステム利用者 (必須)	<p>オンにすると、NEXT サーバーのサブシステムの利用が行えます。</p> <p>例として、Active Directory ユーザー自動インポートの初期設定実行時のユーザーとして利用できます。</p> <p>NEXT Active Directory ユーザー自動インポートの初期設定については、「ARCACLAVIS NEXT Active Directory ユーザー自動インポートガイド」を参照してください。</p> <p>サブシステム利用者は、NEXT マネージャーにサインインすることができません。</p> <p>初期値：オフ</p> <p>利用可能機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT クライアントでの NEXT 認証 ・NEXT Active Directory ユーザー自動インポートの初期設定の実行
ポータル利用者 (必須)	<p>オンにすると、NEXT マネージャーのユーザーポータルにサインインが行えます。</p> <p>オフの場合、NEXT マネージャーのユーザーポータルにサインインができません。</p> <p>初期値：オン</p> <p>利用可能機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT マネージャーのユーザーポータルへのサインイン ・NEXT クライアントでの NEXT 認証
なし	<p>すべてのロールがオフの場合、NEXT クライアントでの NEXT 認証のみ可能になります。</p> <p>利用可能機能：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT クライアントでの NEXT 認証

Info 初期設定時の NEXT マネージャーにサインインできる NEXT ユーザー「admin」は「管理者」のロールがオンです。
NEXT クライアントを利用するだけの NEXT ユーザーには「管理者」のロールはオフのままにすることで、NEXT マネージャーにサインインができませんので、すべての設定が行えません。

Info NEXT マネージャーでは、必要なロールがない場合、画面自体にアクセスできません。「管理者」のロールがオフの NEXT ユーザーで NEXT マネージャーにサインインすると、「ページが見つからない、もしくはページにアクセスする権限がありません」というエラーが表示されます。

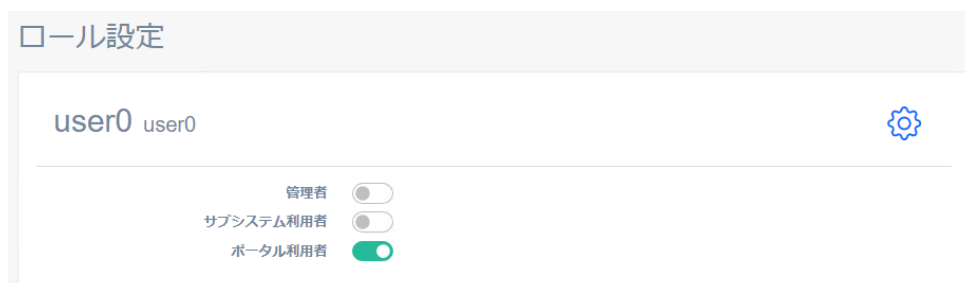
Info NEXT マネージャーに「管理者」のロールがオフの NEXT ユーザーでサインインすると、ログ管理には「イベント：管理」でサインイン認証のログが記録されます。ただし、ロールがオフのため、画面自体にアクセスはできません。同様に NEXT パスワードのパスワード変更も行えますが、ロールがオフのため、画面自体にアクセスはできません。

NEXT ユーザーの「ロール設定」は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. ロール設定をする NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<ロール設定>ボタンをクリックしてください。



4. ロール設定画面が表示されます。



5. ロール設定を行い、<登録>ボタンをクリックします。

9.4. IC カードマスタ管理

NEXT ユーザーが利用する IC カード登録を行うことができます。

IC カードは各 NEXT ユーザーごとに 1 つだけ、登録することができます。また、同じ IC カードを異なる NEXT ユーザーに登録することはできません。

IC カードの登録方法は、NEXT マネージャーで登録する方法と、NEXT クライアントで登録する方法があります。

- ・NEXT マネージャーで管理者がユーザーの IC カードを登録する
管理者が NEXT マネージャーで IC カードを登録します。
NEXT マネージャーで IC カードを登録するには、IC カードのシリアル情報が必要です。予めご用意ください。IC カードのシリアル情報が不明、収集が困難な場合は、NEXT クライアントでユーザー自身による IC カード登録の方法をご利用ください。
現在、対応している IC カードのシリアル情報は「9.4.1. 対応している IC カードのシリアル情報」の表を参照してください。
- ・NEXT クライアントでユーザー自身が IC カードを登録する
ユーザー自身が NEXT クライアントで IC カードを登録します。
ユーザー自身が NEXT クライアントで IC カードを登録するには、以下の設定がされている必要があります。
 - ・クライアント設定で「IC カード認証」がオンである。
 - ・クライアント設定で「IC カードの登録を許可する」がオンである。また、すでに IC カードが登録されている状態で、別の IC カードをユーザー自身が登録するには、さらに以下の設定がされている必要があります。
 - ・クライアント設定で「IC カードの再登録を許可する」がオンである。

ここでは、NEXT マネージャーで管理者がユーザーの IC カードを登録する方法について説明します。

NEXT クライアントで IC カードを登録する方法については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

9.4.1. 対応している IC カードのシリアル情報

対応している IC カードのシリアル情報は以下です。

IC カードの種類	シリアル情報	備考
FeliCa Standard	IDm	Binary を HEX 値にして、設定します。 HEX 値で 16 文字表示されている 8 バイトのデータの場合、HEX 値のまま設定します。 例：01010101FEFEFEFE
FeliCa Lite-S	IDm	Binary を HEX 値にして、設定します。 HEX 値で 16 文字表示されている 8 バイトのデータの場合、HEX 値のまま設定します。 例：01010101FEFEFEFE
NXP Semiconductors Mifare Classic 1K(Standard 1K)(7byte UID)	UID	Binary を HEX 値にして、設定します。 HEX 値で 14 文字表示されている 7 バイトのデータの場合、HEX 値のまま設定します。 例：010101FEFEFEFE
NXP Semiconductors Mifare Classic 1K(4byte NUID)	NUID	Binary を HEX 値にして、設定します。 HEX 値で 8 文字表示されている 4 バイトのデータの場合、HEX 値のまま設定します。 例：0101FEFE

Info FeliCa カードの IDm、Mifare カードの UID/NUID の値は、購入時に発行会社から入手することができる場合があります。これから IC カードを購入される場合は、販売会社様などにお問い合わせください。

Info FeliCa カードの IDm などのシリアル情報が、配布済みのカードを利用する場合などで分からない場合は、NEXT クライアントでユーザー自身による IC カード登録の方法をご利用ください。NEXT クライアントでの IC カード登録では、IC カードから読み取りを行い登録できますので、IDm などのシリアル情報の事前収集が不要です。

9.4.2. ICカードの登録

NEXT ユーザーに IC カードを登録するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. IC カードを登録する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<IC カードマスタ管理>ボタンをクリックしてください。



4. 「ICカードシリアル番号」を設定してください。

ICカード登録

ユーザー 1 User1 ☰

ICカードシリアル番号*

一覧
ユーザー編集
登録
削除

項目	説明
IC カードシリアル番号 (必須)	<p>対応するカードの「シリアル情報」を指定します。</p> <p>「IC カードの種類」と「シリアル情報」により文字数や使用可能文字は変わります。</p> <p>詳細は、「9.4.1. 対応している IC カードのシリアル情報」を参照してください。</p> <p>初期値：設定なし</p>

5. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

9.4.3. ICカードの編集

NEXT ユーザーに登録されている IC カード情報を編集する手順は、「9.4.2. IC カードの登録」と同じです。

IC カードは各 NEXT ユーザーごとに 1 つだけ、登録することができます。また、同じ IC カードを異なる NEXT ユーザーに登録することはできません。

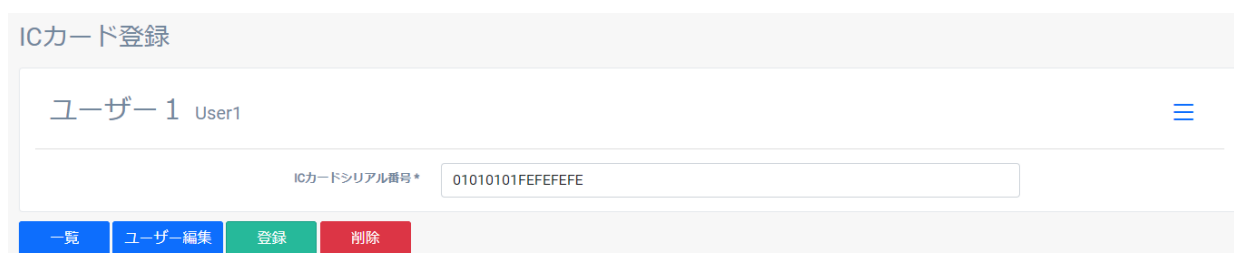
9.4.4. ICカードの削除

NEXT ユーザーに登録されている IC カードを削除するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. IC カードを削除する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<IC カードマスタ管理>ボタンをクリックしてください。



4. <削除>ボタンをクリックします。



- 削除ダイアログの<削除>ボタンをクリックすることで、削除が完了します。



9.5. 顔認証マスタ管理

NEXT ユーザーが利用する顔情報の登録、顔認証のオプションの設定を行うことができます。顔情報は各 NEXT ユーザーごとに 7 件まで登録が可能となっており、ユーザーによる最大登録件数は 5 件、自動更新による最大登録件数は 2 件となります。

顔情報の登録方法は、NEXT マネージャーで登録する方法、NEXT クライアントで登録する方法、顔情報一括インポートで登録する方法があります。

- ・NEXT マネージャーで管理者がユーザーの顔情報を登録する
管理者が NEXT マネージャーで顔情報を登録します。
NEXT マネージャーで顔情報を登録するには、顔画像ファイルが必要です。予めご用意ください。
また、NEXT マネージャーで顔情報を顔画像ファイルで登録するには、NEXT サーバーに「顔認証ランタイム」のインストールが必要になります。詳細は、「ARCACLAVIS NEXT 動作環境一覧」を参照してください。
- ・NEXT クライアントでユーザー自身が顔情報を登録する
ユーザー自身が NEXT クライアントで顔情報を登録します。
ユーザー自身が NEXT クライアントで顔情報を登録するには、以下の設定がされている必要があります。
 - ・クライアント設定で「顔認証」がオンである。
 - ・クライアント設定で「顔情報の登録を許可する」がオンである。また、すでに顔情報が登録されている状態で、別の顔情報をユーザー自身が登録するには、さらに以下の設定がされている必要があります。
 - ・クライアント設定で「顔情報の再登録を許可する」がオンである。
- ・顔情報一括インポートで顔情報を登録する
「顔情報一括インポート」は導入時などで多くのユーザーの顔情報を登録する際に便利な機能です。顔画像ファイルと、その顔画像ファイルを含むフォルダ構成を用いてインポート用ファイルを生成し、生成されたインポート用ファイルを NEXT サーバーにインポートして、顔情報を一括で登録できます。

下表にそれぞれの登録方法の分類を記します。

項目	方法	NEXT マネージャーで登録	NEXT クライアントで登録	顔情報一括インポートで登録
管理者による登録を想定		○		○
利用者による登録を想定			○	
顔画像ファイルを利用		○		○
Web カメラを利用			○	
顔認証ランタイムを利用		○	○	○
ポリシー設定の許可が必要			○	
マニュアル		ARCACLAVIS NEXT 管理者ガイド	ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド	ARCACLAVIS NEXT 顔情報一括インポートガイド

顔情報の登録方法について本ガイドでは、NEXT マネージャーで管理者がユーザーの顔画像ファイルを用いて顔情報を登録する方法について説明します。NEXT クライアントで顔情報を登録する方法については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。顔情報一括インポートで登録する方法については、「ARCACLAVIS NEXT 顔情報一括インポートガイド」を参照してください。

9.5.1. 顔情報の登録

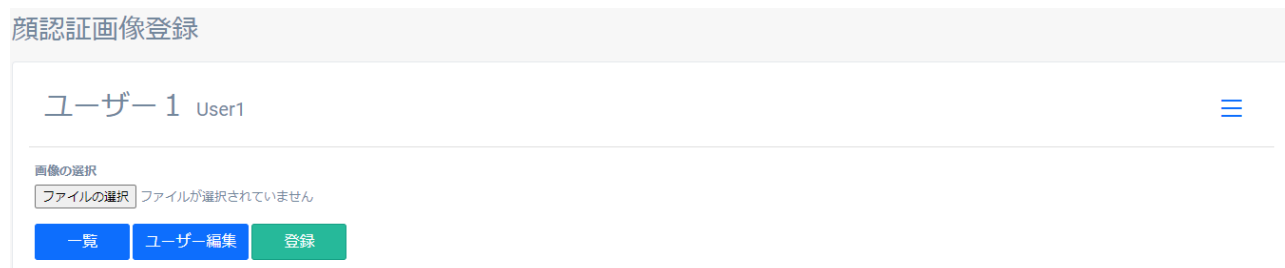
登録する顔画像ファイルの「良い例」「向かない例」については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照ください。

NEXT ユーザーに顔情報を登録するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 顔情報を登録する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<顔認証マスタ管理>ボタンをクリックしてください。



4. <ファイルを選択>ボタンをクリックしてください。

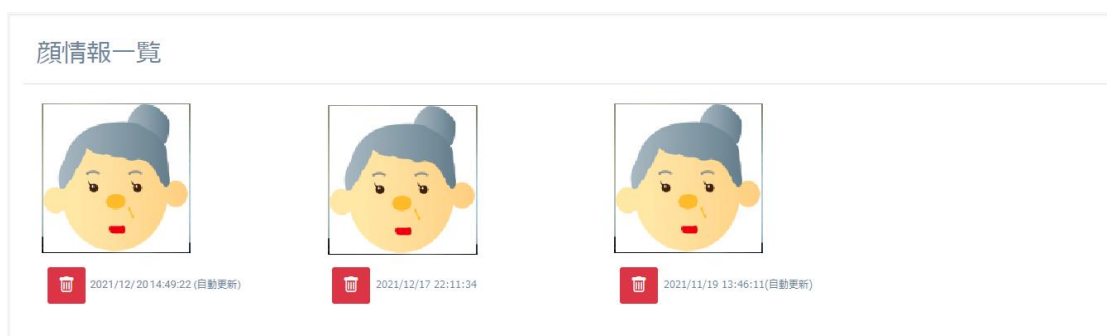


- Web ブラウザの「ファイルを選択」ダイアログが表示されますので、NEXT ユーザーの利用者の顔画像ファイルを選択します。

顔画像ファイルに利用できる形式などは以下の通りです。

項目	説明
ファイル形式	BMP、JPG、PNG
解像度（推奨）	640×480pixel 目と目の間隔が 120pixel 以上あるもの

- <登録>ボタンをクリックして保存します。
- 登録されると「顔情報一覧」に登録した顔情報の顔画像ファイルのサムネイルが表示されます。



- 複数枚の登録を行う場合は、手順 4～6 を繰り返し行います。

9.5.2. 顔認証のオプションの設定

顔認証マスタ管理では、顔認証に関するオプションの設定が行えます。
顔認証オプションの設定状態により、表示が異なります。

- ・顔認証オプションが未設定（初期表示）

顔認証オプション

一覧 ユーザー編集

- ・顔認証オプションが未設定（<オプション追加>ボタンクリック後）

顔認証オプション

適合精度* 中

マスクを使用する*

一覧 ユーザー編集 登録

- ・顔認証オプションが設定済み

顔認証オプション

適合精度* 中

マスクを使用する*

一覧 ユーザー編集 登録 削除

項目	説明
<p>照合精度 (必須)</p>	<p>顔の認証しやすさを設定します。高くすると、他人受入率を下げることはできませんが本人拒否率が上がります。低くすると、本人拒否率は下がりますが他人受入率が上がります。</p> <p>設定は、以下を参考に行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い 使用するクライアント端末、カメラ、明るさ、カメラとの距離など多くの条件が顔情報を登録した時と同じ環境で認証可能な設定です。多くの条件が異なる場合は、認証がしにくい場合があります。 ・やや高い 「高い」と「中」の中間の設定です。 ・中 登録時と異なるクライアント端末、カメラ、明るさでも認証が可能な設定です。屋内/社内でするユーザーに適しています。 ・やや低い 「中」と「低い」の中間の設定です。 ・低い 使用するクライアント端末、カメラ、明るさ、カメラとの距離など多くの条件が顔情報を登録した時と異なる環境で認証可能な設定です。屋内/屋外や社内/社外など異なる場所でクライアント端末を使用するユーザーに適しています。 <p>なお、「照合精度」の設定はクライアント設定でも設定することが可能です。クライアント設定より、ここでの設定が優先されます。クライアント設定については、「7. クライアント設定」を参照してください。</p> <p>初期値：中</p>
<p>マスクを使用する (必須)</p>	<p>「オン」にすると、マスクを着用している状態でも顔認証を行えます。</p> <p>なお、「マスクを使用する」の設定はクライアント設定でも設定することが可能です。クライアント設定より、ここでの設定が優先されます。クライアント設定については、「7. クライアント設定」を参照してください。</p> <p>初期値：オン</p>

顔認証のオプションを設定する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 編集する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<顔認証マスター管理>ボタンをクリックしてください。
4. 顔認証オプションの設定が未設定の場合、タイトルの右側にある<オプション追加>ボタンをクリックしてください。
5. 各項目を設定してください。
6. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

設定済みの顔認証のオプションを削除する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 編集する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<顔認証マスター管理>ボタンをクリックしてください。
4. <削除>ボタンをクリックしてください。
5. 削除ダイアログの<削除>ボタンをクリックすることで、設定を削除します。

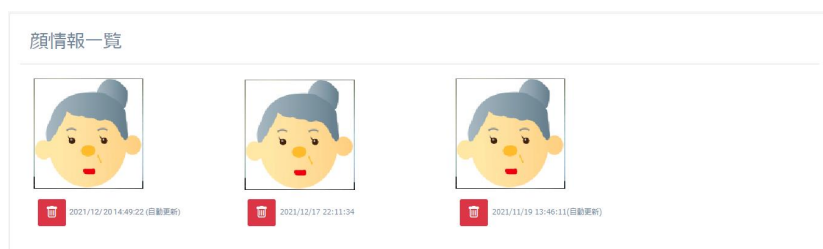
9.5.3. 顔情報の削除

NEXT ユーザーの顔情報を削除するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 顔情報を削除する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<顔認証マスタ管理>ボタンをクリックしてください。



4. 「顔情報一覧」に登録されている顔情報の顔画像ファイルのサムネイルから、削除する顔情報のサムネイルの<ゴミ箱>ボタンをクリックします。



5. 削除ダイアログの<削除>ボタンをクリックすることで、削除が完了します。



6. 複数枚の削除を行う場合は、手順 4～5 を繰り返し行います。

9.5.4. 顔情報の自動更新

ユーザーによる顔情報の登録により顔認証を使用することができますが、顔情報の経年劣化に伴って顔照合が成功しづらい状況になる可能性があります。

その対策として NEXT では、ユーザーによる顔情報の登録とは別に、顔認証に成功した顔情報を定期的に自動更新する機能があります。

顔情報は各 NEXT ユーザーごとに 7 件まで登録が可能となっており、ユーザーによる最大登録件数は 5 件、自動更新による最大登録件数は 2 件となります。

自動更新による登録件数が 2 件を超えた場合は、最も古い自動更新用の顔情報を削除して追加されます。

- Info**
- ・自動更新用に登録されている顔情報は、顔認証マスタ管理で確認できます。
(日付の後ろに「(自動更新)」と記載がある顔情報が、自動更新用に登録された顔情報となります)
 - ・追加された顔情報は登録日時の降順で表示されます。

顔情報一覧



2021/12/20 14:49:22 (自動更新)



2021/12/17 22:11:34



2021/11/19 13:46:11 (自動更新)

顔情報の自動更新を行う条件は、以下となります。

- ・クライアント設定で顔認証の「定期的に顔情報を自動更新する」の項目がオンであること

The screenshot shows the '利用する認証方式' (Authentication Methods Used) settings page. The '定期的に顔情報を自動更新する' (Automatically update face information periodically) toggle switch is highlighted with a red box. Other settings include:

- ICカード認証: ON
- ICカードの登録を許可する: ON
- ICカードの再登録を許可する: OFF
- 顔認証: ON
- 顔照合時に照合画面を表示する: ON
- 照合精度: 中
- 顔認証オプション: 標準
- マスクを使用する: ON
- 顔情報の登録を許可する: ON
- 顔情報の再登録を許可する: ON
- 認証時の顔画像を送信しない: OFF
- NEXT管理者パスワード認証: ON
- 管理者パスワード*: (with eye icon)
- 確認用管理者パスワード*: (with eye icon)
- NEXT緊急パスワード認証: ON
- ワンタイムパスワード認証: ON
- Windows標準認証: ON

- ・顔認証に成功すること
 - ※オフライン認証時の顔認証成功時の顔情報も含まれます。
- ・初回登録、または前回の自動更新を行ってから一定期間経過していること
 - ※一定期間中に最も照合スコアが高い顔情報が登録されます。

9.6. NEXT 緊急パスワードの発行

NEXT 認証時に IC カードや顔情報の代わりに使用できる有効期限付きの NEXT 緊急パスワードの発行を行います。

IC カードを忘れた場合、出先でカメラが壊れた場合などに NEXT ユーザーID と NEXT 緊急パスワードの入力による認証を行うことにより、NEXT クライアントのアンインストールなどをすることなくコンピューターを利用できます。

NEXT 緊急パスワードは NEXT ユーザーに対して発行するため、NEXT ユーザーが登録されている必要があります。

NEXT クライアントをインストールしたコンピューターを外出先などで利用される場合、NEXT クライアントは NEXT サーバーと接続できず、NEXT サーバーに対してオフラインの状態になります。NEXT 緊急パスワードをオフラインの状態で行う場合、NEXT サーバーと接続できるオンラインの状態や、キャッシュの取得状態により、以下の差異があります。

オンラインの場合

- ・NEXT ユーザーがロックアウト状態の場合、NEXT 緊急パスワードを利用してサインインできません。先に管理者により、ロックアウトを解除してください。

オフラインで、NEXT ユーザーを使用してサインインしたことがありキャッシュが取得されている場合

- ・NEXT ユーザーがロックアウト状態でも、ロックアウトでない場合でも、NEXT 緊急パスワードを利用してサインインできます。NEXT ユーザー情報の Windows アカウントの設定を利用した Windows ID、Windows パスワードの自動入力/認証も利用できます。

オフラインで、NEXT ユーザーを使用して一度もサインインしたことがなくキャッシュが取得されていない場合

- ・NEXT ユーザーがロックアウト状態でも、ロックアウトでない場合でも、NEXT 緊急パスワードを利用してサインインできます。ただし、NEXT ユーザー情報の Windows アカウントの設定を利用した Windows ID、Windows パスワードの自動入力/認証は利用できません。

NEXT 緊急パスワードには有効期限があります。有効期限により、ユーザーが NEXT 緊急パスワードを使用できる期間を設定できます。有効期限は NEXT 緊急パスワードを発行する NEXT ユーザーのアカウントの有効期限を超えて設定することはできません。NEXT ユーザーのアカウントの有効期限を超えて設定できない制御は、NEXT 緊急パスワードを発行するときの NEXT ユーザーのアカウントの状態によりますので、NEXT 緊急パスワード発行後に、NEXT ユーザーのアカウントの有効期限を変更した場合は制御されません。

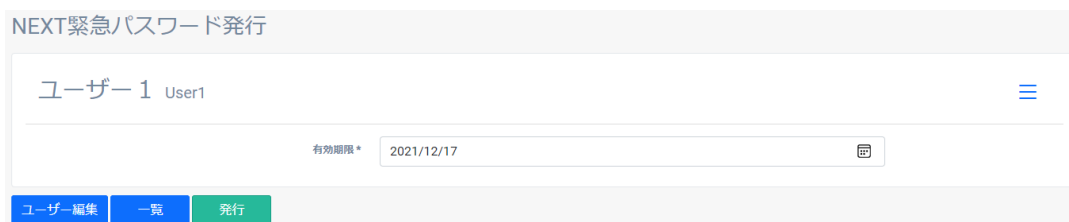
NEXT 緊急パスワードの発行は、NEXT マネージャーを使用して発行します。

NEXT 緊急パスワードの発行は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. NEXT 緊急パスワードを発行する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<NEXT 緊急パスワード発行>ボタンをクリックしてください。

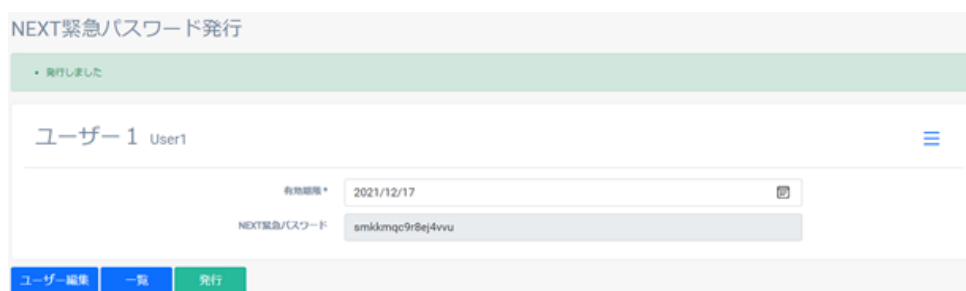


4. NEXT 緊急パスワードを発行する画面が表示されます。



5. 「有効期限」をキーボードで直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付の選択を行い、<発行>ボタンをクリックします。

6. NEXT 緊急パスワードが発行されます。



9.7. 自動認証設定

自動認証クリエイターで作成した自動認証設定の利用可否を NEXT ユーザーごとに設定することができます。

利用可否の設定が ON になっている自動認証設定のみ、NEXT 自動認証プレイヤーで表示され、再生することができます。

Info NEXT 自動認証クリエイターについては、「10.3. NEXT 自動認証クリエイター」を、NEXT 自動認証プレイヤーについては、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

9.7.1. 利用する自動認証設定の設定

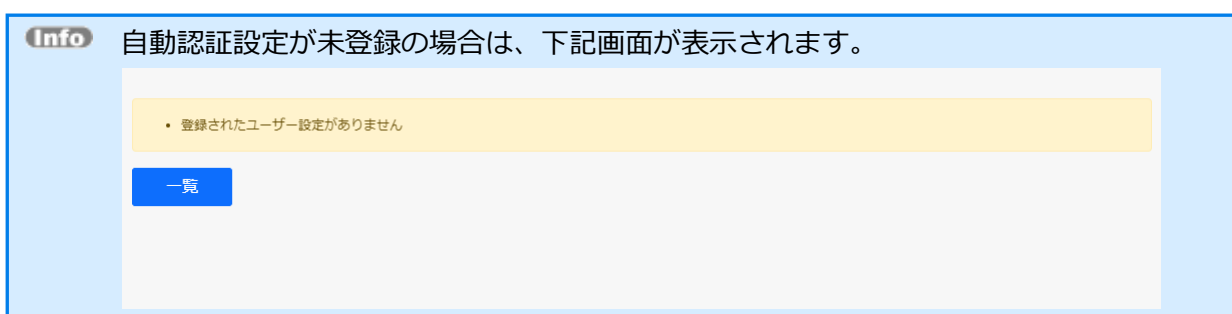
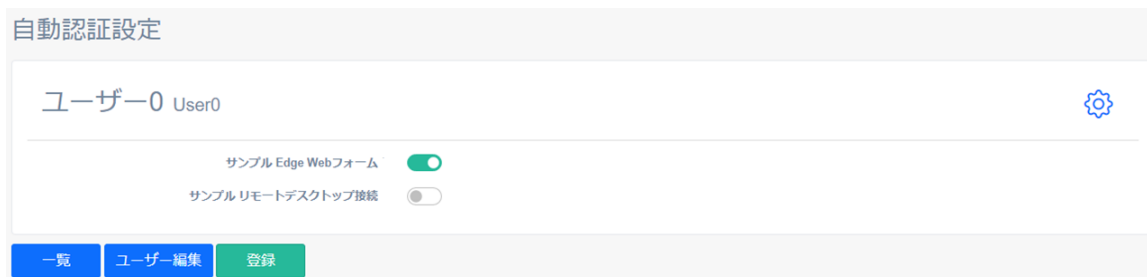
NEXT ユーザーに自動認証設定の利用可否の設定を行う場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 自動認証設定の利用可否の設定を行う NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<自動認証設定>ボタンをクリックしてください。



4. 自動認証設定の利用可否を設定してください。

下図の例では、「サンプル Edge Web フォーム」が有効、「サンプル リモートデスクトップ接続」は無効に設定されています。



5. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

Info NEXT ユーザーへの利用可否の反映は、NEXT 自動認証プレイヤーの起動時となります。
NEXT 自動認証プレイヤーが起動中の場合は、一度、NEXT 自動認証プレイヤーを終了して、再起動してください。

9.8. 自動入力設定

自動入力設定の項目は、自動認証クリエイターで作成することができ、「サーバー同期」を行うことでNEXT サーバーに情報が送信され、同期されます。

ただし、NEXT 自動認証クリエイターで自動入力設定値が「使用しない」に設定されている自動入力設定はNEXT サーバーで管理されないため、「サーバー同期」を行っても自動入力設定の画面では表示・編集ができません。

自動入力設定の自動入力設定値は、NEXT ユーザーごとに設定することができ、NEXT マネージャー、およびNEXT 自動認証プレイヤーで編集することができます。

設定した自動入力設定値は、NEXT 自動認証プレイヤーで自動認証設定を再生時に自動入力されます。

管理者がNEXT マネージャーで編集する手順は、「9.8.1. 管理者による自動入力設定の設定」で説明します。

利用者がNEXT 自動認証プレイヤーで編集する手順は、「9.8.2. 利用者による自動入力設定の設定」で説明します。

9.8.1. 管理者による自動入力設定の設定

管理者が NEXT マネージャーで自動入力設定値の編集を行う場合は、以下の手順で行います。


1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. 自動入力設定値の編集を行う NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<自動入力設定>ボタンをクリックしてください。

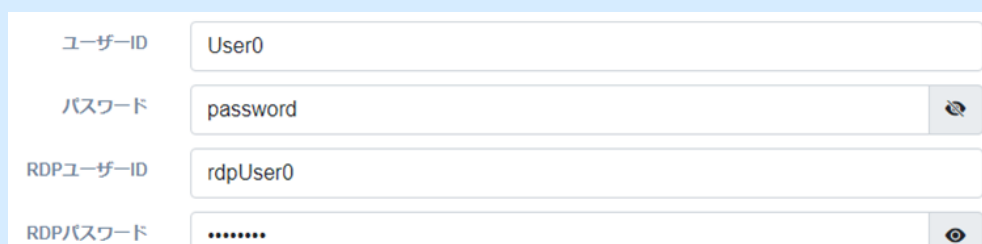


4. 自動入力設定値を編集してください。

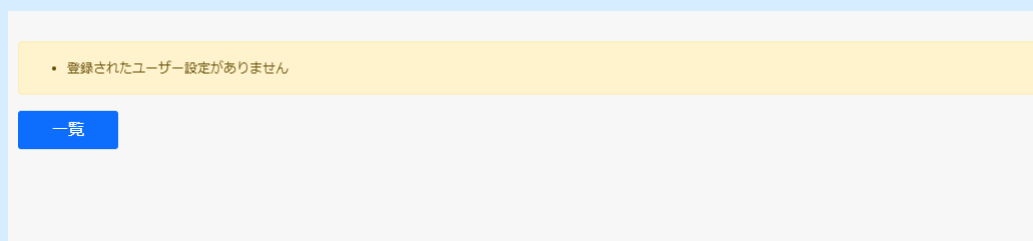
A screenshot of the '自動入力設定' (Auto Input Setting) page for 'ユーザー0 User0'. The page title is '自動入力設定'. Below the title, there is a header with 'ユーザー0 User0' and a gear icon. The main content area contains four input fields: 'ユーザーID' (User ID) with the value 'User0', 'パスワード' (Password) with masked characters '.....' and a toggle icon, 'RDPユーザーID' (RDP User ID) with the value 'rdpUser0', and 'RDPパスワード' (RDP Password) with masked characters '.....' and a toggle icon. At the bottom of the page, there are three buttons: '一覧' (List), 'ユーザー編集' (User Edit), and '登録' (Register).

項目	説明
自動入力設定値	自動入力設定の自動入力設定値です。 パスワード以外の入力項目で使します。 文字数：最大 256 文字 ※上図では、「ユーザーID」「RDPユーザーID」が該当します。
自動入力設定値(パスワード)	パスワードの自動入力設定の自動入力設定値です。 パスワードの入力項目で使します。 自動入力設定(パスワード)は伏字で入力されます。 文字数：最大 127 文字 ※上図では、「パスワード」「RDPパスワード」が該当します。

Info 自動認証設定(パスワード)の自動入力設定値は伏字での入力となります。目のアイコン  をクリックすることで、入力したパスワードを表示することができます。



Info 自動入力設定が未登録の場合は、下記画面が表示されます。



5. <登録>ボタンをクリックして設定を保存します。

Info NEXT ユーザーへの自動入力設定値の反映は、NEXT 自動認証プレイヤーの起動時となります。利用者がNEXT 自動認証プレイヤーを起動中の場合は、一度NEXT 自動認証プレイヤーを終了して、再度起動しなおす必要があります。

9.8.2. 利用者による自動入力設定の設定

利用者が NEXT 自動認証プレイヤーで自動入力設定値を編集することができます。これにより、既存の業務アプリケーションなどでパスワードを管理者が把握しておらず、利用者のみが知っているケースで自動認証を導入することができます。

また、サーバー同期を行うことによって、編集した自動入力設定値が NEXT サーバーに送信され、同期させることもできます。

NEXT 自動認証プレイヤーで自動入力設定値を編集する場合は、NEXT 自動認証クリエイターで「ユーザーの編集を許可する」が ON に設定されている必要があります。

NEXT 自動認証プレイヤーでの利用者による自動入力設定の設定は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

9.8.3. 管理者による自動入力設定の編集

管理者が設定したパスワードと業務アプリケーションのパスワードが一致しない場合などに、管理者が自動入力設定値を編集することができます。

自動入力設定値を編集する手順については、「9.8.1. 管理者による自動入力設定の設定」を参照してください。

管理者が自動入力設定値を編集後、利用者が NEXT 自動認証プレイヤーを起動した場合に変更が反映されます。

NEXT 自動認証プレイヤーが起動中の場合は、一度、NEXT 自動認証プレイヤーを終了して再起動する必要があります。

9.9. ワンタイムパスワード

NEXT ユーザーが利用するワンタイムパスワードシークレットを発行することができます。

ワンタイムパスワードシークレットは発行後に QR コードで表示されます。

表示されたワンタイムパスワードシークレットの QR コードをスマートフォンの Authenticator アプリで読み取ることにより NEXT ユーザーの登録が行えます。以降は、スマートフォンの Authenticator アプリにワンタイムパスワード認証で使用するワンタイムパスワードが表示されるようになります。

ワンタイムパスワードの有効時間は 30 秒となるため、ご利用のコンピューターとスマートフォンの時間がずれにくい環境での利用が前提となります。

ワンタイムパスワードは、6 桁のパスワードで 30 秒ごとに更新されます。

ワンタイムパスワードシークレットの発行方法は、NEXT マネージャーで発行する方法と、NEXT クライアントで発行する方法があります。

- ・NEXT マネージャーの管理者ポータルで管理者がユーザーのワンタイムパスワードシークレットを発行する

管理者が NEXT マネージャーの管理者ポータルでワンタイムパスワードシークレットを発行します。

ワンタイムパスワードシークレットを発行した後、スマートフォンの Authenticator アプリで QR コードを読み取ります。

すでにワンタイムパスワードシークレットが発行されている場合は、再登録用の QR コードが表示されます。

- ・NEXT マネージャーのユーザーポータルでユーザー自身がワンタイムパスワードシークレットを発行する
ユーザーが NEXT マネージャーのユーザーポータルでワンタイムパスワードシークレットを発行します。

ワンタイムパスワードシークレットを発行した後、スマートフォンの Authenticator アプリで QR コードを読み取ります。

すでにワンタイムパスワードシークレットが発行されている場合は、再登録用の QR コードが表示されます。

- ・NEXT クライアントでユーザー自身がワンタイムパスワードシークレットを発行する

ユーザー自身が NEXT クライアントでワンタイムパスワードシークレットを発行します。

ユーザー自身が NEXT クライアントでワンタイムパスワードシークレットを発行するには、以下の設定がされている必要があります。

- ・クライアント設定で「ワンタイムパスワード認証」がオンである。

- ・ユーザー自身のワンタイムパスワードシークレットが未登録の状態である。

すでにワンタイムパスワードシークレットが発行されている場合は、再登録用の QR コードが表示されないため、ワンタイムパスワードシークレットの再登録を行うことができません。

ワンタイムパスワードシークレットの再登録を行う場合は、NEXT マネージャーにサインインしてワンタイムパスワードシークレットのリセットを行い、新しいワンタイムパスワードシークレットを発行し、その QR コードを読み取る手順が必要になります。

下表にそれぞれの発行方法の分類を記します。

項目	方法	NEXT マネージャーの 管理者ポータルで発行	NEXT マネージャーの ユーザーポータルで発行	NEXT クライアントで 発行
管理者による発行とスマートフォンへの登録を想定		○		
利用者による発行とスマートフォンへの登録を想定			○	○
クライアント設定による設定が必要				○
マニュアル		ARCACLAVIS NEXT 管理者ガイド	ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド	ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド

ここでは、NEXT マネージャーの管理者ポータルで管理者がユーザーのワンタイムパスワードシークレットを発行し、ユーザーのスマートフォンに QR コードで表示されたシークレットコードを登録する方法について説明します。

NEXT マネージャーのユーザーポータルでワンタイムパスワードシークレットを発行する方法、および NEXT クライアントでワンタイムパスワードシークレットを発行する方法については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

9.9.1. 対応しているスマートフォンの Authenticator アプリ

ワンタイムパスワードを表示する Authenticator アプリは、ARCACLAVIS NEXT 製品としては提供していません。

ご利用のスマートフォンで「App Store」や「Play Store」から Authenticator アプリをダウンロードし、インストールしてください。

動作確認しているスマートフォンの Authenticator アプリは以下のとおりです。

Authenticator アプリ名
Google Authenticator
Microsoft Authenticator

9.9.2. ワンタイムパスワードシークレットの発行

NEXT ユーザーにワンタイムパスワードシークレットを発行するには、以下の手順で行います。

- Info** ワンタイムパスワードを設定する場合は、あらかじめスマートフォンに Authenticator アプリがインストールされている必要があります。
- ・ Authenticator アプリのダウンロード
「App Store」や「Play Store」からダウンロードしてください。
 - ・ 動作確認している Authenticator アプリ
「Google Authenticator」「Microsoft Authenticator」

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. ワンタイムパスワードシークレットを発行する NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<ワンタイムパスワード>ボタンをクリックしてください。



4. ワンタイムパスワード設定画面が表示されます。<発行>ボタンをクリックしてください。



5. <確認しました>にチェックを入れ、<発行>ボタンをクリックしてください。



6. ワンタイムパスワードシークレットが発行され、QRコードで表示されます。



9.9.3. スマートフォンの Authenticator アプリへの登録

通常、スマートフォンの Authenticator アプリへの登録は利用者が行いますが、管理者が NEXT マネージャーから登録することもできます。

管理者が利用者のスマートフォンの Authenticator アプリにワンタイムパスワードシークレットを登録するには、以下の手順で行います。

ここでは、Google Authenticator アプリに登録する流れを例示します。

Authenticator アプリのバージョンによっては操作、画面、ボタンなどが若干異なることがあります。予めご了承ください。

1. 「9.9.2. ワンタイムパスワードシークレットの発行」の手順に従ってワンタイムパスワードシークレットを発行してください。
2. スマートフォンの Google Authenticator アプリを起動してください。
3. 画面右下に表示されている<+>ボタンをタップしてください。



4. [QR コードをスキャン]をクリックしてください。



5. 表示されている QR コードをスマートフォンの Google Authenticator アプリで読み取ってください。
 6. ワンタイムパスワードシークレットを発行した NEXT ユーザーが Google Authenticator アプリに登録されます。



No	項目	補足
①	ワンタイムパスワードシークレットを発行した NEXT ユーザー名	ワンタイムパスワード設定を行った NEXT ユーザー名が表示されます。 ARCACLAVIS NEXT:[NEXT ユーザー名]
②	ワンタイムパスワード	ワンタイムパスワード設定で使用する 6 桁のワンタイムパスワードです。 ワンタイムパスワードは 30 秒ごとに自動で更新されます。
③	30 秒タイマー	ワンタイムパスワードが更新されるタイミングを示すタイマーです。 ●が全て表示されていると残り 30 秒となっていて、●が全て消えるタイミングでワンタイムパスワードが更新されます。

9.9.4. ワンタイムパスワードシークレットのリセット

ご使用のスマートフォンを変更する場合、ワンタイムパスワードシークレットをリセットし、新しいスマートフォンの Authenticator アプリで再度 NEXT ユーザーを登録する必要があります。

NEXT ユーザーに登録されているワンタイムパスワードシークレットをリセットするには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「NEXT ユーザー一覧」をクリックしてください。
3. ワンタイムパスワードシークレットをリセットする NEXT ユーザーの左の<詳細>ボタンの右のプルダウンメニューをクリックし、<ワンタイムパスワード>ボタンをクリックしてください。



4. <リセット>ボタンをクリックしてください。

ワンタイムパスワード設定

user0 user0 



スマートフォンのAuthenticatorでQRコードを読み込んでください
Windowsサインイン時にQRコード画面の再表示が必要な場合は、シークレットをリセットしてください

[一覧](#) [ユーザー編集](#) [リセット](#)

5. <確認しました>にチェックを入れて<リセット>ボタンをクリックしてください。

【重要】 ×

ワンタイムパスワードシークレットをリセットするとAuthenticatorで使用しているワンタイムパスワードが使用できなくなります

確認しました [リセット](#) [閉じる](#)

6. ワンタイムパスワードシークレットがリセットされます。

ワンタイムパスワード設定

- ワンタイムパスワードシークレットをリセットしました

user0 user0 

ワンタイムパスワードシークレットが登録されていません

[一覧](#) [ユーザー編集](#) [発行](#)

Info ワンタイムパスワードシークレットをリセットした場合は、スマートフォンの Authenticator アプリに登録した NEXT ユーザーの削除も合わせて行ってください。削除する手順については、スマートフォンにインストールされている Authenticator アプリのヘルプなどを参照してください。

9.10. NEXT ユーザー情報のエクスポート/インポート

NEXT ユーザー情報のエクスポート、インポートについては、「ARCACLAVIS NEXT CSV ファイルインポート・エクスポートガイド」を参照してください。

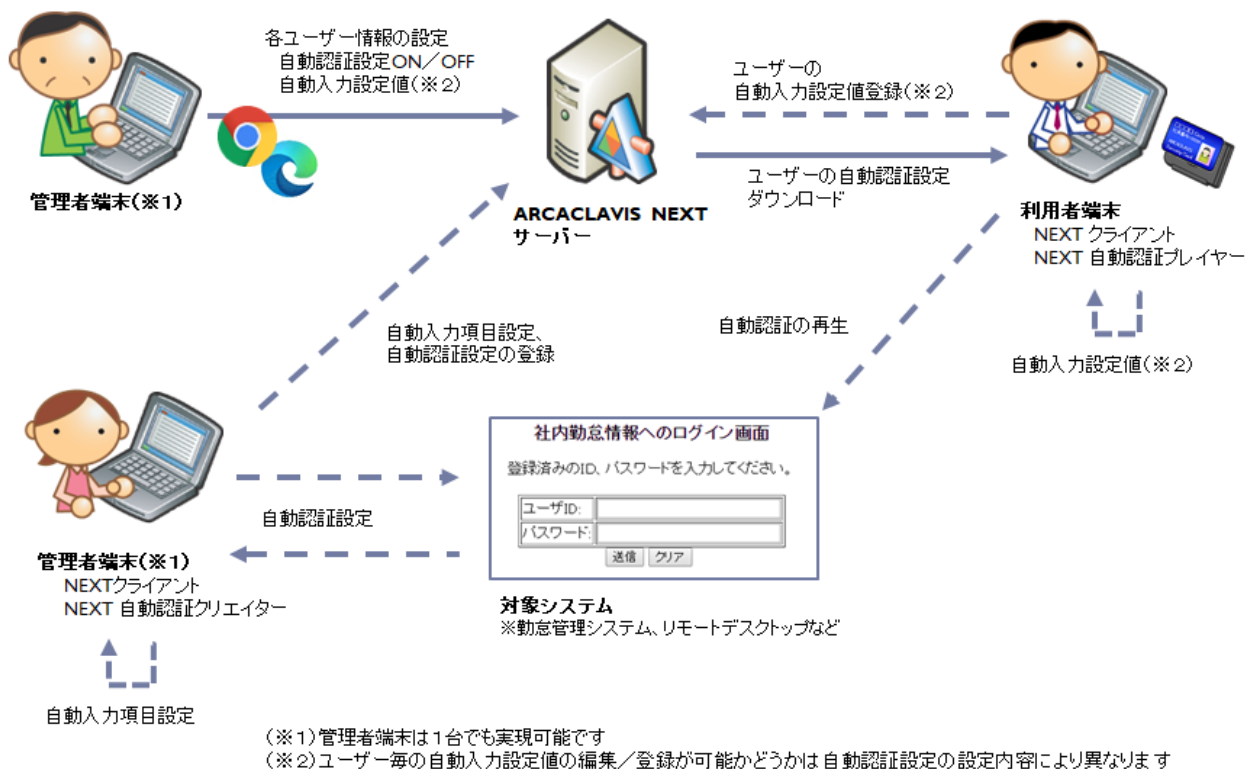
10. 自動認証

10.1. 概要

自動認証は、あらかじめ設定した操作/入力情報を使用して、別アプリケーションやリモートデスクトップへのログインなどの操作を自動で行う機能です。

自動認証で使用する操作/入力情報の設定は、管理者が NEXT 自動認証クリエイターと NEXT マネージャーから行うことが可能です（入力情報は利用者が設定することも可能です）。

自動認証の実行は、利用者が NEXT 自動認証プレイヤーから行います。



自動認証で設定/使用する情報について説明します。

項目	説明
自動入力設定	自動認証で使用するユーザーID、パスワードなどの自動入力項目と自動入力設定値の情報です。 詳細は、「10.3.4. 自動入力設定の概要」を参照してください。
自動認証設定	自動認証を行うために必要な各操作の情報、入力項目、リトライ時間などの設定情報です。 詳細は、「10.3.6. 自動認証設定の概要」を参照してください。

自動認証で使用するアプリケーションについて説明します。

項目	説明	担当者	場所
NEXT 自動認証 クリエイター	<p>自動認証を行うための自動認証設定、自動入力設定を行うアプリケーションです。設定した情報は、NEXT サーバーに送信し、登録します。</p> <p>ユーザー毎の自動入力設定値の設定は、本ツールでは行いません。下記の「ユーザー情報 自動入力設定」から行うか、もしくは、NEXT 自動認証プレイヤーから行います。</p> <p>詳細は、「10.3. NEXT 自動認証クリエイター」を参照してください。</p>	管理者	管理者端末
NEXT 自動認証 プレイヤー	<p>NEXT サーバーに登録されている自動認証設定を使用して、自動認証を実行するためのアプリケーションです。</p> <p>また、利用者による自動入力設定値の編集が許可されている場合は、自動入力設定値の登録、編集を行うことが可能です。</p> <p>詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。</p>	利用者	利用者端末

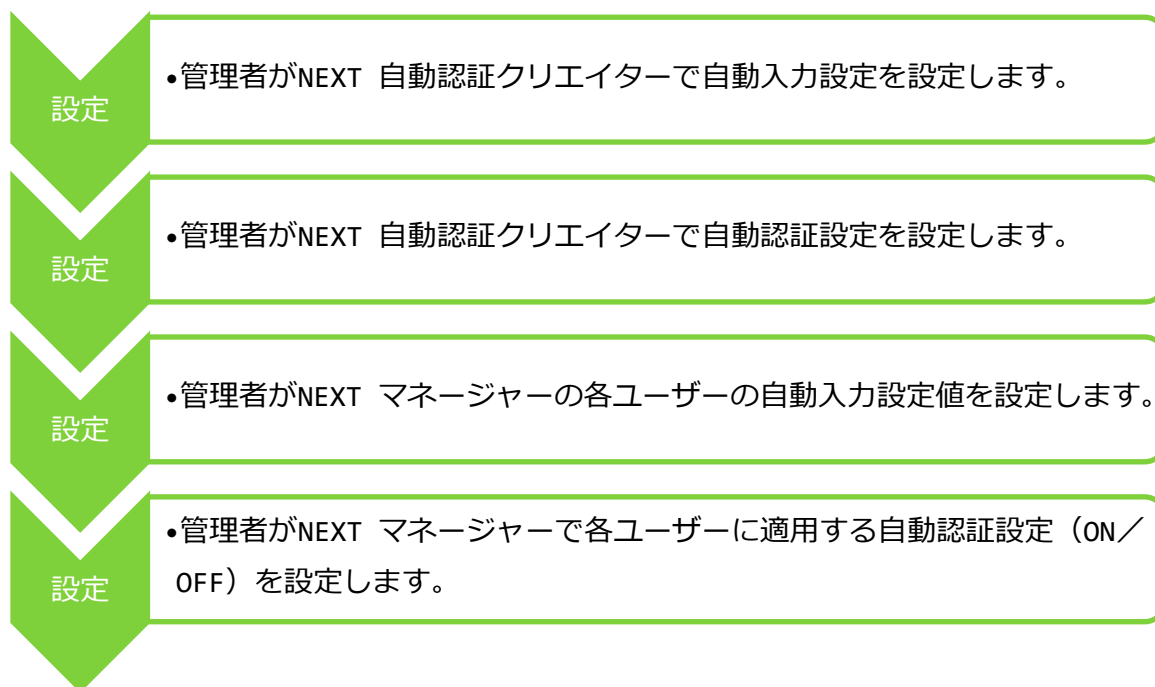
自動認証で使用する NEXT マネージャーの画面について説明します。

項目	説明	担当者	場所
コントロール設定 自動入力設定	<p>NEXT 自動認証クリエイターで設定、登録された自動入力設定内容を表示します。閲覧のみで編集は行えません。</p> <p>詳細は、「5.2.1. 自動入力設定」を参照してください。</p>	管理者	NEXT サー バー
コントロール設定 自動認証設定	<p>NEXT 自動認証クリエイターから登録された自動認証設定内容を表示します。閲覧のみで編集は行えません。</p> <p>詳細は、「5.2.2. 自動認証設定」を参照してください。</p>	管理者	
ユーザー情報 自動入力設定	<p>該当ユーザーの自動入力設定項目、自動入力設定値を設定する画面です。自動入力設定値の編集が可能です。</p> <p>自動認証設定の自動入力値が「使用しない」に設定されているデータは、利用者の管理となるため表示されません。</p> <p>詳細は、「9.8. 自動入力設定」を参照してください。</p>	管理者	
ユーザー情報 自動認証設定	<p>該当ユーザーに適用する自動認証設定の ON/OFF を設定する画面です。</p> <p>詳細は、「9.7. 自動認証設定」を参照してください。</p>	管理者	

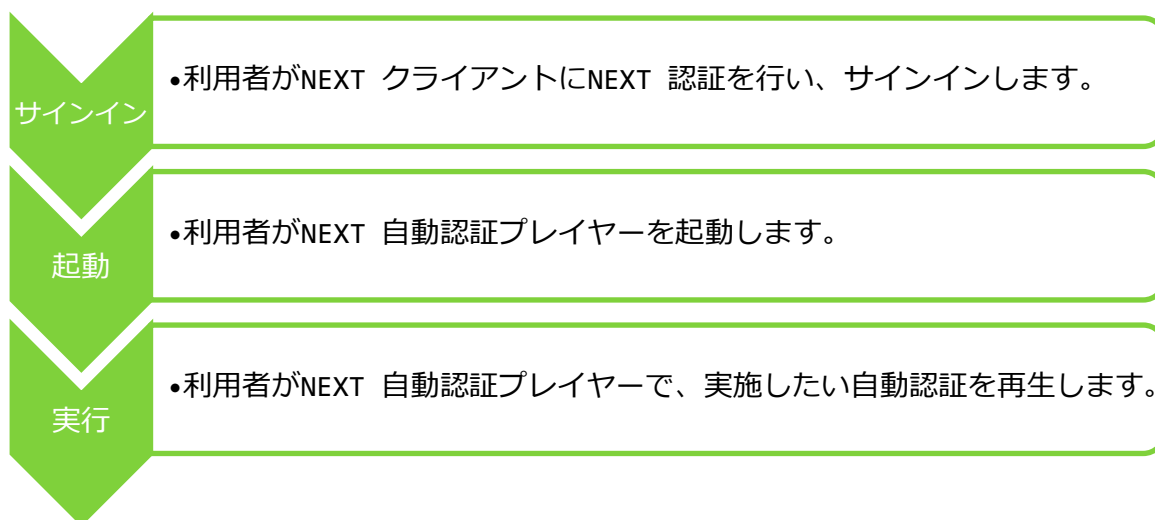
10.2. 自動認証の設定、利用の流れ

自動認証を利用するには、まず、管理者が自動認証に関連する設定を行い、設定後、利用者が設定された自動認証設定を使用して自動認証を再生します。

管理者による自動認証の設定の流れは以下になります。



利用者による自動認証利用の流れは以下になります。



Info 各ユーザーの自動入力設定値の設定は、必ずしも管理者が行う必要はありません。利用者が NEXT 自動認証プレイヤーで初回の自動認証再生時に入力した値を設定することも可能です。また、NEXT 自動認証プレイヤーのユーザー設定変更からも設定可能です。NEXT 自動認証プレイヤーの自動入力設定値の設定については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

※利用者が自動入力設定値を設定する場合は、自動認証設定の「ユーザーの編集を許可する」を ON に設定しておく必要があります。

10.3. NEXT 自動認証クリエイター

NEXT 自動認証クリエイターは管理者が NEXT 自動認証プレイヤーで使用する自動認証設定の基本情報を設定するためのアプリケーションです。

NEXT 自動認証クリエイターは認証操作を GUI で設定し、設定した自動認証設定を NEXT サーバーに登録します。

設定した自動認証設定は NEXT 自動認証クリエイター上で動作をシミュレーションして確認することができます。

Info NEXT 自動認証プレイヤーの詳細は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

10.3.1. 起動

NEXT 自動認証クリエイターを起動するまでの手順を説明します。

NEXT 自動認証クリエイターのセットアップ

NEXT 自動認証クリエイターのインストールについては、「ARCACLAVIS NEXT セットアップガイド」を参照してください。

また、NEXT 自動認証クリエイターを実行するコンピューターは、NEXT サーバーと通信できること、NEXT クライアントがインストールされている必要があります。

NEXT サーバーと NEXT クライアントのインストール、セットアップについては、「ARCACLAVIS NEXT セットアップガイド」を参照してください。

NEXT 自動認証クリエイターの起動手順

1. NEXT クライアントで NEXT 認証を行い、サインインします。

Info NEXT 認証は、自動認証クリエイターを利用可能なロールが設定されたユーザーで行ってください。
自動認証クリエイターを使用可能なロール設定については、「自動認証クリエイターを利用できる NEXT ユーザーのロール設定」を参照してください。

Info NEXT クライアントの認証方式の内、管理者パスワード認証で認証した場合は自動認証クリエイターは使用できません。

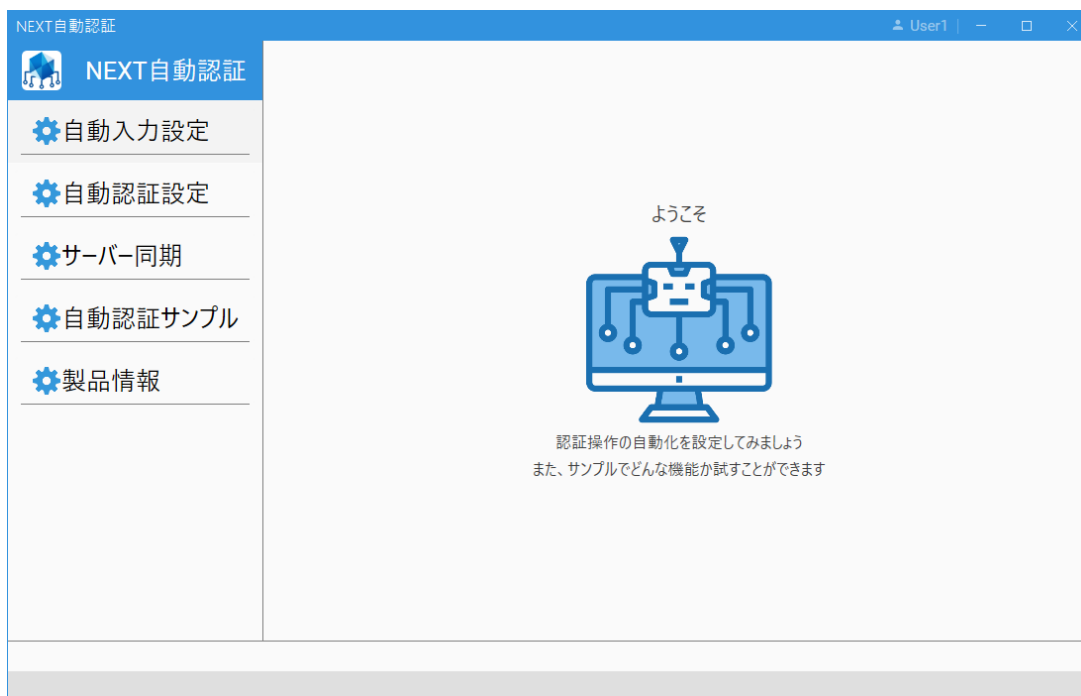
2. Windows のスタートメニューから「NEXT 自動認証クリエイター」を実行します。



Info NEXT 自動認証クリエイターをインストールすると、デスクトップに NEXT 自動認証クリエイターのショートカットが作成されます。デスクトップのショートカットからも実行が可能です。



3. NEXT 自動認証クリエイターが起動します。



NEXT 自動認証クリエイターを利用できる NEXT ユーザーのロール設定

NEXT 自動認証クリエイターを使用できるロールは以下のとおりです。

ロール	NEXT 自動認証クリエイターの使用
管理者	使用可能です
サブシステム利用者	使用可能です
クライアント利用者	使用できません

Info ロール設定については、「9.3.6. NEXT ユーザーのロール設定」を参照してください。

オフライン利用について

オフライン状態、または NEXT サーバーに接続できない状態では NEXT 自動認証クリエイターは使用できません。

NEXT 自動認証クリエイターを起動した後にオフライン状態、または NEXT サーバーに接続できない状態になった場合は、変更した設定が無効になる可能性があります。

Info オフライン状態、または NEXT サーバーに接続できない状態で NEXT 自動認証クリエイターを起動した場合のエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

ユーザーの切り替えについて

NEXT 自動認証クリエイターを使用する NEXT ユーザーを切り替える場合は、他のユーザーで NEXT 認証を行った後、改めて NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。

Info NEXT 自動認証クリエイターは、NEXT 自動認証クリエイター起動時の NEXT ユーザーを使用します。
自動認証クリエイター実行中に NEXT 認証で他かのユーザーに切り替えても、NEXT 自動認証クリエイターのユーザーは切り替わりません。

10.3.2. 画面構成

NEXT 自動認証クリエイターを起動するとクリエイターメニュー画面が表示されます。左側のメニューボタンエリアと右側のメニューコンテンツエリアから構成されています。各メニューをクリックすると、メニューコンテンツエリア、または画面遷移で表示されます。タイトル名とサインイン中のNEXT ユーザーIDは、ヘッダーエリアに表示されます。エラー等のメッセージは画面下の情報エリアに表示されます。



メニューに表示される項目は、以下のとおりです。

項目	説明
自動入力設定	自動入力設定画面へ遷移します。 自動入力設定画面については、「10.3.5. 自動入力設定の設定」を参照してください。
自動認証設定	自動認証設定メイン画面へ遷移します。 自動認証設定メイン画面については、「10.3.7. 自動認証の基本操作、設定項目」を参照してください。
サーバー同期	サーバー同期メニューを表示します。 サーバー同期メニューについては、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。
自動認証サンプル	自動認証サンプルメニューを表示します。 自動認証サンプルメニューについては、「10.3.12. 自動認証サンプル」を参照してください。
製品情報	製品情報メニューを表示します。 製品情報メニューについては、「10.3.13. 製品情報」を参照してください。

10.3.3. 基本操作

NEXT 自動認証クリエイターでの値の入力、選択などの基本操作を、例を用いながら説明します。

値の入力：

「自動入力設定画面」の「自動入力設定」などは入力規則に従った値を入力してください。



エラー表示：

入力に不備がある場合は項目下にエラーメッセージを表示します。



オン/オフの入力：

選択肢のオン、オフはクリックすることで切り替えることができます。

下図の例では、「オフ」なので、「ユーザーの編集を許可しない」状態を表しています。

ユーザーの編集を許可する

下図の例では、「オン」なので、「ユーザーの編集を許可する」状態を表しています。

ユーザーの編集を許可する

順序入れ替え：

「自動認証設定画面」のフローパネルなどはドラッグ&ドロップで順序の入れ替えができます。

ドラッグ&ドロップで順序を入れ替える

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

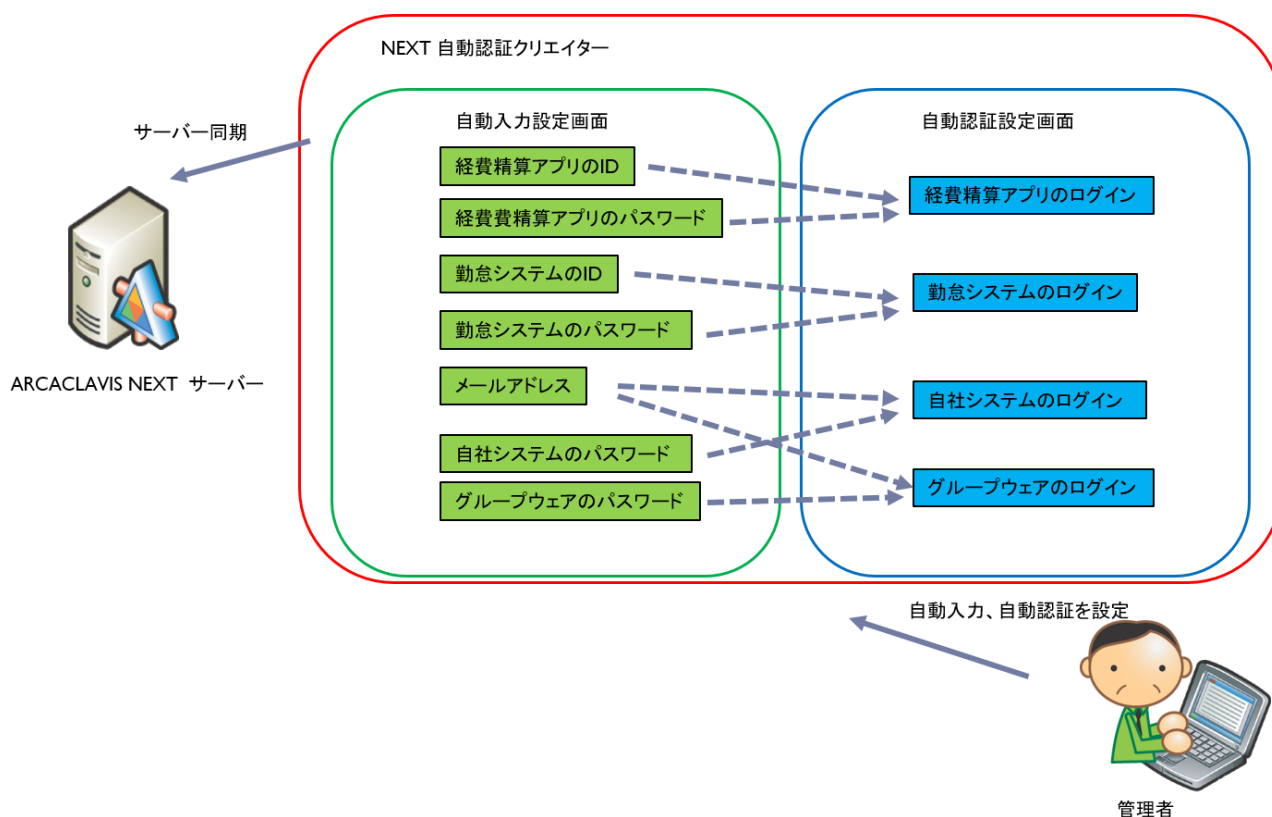
10.3.4. 自動入力設定の概要

自動入力設定では、自動認証時に ID、パスワードなどの入力で使用する入力項目を設定します。

自動入力は、認証が必要なアプリ毎の設定項目（経費精算アプリの ID/パスワード、勤怠システムの ID、パスワード）や、異なる認証で同じ設定項目（メールアドレス、社員番号、職員番号、Windows ログイン ID/パスワード）を設定しておくことで、自動認証設定で運用ポリシーや対象システムの特性により、使い分けることができます。

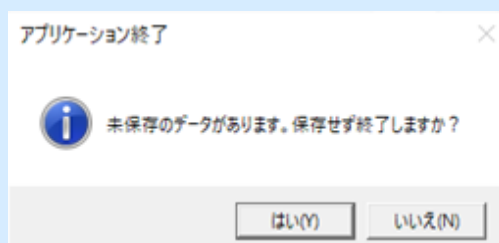
設定した自動入力設定の項目は、自動認証設定にて、対象システムの入力項目として割り当てます。

自動入力設定は管理者が NEXT 自動認証クリエイターから設定します。



Info 自動認証設定の詳細は、「10.3.6. 自動認証設定の概要」を参照してください。

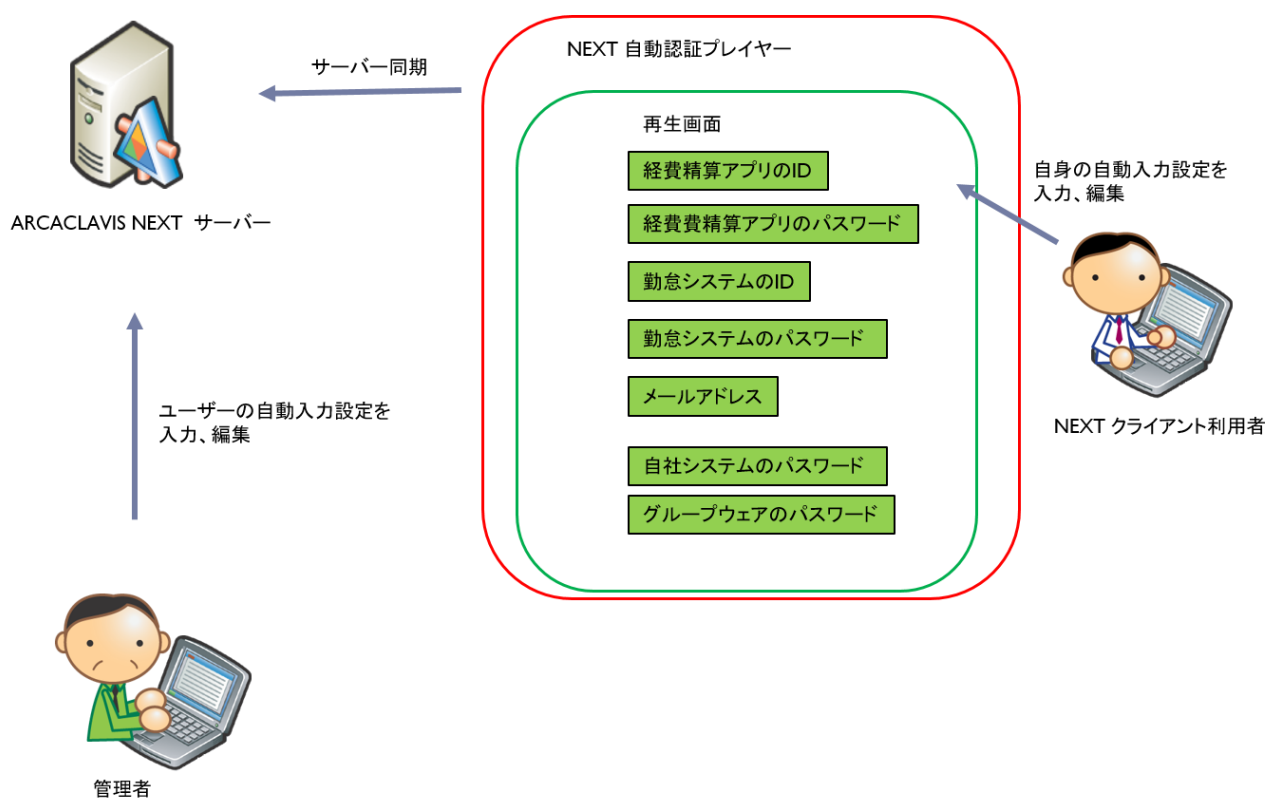
Info NEXT 自動認証クリエイターで自動入力設定、自動認証設定の設定を行った後、サーバー同期を実行することで NEXT サーバーに保存されます。
サーバー同期を実行せずに NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合は、変更内容は NEXT サーバーに反映されないためご注意ください。
なお、NEXT 自動認証クリエイターでサーバー同期されていない内容がある場合は警告のダイアログが表示されます。



サーバー同期を行った自動入力設定は NEXT マネージャーのコントロール設定から確認することができます。

Info NEXT マネージャーで自動入力設定の確認については、「5.2.1. 自動入力設定」を参照してください。

ユーザー毎の自動入力設定値の入力は、管理者が NEXT マネージャーの[NEXT ユーザー一覧]-[自動入力設定]から、またはユーザー自身が NEXT 自動認証プレイヤーから入力します。



Info NEXT マネージャーのユーザー毎の自動入力設定については、「9.8. 自動入力設定」を参照してください。

Info NEXT 自動認証プレイヤーについては、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

自動認証設定を設定する上で自動入力設定は必須ではなく、自動入力設定を設定せずに自動認証設定を設定することができます。

自動入力設定を設定せずに自動認証設定のみ設定した場合は、自動入力設定を設定した場合と以下のような違いがあります。

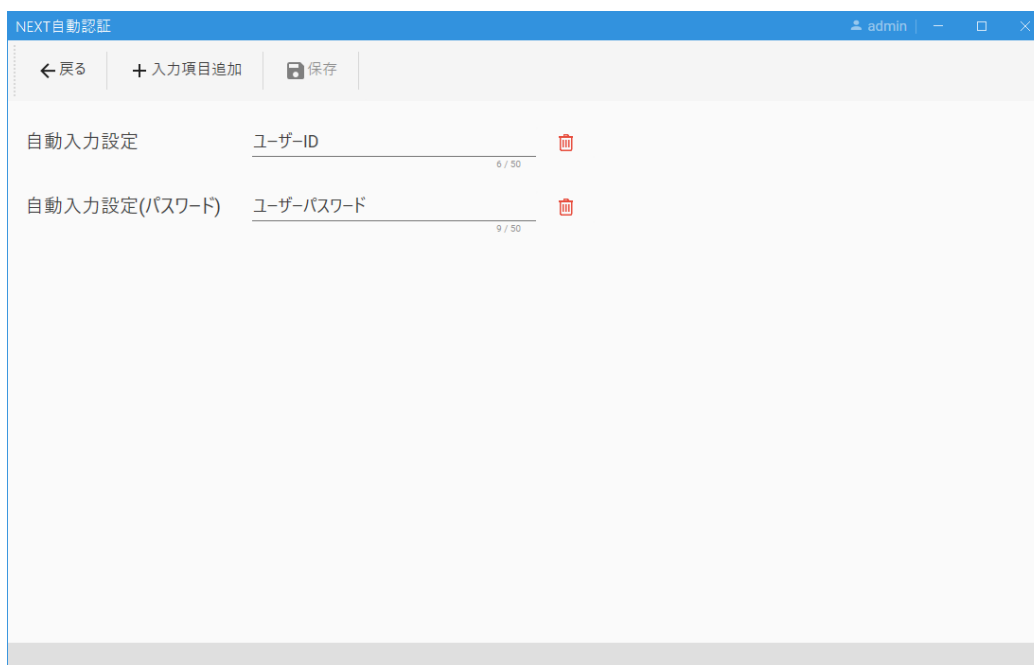
	自動入力設定を設定した場合	自動入力設定を設定しない場合
管理者によるユーザー毎の設定値の閲覧	○	×
管理者によるユーザー毎の設定値の編集 (パスワードの編集、パスワードのリセット含む)	○	×
ユーザー自身による NEXT 自動認証プレイヤーでの設定値の編集 (自動認証設定で「ユーザーの編集を許可する」が ON の場合)	○	○
ユーザー自身による NEXT 自動認証プレイヤーでの設定値の編集 (自動認証設定で「ユーザーの編集を許可する」が OFF の場合)	×	×
管理者による NEXT サーバーでのユーザー毎の設定値の CSV インポート	○	×
管理者による NEXT サーバーでのユーザー毎の設定値の CSV エクスポート	○	×

上記のとおり、自動入力設定の設定値を管理者が管理する場合は自動入力設定を設定し、管理者ではなくユーザー自身が管理する場合は自動入力設定の設定は不要です。

Info 自動認証設定で「自動入力値」に「使用しない」を設定することで、自動入力設定を使用しない設定にできます。
自動認証設定の詳細は、「10.3.7. 自動認証設定の基本操作、設定項目」を参照してください。

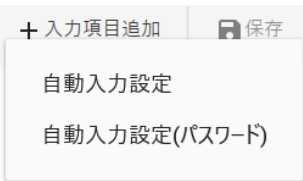
10.3.5. 自動入力設定の設定

自動入力設定画面はクリエイターメニュー画面の「自動入力設定」をクリックして遷移します。自動入力設定画面では自動入力設定の設定名を一覧表示し、追加・更新・削除が行えます。自動入力設定、自動入力設定(パスワード)は合わせて 400 件まで登録できます。



Info 初期登録時は自動入力設定、自動入力設定(パスワード)が 1 件ずつ登録されています。不要な場合は削除しても問題ありません。

自動入力設定の各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
戻る	前の画面に戻ります。 保存されていない設定がある場合は、画面遷移前に確認ダイアログが表示されます。
入力項目追加	一覧に追加する設定を選択するドロップダウンを表示します。  入力項目追加で項目を追加した場合は、選択した項目が追加されず。
自動入力設定	自動入力設定の項目を追加します。
自動入力設定(パスワード)	自動入力設定(パスワード)を追加します。

項目	説明
保存	<p>設定の一時保存を行います。</p> <p>一時保存した内容はサーバー同期を行うことで設定が確定されます。</p> <p>一時保存した状態で NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合は、一時保存した内容は破棄され、次回起動時はサーバー同期した内容で表示されます。</p> <p>画面遷移してきた状態では非活性状態ですが、設定変更を行うと活性状態となります。</p>
削除ボタン ※設定項目横のごみ箱ボタン	<p>一覧から設定項目を削除します。</p> <p>既に自動認証設定で使用された設定の場合は、ボタンは非表示となり削除できません。</p> <p>自動認証設定で使用された自動入力設定を削除する場合は、まず自動認証設定での使用を解除した後に、自動入力設定画面から削除してください。</p>

入力項目毎の仕様は以下のとおりです。

項目	説明
自動入力設定 (必須)	<p>自動入力設定の設定名です。</p> <p>パスワード以外の入力項目は当設定で行います。</p> <p>禁止文字：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先頭に\$ (半角ドル) は使用できません ● 「NEXT ユーザーID」 (大文字小文字は区別しない) は使用できません ● 他の設定と重複した設定名は使用できません <p>文字数：最大 50 文字</p>
自動入力設定(パスワード) (必須)	<p>パスワードの自動入力設定の設定名です。</p> <p>禁止文字：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先頭に\$ (半角ドル) は使用できません ● 「NEXT ユーザーID」 (大文字小文字は区別しない) は使用できません ● 他の設定と重複した設定名は使用できません <p>文字数：最大 50 文字</p>

自動入力の設定例

自動入力設定の設定手順を具体的な例を用いて説明します。

前提：

- 経費精算アプリにログインする ID とパスワードを設定する
- NEXT 自動認証クリエイターはインストール済みで使用できる状態

設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
2. クリエイターメニューの「自動入力設定」をクリックしてください。
3. [入力項目追加]-[自動入力設定]をクリックしてください。
4. [入力項目追加]-[自動入力設定(パスワード)]をクリックしてください。
5. 以下のとおり入力してください。

戻る	+ 入力項目追加	保存
自動入力設定	ユーザーID	6 / 50
自動入力設定(パスワード)	ユーザーパスワード	9 / 50
自動入力設定	経費精算アプリのID	10 / 50
自動入力設定(パスワード)	経費精算アプリのパスワード	13 / 50

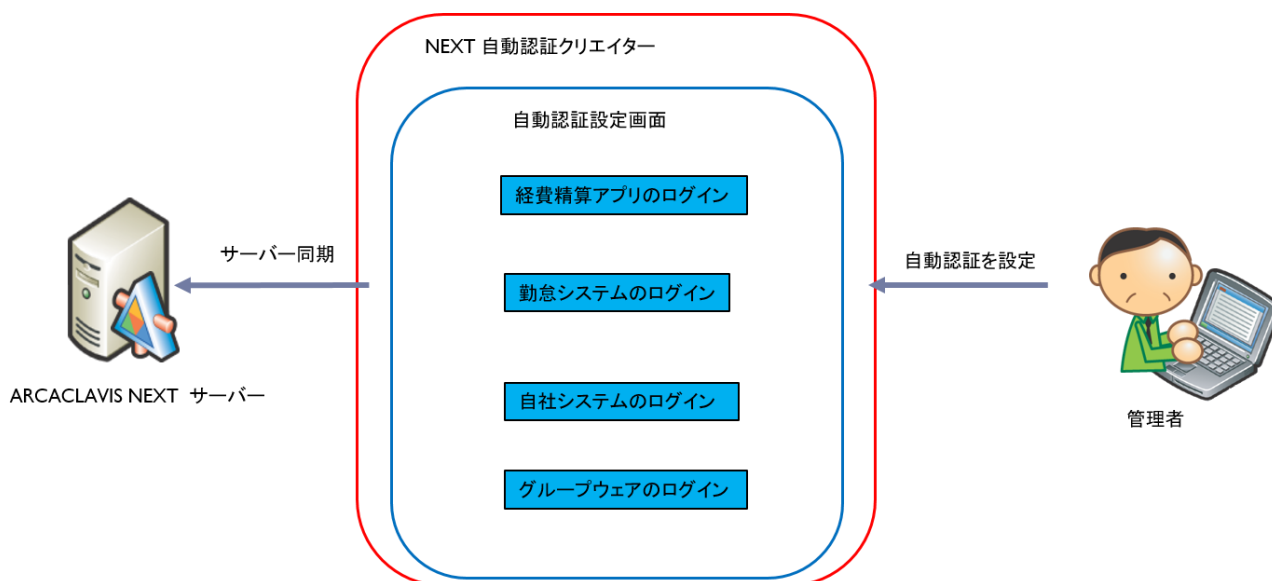
6. <保存>ボタンをクリックしてください。
「保存しました」が表示され、設定内容が一時保存されます。
この時点ではまだサーバー同期されておらず、NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合は編集した内容は破棄されます。
7. <戻る>ボタンをクリックしてください。
8. クリエイターメニューの「サーバー同期」をクリックしてください。
9. サーバー同期メニューの<同期>ボタンをクリックしてください。
10. 確認ダイアログの<OK>をクリックしてください。
「同期完了」が表示され、編集した内容を確定しました。

10.3.6. 自動認証設定の概要

自動認証は予め登録した設定を使用して、クライアントで任意の認証 UI に対して入力、認証手続きを自動化するものです。

自動認証設定は認証手続きの操作、入力値を登録したものです。

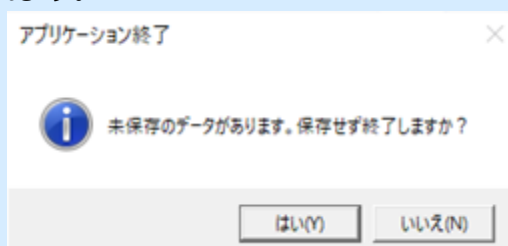
自動認証設定は管理者が NEXT 自動認証クリエイターで設定します。



Info NEXT 自動認証クリエイターで自動認証設定を行った後、サーバー同期を実行することで NEXT サーバーに保存されます。

サーバー同期を実行せずに NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合は、変更内容は NEXT サーバーに反映されないためご注意ください。

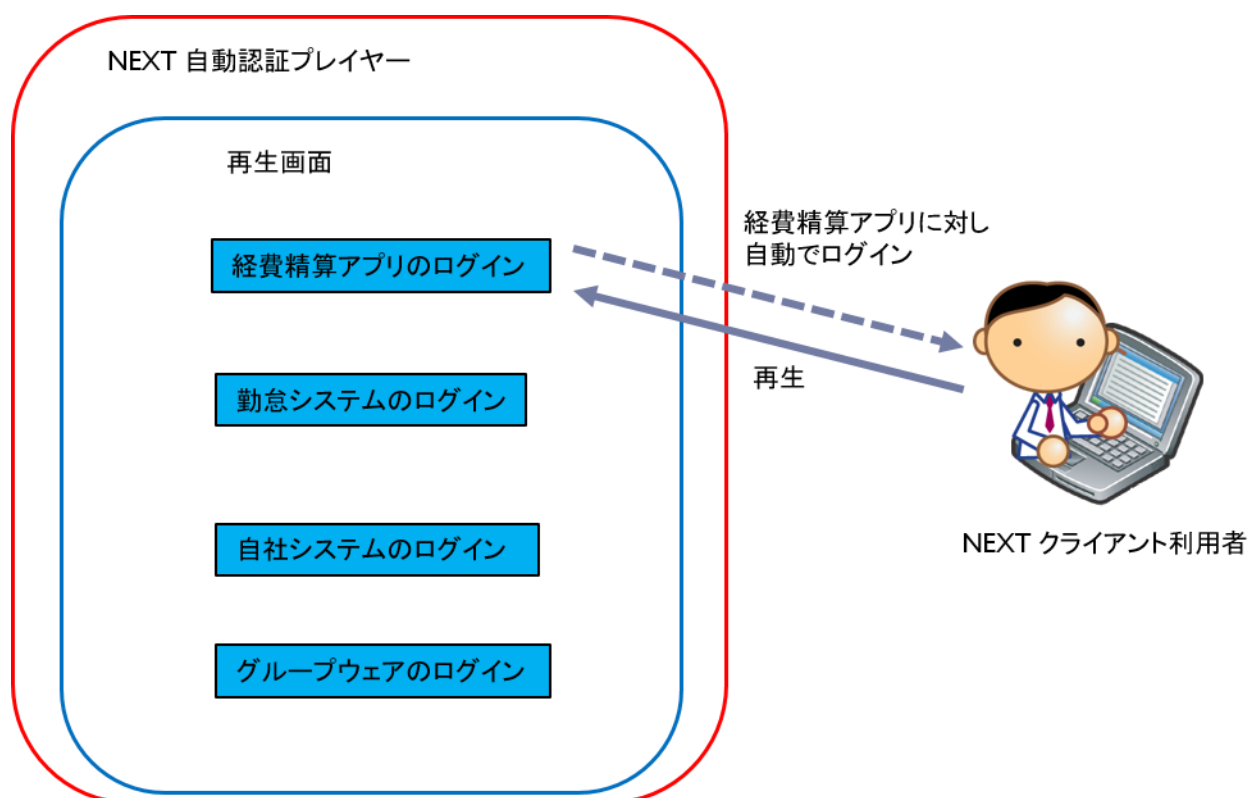
なお、NEXT 自動認証クリエイターでサーバー同期されていない内容がある場合は警告のダイアログが表示されます。



サーバー同期した自動認証設定はNEXT マネージャーのコントロール設定から確認することができます。

Info NEXT マネージャーで自動認証設定の確認については、「5.2.2. 自動認証設定」を参照してください。

設定した自動認証設定はNEXT 自動認証プレイヤーから再生します。



設定した自動認証設定は管理者がユーザー毎に使用できる/できないを設定できます。

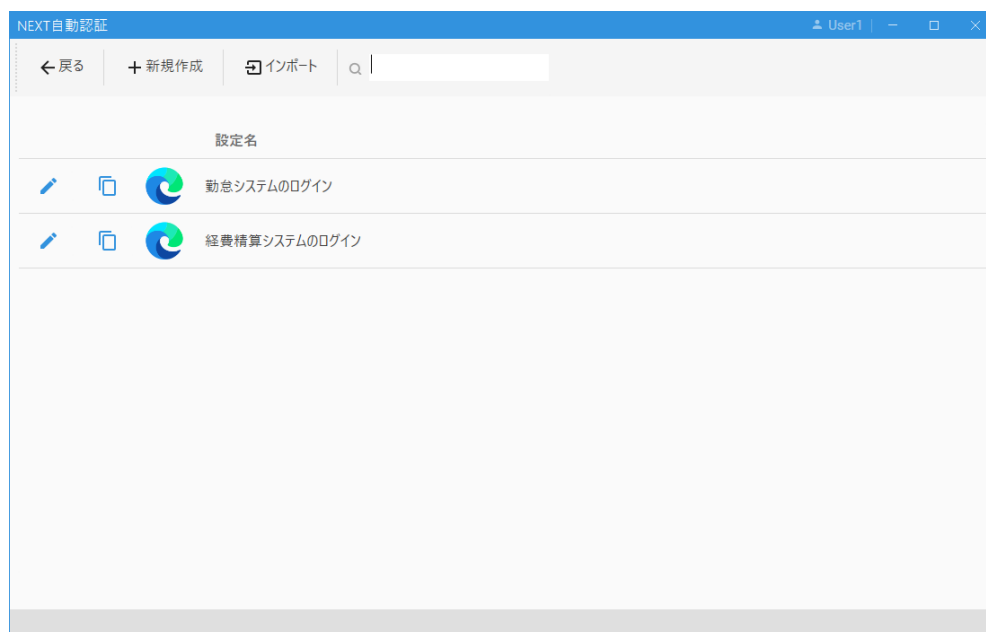
自動認証設定のユーザー毎の自動認証設定はNEXT マネージャーから行います。

Info 自動認証設定のユーザー毎の自動認証設定は、「9.7. 自動認証設定」を参照してください。

10.3.7. 自動認証設定の基本操作、設定項目

自動認証設定メイン画面

自動認証設定メイン画面はクリエイターメニュー画面の「自動認証設定」をクリックして遷移します。自動認証設定メイン画面では登録済みの自動認証設定を一覧で確認できます。



自動認証設定メイン画面のヘッダーメニューについての説明は以下のとおりです。

項目	説明
戻る	前の画面に戻ります。
新規追加	自動認証設定を新規追加します。 クリックすると新規自動入力タイプ選択ダイアログを表示します。
インポート	エクスポートした自動認証ファイルをインポートします。 インポートについては、後述の「自動認証インポートダイアログ」を参照してください。
設定名検索	入力した条件で設定名を抽出して一覧に表示します。 入力した後は[Enter]キーで検索を実行します。 入力した条件は大文字小文字を区別しません。

自動認証設定メイン画面の一覧についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
設定名 ※表のヘッダー	クリックすることで一覧の昇順/降順を切り替えます。
編集ボタン	対象の自動認証設定の自動認証設定画面へ遷移します。

項目	説明
一覧コンテキストメニュー	<p>クリックすると対象の自動認証設定に対する操作のコンテキストメニューを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コピー 対象の自動認証設定の設定内容をコピーした自動認証設定画面へ遷移します。 クリック時は確認ダイアログを表示します。 <div data-bbox="579 593 823 759" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>コピーしますか？</p> <p>OK Cancel</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● エクスポート 対象の自動認証設定の設定内容をエクスポートします。 エクスポートについては、後述の「自動認証設定エクスポートダイアログ」を参照してください。

自動認証設定インポートダイアログ

自動認証設定メイン画面からインポートボタンをクリックすると自動認証設定インポートダイアログを表示します。



自動認証設定インポートダイアログの各項目の説明は以下のとおりです。

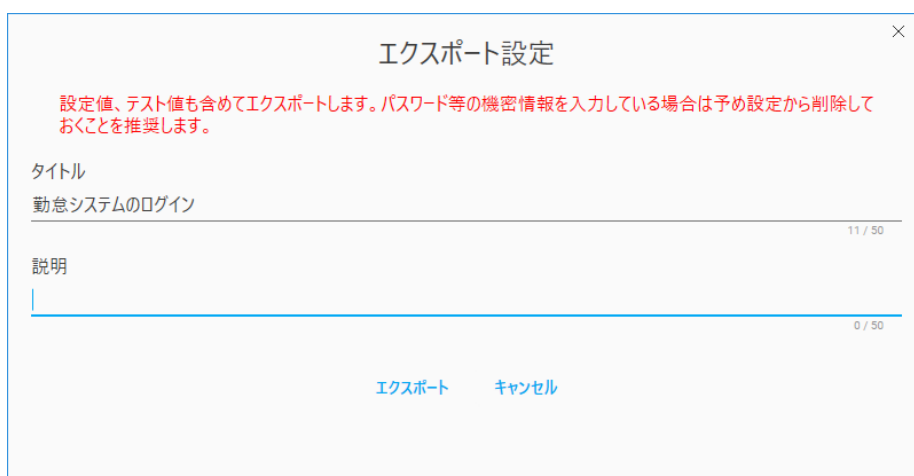
項目	説明
ファイル選択	クリックすると自動認証ファイルのファイル選択ダイアログを表示します。 自動認証ファイルを選択することで自動認証設定のインポートを実行します。 インポート実行後は自動認証ファイルの内容で自動認証設定画面に遷移します。 インポートに失敗した場合はエラーメッセージを表示します。 エラーメッセージについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。
キャンセル	ダイアログを閉じます。

自動認証設定エクスポートダイアログ

自動認証設定メイン画面からコンテキストメニューの「エクスポート」をクリックすると自動認証設定エクスポートダイアログを表示します。

自動認証設定エクスポートダイアログでは各種パラメータを入力した後、自動認証ファイルをエクスポートします。

設定値、テスト値も含めてエクスポートしますので、パスワード等の機密情報を入力している場合は予め設定から削除しておくことを推奨します。自動認証設定の編集は、「10.3.9. 自動認証設定の設定」を参照してください。



自動認証設定インポートダイアログの各項目の説明は以下のとおりです。

項目	説明
タイトル (必須)	エクスポートした自動認証ファイルを自動認証設定としてインポートする場合は表示されない値です。 自動認証サンプルとしてインポートする場合は自動認証サンプルのタイトルに表示されます。 自動認証サンプルについては、「10.3.12. 自動認証サンプル」を参照してください。 初期値：自動認証設定の「設定名」 文字数：最大 50 文字
説明	エクスポートした自動認証ファイルを自動認証設定としてインポートする場合は表示されない値です。 自動認証サンプルとしてインポートする場合は自動認証サンプルの詳細に表示されます。 自動認証サンプルについては、「10.3.12. 自動認証サンプル」を参照してください。 初期値：設定なし 文字数：最大 50 文字

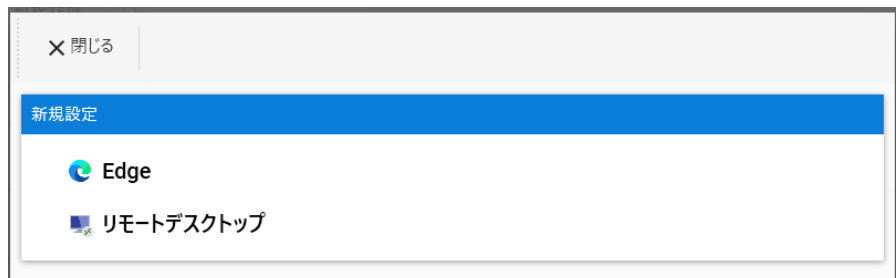
項目	説明
エクスポート	クリックすると名前を付けて保存ダイアログを表示します。 名前を付けて保存ダイアログで自動認証ファイルを保存するパスとファイル名を入力してください。 名前を付けて保存ダイアログで保存をクリックするとエクスポートを実行します。 エクスポートに失敗した場合はエラーメッセージを表示します。 エラーメッセージについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。
キャンセル	ダイアログを閉じます。

エクスポートに成功した場合、情報エリアに完了メッセージと出力パスを表示します。

エクスポート完了:C:\Users\██████████\Desktop\経費精算システムのログイン.json

新規自動入カタイプ選択ダイアログ

新規自動入カタイプ選択ダイアログでは追加する自動認証のタイプを選択します。

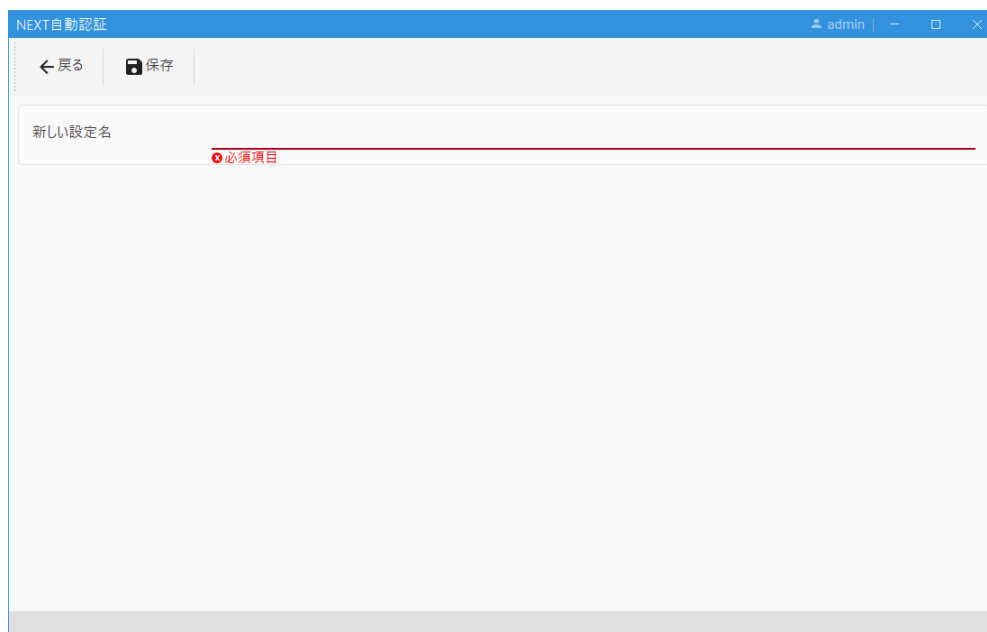


新規自動入カタイプ選択ダイアログの各項目の説明は以下のとおりです。

項目	説明
閉じる	ダイアログを閉じます。
Edge	新規追加する自動認証タイプです。 クリックすることで設定名登録画面に遷移します。 操作に「Edge ブラウザの実行」が設定された自動認証設定を新規作成します。
リモートデスクトップ	新規追加する自動認証タイプです。 クリックすることで設定名登録画面に遷移します。 操作に「リモートデスクトップの実行」が設定された自動認証設定を新規登録します。

設定名登録画面

設定名登録画面では新規追加する自動認証設定の設定名を入力します。



設定名登録画面の各項目の説明は以下のとおりです。

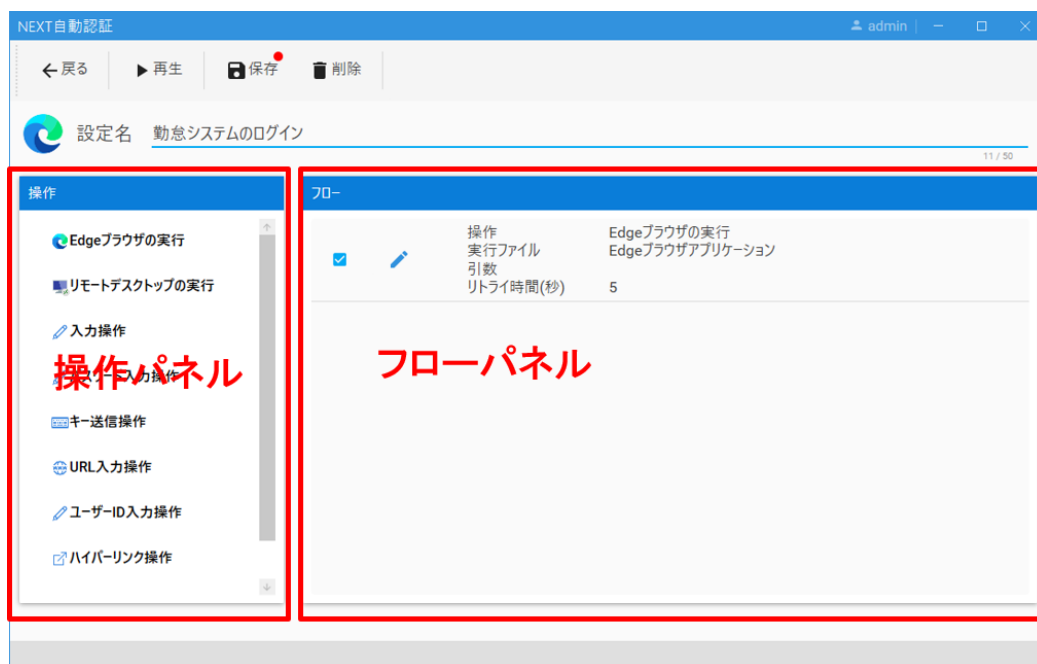
項目	説明
戻る	前の画面に戻ります。
保存	設定名を一時保存し、自動認証設定画面に遷移します。
新しい設定名 (必須)	自動認証設定の設定名を入力します。 禁止文字： ● 「NEXT ユーザーID」 (大文字小文字は区別しない) は使用できません ● 他の設定と重複した設定名は使用できません 文字数：最大 50 文字

自動認証設定画面

自動認証設定画面では自動認証設定の登録・削除を行います。

自動認証設定の登録可能な最大数は 200 件ですが、サポート対象となるのは 100 件までです。100 件より多く登録する場合は、運用環境にて十分に動作確認を行ってから使用してください。

<保存>ボタンクリック時に自動認証設定が 200 件を超える場合は「登録件数が 200 件に達したため登録できません」のメッセージが表示されます。



自動認証設定画面のヘッダーメニューについての説明は以下のとおりです。

項目	説明
戻る	自動認証設定メイン画面に戻ります。
再生	自動認証設定をテスト再生します。 フローパネルでチェックした操作を順に実行します。
保存	設定の一時保存を行います。 一時保存した内容はサーバー同期を行うことで設定が確定されます。 一時保存した状態で NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合は、一時保存した内容は破棄され、次回起動時はサーバー同期した内容で表示されます。 保存していない内容がある場合は、ボタンに赤いドットが表示されます。
削除	表示中の自動認証設定を削除します。 削除した後はサーバー同期を行うことで削除が確定されます。 サーバー同期前に NEXT 自動認証クリエイターを終了した場合、次回起動時はサーバー同期した内容で表示されます。

項目	説明
設定名	<p>自動認証設定の設定名を入力します。</p> <p>新規追加時は設定名登録画面で設定した設定名が表示されています。</p> <p>禁止文字：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「NEXT ユーザーID」（大文字小文字は区別しない）は使用できません ● 他の設定と重複した設定名は使用できません <p>文字数：最大 50 文字</p>

自動認証設定画面の操作パネルについて説明します。

操作パネルはクリックした操作タイプの操作を追加します。各操作をクリックすると編集時記録画面に遷移します。

UI から操作記録ができる操作タイプの場合は「操作記録時記録画面」へ遷移します。

UI から操作記録ができない操作タイプの場合は「編集時記録画面（記録不可）」へ遷移します。

各操作タイプについては以下のとおりです。

項目	説明	記録可/不可
Edge ブラウザの実行	Edge ブラウザの実行の操作です。	不可
リモートデスクトップの実行	リモートデスクトップの実行の操作です。	不可
入力操作	テキストボックスへの文字列入力です。	可
パスワード入力操作	パスワードの入力操作です。 自動入力設定(パスワード)を使用する場合は当操作を使用します。	可
キー送信操作	キー入力操作です。	可
URL 入力操作	ブラウザの URL やテキストボックスに URL を入力する操作です。	可
ユーザーID 入力操作	テキストボックスへの入力操作です。 自動入力設定を使用する場合は当操作を使用します。	可
ハイパーリンク操作	ハイパーリンクのクリック操作です。	可
クリック操作	ボタンクリック操作です。	可

自動認証設定画面のフローパネルについての説明は以下のとおりです。

項目	説明
再生対象チェック	<p>ヘッダーメニューの<再生>ボタンをクリックした際に実行する操作対象とするかのチェックです。</p> <p>再生対象とする場合はチェックしてください。</p> <p>初期値：ON</p>
操作	<p>クリックすると対象操作に対する操作のコンテキストメニューを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 編集 対象操作を編集します。 クリックすると編集時記録画面に遷移します。 ● 削除 対象操作を削除します。 クリックすると確認ダイアログを表示します。 <div data-bbox="582 869 844 1046" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">削除しますか？</p> <p style="text-align: center;">OK Cancel</p> </div> <p>操作は 1 件以上の登録が必要です。操作が 0 件の状態で<保存>ボタンをクリックした場合は「操作の登録が必要です」のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>操作は最大 20 件まで登録できます。20 件を超えて登録した場合は、<保存>ボタンクリック時に「操作の登録は最大 20 件までです」のメッセージが表示されます。</p>
操作情報	<p>設定されている操作情報を表示します。</p> <p>表示される項目は操作タイプにより異なります。</p> <p>また、ドラッグ&ドロップで操作の順序を入れ替えることができます。</p>

編集時記録画面（記録不可）

編集時記録画面（記録不可）では操作記録ができない操作に対する設定値を入力します。

編集時記録画面（記録不可）のヘッダーメニューについての説明は以下のとおりです。

項目	説明
戻る	自動認証設定画面に戻ります。
保存	編集内容を保存します。 保存後は自動認証設定画面に戻ります。

編集時記録画面（記録不可）の各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 操作を実行した時、操作に成功しない場合は1秒間隔でリトライを行い、リトライ時間(秒)の間リトライを繰り返します。 0を指定した場合はリトライを行いません。 最小値：0 最大値：99 初期値：5

編集時記録画面（記録可）

編集時記録画面（記録可）では操作記録が可能な操作に対する設定値を入力します。

編集時記録画面（記録可）の各項目の説明は以下のとおりです。

項目	説明
戻る	自動認証設定画面に戻ります。
保存	編集内容を保存します。 保存後は自動認証設定画面に戻ります。
記録開始	操作記録時記録画面に遷移します。
エラーメッセージエリア	エラーメッセージを表示します。 エラーが無い状態では非表示となります。
コンテンツエリア	操作に対しての入力値を表示します。 表示する内容は操作タイプ毎に異なります。 操作タイプ毎の説明は表下で説明します。
コントロール要素情報エリア	選択されているコントロール要素の情報を表示します。 コントロール要素情報エリアは「操作記録時記録画面」の同エリアと同じものを表示します。 詳細は、「操作記録時記録画面」を参照してください。

コンテンツエリアの内容は操作タイプ毎に異なります。
 操作タイプ毎の説明は以下のとおりです。

- 入力操作

操作	入力操作
入力値	<input type="text" value=""/>
リトライ時間(秒)	<input type="text" value="5"/> 0 / 255

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
入力値	操作記録で対象とした要素に対する入力値です。 文字数：最大 255 文字
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 操作を実行した時、操作に成功しない場合は 1 秒間隔でリトライを行い、リトライ時間(秒)の間リトライを繰り返します。 0 を指定した場合はリトライを行いません。 最小値：0 最大値：99 初期値：5

● パスワード入力操作

操作	パスワード入力操作
自動入力値	使用しない
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	

0 / 127

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
自動入力値 (必須)	自動入力設定を使用するかを選択します。 自動入力設定で設定された「自動入力設定(パスワード)」が選択できます。 自動入力設定を使用する場合と使用しない場合の動作の違いは、「10.3.4. 自動入力設定の概要」を参照してください。 初期値：使用しない
ユーザーの編集を許可する	NEXT 自動認証プレイヤーから自動入力設定値を編集できるかをON/OFFで設定します。 ONを設定した場合はNEXT 自動認証プレイヤーから編集を許可します。 初期値：ON
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。
テスト入力値	自動認証設定画面の再生に使用する入力値です。 文字数：最大 127 文字

● キー送信操作

操作	キー送信操作
キー	<input type="text"/>
リトライ時間(秒)	5

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
キー (必須)	操作記録で対象とした要素に対するキー入力値です。 キー送信ではキー入力以外に特殊キーの入力が可能です。 特殊キーは特殊キー文字列を入力することで使用可能です。 例 1 : abCD を入力する場合は「abCD」 例 2 : [Enter]キーを入力する場合は「{ENTER}」 特殊キー文字列については、表下の※を参照してください。 文字数：最大 255 文字
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。

※ 特殊キー文字列については、以下の URL を参照してください。

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.windows.forms.sendkeys.send?view=windowsdesktop-6.0>

● URL 入力操作

操作	URL入力操作
Url	<input type="text"/>
リトライ時間(秒)	5

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
Url (必須)	操作記録で対象とした要素に対して URL を入力します。 操作記録時記録画面で記録した要素に URL が入力されていた場合は自動入力されます。 文字数：最大 2048 文字
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。

● ユーザーID 入力操作

操作	ユーザーID入力操作
自動入力値	使用しない
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	<input type="text"/>

0 / 256

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
自動入力値 (必須)	自動入力設定を使用するかを選択します。 自動入力設定で設定された「自動入力設定」が選択できます。 自動入力設定を使用する場合と使用しない場合の動作の違いは、「10.3.4. 自動入力設定の概要」を参照してください。 初期値：使用しない
ユーザーの編集を許可する	NEXT 自動認証プレイヤーから自動入力設定値を編集できるかをON/OFFで設定します。 ONを設定した場合はNEXT 自動認証プレイヤーから編集を許可します。 初期値：ON
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。
テスト入力値	自動認証設定画面の再生に使用する入力値です。 文字数：最大 256 文字

● ハイパーリンク操作

操作	ハイパーリンク操作
リトライ時間(秒)	5

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。

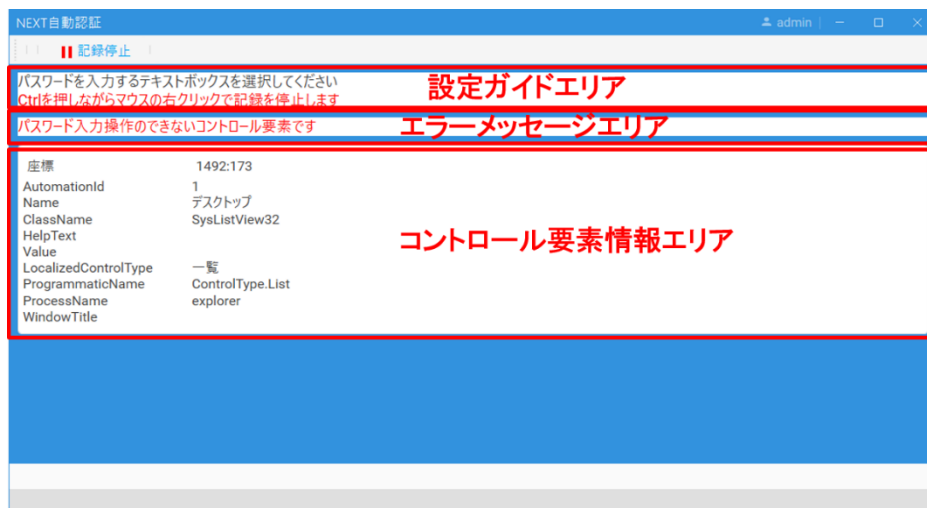
● クリック操作

操作	クリック操作
リトライ時間(秒)	5

項目	説明
操作	操作タイプを表示します。 当画面では変更できません。
リトライ時間(秒) (必須)	リトライを実行する時間を秒で指定します。 詳細は、「入力操作」を参照してください。

操作記録時記録画面

操作記録時記録画面では操作を実行する対象を設定します。



操作記録時記録画面の各項目の説明は以下のとおりです。

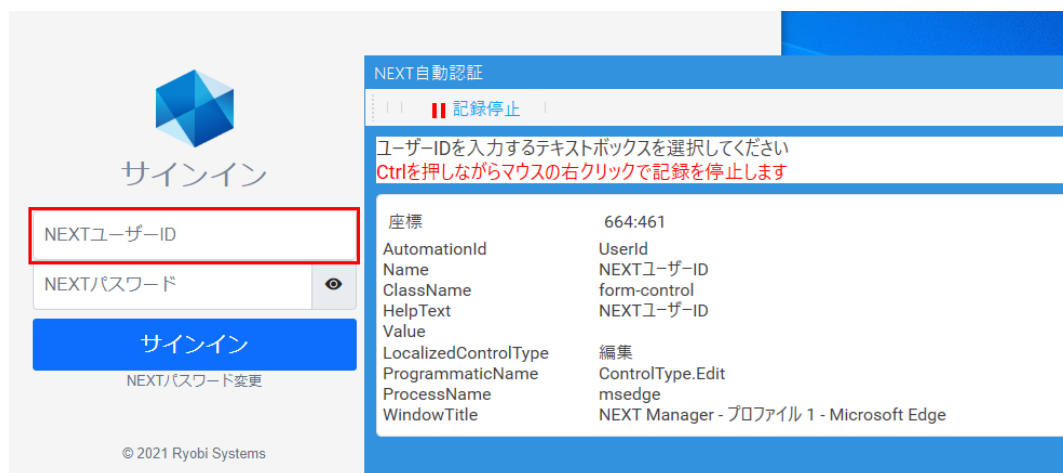
項目	説明
記録停止	操作記録を停止します。 停止後は操作記録を保持した状態で編集時記録画面（記録可）に遷移します。 記録停止は当ボタンクリックの他に[Ctrl]+右クリックでも可能です。
設定ガイドエリア	ガイドを表示します。 表示されているガイドに従って操作記録を行ってください。
エラーメッセージエリア	操作記録のエラーメッセージを表示します。 エラーが無い状態では非表示となります。
コントロール要素情報エリア	選択されているコントロール要素の情報を表示します。

操作記録時記録画面のコントロール要素情報エリアについての説明は以下のとおりです。

項目	説明
座標	選択している要素の座標です。
AutomationId	選択している要素の id 属性です。
Name	選択している要素の name 属性です。
ClassName	選択している要素の class 属性です。
Help Text	選択している要素の HelpText 属性です。
Value	選択している要素の value 属性です。
LocalizedControlType	選択している要素のコントロールタイプの日本語名です。
ProgrammaticallyName	選択している要素のプログラム名です。
ProcessName	選択している要素のプロセス識別子です。
WindowTitle	選択している要素のウィンドウタイトルです。

操作記録の手順は以下のとおりです。

1. 操作記録はマウスカーソルを記録する対象の上で 0.5 秒以上静止させることで、対象となります。対象となっている場合は対象の上に赤枠が表示され、コントロール要素情報エリアに対象となっている要素の情報が表示されます。



2. 赤枠が表示された状態で操作記録の停止を行います。操作記録の停止は<記録停止>ボタンクリックの他に、[Ctrl]+右クリックでも記録停止できます。

Info [Ctrl]+右クリックで操作記録を停止した場合、右クリックした箇所でコンテキストメニューが表示されますが、操作記録には影響はありません。

Info コントロール要素情報エリアの AutomationId, Name, ClassName が取得できない要素は操作記録にできません。

操作記録のできない要素

NEXT 自動認証

|| 記録停止 ||

ユーザーIDを入力するテキストボックスを選択してください
Ctrlを押しながらマウスの右クリックで記録を停止します

AutomationId, Name, ClassNameいずれも取得できないコントロール要素は使用できません

座標	487:191
AutomationId	
Name	
ClassName	
HelpText	
Value	
LocalizedControlType	編集
ProgrammaticName	ControlType.Edit
ProcessName	msedge
WindowTitle	PickupTest.html - プロファイル 1 - Microsoft Edge

- 記録停止すると記録停止時点で赤枠が表示している操作対象を抽出し、操作対象を保持した状態で編集時記録画面（記録可）に遷移します。
編集時記録画面（記録可）のコントロール要素情報エリアに選択した情報が表示されますので、正しく選択できているかをご確認ください。

10.3.8. 自動認証が対応できる要素

自動認証設定が対応できる要素を自動認証タイプ毎に説明します。

Edge

- 入力操作に対応している HTML 要素と優先順位

Edge の入力操作が対応できる HTML 要素は以下のとおりです。

以下に無い HTML 要素は入力操作ができない、あるいは正しく動作しない可能性があります。

HTML タグ	type 属性	ProgrammaticName	優先順位 ※表下で説明
input	text	ControlType.Edit	1. id 属性 2. placeholder 属性 3. title 属性 4. class 属性
	password		
	email		

優先順位は要素に指定された属性の内、どの属性を使用して要素を特定するかの優先順位です。

優先順位の属性の無い要素は、要素の特定ができないため入力操作ができません。

例：<input type="text" id="userId" class="user">のタグの場合は id 属性と class 属性が指定されていますが、優先順位が高いのは id 属性のため、自動認証では id 属性で要素を特定します。

- クリック操作に対応している HTML 要素と優先順位

Edge のクリック操作が対応できる HTML 要素は以下のとおりです。

以下に無い HTML 要素は入力操作ができない、あるいは正しく動作しない可能性があります。

HTML タグ	type 属性	ProgrammaticName	優先順位
input	submit	ControlType.Button	1. id 属性 2. value 属性 3. class 属性
	button		
	reset		
	image		
button	submit	ControlType.Button	1. id 属性 2. button タグの表示 内容テキスト 3. value 属性 4. class 属性
	reset		
	button		
a	-	ControlType.Hyperlink	1. id 属性 2. a タグの表示内容 テキスト 3. class 属性

- 自動認証が動作しないケース

以下に挙げるケースの場合、自動認証は正常に動作しません。

ケース	説明
属性値が一意ではない	<p>各属性値が一意ではなく、同じ値の場合は最初に見つかる要素に対して自動認証が動作します。</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユーザーID が<input type="text" id="user"> ● パスワードが<input type="password" id="user"> <p>上記のように id 属性が重複した要素がある場合、後者の要素をパスワード入力操作で設定した場合でも、id="user"が最初に見つかる前者の要素に対してパスワード入力操作が実行されます。</p>
属性値が存在しない	<p>属性が設定されていても、属性値が設定されていない場合は要素が特定できないため、自動認証が動作しません。</p> <p>例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <input type="text" placeholder=""> ● <input type="password" placeholder=""> <p>上記のように placeholder が空の要素がある場合、入力操作で要素を指定した場合でも、要素が特定できないため自動認証に失敗します。この場合、編集時記録画面で設定時に「AutomationId、Name、ClassName いずれも取得できないコントロール要素は使用できません」のエラーメッセージが表示されます。</p>

リモートデスクトップ

自動認証設定のリモートデスクトップに影響する要素について説明します。

- リモートデスクトップ接続の初回実行

リモートデスクトップの自動認証を行うには、一度以上リモートデスクトップ接続を行う必要があります。リモートデスクトップ接続を一度も行っていない場合はリモートデスクトップ接続を実施してください。

- Windows 資格情報

リモートデスクトップに使用する Windows 資格情報が登録済みである場合は自動認証に失敗します。

Windows 資格情報が登録されている場合は削除してください。

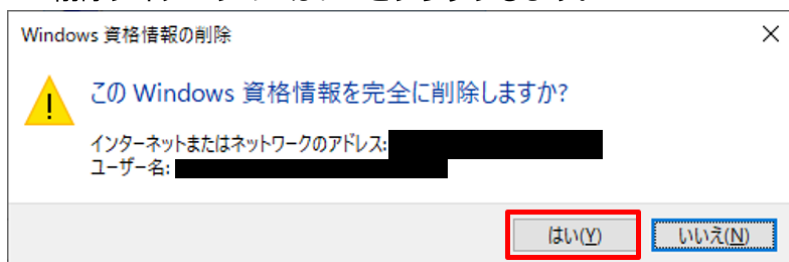
Windows 資格情報は資格情報マネージャーから削除します。

削除手順は以下のとおりです。

1. タスク バーの検索ボックスに「資格情報マネージャー」と入力し、「資格情報マネージャー」を開きます。
2. 「資格情報の管理」の「Windows 資格情報」をクリックします。
3. 資格情報マネージャーから削除する Windows 資格情報の<削除>をクリックします。



4. 削除ダイアログの<はい>をクリックします。



- ログオンしたユーザーが接続先にログオン可能か

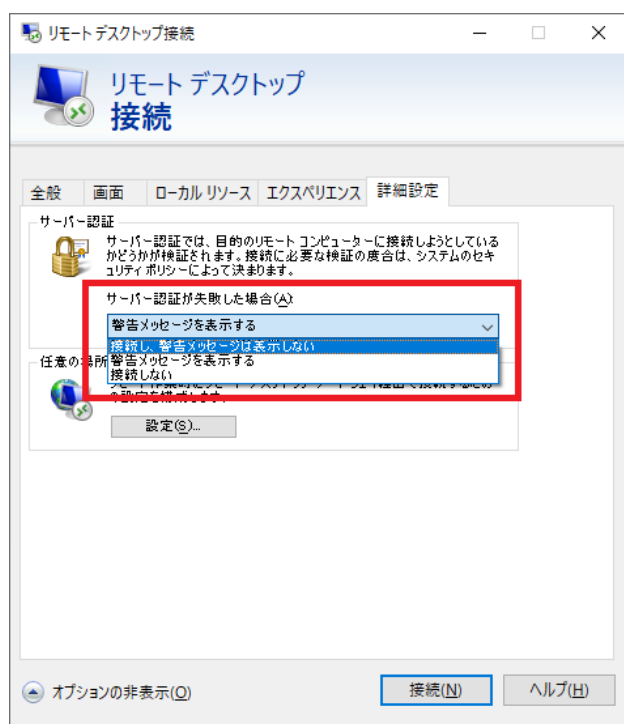
ログオンしたユーザーが接続先にログオン可能である必要があります。
 ログオン不可の場合は、リモートデスクトップの自動認証に失敗します。

- リモートデスクトップ接続時の証明書エラー

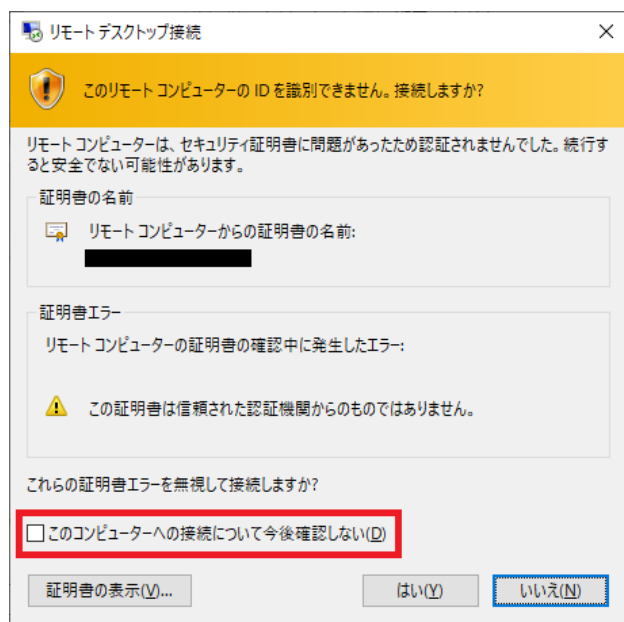
リモートデスクトップ接続で証明書エラーが無い場合はリモートデスクトップの自動認証に成功します。
 証明書エラーが表示される場合は、設定によって結果が変わります。
 設定毎の自動認証結果は以下のとおりです。

「サーバー認証が失敗した場合」の 選択値（※1）	「このコンピューターへの接続について 今後確認しない」のチェック（※2）	自動認証結果
接続し、警告メッセージは表示しない	（証明書エラーが表示されないため不問）	成功
警告メッセージを表示する	ON	成功
	OFF	失敗
接続しない	（証明書エラーが表示されないため不問）	失敗

※1 「サーバー認証が失敗した場合」の選択値はリモートデスクトップ接続画面の「詳細設定」タブで設定します。



※2 「このコンピューターへの接続について今後確認しない」のチェックはリモートデスクトップ接続画面の後の警告画面で設定します。



10.3.9. 自動認証設定の設定

自動認証設定の設定方法はサンプルから作成する方法と、新規に作成する方法の2通りがあります。例を用いて2通りの作成手順に加え、編集手順をそれぞれ説明します。

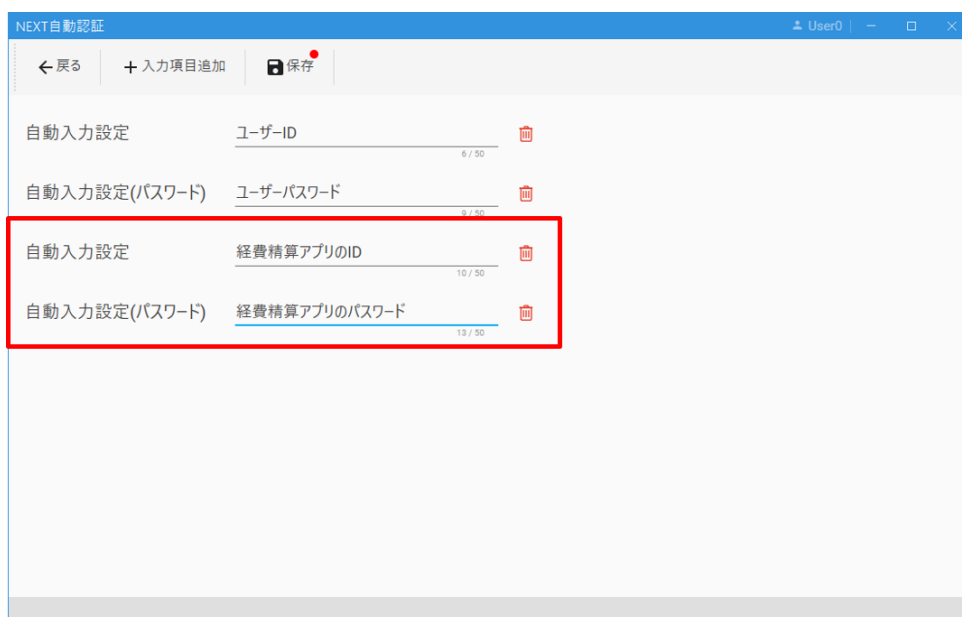
Edge の自動認証設定をサンプルから作成する

前提：

- 経費精算アプリにログインするための自動認証設定を作成する
- 設定名は「経費精算アプリにログイン」とする
- 経費精算アプリは Web フォームで URL 「https://example.com/keihi/」で参照する
- 経費精算アプリは ID,パスワードを入力した後<ログイン>ボタンをクリックしてログインする
- ID,パスワードは自動入力設定を使用する
- NEXT 自動認証クリエイターはインストール済みで使用できる状態

自動入力設定の設定手順：

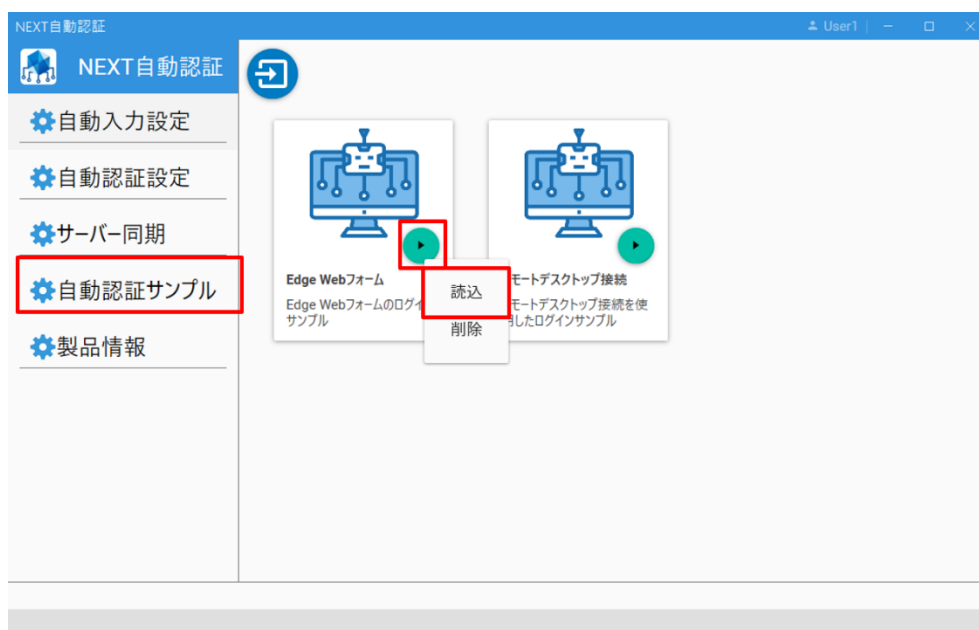
1. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
2. クリエイターメニューの「自動入力設定」をクリックしてください。
自動入力設定画面に遷移します。
3. [入力項目追加]-[自動入力設定]をクリックしてください。
4. [入力項目追加]-[自動入力設定(パスワード)]をクリックしてください。
5. 追加された項目に「経費精算アプリの ID」、「経費精算アプリのパスワード」を入力してください。



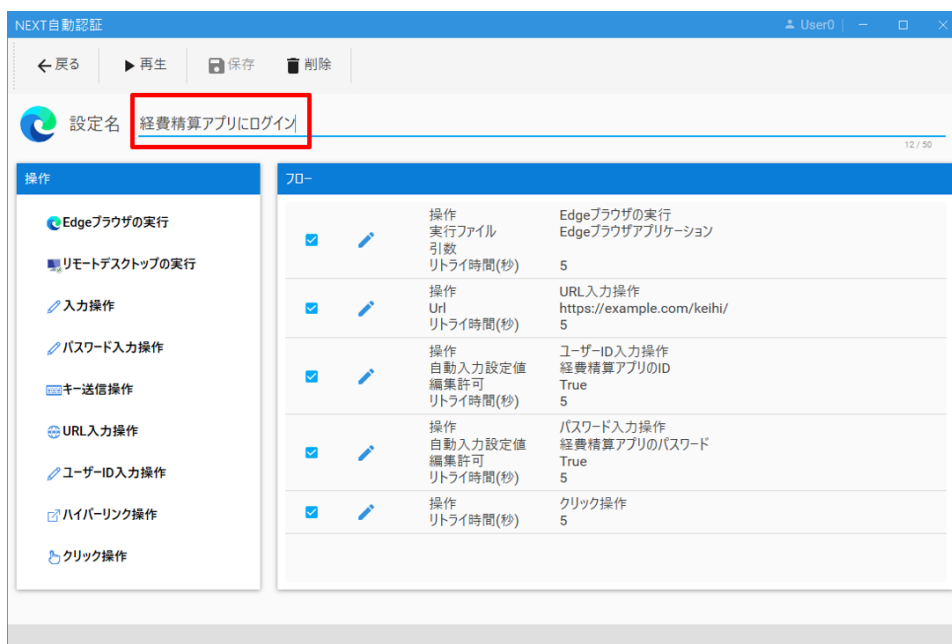
6. <保存>ボタンをクリックしてください。
7. 確認ダイアログの<OK>をクリックしてください。
メッセージに「保存しました」が表示されます。
8. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
9. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

自動認証設定の設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別に Edge ブラウザを起動してください。
2. Edge ブラウザで経費精算アプリ (<https://example.com/keihi/>) を表示してください。
3. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証サンプル」をクリックしてください。
メニューコンテンツエリアに自動認証サンプルが表示されます。
4. 「Edge Web フォーム」のサンプルをクリックして、コンテキストメニューの「読込」をクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。



5. 設定名に「経費精算アプリにログイン」を入力してください。



6. フローパネルの「URL 入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



7. 「Url」に「https://example.com/keihi/」を入力してください。



8. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
9. フローパネルの「ユーザーID 入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

フロー			
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 実行ファイル 引数 リトライ時間(秒)	Edgeブラウザの実行 Edgeブラウザアプリケーション 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 Url リトライ時間(秒)	URL入力操作 https://example.com/keihi/ 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 使用しない True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 削除許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 使用しない True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作	クリック操作

10. <記録開始>ボタンをクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。
11. Edge ブラウザの ID の上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、ID の上に赤枠が表示されるまで待ちます。

The screenshot shows a web browser window with the address bar containing "https://example.com/keihi/". The page title is "経費精算アプリ ver1.0". Below the title is a login form with an "ID" field (highlighted with a red box), a "password" field, and a "ログイン" button. An overlay window titled "NEXT自動認証" is displayed, showing a recording status of "記録停止" (Recording Stopped) and instructions: "ユーザーIDを入力するテキストボックスを選択してください" and "Ctrlを押しながらマウスの右クリックで記録を停止します". Below the instructions is a table of recorded data:

座標	311:310
AutomationId	userId
Name	ID
ClassName	
HelpText	ID
Value	
LocalizedControlType	編集
ProgrammaticName	ControlType.Edit
ProcessName	msedge
WindowTitle	経費精算アプリ ver1.0 - プロファイル 1 - Microsoft Edge

12. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

13. 「自動入力値」に「経費精算アプリのID」を選択してください。

← 戻る 保存 ● 記録開始

操作	ユーザーID入力操作
自動入力値	経費精算アプリのID
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>

14. <保存>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。

15. フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。

編集時記録画面（記録可）に遷移します。

フロー			
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 実行ファイル 引数 リトライ時間(秒)	Edgeブラウザの実行 Edgeブラウザアプリケーション 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 Url リトライ時間(秒)	URL入力操作 https://example.com/keihi/ 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 使用しない True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		削除 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

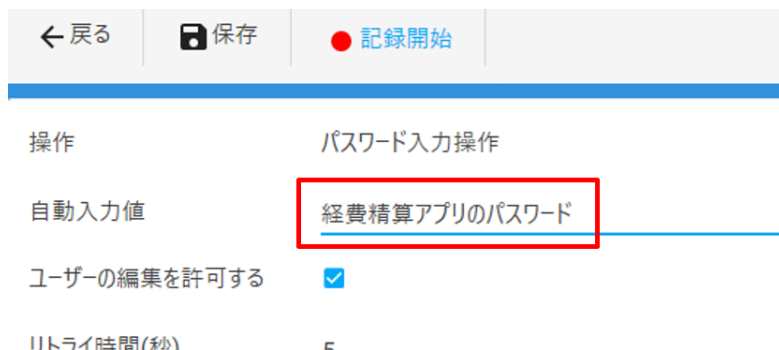
16. <記録開始>ボタンをクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。

17. Edge ブラウザのパスワードの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、パスワードの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



18. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
19. 「自動入力値」に「経費精算アプリのパスワード」を選択してください。



20. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。

21. フローパネルの「クリック操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



22. <記録開始>ボタンをクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。

23. Edgeブラウザの<ログイン>ボタンの上でマウスを0.5秒以上停止させ、<ログイン>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



24. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。

編集時記録画面（記録可）に遷移します。

25. <保存>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。

26. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
27. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
28. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
29. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 Edge の自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
30. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

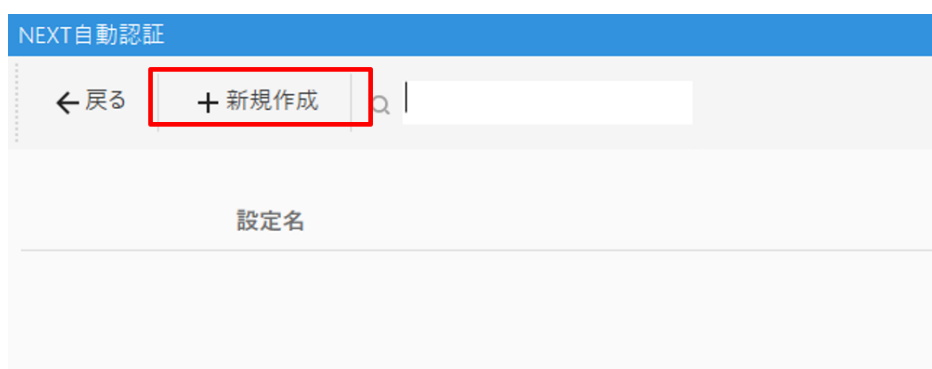
Edge の自動認証設定を新規作成する

前提：

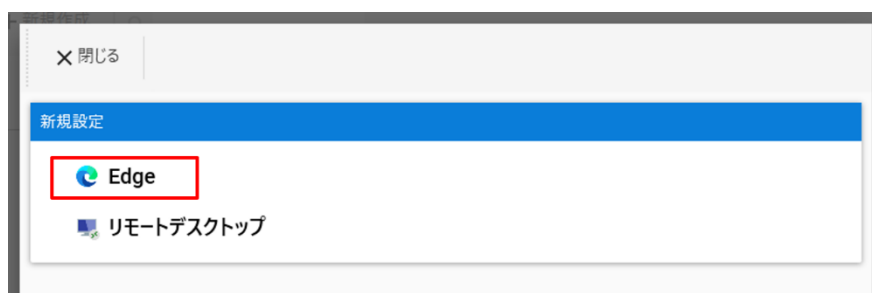
- 「Edge の自動認証設定をサンプルから作成する」と同じ自動認証設定を作成する
- 「Edge の自動認証設定をサンプルから作成する」の「自動入力設定手順」は設定済みとする

自動認証設定の設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別に Edge ブラウザを起動してください。
2. Edge ブラウザで経費精算アプリ (<https://example.com/keihi/>) を表示してください。
3. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
4. <新規作成>ボタンをクリックしてください。
新規自動入力タイプ選択ダイアログが表示されます。



5. 「Edge」をクリックしてください。
設定名登録画面に遷移します。



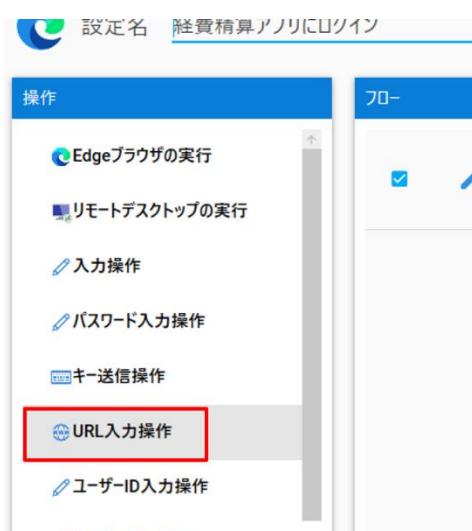
- 新しい設定名に「経費精算アプリにログイン」を入力してください。



← 戻る | 保存

新しい設定名 経費精算アプリにログイン

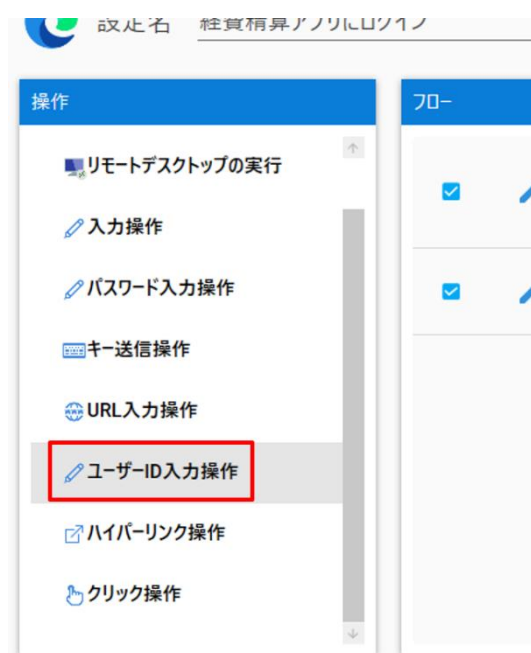
- <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
- 操作パネルの「URL 入力操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



9. Edge ブラウザの URL の上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、URL の上に赤枠が表示されるまで待ちます。



10. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
11. <保存>ボタンをクリックします。
自動認証設定画面に遷移します。
12. 操作パネルの「ユーザーID入力操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



13. Edge ブラウザの ID の上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、ID の上に赤枠が表示されるまで待ちます。



14. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。

編集時記録画面（記録可）に遷移します。

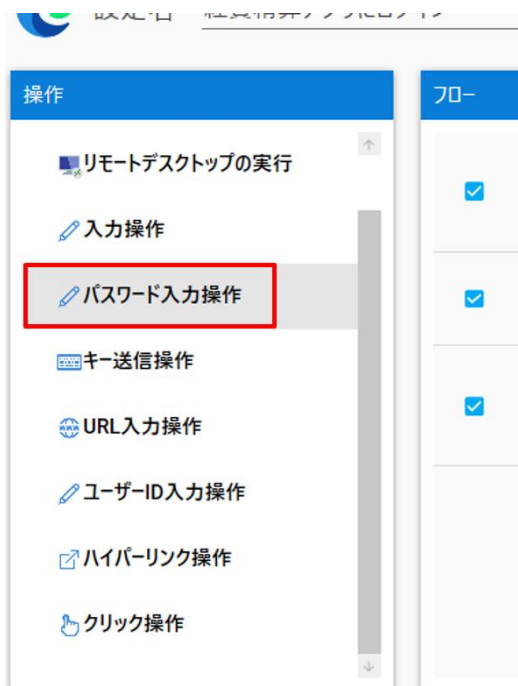
15. 「自動入力値」に「経費精算アプリの ID」を選択してください。



16. <保存>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。

17. 操作パネルの「パスワード入力操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



18. Edge ブラウザのパスワードの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、パスワードの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



19. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

20. 「自動入力値」に「経費精算アプリのパスワード」を選択してください。

操作	パスワード入力操作
自動入力値	経費精算アプリのパスワード
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5

21. <保存>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。

22. 操作パネルの「クリック操作」をクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。

操作	フロー
リモートデスクトップの実行	<input checked="" type="checkbox"/>
入力操作	<input checked="" type="checkbox"/>
パスワード入力操作	<input checked="" type="checkbox"/>
キー送信操作	<input checked="" type="checkbox"/>
URL入力操作	<input checked="" type="checkbox"/>
ユーザーID入力操作	<input checked="" type="checkbox"/>
ハイパーリンク操作	<input type="checkbox"/>
クリック操作	<input type="checkbox"/>

23. Edge ブラウザの<ログイン>ボタンの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、<ログイン>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



24. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
25. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
26. 自動認証設定画面の<保存>ボタンをクリックしてください。
27. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
28. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
29. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 EDGE の自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
30. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

Edge の自動認証設定を編集する

前提：

- 「Edge の自動認証設定をサンプルから作成する」で作成した自動認証設定から以下が変更になったことで自動認証に失敗するようになったため、自動認証設定の編集を行う
 - URL が「https://example.com/keihi_seisan/」に変更
 - レイアウトに変更があり、要素毎に再設定が必要

自動認証設定の編集手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別に Edge ブラウザを起動してください。
2. Edge ブラウザで経費精算アプリ（https://example.com/keihi_seisan/）を表示してください。
3. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
4. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。自動認証設定メイン画面に遷移します。
5. 設定名「経費精算アプリにログイン」の<編集>ボタンをクリックしてください。自動認証設定画面に遷移します。






6. フローパネルの「URL 入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。編集時記録画面（記録可）に遷移します。



7. 「Url」に「https://example.com/keihi_seisan/」を入力してください。

操作	URL入力操作
Url	https://example.com/keihi_seisan/
リトライ時間(秒)	5

8. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
9. フローパネルの「ユーザーID 入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

フロー			
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 実行ファイル 引数 リトライ時間(秒)	Edgeブラウザの実行 Edgeブラウザアプリケーション 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 Url リトライ時間(秒)	URL入力操作 https://example.com/keihi_seisan/ 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5

10. <記録開始>ボタンをクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。

11. Edge ブラウザの ID の上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、ID の上に赤枠が表示されるまで待ちます。

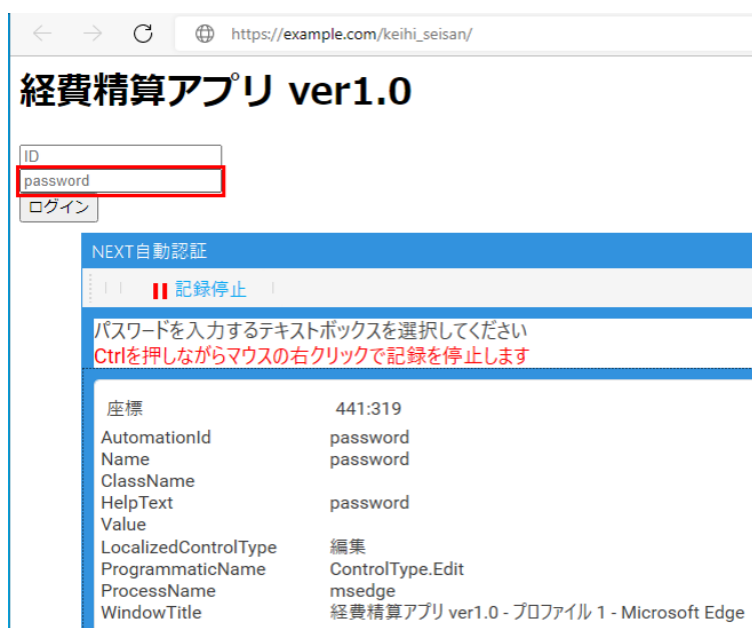


12. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
13. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
14. フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



15. <記録開始>ボタンをクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。

16. Edge ブラウザのパスワードの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、パスワードの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



17. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
18. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
19. フローパネルの「クリック操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



20. <記録開始>ボタンをクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。

21. Edge ブラウザの<ログイン>ボタンの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、<ログイン>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



22. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。

編集時記録画面（記録可）に遷移します。

23. <保存>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。

24. <保存>ボタンをクリックしてください。

確認ダイアログが表示されます。

25. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定メイン画面に遷移します。

26. <戻る>ボタンをクリックしてください。

クリエイターメニューに遷移します。

27. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。

テスト再生手順は、「共通手順 EDGE の自動認証設定のテスト再生」を参照してください。

28. サーバー同期を行います。

同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

共通手順 Edge の自動認証設定のテスト再生

1. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。自動認証設定メイン画面に遷移します。
2. 設定名「経費精算アプリにログイン」の<編集>ボタンをクリックしてください。自動認証設定画面に遷移します。



3. フローパネルの「ユーザーID 入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。編集時記録画面（記録可）に遷移します。
4. テスト入力値にテスト再生で使用する ID の値を入力します。

操作	ユーザーID入力操作
自動入力値	経費精算アプリのID
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	KeihiUser

5. <保存>ボタンをクリックしてください。自動認証設定画面に遷移します。
6. フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。編集時記録画面（記録可）に遷移します。

7. テスト入力値にテスト再生で使用するパスワードの値を入力します。

操作	パスワード入力操作
自動入力値	経費精算アプリのパスワード
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	password

8. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
9. <再生>ボタンをクリックして、テスト再生します。



テスト再生で意図しない動作がある場合は、動作しない操作の設定値・操作記録を調整して再度テスト再生を実行してください。

テスト再生で問題が無い場合は手順を進めてください。

10. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
11. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
12. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。

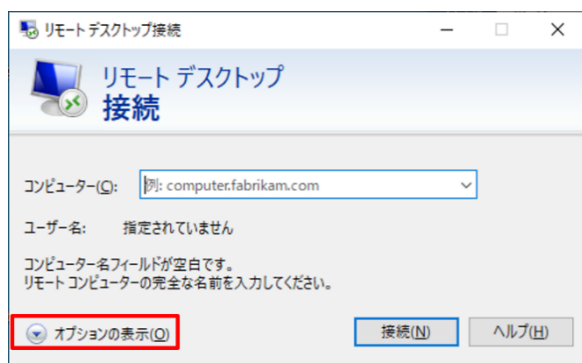
リモートデスクトップの自動認証設定の設定準備をする

自動認証設定でリモートデスクトップを使用する場合は、リモートデスクトップ接続を一度、実行しておく必要があります。

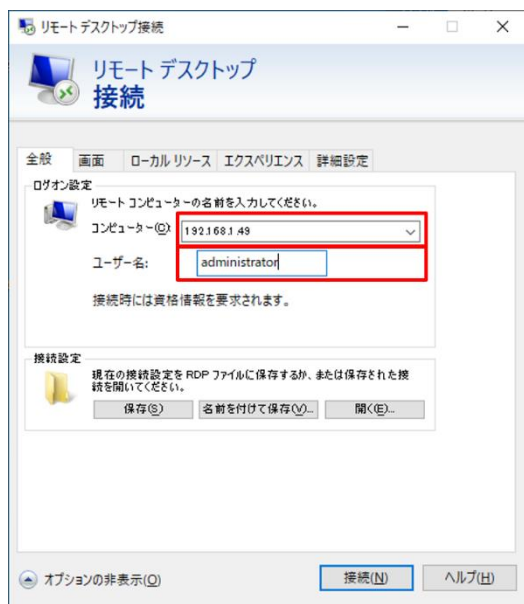
手順は以下のとおりです。

リモートデスクトップの初回接続設定手順：

1. リモートデスクトップ接続を起動してください。
2. 「オプションの表示」をクリックしてください。

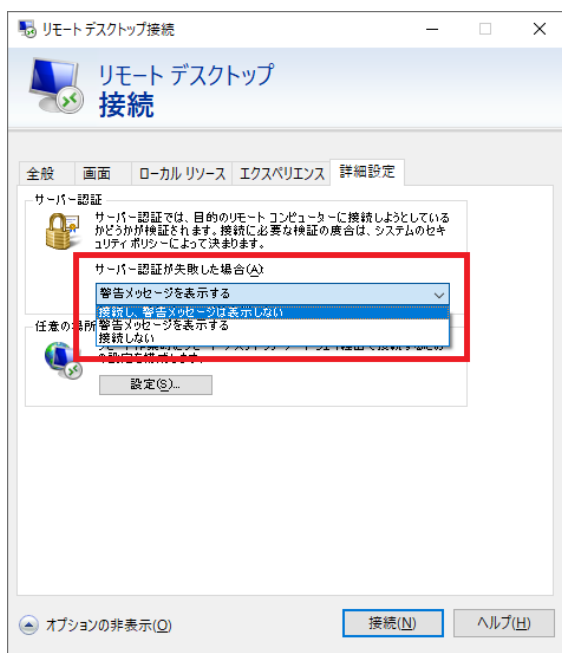


3. 「コンピューター」に接続先、「ユーザー名」に自動認証で使用するログオンユーザーを入力してください。



4. 「詳細設定」タブをクリックしてください。

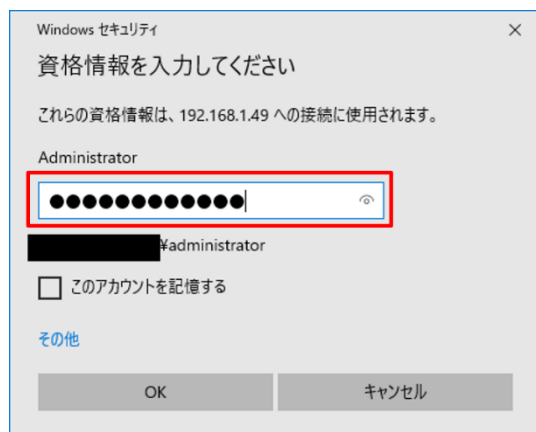
- 「サーバー認証が失敗した場合」の選択値を「接続し、警告メッセージは表示しない」に設定してください。



- <接続>ボタンをクリックしてください。

資格情報入力画面が表示されます。

この時、資格情報入力画面が表示されない場合は、後述の「Windows 資格情報が作成されている場合の削除手順」を実行してください。
- 「パスワード」にログオンユーザーに対応するパスワードを入力してください。



- <OK>をクリックしてください。

リモートデスクトップに接続が確認できると、準備は完了です。

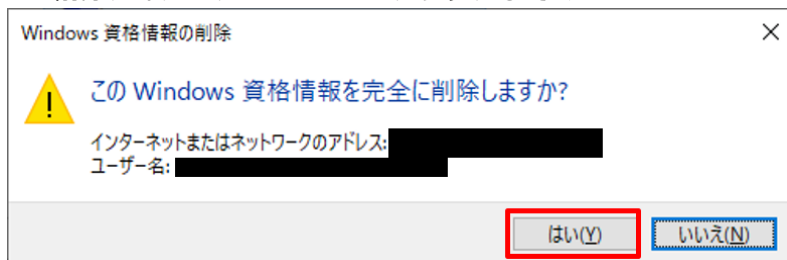
リモートデスクトップを終了してください。

Windows 資格情報が作成されている場合の削除手順：

1. タスク バーの検索ボックスに「資格情報マネージャー」と入力し、「資格情報マネージャー」を起動してください。
2. 「資格情報の管理」の「Windows 資格情報」をクリックしてください。
3. 資格情報マネージャーからリモートデスクトップで使用されている Windows 資格情報の<削除>をクリックしてください。



4. 削除ダイアログの<はい>をクリックしてください。



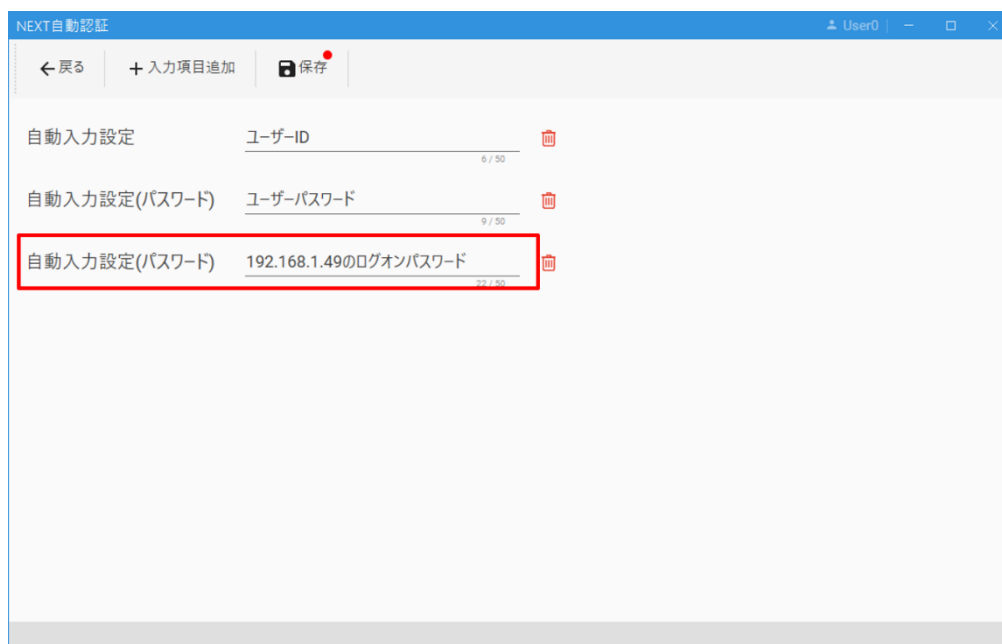
リモートデスクトップの自動認証設定をサンプルから作成する

前提：

- ローカルネットワーク上のマシンにリモートデスクトップ接続するための自動認証設定を作成する
- 「リモートデスクトップの自動認証設定の設定準備をする」の手順は実行済み
- 接続先は社内ネットワークにあるマシンに、「192.168.1.49」で接続する
- ログオンユーザーは「リモートデスクトップの自動認証設定の設定準備をする」でリモートデスクトップ接続に記憶済みのため、自動認証設定では設定しない
- ログオンパスワードは自動入力設定を使用する
- NEXT 自動認証クリエイターはインストール済みで使用できる状態

自動入力設定の設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
2. クリエイターメニューの「自動入力設定」をクリックしてください。
自動入力設定画面に遷移します。
3. [入力項目追加]-[自動入力設定(パスワード)]をクリックしてください。
4. 追加された項目に「192.168.1.49のログオンパスワード」を入力してください。



5. <保存>ボタンをクリックしてください。
6. 確認ダイアログの<OK>をクリックしてください。
メッセージに「保存しました」が表示されます。
7. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
8. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

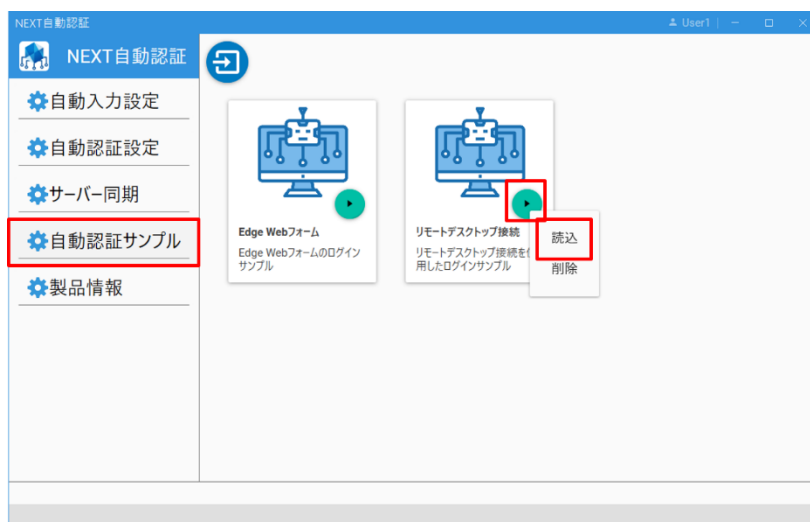
自動認証設定の設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証サンプル」をクリックしてください。

メニューコンテンツエリアに自動認証サンプルが表示されます。

2. 「リモートデスクトップ接続」のサンプルをクリックして、コンテキストメニュー「読み」をクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。



3. 設定名に「社内ネットワークマシンにリモートデスクトップ接続」を入力してください。



- フローパネルの「入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



- 「入力値」に「192.168.1.49」を入力してください。



- <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
- フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。



8. 「自動入力値」に「192.168.1.49 のログオンパスワード」を選択してください。

操作	パスワード入力操作
自動入力値	192.168.1.49のログオンパスワード
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	

9. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
10. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
11. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
12. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
13. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 リモートデスクトップの自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
14. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

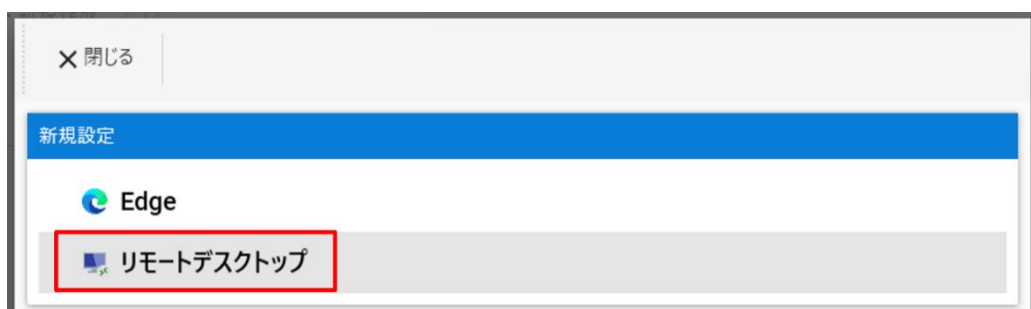
リモートデスクトップの自動認証設定を新規作成する

前提：

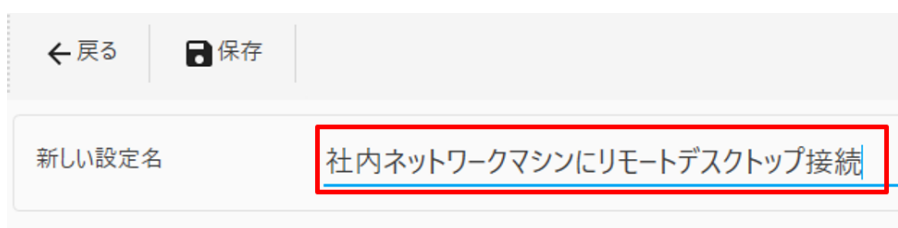
- 「リモートデスクトップの自動認証設定をサンプルから作成する」と同じ自動認証設定を作成する
- 「リモートデスクトップの自動認証設定をサンプルから作成する」の「自動入力設定手順」は設定済みとする

自動認証設定の設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別にリモートデスクトップ接続を起動してください。
2. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
3. <新規作成>ボタンをクリックしてください。
新規自動入力タイプ選択ダイアログが表示されます。
4. 「リモートデスクトップ」をクリックしてください。
設定名登録画面に遷移します。



5. 新しい設定名に「社内ネットワークマシンにリモートデスクトップ接続」を入力してください。

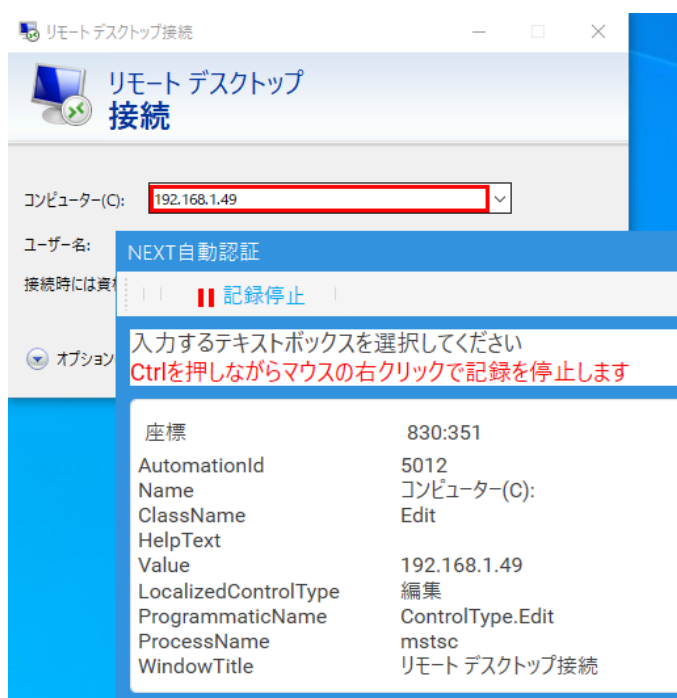


6. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。

7. 操作パネルの「入力操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



8. リモートデスクトップ接続の「コンピューター」の上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、「コンピューター」の上に赤枠が表示されるまで待ちます。



9. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

10. 「入力値」に「192.168.1.49」を入力してください。

操作	入力操作
入力値	192.168.1.49
リトライ時間(秒)	5

11. <保存>ボタンをクリックしてください。

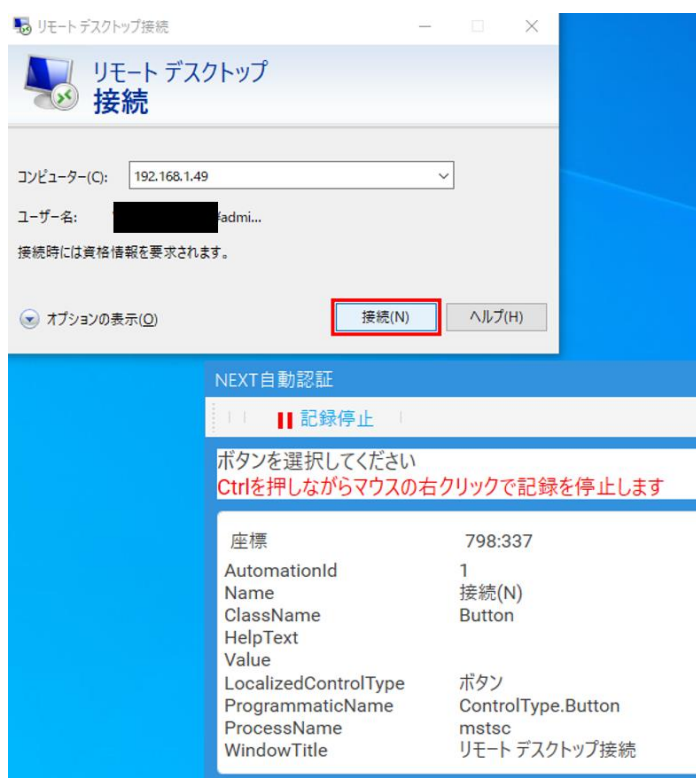
自動認証設定画面に遷移します。

12. 操作パネルの「クリック操作」をクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。



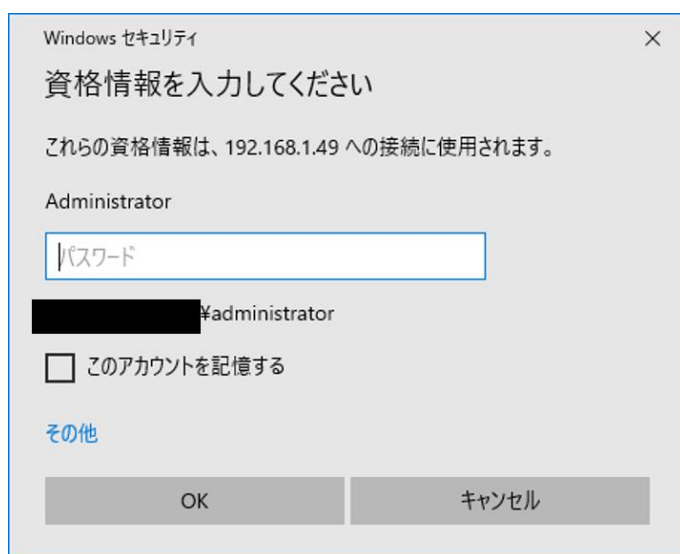
13. リモートデスクトップ接続の<接続>ボタンの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、<接続>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



14. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
15. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。

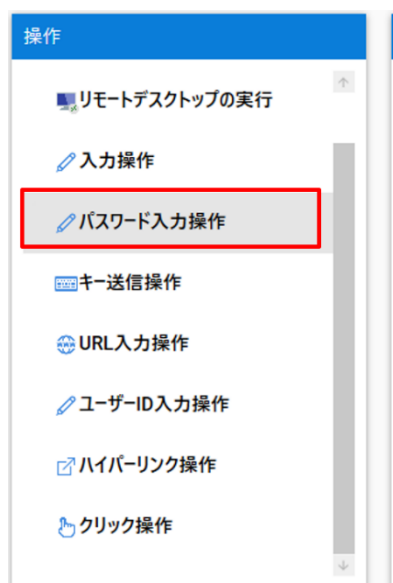
16. リモートデスクトップ接続でコンピューターに「192.168.1.49」を入力し、<接続>ボタンをクリックしてください。

資格情報入力画面が表示されます。

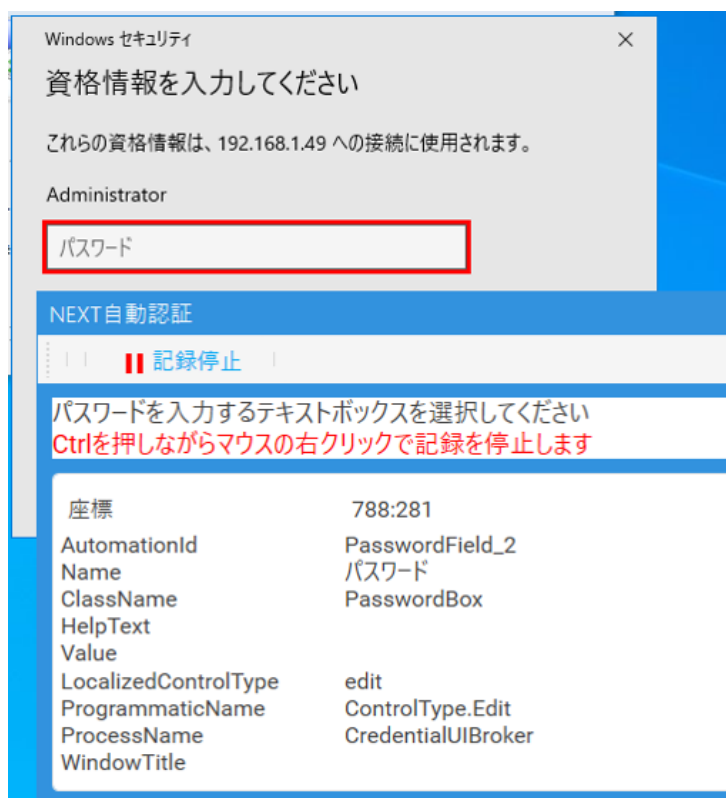


17. NEXT 自動認証クリエイターの操作パネルの「パスワード入力操作」をクリックしてください。

操作記録時記録画面に遷移します。



18. 資格情報入力画面のパスワードの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、パスワードの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



19. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
20. 自動入力値に「192.168.1.49 のログオンパスワード」を選択する。



21. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。

22. 操作パネルの「クリック操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



23. 資格情報入力画面の<OK>ボタンの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、<OK>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



24. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
25. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
26. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
27. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。

28. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
29. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 リモートデスクトップの自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
30. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

リモートデスクトップの自動認証設定を編集する

前提：

- 「リモートデスクトップの自動認証設定をサンプルから作成する」で作成した自動認証設定から以下が変更になったことで自動認証に失敗するようになったため、自動認証設定の編集を行う
 - 接続先が「192.168.1.50」に変更された
 - パスワード入力操作にかかる時間が長いことで自動認証に失敗することがあるため、パスワード入力操作のリトライ時間(秒) を 10 秒に変更

自動認証設定の編集手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
2. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。自動認証設定メイン画面に遷移します。
3. 設定名「社内ネットワークマシンにリモートデスクトップ接続」の<編集>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定画面に遷移します。



4. フローパネルの「入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。編集時記録画面（記録可）に遷移します。



5. 「入力値」に「192.168.1.50」を入力してください。

操作	入力操作
入力値	192.168.1.50
リトライ時間(秒)	5

6. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
7. フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

フロー			
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 実行ファイル 引数 リトライ時間(秒)	リモートデスクトップの実行 リモートデスクトップアプリケーション 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 入力値 リトライ時間(秒)	入力操作 192.168.1.50 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 192.168.1.49のログオンパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		リトライ時間(秒)	クリック操作 5

編集
削除

8. 「リトライ時間(秒)」に「10」を入力してください。

操作	パスワード入力操作
自動入力値	192.168.1.49のログオンパスワード
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	10
テスト入力値	

9. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
10. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
11. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
12. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
13. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 リモートデスクトップの自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
14. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

共通手順 リモートデスクトップの自動認証設定のテスト再生

1. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
2. 設定名「社内ネットワークマシンにリモートデスクトップ接続」の<編集>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。



3. フローパネルの「パスワード入力操作」の[操作]-[編集]をクリックしてください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

フロー			
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 実行ファイル 引数 リトライ時間(秒)	リモートデスクトップの実行 リモートデスクトップアプリケーション 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 入力値 リトライ時間(秒)	入力操作 192.168.1.49 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 実行許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 192.168.1.49のログオンパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		リトライ時間(秒)	クリック操作 5

編集

削除

4. テスト入力値にテスト再生で使用するパスワードの値を入力します。



操作	パスワード入力操作
自動入力値	192.168.1.49のログオンパスワード
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>
リトライ時間(秒)	5
テスト入力値	password

5. <保存>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定画面に遷移します。
6. <再生>ボタンをクリックして、テスト再生します。



テスト再生で意図しない動作がある場合は、動作しない操作の設定値・操作記録を調整して再度テスト再生を実行してください。

Info リモートデスクトップ接続のパスワード入力操作は自動認証の実行時に時間がかかることがあります。
テスト再生で失敗する場合はパスワード入力操作のリトライ時間(秒)を調整してください。

テスト再生で問題が無い場合は手順を進めてください。

7. <保存>ボタンをクリックしてください。
確認ダイアログが表示されます。
8. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
9. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。

10.3.10. さまざまな設定

Edge の自動認証設定で入力項目が複数ある場合

ユーザーID、パスワードの他に会社コード等の入力が必要な場合はユーザーID 入力操作、パスワード入力操作に加え、別途入力操作を追加する必要があります。

例を挙げて説明します。

前提：

- 「10.3.9. 自動認証設定の設定」の「Edge の自動認証設定をサンプルから作成する」で作成した自動認証設定から編集する
- 経費精算アプリは会社コード、ID、パスワードを入力した後<ログイン>ボタンをクリックしてログインする
 - 会社コードは「A001」で全ユーザー共通の値

設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別に Edge ブラウザを起動してください。
2. Edge ブラウザで経費精算アプリ (<https://example.com/keihi/>) を表示してください。
3. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
4. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。自動認証設定メイン画面に遷移します。
5. 設定名「経費精算アプリにログイン」の<編集>ボタンをクリックしてください。自動認証設定画面に遷移します。



6. 操作パネルの「入力操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



7. Edge ブラウザの会社コードの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、会社コードの上に赤枠が表示されるまで待ちます。

会社コード

ID

password

ログイン

NEXT自動認証

|| 記録停止 ||

入力するテキストボックスを選択してください
Ctrlを押しながらマウスの右クリックで記録を停止します

座標	385:272
AutomationId	companyCode
Name	会社コード
ClassName	
HelpText	会社コード
Value	
LocalizedControlType	編集
ProgrammaticName	ControlType.Edit
ProcessName	msedge
WindowTitle	経費精算アプリ ver1.0 - プロファイル 1 - Microsoft Edge

8. [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。

9. 「入力値」に「A001」を入力してください。

操作	入力操作
入力値	A001
リトライ時間(秒)	5

10. <保存>ボタンをクリックします。

自動認証設定画面に遷移します。

11. フローパネルの「入力操作」をドラッグ&ドロップして、「クリック操作」の前になるように順序を入れ替えます。

ドラッグ&ドロップで順序を入れ替える

<input checked="" type="checkbox"/>		自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	経費精算アプリのハズリート True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 入力値 リトライ時間(秒)	入力操作 A001 5

<input checked="" type="checkbox"/>		自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	経費精算アプリのハズリート True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 入力値 リトライ時間(秒)	入力操作 A001 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

12. 自動認証設定画面の<保存>ボタンをクリックしてください。

13. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。

自動認証設定メイン画面に遷移します。

14. <戻る>ボタンをクリックしてください。

クリエイターメニューに遷移します。

15. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。

テスト再生手順は、「共通手順 Edge の自動認証設定のテスト再生」を参照してください。

16. サーバー同期を行います。

同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

Edge の自動認証設定で画面遷移がある場合

ログイン画面が複数の画面で構成する場合は、入力操作、クリック操作を組み合わせることで自動認証設定を設定する必要があります。

例を挙げて説明します。

前提：

- 「10.3.9. 自動認証設定の設定」の「Edge の自動認証設定をサンプルから作成する」で作成した自動認証設定から編集する
- 経費精算アプリのログイン画面構成は以下のとおり
 - ログイン画面 1 で ID を入力後に<次へ>ボタンをクリックしてログイン画面 2 へ画面遷移
 - ログイン画面 2 でパスワードを入力した後<ログイン>ボタンをクリックしてログインする。

設定手順：

1. NEXT 自動認証クリエイターとは別に Edge ブラウザを起動してください。
2. Edge ブラウザで経費精算アプリ (<https://example.com/keihi/>) を表示してください。
3. NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。
4. NEXT 自動認証クリエイターのクリエイターメニューの「自動認証設定」をクリックしてください。自動認証設定メイン画面に遷移します。
5. 設定名「経費精算アプリにログイン」の<編集>ボタンをクリックしてください。自動認証設定画面に遷移します。



- 操作パネルの「クリック操作」をクリックしてください。
操作記録時記録画面に遷移します。



- Edge ブラウザの<次へ>ボタンの上でマウスを 0.5 秒以上停止させ、<次へ>ボタンの上に赤枠が表示されるまで待ちます。



- [Ctrl]+右クリックで記録停止してください。
編集時記録画面（記録可）に遷移します。
- <保存>ボタンをクリックします。
自動認証設定画面に遷移します。

10. フローパネルの末尾の「クリック操作」をドラッグ&ドロップして、「ユーザーID 入力操作」の次になるように順序を入れ替えます。

ドラッグ&ドロップで順序を入れ替える

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

11. 自動認証設定画面の<保存>ボタンをクリックしてください。
12. 確認ダイアログの<OK>ボタンをクリックしてください。
自動認証設定メイン画面に遷移します。
13. <戻る>ボタンをクリックしてください。
クリエイターメニューに遷移します。
14. 自動認証設定をテスト再生して動作を確認します。
テスト再生手順は、「共通手順 EDGE の自動認証設定のテスト再生」を参照してください。
15. サーバー同期を行います。
同期手順は、「10.3.11. サーバー同期」を参照してください。

Edge の自動認証設定で画面の読み込みに時間がかかる場合

URL 入力操作やクリック操作等で画面遷移が発生した際に、画面の読み込みに時間がかかる場合は編集時記録画面の「リトライ時間(秒)」を調整してください。

リトライ時間(秒)は設定した秒数の間に 1 秒間隔で操作に成功するまでリトライし続けるという設定値です。

例を挙げて説明します。

前提：

- URL 入力操作で URL 入力後、画面表示までに長い時間で 10 秒かかる
- URL 入力操作の次の操作はユーザーID 入力操作

上記前提の場合、URL 入力操作のリトライ時間(秒)は初期値の 5 秒で問題ありませんが、次の操作の「ユーザーID 入力操作」に 15 秒（画面表示までの 10 秒+ 予備の 5 秒）を設定します。

このように「リトライ時間(秒)」を設定することで画面表示に時間がかかった場合でも設定した時間まではエラーとならずにユーザーID 入力操作を実行します。

なお、「リトライ時間(秒)」はリトライをし続ける設定値であり、設定値の時間まで常に待つ時間ではありません。

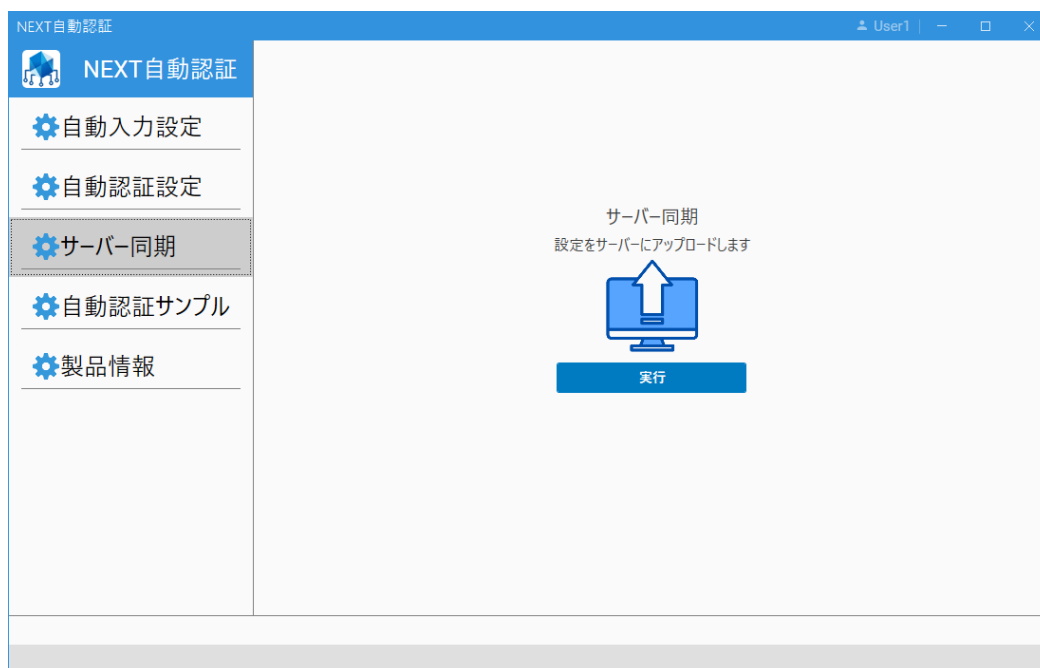
画面表示が早い場合は入力操作が画面表示後に行われますので入力操作は早く完了します。画面表示が遅い場合は「リトライ時間(秒)」で設定された時間まで入力操作を繰り返し行い、「リトライ時間(秒)」で設定された時間内に表示されれば入力操作が完了します。

「リトライ時間(秒)」で設定された時間内に表示されない場合はエラーとなります。エラーの詳細は、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

10.3.11. サーバー同期

自動認証設定画面等で行った編集内容はサーバー同期することで NEXT サーバーに保存され、編集内容を確認します。

クリエイターメニューの「サーバー同期」をクリックすることでサーバー同期メニューを表示します。



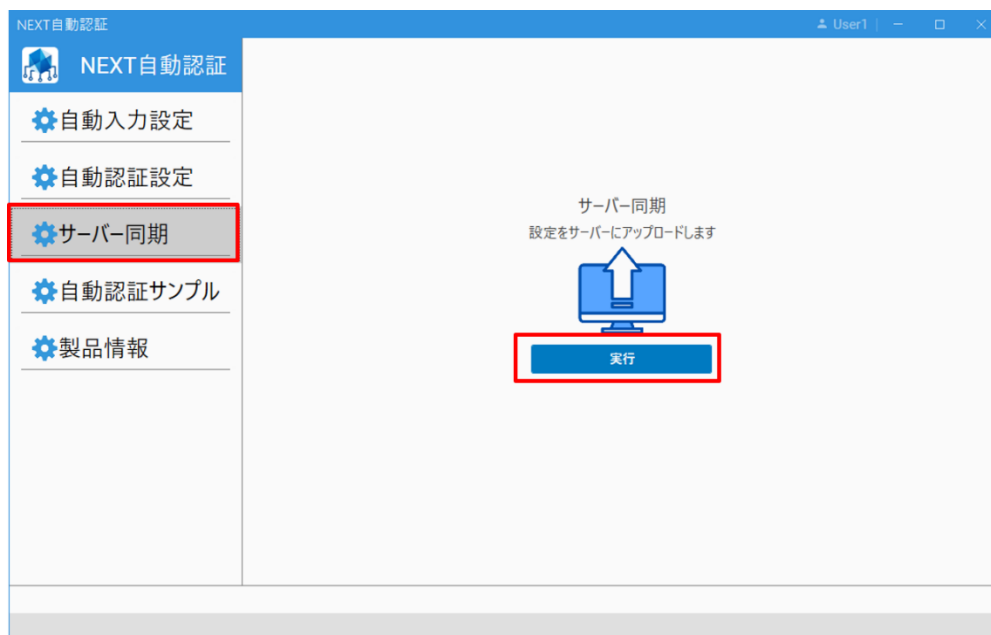
サーバー同期メニューの各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
実行	<p>サーバー同期を実行します。 NEXT 自動認証クリエイターで設定値に変更がない場合、ボタンは非表示となります。 クリック時は確認ダイアログを表示します。</p> <div data-bbox="577 1518 879 1720" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>同期しますか?</p> <p>OK Cancel</p> </div>

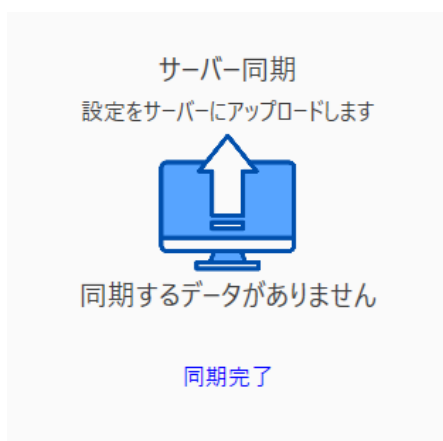
サーバー同期手順

サーバー同期手順は以下のとおりです。

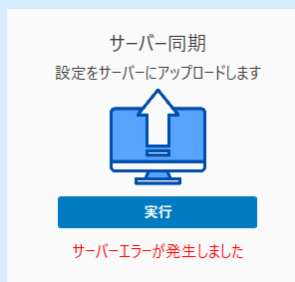
1. クリエイターメニューの「サーバー同期」をクリックしてください。
メニューコンテンツエリアにサーバー同期が表示されます。
2. <実行>ボタンをクリックしてください。



3. 確認ダイアログの<OK>をクリックしてください。
サーバー同期を実行すると、以下のように表示されます。

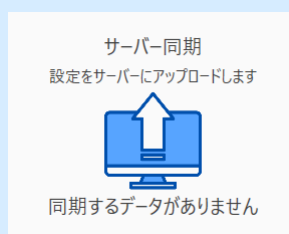


Info サーバー同期に失敗すると、以下のように表示されます。



表示されるメッセージの詳細は、「サーバー同期のエラーメッセージと対処方法」を参照してください。

Info NEXT 自動認証クリエイターで設定値に変更がない場合は以下のように表示され、サーバー同期は実行できません。



サーバー同期のエラーメッセージと対処方法

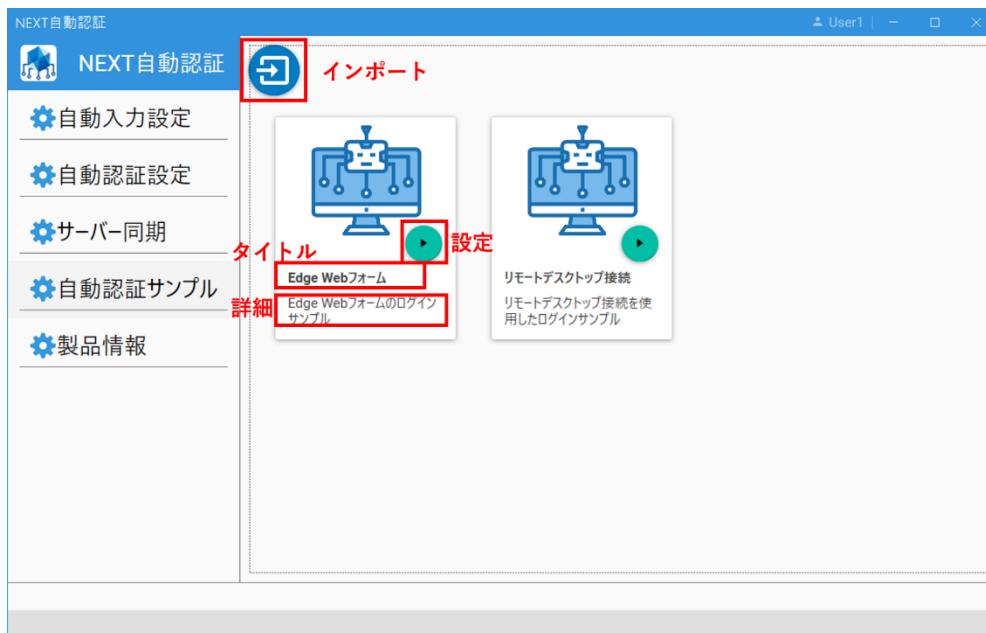
サーバー同期実行で表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
サーバーに接続できません	オフライン状態、または NEXT サーバーに接続できない状態です。 NEXT サーバーに接続できる環境か確認して、再度 NEXT クライアントへサインインし直してください。
サーバーエラーが発生しました	NEXT クライアント、または NEXT 自動認証クリエイターに何らかの障害が発生しています。 マシンを再起動して、再度 NEXT 自動認証クリエイターを実行してください。
既に他の利用者と更新されています	他のマシンからサーバー同期が行われたため、競合によりサーバー同期が実行できませんでした。 NEXT 自動認証クリエイターを再起動して改めて編集を行った後、サーバー同期を実行してください。
要求された機能が使用できません。 操作はキャンセルされました。	自動認証のライセンスが無効になっているためサーバー同期が実行できませんでした。 ライセンスの登録をした後、NEXT 自動認証クリエイターを再起動して改めて編集、サーバー同期を実行してください。 ライセンスの登録については、「ライセンス登録」を参照してください。


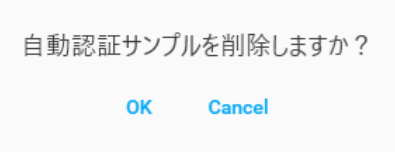
10.3.12. 自動認証サンプル

あらかじめ設定した自動認証設定を自動認証サンプルとして使用できます。

クリエイターメニューの「自動認証サンプル」をクリックすることで自動認証サンプルメニューを表示します。



自動認証サンプルメニューの各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
インポート	<p>エクスポートした自動認証ファイルを自動認証サンプルとしてインポートします。インポートについては、後述の「自動認証サンプルインポートダイアログ」を参照してください。</p>
タイトル	<p>自動認証サンプルのタイトルです。 タイトルが長い場合はマウスカーソルをタイトルに合わせるとツールチップで全文を確認できます。</p> 
詳細	<p>自動認証サンプルの詳細説明文です。</p>
設定	<p>クリックすると自動認証サンプルに対する操作のコンテキストメニューを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 読込 <p>自動認証サンプルを使用して自動認証設定を設定します。 クリックすると自動認証サンプルの内容で自動認証設定画面へ遷移します。 自動認証サンプルが読み込みエラーの場合、「読込」は非表示となります。 自動認証サンプルの読み込みエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。</p> ■ 削除 <p>自動認証サンプルを削除します。 クリックすると削除確認ダイアログを表示します。</p> 

自動認証サンプルの使用手順は、「10.3.9. 自動認証設定の設定」を参照してください。

自動認証サンプルインポートダイアログ

自動認証サンプルメニューからインポートボタンをクリックすると自動認証サンプルインポートダイアログを表示します。



自動認証サンプルインポートダイアログの各項目の説明は以下のとおりです。

項目	説明
ファイル選択	<p>クリックすると自動認証ファイルのファイル選択ダイアログを表示します。</p> <p>自動認証ファイルを選択することで自動認証サンプルのインポートを実行します。</p> <p>インポートに失敗した場合はエラーメッセージを表示します。</p> <p>エラーメッセージについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。</p>
キャンセル	ダイアログを閉じます。

インポートに成功した場合、情報エリアに完了メッセージを表示し、自動認証サンプルメニューにインポートした自動認証サンプルが表示されます。



自動認証サンプルの保存先

自動認証サンプルは Windows アカウント毎にファイルで保存します。

ファイルの保存先は「%USERPROFILE%\ARCACLAVIS NEXT\AutoAuth」です。

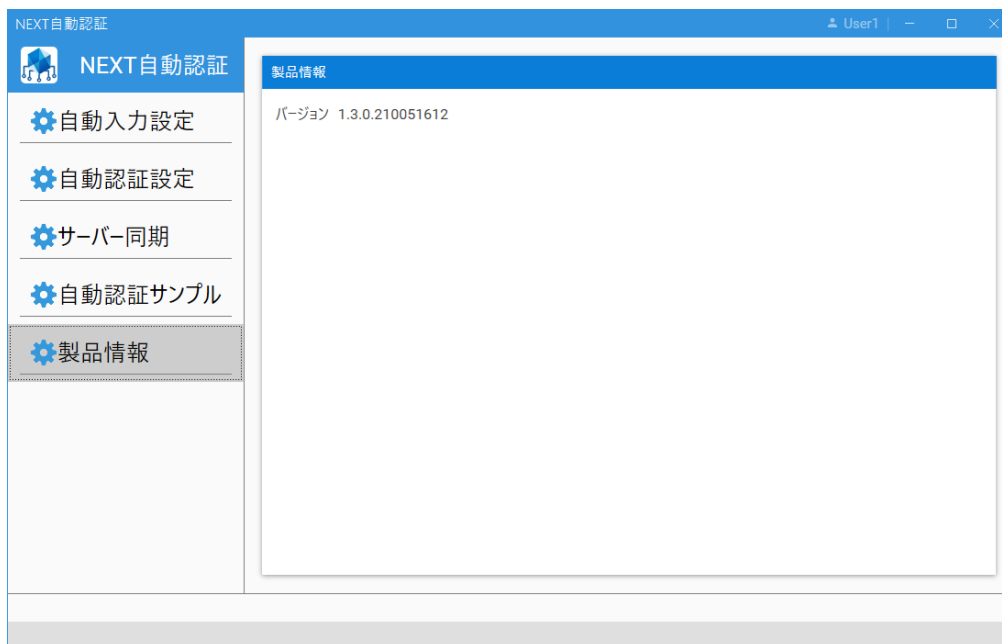
Info 「%USERPROFILE%」は OS のユーザープロファイルを指す環境変数で、通常は「C:\Users\<Windows アカウント>」になります。

ファイルは暗号化されるため、保存されている内容を直接ファイルから閲覧、編集することはできません。

10.3.13. 製品情報

NEXT 自動認証クリエイターの製品情報を表示します。

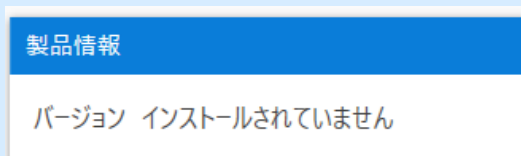
クリエイターメニューの「製品情報」をクリックすることで製品情報メニューを表示します。



製品情報メニューの各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
バージョン	NEXT 自動認証クリエイターのバージョンを表示します。

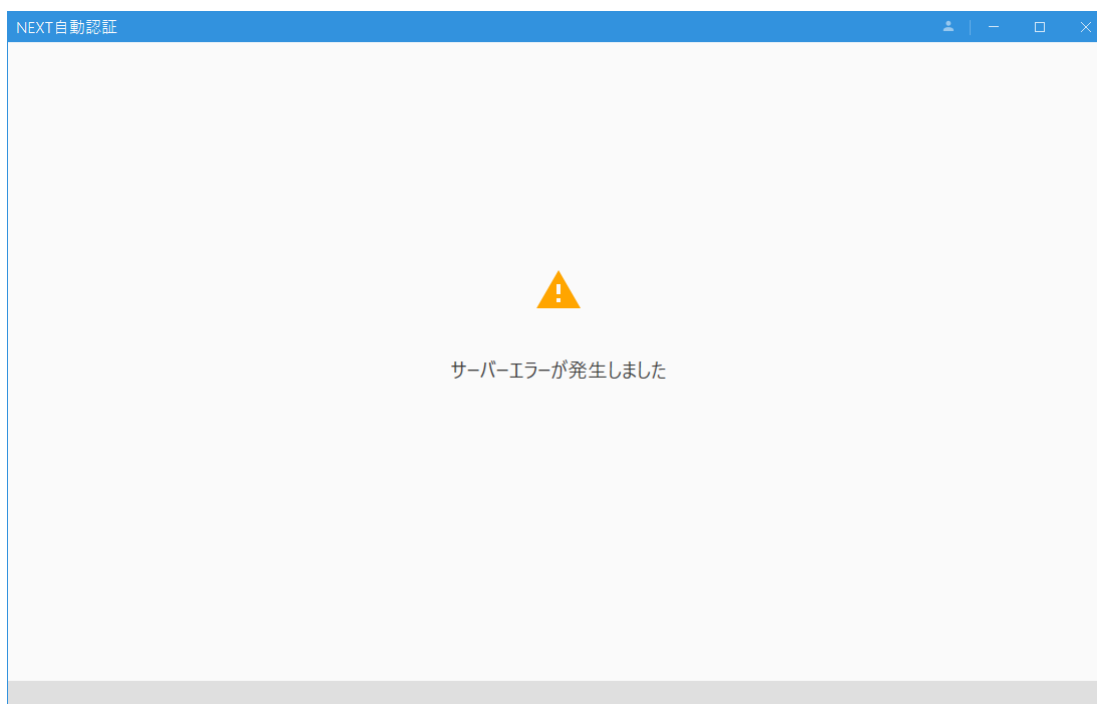
Info NEXT 自動認証クリエイターが正常にインストールされていない場合は、製品情報の取得に失敗することで以下のように表示されます。



10.3.14. エラーメッセージ

起動時エラー

NEXT 自動認証クリエイターは起動時に異常がある場合はエラーメッセージを表示します。



表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
サーバーエラーが発生しました	NEXT クライアント、または NEXT 自動認証クリエイターに何らかの障害が発生しています。 マシンを再起動して、再度 NEXT 自動認証クリエイターを実行してください。
アプリケーションの実行権限がありません	NEXT クライアントで NEXT 認証を行った NEXT ユーザーに実行権限がないため起動できませんでした。 NEXT 自動認証クリエイターを実行可能なロール設定については、「NEXT 自動認証クリエイターを利用できる NEXT ユーザーのロール設定」を参照してください。

エラーメッセージ	対処方法
ログインユーザーがありません	NEXT クライアントで NEXT 認証を行った NEXT ユーザーが取得できないため起動できませんでした。 改めて NEXT クライアントで NEXT 認証を実行した後、NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。 NEXT 自動認証クリエイターの起動手順は、「NEXT 自動認証クリエイターの起動手順」を参照してください。
アプリケーションエラーが発生しました	意図しない例外により起動できませんでした。 改めて NEXT クライアントで NEXT 認証を実行した後、NEXT 自動認証クリエイターを起動してください。

単項目検証エラー

NEXT 自動認証クリエイターは入力項目に異常がある場合、入力項目に対してエラーメッセージを表示しません。

新しい設定名

✖ 必須項目

表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
必須項目	必須項目に対して入力されていません。 入力してください。
N~N の範囲で入力してください (※「N」は数字)	数値の入力項目に対して、入力範囲外の数値が入力されています。 範囲内の数値を入力してください。

自動認証設定画面のテスト再生時エラー

自動認証設定画面のテスト再生時に失敗した場合はエラーメッセージを表示します。



表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法	操作タイプ
入力要素が見つかりません:%S	<p>操作する対象が見つかりませんでした。</p> <p>操作記録が正しく設定されていない可能性があるため操作記録時記録画面で再設定してください。</p> <p>操作記録が設定されている場合は、画面遷移やロードに時間がかかっている可能性があるため、編集時記録画面で「リトライ時間(秒)」を長めに調整してください。</p> <p>凡例： %S：コントロール要素情報エリアの AutomationId</p>	すべて
フォーカスセットできません	<p>操作する対象へのフォーカスセットに失敗しました。</p> <p>操作記録が正しく設定されていない可能性があるため操作記録時記録画面で再設定してください。</p>	キー送信操作
操作の実行に失敗しました	<p>自動操作の実行に失敗しました。</p> <p>改めて操作を再設定してください。</p>	すべて

自動認証設定インポートエラー

自動認証設定インポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。



表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
互換のないバージョンで作成されたため利用できません	自動認証ファイルがインストールされている自動認証クリエイターとバージョンの互換が取れないためインポートできませんでした。 インストールされている自動認証クリエイターで自動認証設定を再作成してください。
インポートエラー	上記以外のエラーによりインポートに失敗しました。 自動認証クリエイターを再起動した後に再度インポートしてください。 改善しない場合は、自動認証ファイルが破損している可能性があるため改めてエクスポートした後、再度インポートしてください。

自動認証設定エクスポートエラー

自動認証設定エクスポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。

×

エクスポート設定

設定値、テスト値も含めてエクスポートします。パスワード等の機密情報を入力している場合は予め設定から削除しておくことを推奨します。

タイトル
 勤怠システムのログイン 11 / 50

説明 0 / 50

エクスポート キャンセル

エクスポートエラー

表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
エクスポートエラー	エクスポートに失敗しました。 エクスポート先のパスが書き込みできる状態であるか確認し、改めてエクスポートしてください。

自動認証サンプルの読み込みエラー

自動認証サンプルの読み込みに失敗した場合は自動認証サンプルにエラーメッセージを表示します。



表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
このサンプルは使用できません	自動認証サンプルに不備があるため読み込みできませんでした。 自動認証サンプルの元となる自動認証設定をエクスポートして、改めて自動認証サンプルをインポートしてください。
互換のないバージョンで作成されたため利用できません	自動認証ファイルがインストールされている自動認証クリエイターとバージョンの互換が取れないため自動認証サンプルの読み込みができませんでした。 自動認証サンプルの元となる自動認証設定をエクスポートして、改めて自動認証サンプルをインポートしてください。

自動認証サンプルの読み込みに成功はしているが、コンテキストメニューの「読込」クリック時にエラーとなる場合は以下のように情報エリアにメッセージを表示します。

自動認証設定の読込に失敗しました

情報エリアに表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
自動認証設定の読込に失敗しました	自動認証サンプルデータに不備があるため読み込みできませんでした。 自動認証サンプルの元となる自動認証設定をエクスポートして、改めて自動認証サンプルをインポートしてください。

自動認証サンプルインポートエラー

自動認証サンプルインポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。



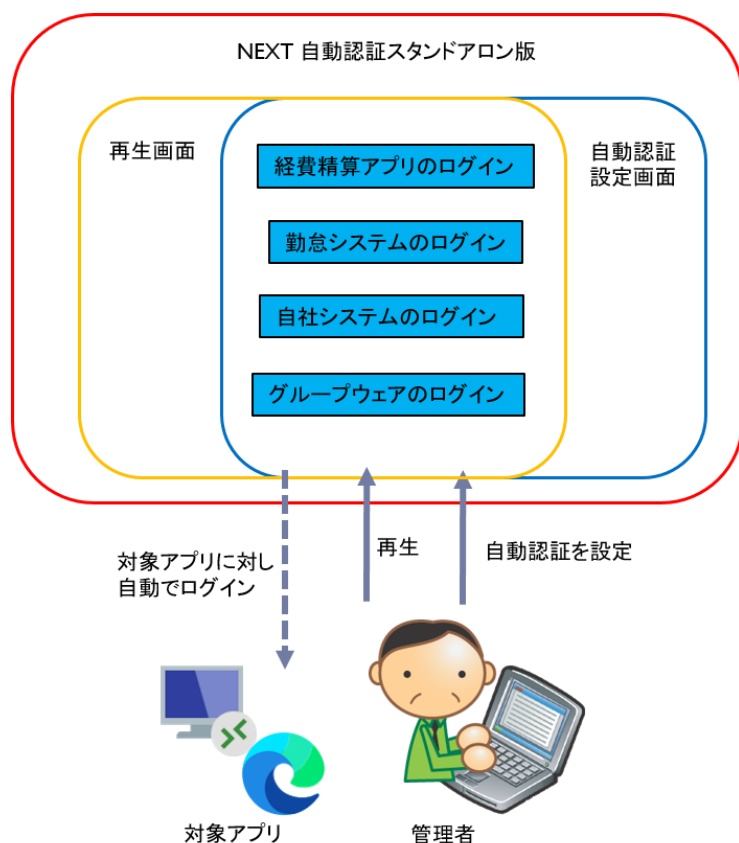
表示されるエラーメッセージと対処方法は以下のとおりです。

エラーメッセージ	対処方法
互換のないバージョンで作成されたため利用できません	自動認証ファイルがインストールされている自動認証クリエイターとバージョンの互換が取れないためインポートできませんでした。 インストールされている自動認証クリエイターからエクスポートして、改めてインポートしてください。
自動認証サンプル数が 100 件に達したためキャンセルしました	自動認証サンプルの登録件数が上限に達したため、インポートできませんでした。 使用予定のない自動認証サンプルを削除する等で登録件数を減らした後、改めてインポートしてください。
インポートエラー	上記以外のエラーによりインポートに失敗しました。 自動認証クリエイターを再起動した後に再度インポートしても再現する場合は、自動認証ファイルが破損している可能性があるため改めてエクスポートした後、再度インポートしてください。

10.4. NEXT 自動認証スタンドアロン版

NEXT 自動認証スタンドアロン版は NEXT 自動認証クリエイター、NEXT 自動認証プレイヤーを導入する前に管理者が自動認証の動作を確認するためのツールです。

自動認証スタンドアロン版は NEXT サーバー、NEXT クライアントを必要とせず、オフライン環境でも動作します。



NEXT 自動認証スタンドアロン版で設定した内容は Windows アカウント毎にファイルで保存します。ファイルの保存先は「%USERPROFILE%\%ARCACLAVIS NEXT%\AutoAuth」です。

Info 「%USERPROFILE%」は OS のユーザープロファイルを指す環境変数で、通常は「C:\Users\

ファイルは暗号化されるため、保存されている内容を直接ファイルから閲覧、編集することはできません。

10.4.1. 起動

NEXT 自動認証スタンドアロン版のセットアップ

NEXT 自動認証スタンドアロン版のインストールについては、「ARCACLAVIS NEXT セットアップガイド」を参照してください。

NEXT 自動認証スタンドアロン版の起動手順

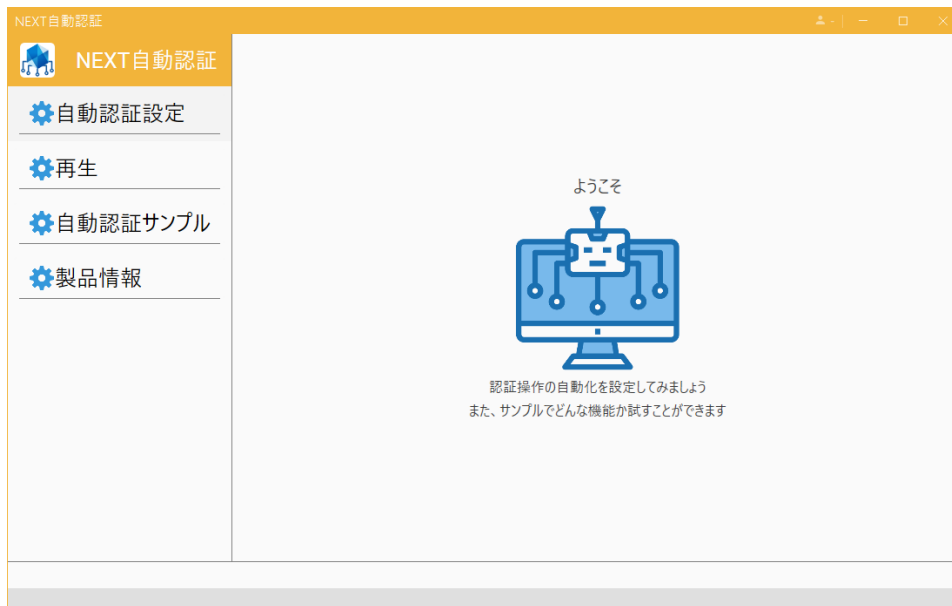
1. Windows のスタートメニューから「NEXT 自動認証スタンドアロン版」を実行します。



Info NEXT 自動認証スタンドアロン版をインストールすると、デスクトップに NEXT 自動認証スタンドアロン版のショートカットが作成されます。デスクトップのショートカットからも実行が可能です。



2. NEXT 自動認証スタンドアロン版が起動します。



10.4.2. 画面構成

NEXT 自動認証スタンドアロン版を起動するとメニュー画面が表示されます。

左側のメニューボタンエリアと右側のメニューコンテンツエリアから構成されています。各メニューをクリックすると、メニューコンテンツエリア、または画面遷移で表示されます。

タイトル名は、ヘッダーエリアに表示されます。

エラー等のメッセージは画面下の情報エリアに表示されます。



メニューに表示される項目は、以下のとおりです。

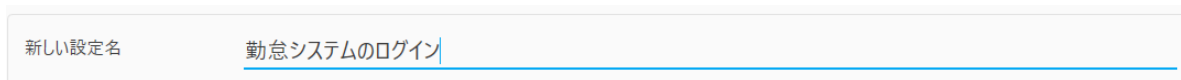
項目	説明
自動認証設定	自動認証設定メイン画面へ遷移します。 自動認証設定メイン画面については、「10.4.4. 自動認証設定」を参照してください。
再生	プレイヤーメイン画面へ遷移します。 プレイヤーメイン画面については、「10.4.5. 再生」を参照してください。
自動認証サンプル	自動認証サンプルメニューを表示します。 自動認証サンプルメニューについては、「10.4.6. 自動認証サンプル」を参照してください。
製品情報	製品情報メニューを表示します。 製品情報メニューについては、「10.4.7. 製品情報」を参照してください。

10.4.3. 基本操作

NEXT 自動認証スタンドアロン版での値の入力、選択などの基本操作を、例を用いながら説明します。

値の入力：

「設定名登録画面」の「設定名」などは入力規則に従った値を入力してください。



新しい設定名

エラー表示：

入力に不備がある場合は項目下にエラーメッセージを表示します。



新しい設定名 ✖ 必須項目

オン/オフの入力：

選択肢のオン、オフはクリックすることで切り替えることができます。

下図の例では、「オフ」状態を表しています。



フロー

 操作
実行ファイ
引数
リトライ時

下図の例では、「オン」状態を表しています。



フロー

 操作
実行ファイ
引数
リトライ時

順序入れ替え：

「自動認証設定画面」のフローパネルなどはドラッグ&ドロップで順序の入れ替えができます。

ドラッグ & ドロップで順序を入れ替える

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	ユーザーID入力操作 経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	経費精算アプリのID True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 自動入力設定値 編集許可 リトライ時間(秒)	パスワード入力操作 経費精算アプリのパスワード True 5
<input checked="" type="checkbox"/>		操作 リトライ時間(秒)	クリック操作 5

10.4.4. 自動認証設定

基本的な使い方

NEXT 自動認証スタンドアロン版で設定できる自動認証設定は基本的には NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定と同じ機能です。

NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定については、「10.3.7. 自動認証設定の基本操作、設定項目」、「10.3.8. 自動認証が対応できる要素」、「10.3.9. 自動認証設定の設定」、「10.3.10. さまざまな設定」を参照してください。

Info NEXT 自動認証スタンドアロン版には自動入力設定の機能はありません。パスワード入力操作やユーザーID 入力操作の自動入力値は「使用しない」が固定となります。

操作	ユーザーID入力操作
自動入力値	使用しない
ユーザーの編集を許可する	<input checked="" type="checkbox"/>

インポート

自動認証設定をインポートすることで、他の環境で作成された自動認証設定を使用することができます。自動認証設定のインポートは NEXT 自動認証クリエイターと同様に自動認証設定メイン画面から行います。

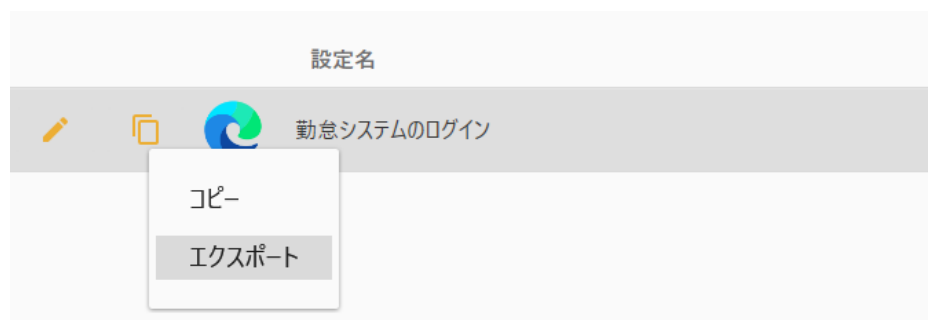


NEXT 自動認証クリエイターのインポートについては、「10.3.7. 自動認証設定の基本操作、設定項目」を参照してください。

エクスポート

NEXT 自動認証スタンドアロン版で作成した自動認証設定をエクスポートし、後の製品導入時にインポートすることで NEXT 自動認証クリエイターに自動認証設定を引き継ぐことができます。

自動認証設定のエクスポートは NEXT 自動認証クリエイターと同様に自動認証設定メイン画面から行います。



NEXT 自動認証クリエイターのエクスポートについては、「10.3.7. 自動認証設定の基本操作、設定項目」を参照してください。

10.4.5. 再生

自動認証設定で設定した内容を再生し、確認することができます。

NEXT 自動認証スタンドアロン版の再生は NEXT 自動認証プレイヤーの再生と同じ機能です。

NEXT 自動認証プレイヤーの再生については、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

10.4.6. 自動認証サンプル

あらかじめ設定した自動認証設定を自動認証サンプルとして使用できます。

NEXT 自動認証スタンドアロン版の自動認証サンプルは NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルと同じ機能です。

NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルについては、「10.3.12. 自動認証サンプル」を参照してください。

自動認証サンプルインポート

自動認証設定を自動認証サンプルとしてインポートすることで、他の環境で作成された自動認証設定を自動認証サンプルとして使用できます。

自動認証サンプルインポートは NEXT 自動認証クリエイターと同様に自動認証サンプルメニューから行います。

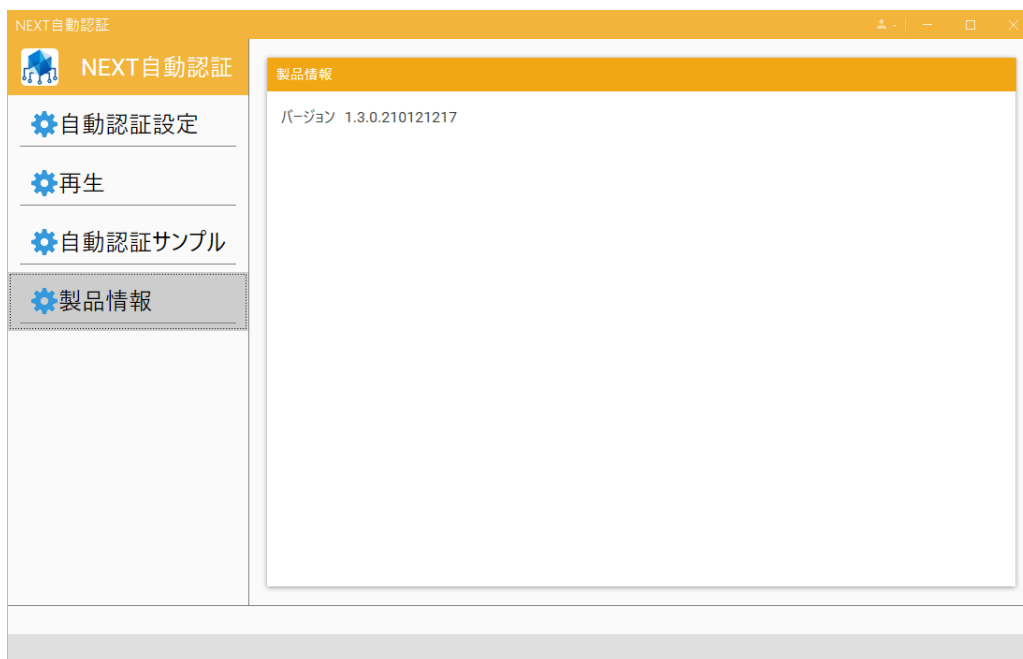


NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルインポートについては、「10.3.12. 自動認証サンプル」を参照してください。

10.4.7. 製品情報

NEXT 自動認証スタンドアロン版の製品情報を表示します。

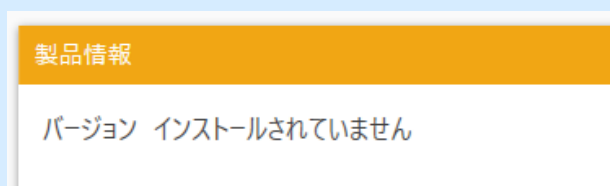
メニューの「製品情報」をクリックすることで製品情報メニューを表示します。



製品情報メニューの各項目についての説明は以下のとおりです。

項目	説明
バージョン	NEXT 自動認証スタンドアロン版のバージョンを表示します。

Info NEXT 自動認証スタンドアロン版が正常にインストールされていない場合は、製品情報の取得に失敗することで以下のように表示されます。



10.4.8. エラーメッセージ

単項目検証エラー

NEXT 自動認証スタンドアロン版は入力項目に異常がある場合、入力項目に対してエラーメッセージを表示します。

A screenshot of a form field with the placeholder text "新しい設定名" (New setting name). Below the field, there is a red horizontal line with a red asterisk icon and the text "必須項目" (Required item) to its right, indicating a validation error.

表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターの単項目検証エラーと同じです。

NEXT 自動認証クリエイターの単項目検証エラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

自動認証設定画面の再生時、およびテスト再生時エラー

自動認証設定画面の再生時、およびテスト再生時に失敗した場合はエラーメッセージを表示します。

A screenshot of an error message displayed in a grey box with a red border. The text reads "エラー:入力要素が見つかりません:login-submit" (Error: Input element not found: login-submit).

表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターのテスト再生時エラーと同じです。

NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定画面のテスト再生時エラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

自動認証設定インポートエラー

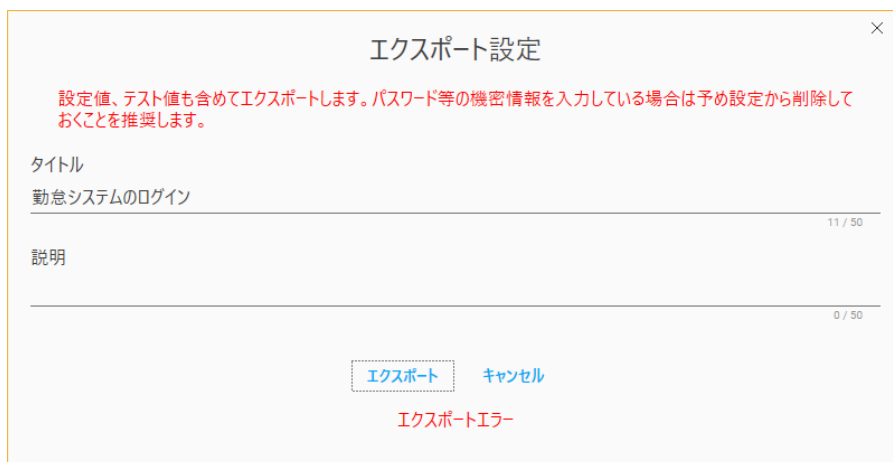
自動認証設定インポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。



表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定インポートエラーと同じです。NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定インポートエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

自動認証設定エクスポートエラー

自動認証設定エクスポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。



表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定エクスポートエラーと同じです。NEXT 自動認証クリエイターの自動認証設定エクスポートエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

自動認証サンプルの読み込みエラー

自動認証サンプルの読み込みに失敗した場合は自動認証サンプルにエラーメッセージを表示します。



表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルの読み込みエラーと同じです。NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルの読み込みエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

自動認証サンプルインポートエラー

自動認証サンプルインポートに失敗した場合はダイアログにエラーメッセージを表示します。



表示されるメッセージは NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルインポートエラーと同じです。NEXT 自動認証クリエイターの自動認証サンプルインポートエラーについては、「10.3.14. エラーメッセージ」を参照してください。

11. ログ管理

11.1. 概要

NEXT クライアントおよび NEXT マネージャーの認証やユーザー管理のログを、ログサーバーに収集することができます。収集した直近のログを NEXT マネージャーで閲覧することができます。また、ログを格納することができます。

ログサーバーには以下の機能があります。

・ログ格納機能

NEXT クライアントおよび NEXT マネージャーから受信したログを以下へ格納します。

- ・ローカル CSV ファイル
- ・顔画像ファイル

・ログ閲覧機能

NEXT マネージャーで直近のログを閲覧、検索することができます。NEXT マネージャーで閲覧できるログは、システム設定の「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」に依存します。それ以前のログは、ログ格納機能で格納された情報を参照してください。

Info ログ格納機能で格納された情報の長期保存やバックアップの機能は本製品にはありません。別途、利用状況に合わせてサイジングの上、長期保存やバックアップを行ってください。

Info 「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」の設定方法は、「ログ閲覧可能日数設定」を参照してください。

Info ログ格納機能の顔画像ファイルは、クライアント設定によっては、NEXT クライアントから NEXT サーバーへの送信が行われず、格納されません。設定方法は、「7.2.2. 利用する認証方式」を参照してください。

Info NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合、ログ格納機能、ログ閲覧機能の使用方法、構成が異なります。詳細は、「11.11. NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合」を参照してください。

11.2. ログの格納

NEXT クライアントおよび NEXT マネージャーの認証やユーザー管理のログの流れを以下に説明します。

ログ情報の収集

- NEXT クライアントがNEXT 認証などを行うとNEXT サーバーにログ情報をアップロードします。
- NEXT マネージャーにサインインや設定を行うとNEXT サーバーにログ情報をアップロードします。
- Active Directoryユーザーアップローダーなどのサブシステムが動作や設定を行うとNEXT サーバーにログ情報をアップロードします。

ログのローカルCSVファイル、顔画像ファイル出力

- タスクスケジューラーの"NEXTServerDeleteLog"が実行時間に動作すると、NEXT サーバーに蓄積されているログ情報をローカルCSVファイルに出力します。
- 顔画像ファイルを出力する設定の場合、NEXT クライアントでNEXT 認証などが行われ、NEXT サーバーにログ情報がアップロードされたタイミングで、顔画像ファイルが出力されます。

NEXT マネージャーのログ閲覧用のログ情報の削除

- タスクスケジューラーの"NEXTServerDeleteLog"が実行時間に動作すると、NEXT サーバーに蓄積されているログのうち、ログ情報のアップロード日時が、コントロール設定のシステム設定の「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」を超えているログ情報を削除します。

格納されたログのローカル CSV ファイル、顔画像ファイルについては、「11.7. ログの出力」を参照してください。

11.3. ログの閲覧

NEXT メニューの「ログ管理」では、受信した直近のログ一覧が表示されます。

ログ管理

検索条件

イベント	セキュリティ	クライアントIPアドレス	<input type="text"/>
レベル	すべて	クライアントPC名	<input type="text"/>
NEXTユーザーID	<input type="text"/>	メッセージ	<input type="text"/>
クライアント登録日時(開始)	yyyy/mm/dd --:--		
クライアント登録日時(終了)	yyyy/mm/dd --:--		

(1 - 20) 144

[20] [50] [100]

最初 前へ 1 2 3 4 5 6 7 8 次へ 最後

レベル	メッセージID	クライアント登録日時	アップロード日時	クライアントPC名	クライアントIPアドレス	NEXTユーザーID	クライアントバージョン	操作名	メッセージ
i	L000018	2022/06/24 17:01:26	2022/06/24 17:01:28	WIN10X64FCU-1	192.168.2.157	User1	1.2.0.206190024	Windows認証結果記録	Windows認証成功
i	L010009	2022/06/24 17:01:24	2022/06/24 17:01:28	WIN10X64FCU-1	192.168.2.157	User1	1.2.0.206190024	ICカード認証	認証成功

「ログ管理」から直近のログを検索して、閲覧することができます。メインパネルに表示されるログ一覧では、「アップロード日時」などの各項目名をクリックすることで、昇順/降順の並べ替えができます。

レベル	メッセージID	クライアント登録日時	アップロード日時	クライアントPC名	クライアントIPアドレス	NEXTユーザーID	クライアントバージョン	操作名	メッセージ
-----	---------	------------	----------	-----------	--------------	------------	-------------	-----	-------

メインパネルに表示されるログ一覧の上部には、総登録ログ数、ページ送りなどが表示されています。下図を例に説明します。

(1 - 20) 28

[20] [50] [100]
最初 前へ 1 2 次へ 最後

項目	説明
ログを表示している番号範囲	メインパネルのログ一覧に表示している番号範囲です。 図では、左の「(1-20)」と表示している部分です。
総登録ログ数	登録されているログ数です。 図では、左の「28」と表示している部分です。
1 ページで表示するログ数	1 ページで表示するログ数です。 20,50,100 から選択でき、クリックすることで、1 ページで表示するログ数を変更することができます。 図では、右の「[20] [50] [100]」と表示している部分です。
ページ送り	メインパネルのログ一覧のページ送りを行うことができる表示部分です。 図は、「[最初][前へ][1]….[次へ][最後]」と表示している部分です。

ログには内容により、種別を示す「イベント」と「レベル」があります。それぞれ以下のとおりです。

・イベント



項目	説明
セキュリティ	認証に関わる操作の種別です。 NEXT クライアントでのユーザーによる IC カード認証の成功/失敗、IC カードの登録の成功/失敗などが記録されます。
管理	管理に関わる操作の種別です。 NEXT マネージャーでのサインイン、クライアント設定の作成、ユーザーの作成、インポートによるユーザーの作成などの操作が記録されます。
アプリケーション	クライアントアプリケーションに関わる操作の種別です。 無料版ではアプリケーションに該当するイベントは存在しません。 エンタープライズ版では自動認証クリエイターで自動認証設定を更新しサーバー同期を実行、自動認証プレイヤーでユーザーID 入力操作の値を変更しサーバー同期を実行などの操作が記録されます。

・レベル



項目	説明
すべて	操作のすべての種別です。 NEXT クライアントでのユーザーによるすべての操作が記録されます。
情報	操作の成功の種別です。 NEXT クライアントでのユーザーによる IC カード認証の成功、IC カードの登録の成功などが記録されます。
エラー	操作の失敗、処理の失敗の種別です。 NEXT クライアントでのユーザーによる IC カード認証の失敗、IC カードの登録の失敗などが記録されます。

ログ一覧に表示される各列は、イベントにより異なります。それぞれ以下のとおりです。



・イベントが「セキュリティ」の各列

項目	説明
レベル	レベル種別をアイコンで表します。情報、エラーの種別があります。 例：  (情報)、  (エラー)
メッセージ ID	操作名とメッセージのセットを一意に識別する ID です。 例：L000018
クライアント登録日時	クライアントでログが登録された日時です。 例：2021/12/10 11:59:59
アップロード日時	サーバーにログがアップロードされた日時です。 例：2021/12/10 11:59:59
クライアント PC 名	クライアントのコンピューター名です。 例：ClientPC012
クライアント IP アドレス	クライアントの IP アドレスです。 例：192.168.100.200
NEXT ユーザー ID	認証時に使用された NEXT ユーザー ID です。 例：NEXTUser012
クライアントバージョン	クライアントのアプリケーションのバージョンです。 例：1.3.0.212261945
操作名	操作名を表示します。 例：IC カード
メッセージ	ログの本文です。 例：認証成功

・ イベントが「管理」の各列

項目	説明
レベル	レベル種別をアイコンで表します。情報、エラーの種別があります。 例：  (情報)、  (エラー)
メッセージ ID	操作名とメッセージのセットを一意に識別する ID です。 例：L000018
日時	サーバーにログがアップロードされた日時です。 例：2021/12/10 11:59:59
NEXT ユーザーID	認証時に使用された NEXT ユーザーID です。 例：NEXTUser012
メッセージ	ログの本文です。 例：サインイン認証成功

・ イベントが「アプリケーション」の各列

項目	説明
レベル	レベル種別をアイコンで表します。情報、エラーの種別があります。 例：  (情報)、  (エラー)
メッセージ ID	操作名とメッセージのセットを一意に識別する ID です。 例：P050001
クライアント登録日時	クライアントでログが登録された日時です。 例：2021/12/10 11:59:59
アップロード日時	サーバーにログがアップロードされた日時です。 例：2021/12/10 11:59:59
クライアント PC 名	クライアントのコンピューター名です。 例：ClientPC012
クライアント IP アドレス	クライアントの IP アドレスです。 例：192.168.100.200
NEXT ユーザーID	認証時に使用された NEXT ユーザーID です。 例：NEXTUser012
クライアントバージョン	クライアントのアプリケーションのバージョンです。 例：1.3.0.212261945
操作名	操作名を表示します。 例：コントロール設定同期
メッセージ	ログの本文です。 例：自動認証設定,自動入力設定

NEXT マネージャーで直近のログを閲覧する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. メインパネルにログ一覧が表示されます。

11.4. ログの検索

「ログ管理」ではNEXT ユーザーID/メッセージを入力して検索、イベント/アップロード日時などの条件で検索、組み合わせた検索ができます。

<条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件の「イベント」以外がすべてクリアされます。

・入力して検索

NEXT ユーザーID/メッセージなどで検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. 検索したい「NEXT ユーザーID」、「メッセージ」などを検索条件に入力します。
イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合は、「クライアント IP アドレス」と「クライアント PC 名」も検索条件として入力できます。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。
5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
6. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

・条件での検索

イベント/アップロード日時などの条件で検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. 検索条件の「イベント」、「レベル」を選択します。
4. イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合は、「クライアント登録日時(開始)」と「クライアント登録日時(終了)」で日時の範囲を指定できます。
イベントが「管理」の場合は、「日時(開始)」と「日時(終了)」で日時の範囲を指定できます。
5. <検索>ボタンをクリックしてください。
6. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
7. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

・組み合わせでの検索

検索は、各項目を組み合わせで行うことができます。以下に各項目について説明します。

項目	説明
イベント	イベントの種別を選択します。 検索条件：選択したイベントと完全一致
レベル	レベルの種別を選択します。 検索条件：選択したレベルと完全一致
NEXT ユーザーID	NEXT ユーザーID を入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 20 文字
クライアント IP アドレス ※イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合	クライアント IP アドレスを入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 40 文字
クライアント PC 名 ※イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合	クライアント PC 名を入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 30 文字
メッセージ	ログ本文を入力された文字列で検索します。 検索条件：完全一致、大文字小文字を区別しません。 文字数：最大 30 文字
クライアント登録日時(開始) ※イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合	クライアント登録日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。
クライアント登録日時(終了) ※イベントが「セキュリティ」、「アプリケーション」の場合	クライアント登録日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。

項目	説明
日時(開始) ※イベントが「管理」の場合	サーバー日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。
日時(終了) ※イベントが「管理」の場合	サーバー日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。

11.5. 顔認証ログの閲覧

NEXT マネージャーで直近の顔認証のログを閲覧する場合は、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「顔認証ログ」をクリックしてください。
3. メインパネルにログ一覧が表示されます。

顔認証ログ管理

検索条件

レベル

NEXTユーザーID

クライアント登録日時(開始)

クライアント登録日時(終了)









クライアントIPアドレス

クライアントPC名

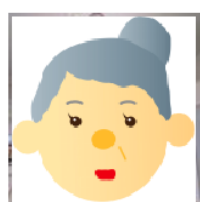
メッセージ

(1 - 12) 12 [20] [50] [100]

最初 前へ 1 次へ 最後

							
i User1	x User1	i User1	i User1	i User1	i User1	i User1	i User1
2021/12/20 11:29:13	2021/12/20 11:28:59	2021/12/20 11:28:12	2021/12/20 11:27:55	2021/12/20 11:27:20	2021/12/20 11:26:25	2021/12/20 11:19:30	2021/12/20 11:19:13
照合スコア:82	照合スコア:	照合スコア:100	照合スコア:85	照合スコア:84	照合スコア:79	照合スコア:100	照合スコア:100
IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193	IPアドレス:192.168.2.193
PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER	PC名:WIN10WAYSUSER
顔照合成功	認証エラー	顔照合成功	顔照合成功	顔照合成功	顔照合成功	顔照合成功	顔照合成功

4. ログ一覧の初期表示は、日時の降順で表示されます。
各顔画像ログの情報は、以下のとおりです。



i User1

2021/12/20
11:29:13

照合スコア:82

IPアドレス:192.168.2.193

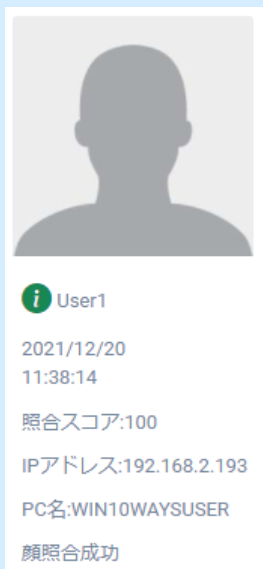
PC名:WIN10WAYSUSER

顔照合成功

項目	説明
アイコン	レベルの種別をアイコンで表示します。 i アイコンは「情報」、 x アイコンは「エラー」のそれぞれのレベルを表します。
NEXT ユーザーID	NEXT ユーザーID を表示します。
クライアント登録日時	顔画像をキャプチャし認証を行った時のクライアント日時です。
照合スコア	顔認証の照合を行った時のスコアです。0~100 で表され、数値が高いほど、登録されている顔画像とのマッチング率が高いことを表します。
クライアント IP アドレス	クライアント IP アドレスを表示します。
クライアント PC 名	クライアント PC 名を表示します。
メッセージ	ログ本文を表示します。

Info 顔認証ログには、顔画像がないログは表示されません。顔画像がない顔認証に関するログは、「ログ管理」を閲覧、検索してください。

Info クライアント設定の利用する認証方式の「顔認証」の「認証時の顔画像を送信しない」をオンにすると、顔画像が NEXT クライアントから送信されません。その場合、顔認証ログでは、以下のように表示されます。顔画像以外の情報は送信され表示されます。



11.6. 顔認証ログの検索

「顔認証ログ」ではNEXT ユーザーID/メッセージを入力して検索、レベル/クライアント登録日時などの条件で検索、組み合わせた検索ができます。

・入力して検索

NEXT ユーザーID/メッセージなどで検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「顔認証ログ」をクリックしてください。
3. 検索したい「NEXT ユーザーID」、「メッセージ」などを検索条件に入力します。
4. <検索>ボタンをクリックしてください。
5. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
6. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

・条件での検索

レベル/クライアント登録日時などの条件で検索するには、以下の手順で行います。

1. NEXT マネージャーの管理者ポータルにサインインしてください。
2. メニューの「顔認証ログ」をクリックしてください。
3. 検索条件の「レベル」を選択します。
4. 「クライアント登録日時(開始)」と「クライアント登録日時(終了)」で日時の範囲を指定できます。
5. <検索>ボタンをクリックしてください。
6. メインパネル下部に検索結果が表示されます。
7. <条件クリア>ボタンをクリックすると、検索条件がすべてクリアされます。

・組み合わせでの検索

検索は、各項目を組み合わせで行うことができます。以下に各項目について説明します。

項目	説明
レベル	レベルの種別を選択します。 検索条件：選択したレベルと完全一致
NEXT ユーザーID	NEXT ユーザーID を入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 20 文字
クライアント IP アドレス	クライアント IP アドレスを入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 40 文字
クライアント PC 名	クライアント PC 名を入力された文字列で検索します。 検索条件： エンタープライズ版：完全一致、大文字小文字・全角半角を区別しません。 無料版：完全一致、大文字小文字は区別しません。全角半角は区別されます。 文字数：最大 30 文字
クライアント登録日時(開始)	クライアント登録日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。
クライアント登録日時(終了)	クライアント登録日時の範囲を直接入力、または[カレンダー]アイコンをクリックして日付と時間の選択を行います。

11.7. ログの出力

ログの出力は、ログ格納機能により、NEXT クライアントおよび NEXT マネージャーから受信したログをログサーバーで以下へ格納します。

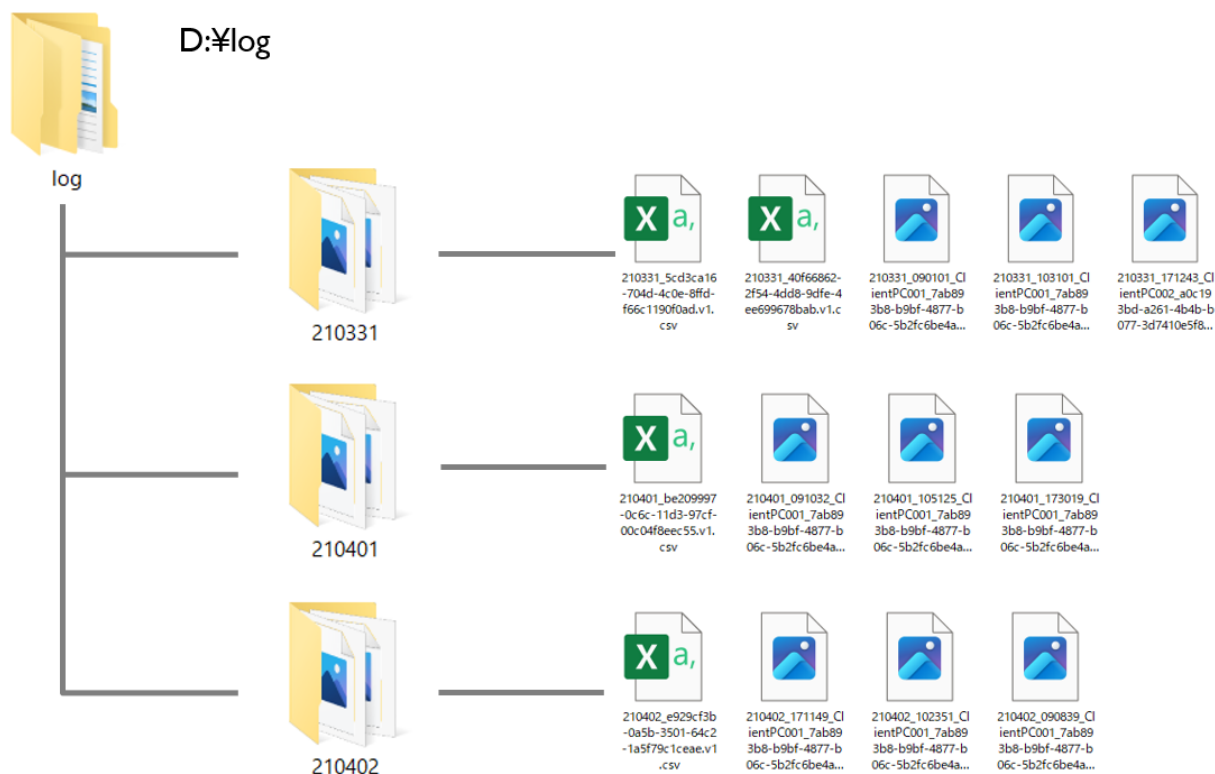
- ・ローカル CSV ファイル
- ・顔画像ファイル

ログサーバーの格納構成は以下のとおりです。

項目	説明
ログフォルダ	<p>ログサーバーの「ローカル CSV ファイル」、「顔画像ファイル」の出力先フォルダです。</p> <p>任意の場所を指定してください。</p> <p>設定は、「ログ格納先設定」を参照してください。</p>
日別ログフォルダ	<p>ログフォルダの中に日付単位でフォルダを生成して保存します。</p> <p>例：2021/4/1 の場合、「210401」フォルダ</p>
ローカル CSV ファイル	<p>ログを保存する CSV ファイルです。日付単位で生成して保存します。</p> <p>CSV ファイル名は、「[日付]_[GUID].[ログバージョン].csv」となります。</p> <p>例：2021/4/1 の GUID「40f66862-2f54-4dd8-9dfe-4ee699678ba」、ログバージョン「v1」の場合、「210401_40f66862-2f54-4dd8-9dfe-4ee699678ba.v1.csv」ファイル</p> <p>GUID は、オフラインの NEXT クライアントが存在して、例えば、3 日後に NEXT クライアントが NEXT サーバーとオンラインとなり、ログ情報がアップロードされ、その翌日以降にタスクスケジューラの「NEXTServerDeleteLog」が実行された際に出力されたとき、同じファイル名で上書きされないように GUID を付加して異なるファイル名としています。ログバージョンは将来的にログのフォーマットが変わった際に判別するために付加しています。</p>
顔画像ファイル	<p>顔認証時の顔画像ファイルです。認証単位で生成して保存します。ファイル名には、一意性を保つため、クライアント PC 名の他に、レコード ID が付加されます。</p> <p>例：2021/4/1 11:59:59 のクライアント PC 名「ClientPC012」、レコード ID「8cb893b8-b9bf-4877-b06c-5b2fc6be4a2e」の場合、「210401_115959_ClientPC012_8cb893b8-b9bf-4877-b06c-5b2fc6be4a2e.png」ファイル</p> <p>クライアント設定の利用する認証方式の「顔認証」の「認証時の顔画像を送信しない」をオンにすると、顔画像が NEXT クライアントから送信されず、顔画像ファイルも出力されません。この設定については、「7.2.2. 利用する認証方式」を参照してください。</p>

下図は以下の条件のときの格納構成の例です。

- 「ログフォルダ」を「D:¥log」と設定している。
- 2021年3月31日から利用開始され、2021年4月2日までのログがログサーバーで受信され、格納された。
- 顔認証が行われ、画像ファイルが保存されている。



Info NEXT クライアントからログサーバーへのログのアップロードは、Windows へのサインイン時に行われます。オフライン期間が長い場合などで多数のログが NEXT クライアントにある場合や、アップロード時の通信エラー時は、5分間隔で3回まで再試行します。3回連続でエラーの場合、翌日（次の日付）に再送します。



バージョン 1.4.9 より前は、以下の仕様でログの出力が行われていました。

- ・ローカル CSV ファイルや顔画像ファイルは、NEXT クライアントで NEXT 認証が行われるなどして、NEXT サーバーにログがアップロードされる都度、出力します。
- ・ローカル CSV ファイルのファイル名は、2021/4/1 の場合、210401.csv として出力します。
- ・NEXT マネージャーのログ閲覧用のログ情報の削除は、タスクスケジューラの "NEXTServerDeleteLog" が実行時間の動作時に、クライアント日時が、コントロール設定のシステム設定の「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」を超えているログ情報を削除します。

バージョン 1.4.9 以降からは、以下の仕様でログの出力が行われます。

- ・ローカル CSV ファイルは、タスクスケジューラの "NEXTServerDeleteLog" が実行時間の動作時に、前日までのログ情報を一括で出力します。
- ・顔画像ファイルは、NEXT クライアントで NEXT 認証が行われるなどして、NEXT サーバーにログがアップロードされる都度、出力します。
- ・ローカル CSV ファイルのファイル名は、2021/4/1 の場合、210401_{GUID}_{ログバージョン}.csv として出力します。
- ・NEXT マネージャーのログ閲覧用のログ情報の削除は、タスクスケジューラの "NEXTServerDeleteLog" が実行時間の動作時に、ログ情報のアップロード日時が、コントロール設定のシステム設定の「NEXT マネージャーでのログ閲覧可能日数」を超えているログ情報を削除します。
- ・1.4.9 より前のバージョンの時点でローカル CSV ファイルの出力が失敗していて、かつログが NEXT サーバーに残っている場合、タスクスケジューラの "NEXTServerDeleteLog" が実行時間の動作時に、前日までの失敗していたログ情報を合わせて一括で出力します。

1.4.9 より前のバージョンから 1.4.9 以降にバージョンアップした場合は、ログの出力フォルダにローカル CSV ファイルが、たとえば、2021/4/1 の場合、210401.csv、210401_40f66862-2f54-4dd8-9dfe-4ee699678bab.v1.csv、210401_5cd3ca16-704d-4c0e-8ffd-f66c1190f0ad.v1.csv のように出力されます。

2021 年 4 月 1 日の場合で、オフラインの NEXT クライアントから後日、ログがアップロードされた場合の例：

CSV ファイル名	説明
210401.csv	1.4.9 より前のバージョン時のローカル CSV ファイルです。
210401_40f66862-2f54-4dd8-9dfe-4ee699678bab.v1.csv ※4月2日にタスクスケジューラの"NEXTServerDeleteLog"が実行されたときに出力 ※バージョン 1.4.9 より前の時点でローカル CSV ファイルの出力が失敗していて、かつログが NEXT サーバーに残っている場合、4月2日にタスクスケジューラの"NEXTServerDeleteLog"が実行されたときに合わせて本ファイルに出力	1.4.9 以降にバージョンアップ後の翌日以降に、タスクスケジューラの"NEXTServerDeleteLog"が実行されたときのローカル CSV ファイルです。 GUID が異なる同日付のローカル CSV ファイルが出力されるのは、オフラインの NEXT クライアントが存在して、たとえば、3 日後に NEXT クライアントが NEXT サーバーとオンラインとなり、ログ情報がアップロードされ、その翌日以降にタスクスケジューラの"NEXTServerDeleteLog"が実行された際に出力されます。同じファイル名で上書きされないように GUID を付加して異なるファイル名としています。ログバージョンは将来的にログのフォーマットが変わった際に判別するために付加しています。
210401_5cd3ca16-704d-4c0e-8ffd-f66c1190f0ad.v1.csv ※オフラインの NEXT クライアントが、3 日後にオンラインになったときの翌日にタスクスケジューラの"NEXTServerDeleteLog"が実行されたときに出力	

11.8. ローカル CSV ファイルの出力失敗

ログ格納機能が失敗したかどうかは、ログ閲覧機能および Windows イベントログの両方の出力で確認できます。

ログ格納機能の成功失敗は、イベント「管理」に出力されます。
検索方法については、「11.4. ログの検索」を参照してください。

◆ログ閲覧機能での確認方法

ログ格納機能に失敗した場合、管理ログに「CSV ログ出力失敗」のメッセージが出力されます。

ログ管理

検索条件

イベント: 管理 メッセージID:

レベル: すべて

NEXTユーザーID:

アップロード日時(開始): yyyy/mm/dd --:--

アップロード日時(終了): yyyy/mm/dd --:--

(1 - 7) 7 [20] [50] [100]

最初 前へ 1 次へ 最後

レベル	メッセージID	アップロード日時	NEXTユーザーID	メッセージ
i	P000009	2024/03/07 11:41:02	Setup.Support	ログ削除成功(24/01/07より前 0件)
x	M140002	2024/03/07 11:41:02	Setup.Support	CSVログ出力失敗: 4/03/06 Access to the path 'C:\ProgramData\ARCACLAVIS\NEXT\240306\240306_86ecb3a9-b3ee-4c5e-b8cf-9b24525da593.v1.csv' is denied.)

◆Windows イベントログでの確認方法

ログ格納機能に失敗した場合、Windows のイベントログに「CSV ログ出力失敗」のメッセージが出力されます。

レベル	ソース	メッセージ
エラー	ARCACLAVIS NEXT	<p>CSV ログ出力失敗(%S [補足メッセージ]) %S には CSV ログ出力に失敗した対象日が入ります。 補足メッセージには CSV ログ出力に失敗した要因となる例外メッセージが入ります。 凡例 : Access to the path '[CSV ファイルの出力先のパス]' is denied;</p> <p>※凡例の補足メッセージの場合、CSV ファイル出力時にシステム設定画面で設定された「ログ格納先ディレクトリ」にアクセスができないというメッセージですので、アクセス権をご確認ください。その他補足メッセージの内容に従って対応してください。</p>

ログ格納機能が失敗していた場合は、ログ閲覧機能、または Windows イベントログに出力されているエラーメッセージを参照して対応してください。

11.9. ログの一覧

出力されるログの一覧は、「ARCACLAVIS NEXT ログ出力内容一覧」を参照してください。

11.10. ログ管理用タスクスケジューラの時間変更

NEXT サーバーに蓄積されているログをローカル CSV ファイルへ出力、および NEXT マネージャーで閲覧できるログを一定の期間で削除するためのタスクスケジューラが登録されています。

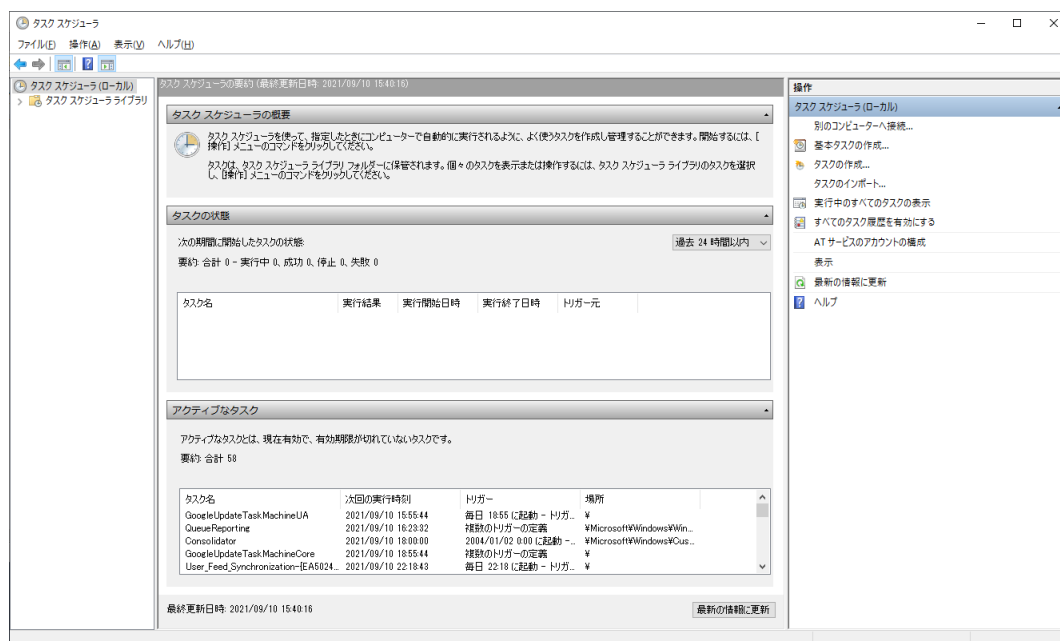
初期設定では AM1:00 に設定されています。ログ管理用タスクスケジューラの実行時間を変更したい場合は以下の手順で変更を行ってください。

1. NEXT サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

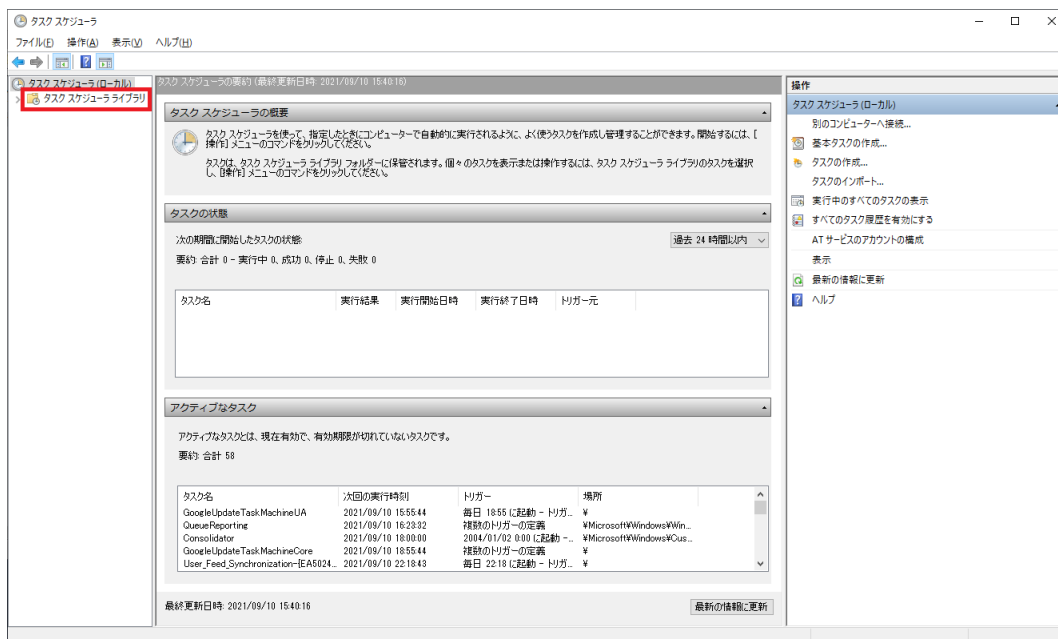
Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT 管理サーバーとログサーバーの分離構成時は、NEXT 管理サーバーとログサーバーのそれぞれで時間変更が必要です。詳細は、「11.11. NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合」を参照してください。

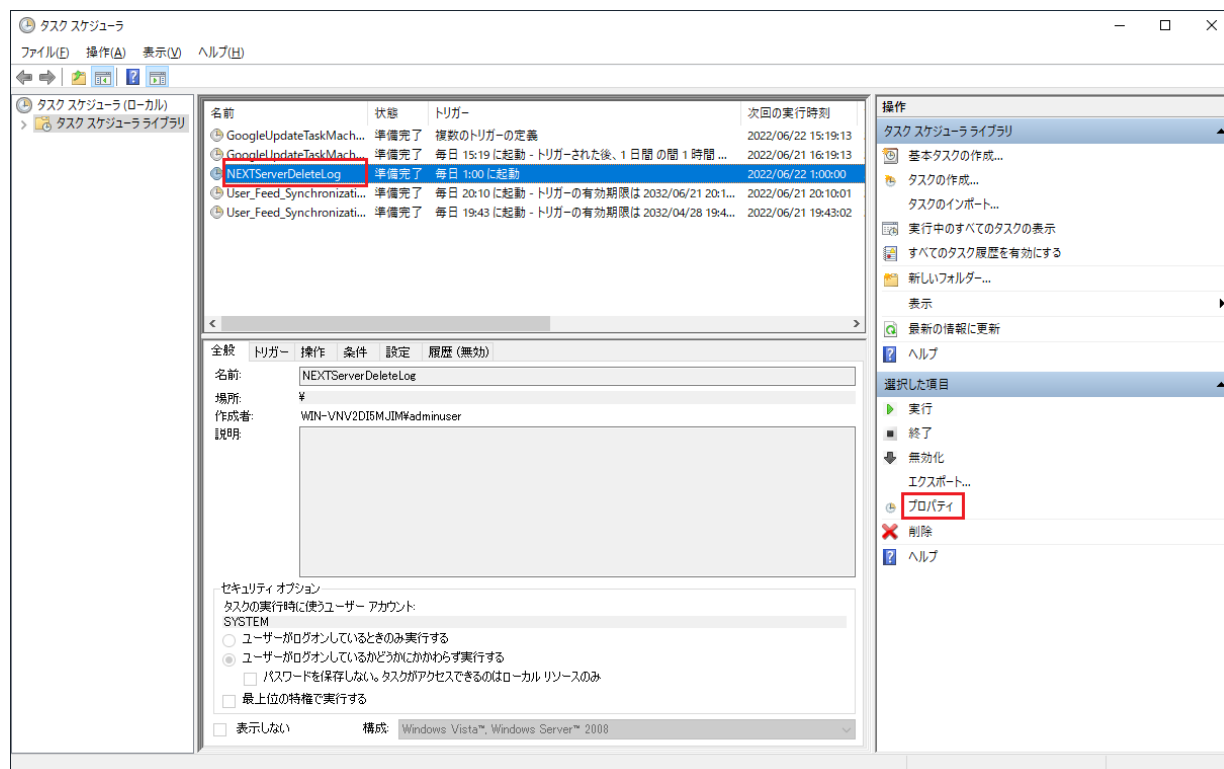
2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。



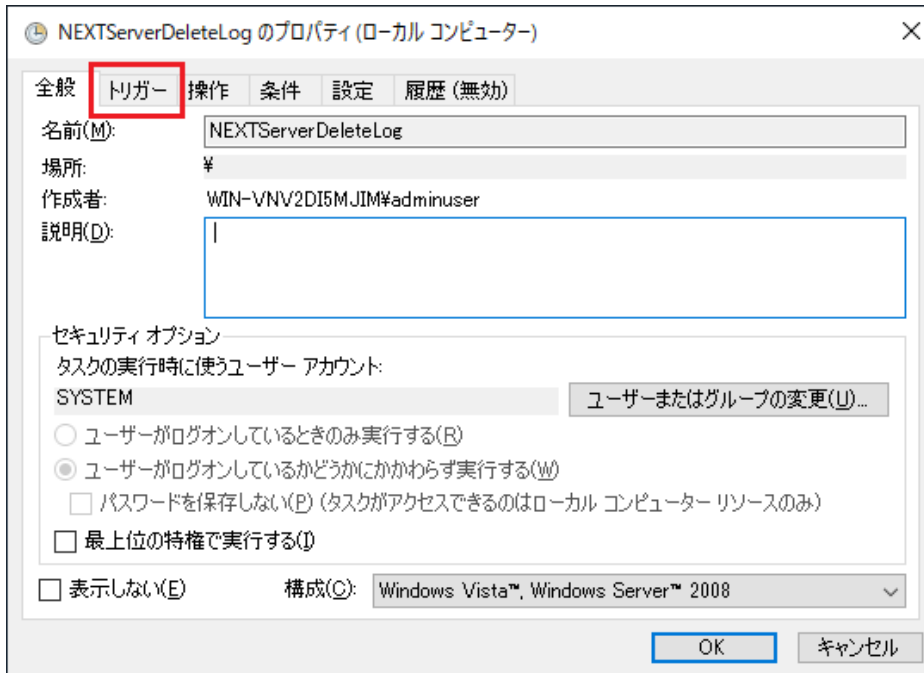
3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



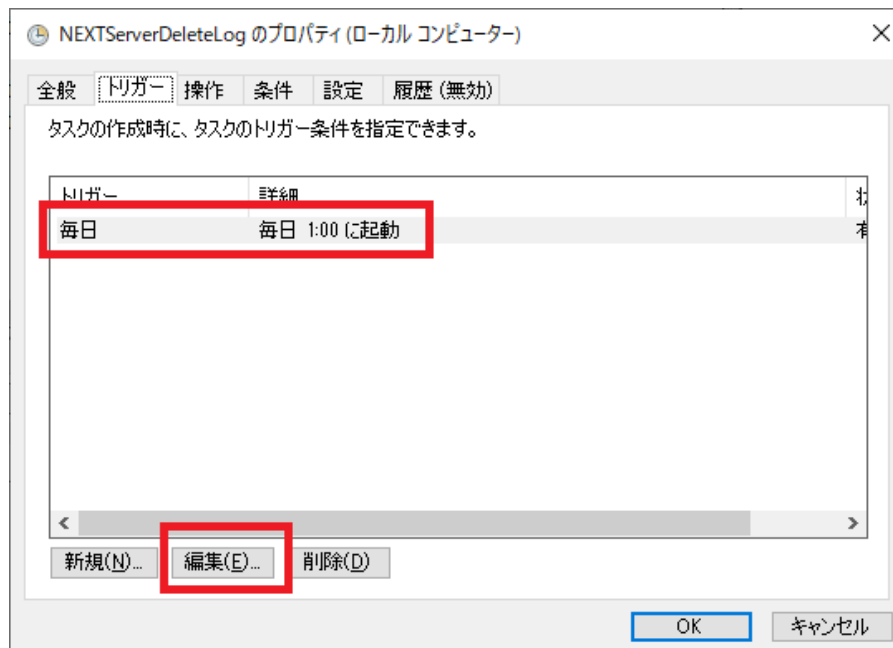
4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。「NEXTServerDeleteLog」を選択し、「操作」ウィンドウの「プロパティ」をクリックします。



5. 「NEXTServerDeleteLog」のプロパティ画面が表示されます。「トリガー」タブをクリックします。



6. 「トリガー：毎日、詳細：毎日 1:00 に起動」のトリガーを選択して<編集>をクリックします。



7. 「トリガーの編集」画面が表示されます。NEXT サーバーに蓄積されているログをローカル CSV ファイルへ出力、および NEXT マネージャーで閲覧できるログを一定の期間で削除したい時間に変更し、<OK>をクリックして設定は完了です。

トリガーの編集

タスクの開始(G): スケジュールに従う

設定

1回(N) 毎日(D) 毎週(W) 毎月(M)

開始(S): 2021/09/07 1:00:00 タイムゾーン間で同期(Z)

間隔(C): 1 日

詳細設定

遅延時間を指定する(ランダム)(K): 1 時間

繰り返し間隔(P): 1 時間 継続時間(E): 1 日間

繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する(O)

停止するまでの時間(L): 3 日間

有効期限(X): 2022/09/09 16:24:14 タイムゾーン間で同期(E)

有効(B)

OK キャンセル

11.11.NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合

ログの保存先、閲覧

管理ログ、セキュリティログ、顔認証ログの保存先、閲覧手順は NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合、それぞれで異なります。

管理ログ、セキュリティログ、顔認証ログの保存先は以下のとおりです。

ログの種類	保存先
管理ログ	NEXT 管理サーバー
セキュリティログ	NEXT ログサーバー
顔認証ログ	NEXT ログサーバー

Info 管理ログは NEXT ログサーバーでも出力されますが、NEXT ユーザーの管理やクライアント設定が存在しないため、出力されるログは NEXT マネージャーへのサインインやシステム設定の登録等に限られます。

Info セキュリティログ、顔認証ログはクライアント設定の「NEXT ログサーバーURL」で設定したログサーバーに保存されます。

閲覧手順はそれぞれ以下のとおりです。

◆ 管理ログの閲覧手順

1. ロールとして「管理者」を設定した NEXT ユーザーでサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. 検索条件の「イベント」を「管理」に変更してください。
4. メインパネルに管理ログが一覧表示されます。

◆ セキュリティログの閲覧手順

1. NEXT ログサーバーの NEXT マネージャーにビルトインユーザーでサインインしてください。
2. メニューの「ログ管理」をクリックしてください。
3. メインパネルにセキュリティログが一覧表示されます。

Info 管理ログ、セキュリティログの検索手順は、「11.4. ログの検索」を参照してください。

◆ 顔認証ログの閲覧手順

1. NEXT ログサーバーのNEXT マネージャーにビルトインユーザーでサインインしてください。
2. メニューの「顔認証ログ」をクリックしてください。
3. メインパネルに顔認証ログ一覧が表示されます。

Info 顔認証ログの表示内容の詳細は、「11.5. 顔認証ログの閲覧」を参照してください。

Info 顔認証ログの検索手順は、「11.6. 顔認証ログの検索」を参照してください。

11.11.1. NEXT ログサーバーのユーザー管理

NEXT ログサーバーにNEXT ユーザーの新規追加、削除の機能はありません。そのためNEXT ログサーバーのNEXT マネージャーはビルトインユーザーでサインインしてください。

Info 初期設定時のNEXT マネージャーにサインインできるNEXT ユーザーID、パスワードは以下です。

NEXT ユーザーID : admin

NEXT パスワード : password

NEXT ユーザー名 : 管理者(ビルトイン)

Info NEXT 管理サーバーでの管理ログの閲覧はロールに「管理者」を設定したユーザーを作成することでビルトインユーザー以外のユーザーでも閲覧できます。

11.11.2. CSV ファイル、顔画像ファイルの保存先

ローカル CSV ファイル、顔画像ファイルの保存先は NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合で異なります。

ローカル CSV ファイル、顔画像ファイルの保存先は以下のとおりです。

ログファイル	保存先
管理ログのローカル CSV ファイル	NEXT 管理サーバーに保存されます。 保存パスは NEXT 管理サーバーの NEXT マネージャーで設定します。 設定方法は、「ログ格納先設定」を参照してください。
セキュリティログのローカル CSV ファイル	NEXT ログサーバーに保存されます。 保存パスは NEXT ログサーバーの NEXT マネージャーで設定します。 設定方法は、「ログ格納先設定」を参照してください。
顔画像ファイル	NEXT ログサーバーに保存されます。 保存パスは NEXT ログサーバーの NEXT マネージャーで設定します。 設定方法は、「ログ格納先設定」を参照してください。

11.11.3. システム設定

ログ格納先設定を含めたシステム設定は NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合、それぞれのサーバーで設定します。

NEXT 管理サーバーで設定したシステム設定は NEXT 管理サーバーにのみ適用され、NEXT ログサーバーで設定したシステム設定は NEXT ログサーバーにのみ適用されます。

Info システム設定方法は、「5.3.2. システム設定」を参照してください。

11.11.4. ログ管理用タスクスケジューラの時間変更

NEXT サーバーに蓄積されているログをローカル CSV ファイルへ出力、および NEXT マネージャーで閲覧できるログを一定の期間で削除するためのタスクスケジューラは NEXT 管理サーバーと NEXT ログサーバーの分離構成の場合、それぞれのサーバーで登録されています。

NEXT 管理サーバーのログ管理用タスクスケジューラの時間変更を行う場合は NEXT 管理サーバーに Windows サインインを行い、NEXT ログサーバーのログ管理用タスクスケジューラの時間変更を行う場合は NEXT ログサーバーに Windows サインインを行いタスクスケジューラの設定を行ってください。

Info Windows サインイン後のタスクスケジューラの時間変更手順は、「11.10. ログ管理用タスクスケジューラの時間変更」を参照してください。

12. バックアップ

12.1. 概要

NEXT サーバーのデータベースファイルをバックアップする手順について記します。
バックアップの対象となるデータベースは以下があります。

- NEXT 管理 DB ファイル
ユーザー情報やクライアント設定などのアプリケーションに関連するデータが保存されたデータベースファイルです。
- NEXT ログ DB ファイル
NEXT マネージャーで閲覧できるログデータが保存されたデータベースファイルです。
- NEXT コントロール設定 DB ファイル
NEXT マネージャーで設定する「コントロール設定」に関連するデータが保存されたデータベースファイルです。

Info ローカル CSV ファイルと顔画像ファイルは、そのままバックアップが可能ですので、本書では、NEXT サーバーのデータベースについて説明します。

バックアップの対象外となるデータベースは以下があります。

- NEXT ジョブ DB ファイル
NEXT ユーザー情報のインポートなどの時間のかかる処理を登録順に実行するためのジョブ情報を保存するデータベースファイルです。
ジョブ情報は一時的な情報のため、バックアップは不要です。
ジョブの結果はログ管理で確認できます。
詳細は、「11. ログ管理」を参照してください。

バックアップ設定の流れは以下となります。

1. バックアップ用バッチファイルの作成
2. 定期的なバックアップ実行のタスクスケジューラ登録
※データベースファイルのバックアップは定期的に行うことをお勧めします。
3. バックアップを手動実行し、動作の確認（タスクスケジューラから手動実行）

12.2. NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをバックアップする

NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルのバックアップを定期的に行う設定の手順について説明します。

12.2.1. バックアップ用バッチファイルを作成

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows アクセサリ]-[メモ帳]を選択してメモ帳を開き、下記内容をコピーしてメモ帳に貼り付けてください。

```
@echo off

: **** DB パスワードの設定 ****
: DB パスワードが「password」の場合は、「set PGPASSWORD=password」となります。
set PGPASSWORD=password

: **** pg_dump.exe の配置場所 ****
: postgresQL のインストール先が「C:¥Program Files¥PostgreSQL」の場合は
: 「set PGDUMPPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"」となります。
set PGDUMPPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"

: **** バックアップファイル名 ****
: バックアップファイルを「C:¥backup¥appdb_YYMMDD_hhmmss.dump」としたい場合は
: 「set PGBKUPAPPPATH="C:¥backup¥appdb"」となります。 注) 拡張子は不要です
set PGBKUPAPPPATH="C:¥backup¥appdb"
set PGBKUPCTLPATH="C:¥backup¥controldb"

: **** バックアップする DB 名 ****
: 「NEXT 管理 DB ファイル」をバックアップする場合は「set PGBKUPAPPPFILE=appdb」、
: 「NEXT コントロール設定 DB ファイル」をバックアップする場合は
: 「set PGBKUPCTLFILFILE=controldb」となります。
set PGBKUPAPPPFILE=appdb
set PGBKUPCTLFILFILE=controldb
```

```
set d=%date%
set yyyy=%d:~-10,4%
set mm=%d:~-5,2%
set dd=%d:~-2,2%
set t=%time: =0%
set hh=%t:~0,2%
set mn=%t:~3,2%
set ss=%t:~6,2%
%PGDUMPPATH%¥pg_dump -Fc -w -p 5432 -U postgres -
f %PGBKUPAPPPATH%_%yyyy%%mm%%dd%_%hh%%mn%%ss%.dump %PGBKUPAPPF
ILE%
if not "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** NEXT 管理 DB ファイルのバックアップに失敗しました。 *****
exit /b 1
)
%PGDUMPPATH%¥pg_dump -Fc -w -p 5432 -U postgres -
f %PGBKUPCTLPATH%_%yyyy%%mm%%dd%_%hh%%mn%%ss%.dump %PGBKUPCTLF
ILE%
if "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** バックアップが正常に終了しました。 *****
    exit /b 0
) else (
    echo ***** NEXT コントロール設定 DB ファイルのバックアップに失敗しました。 *****
    exit /b 1
)
```

3. コピーした内容の下記をご使用の環境に合わせて修正してください。

項目	説明
DB パスワードの設定	NEXT サーバーのインストール時に「データベースパスワード設定画面」で設定したパスワードを設定してください。
pg_dump.exe の配置場所	NEXT サーバーのインストールでは、通常、「C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin」となります。
バックアップファイル名	バックアップファイルの保存ファイル名になります。 ※例示の BAT では、バックアップ実行時の“年月日_時分秒”がファイル名の末尾に自動的に付加されます。 ※ファイル拡張子は「.dump」となります（設定時は拡張子不要）。 ※任意のファイル名で構いません。
バックアップする DB 名	バックアップする DB 名になります。 NEXT 管理 DB ファイルをバックアップする場合は「appdb」を、 NEXT コントロール設定 DB ファイルをバックアップする場合は「controldb」を設定してください。

4. 修正したファイルを任意の場所に、拡張子「.bat」として保存してください。

※例として「C:¥backup」に「appdb_controldb_bkup.bat」というファイル名で保存したものとして説明します。

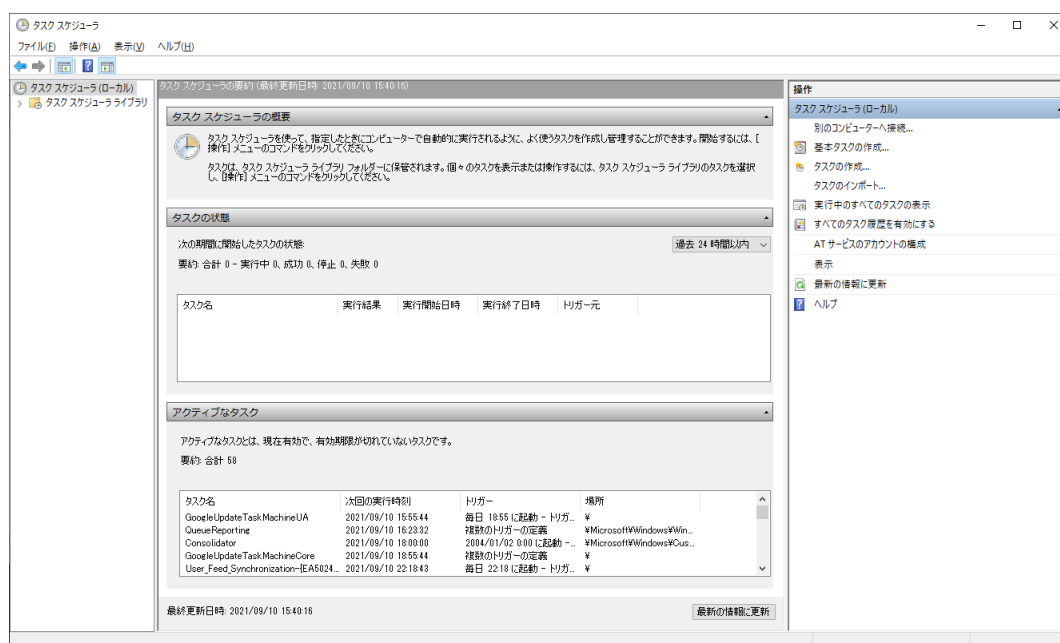
12.2.2. バッチファイルをタスクスケジューラに登録

例として、「12.2.1. バックアップ用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを、毎日 AM3:00 にバックグラウンドで実行するタスクスケジューラ登録の手順を説明します。

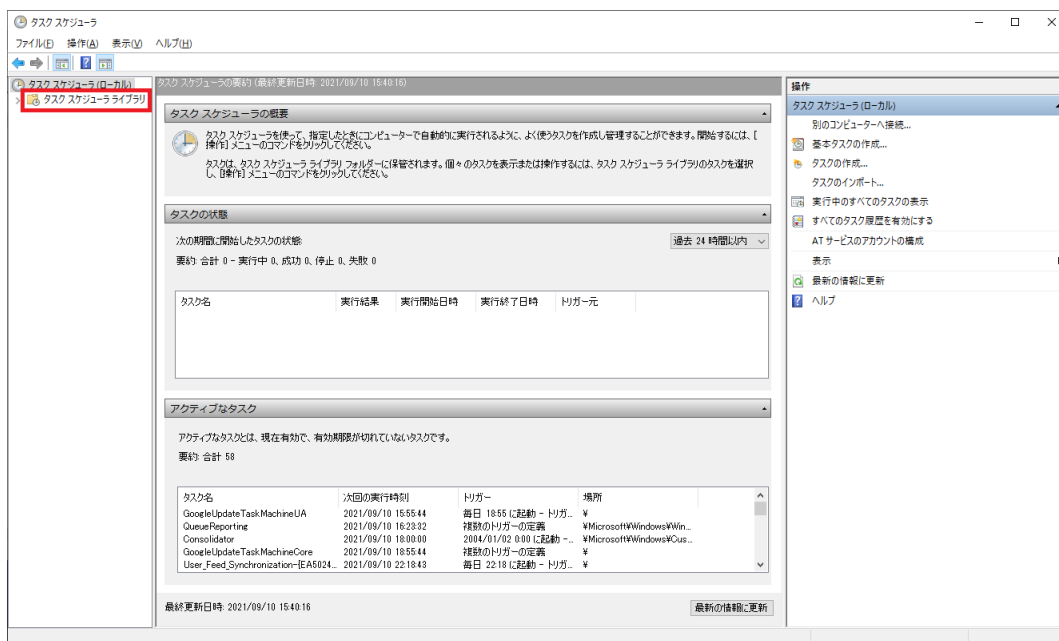
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

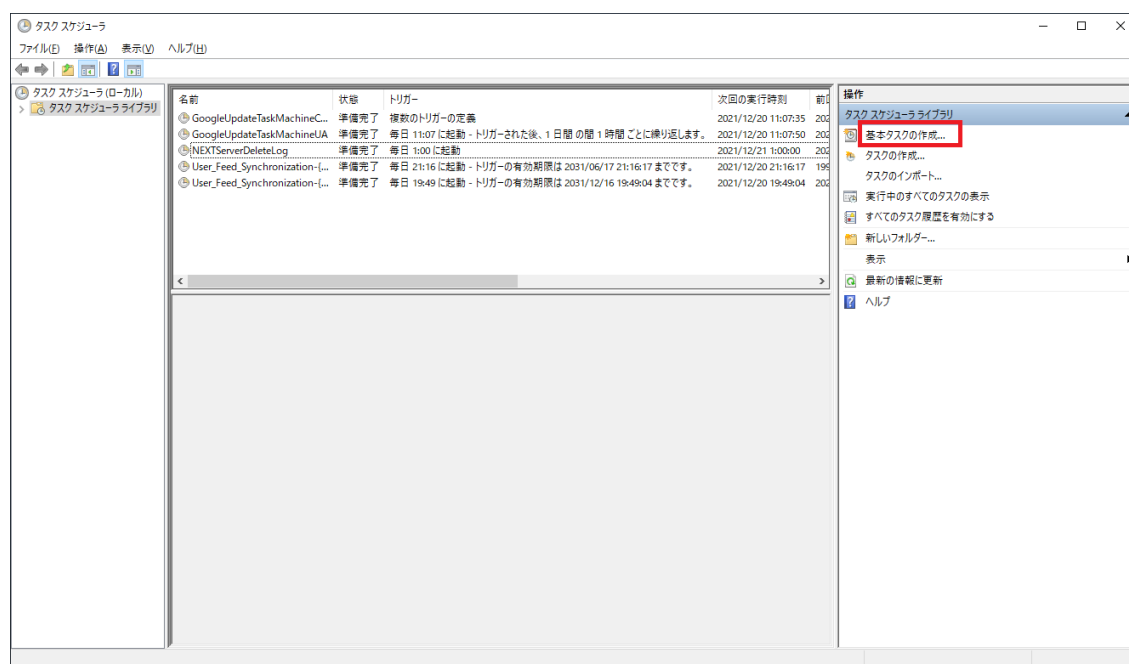
2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。



3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。「操作」ウィンドウの「基本タスクの作成」をクリックします。



5. 「基本タスクの作成ウィザード」の「基本タスクの作成」画面が表示されます。「名前」に任意のタスク名を入力して<次へ>をクリックします。

※例として「NEXTServerAppdbControldbBackup」という名前に設定したものと説明します。

基本タスクの作成ウィザード

基本タスクの作成

このウィザードでは、よく使うタスクをすばやくスケジュールします。複数のタスク操作やトリガーなどの詳細オプションや設定は、[操作] ペインの [タスクの作成] コマンドを使ってください。

名前(A): NEXTServerAppdbControldbBackup

説明(D):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

6. 「基本タスクの作成ウィザード」の「タスク トリガー」画面が表示されます。定期的にバックアップを行いたい設定を選択して<次へ>をクリックします。

※例として「毎日」に設定しています。

基本タスクの作成ウィザード

タスクトリガー

基本タスクの作成 いつタスクを開始しますか?

トリガー

毎日 毎日(D)

操作 毎週(W)

完了 毎月(M)

1 回限り(O)

コンピューターの起動時(H)

ログオン時(L)

特定イベントのログへの記録時(E)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

7. 「基本タスクの作成ウィザード」の「タスク トリガー」の「毎日」画面が表示されます。定期的にバックアップを行いたい時間を設定して<次へ>をクリックします。
※例として「AM3:00:00」に設定しています。

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box with the 'Daily' step selected. The 'Start' field is set to '2021/09/16' and the 'Time' field is set to '3:00:00'. The 'Time zone' checkbox is checked. The 'Interval' is set to '1' day. The 'Next' button is highlighted.

基本タスクの作成ウィザード

毎日

基本タスクの作成
トリガー
毎日 開始(S): 2021/09/16 3:00:00 タイムゾーン間で同期(Z)
間隔(I): 1 日
操作
完了

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. 「基本タスクの作成ウィザード」の「操作」画面が表示されます。「プログラムの開始」に設定して<次へ>をクリックします。

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box with the 'Operation' step selected. The 'Task operation' question is 'Do you want to execute the operation for the task?'. The 'Start of the program' option is selected and highlighted with a red box. The 'Next' button is highlighted.

基本タスクの作成ウィザード

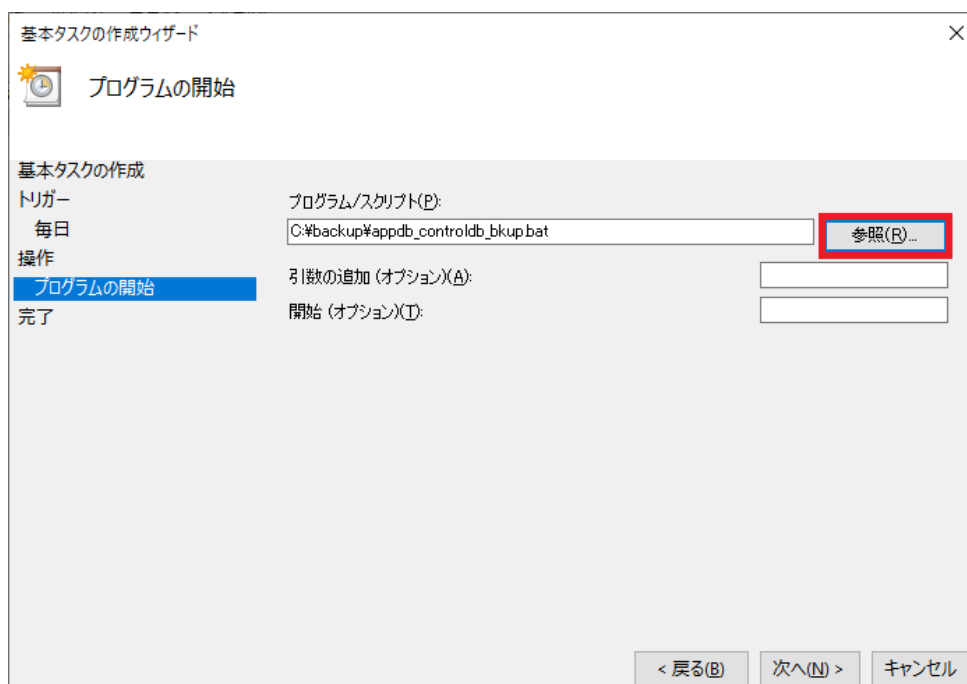
操作

基本タスクの作成
トリガー
毎日
操作
完了

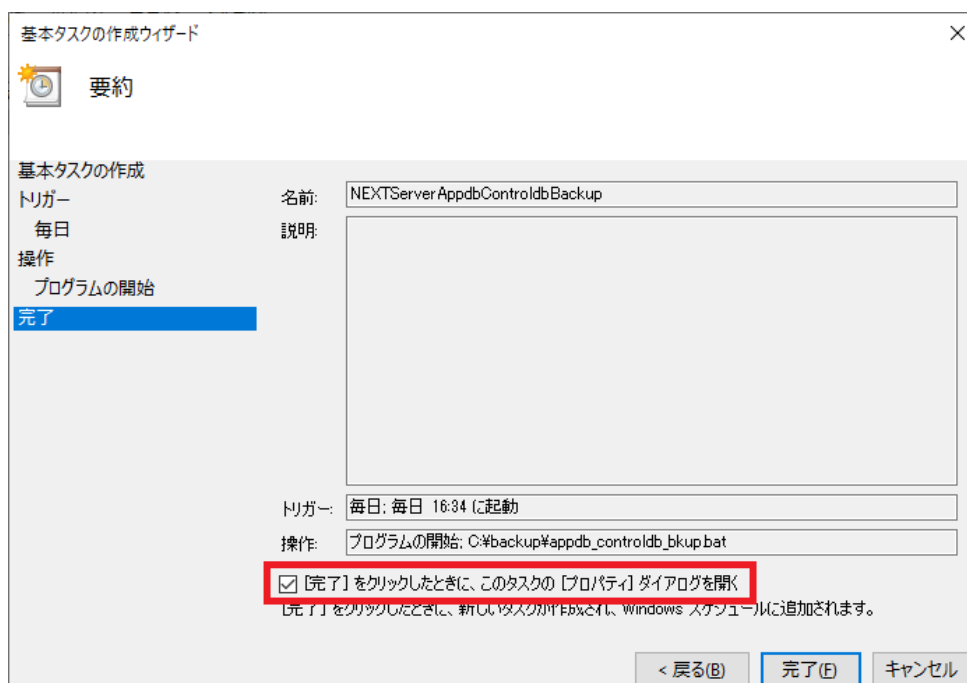
タスクでどの操作を実行しますか?
 プログラムの開始(I)
 電子メールの送信 (非推奨)(S)
 メッセージの表示 (非推奨)(M)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

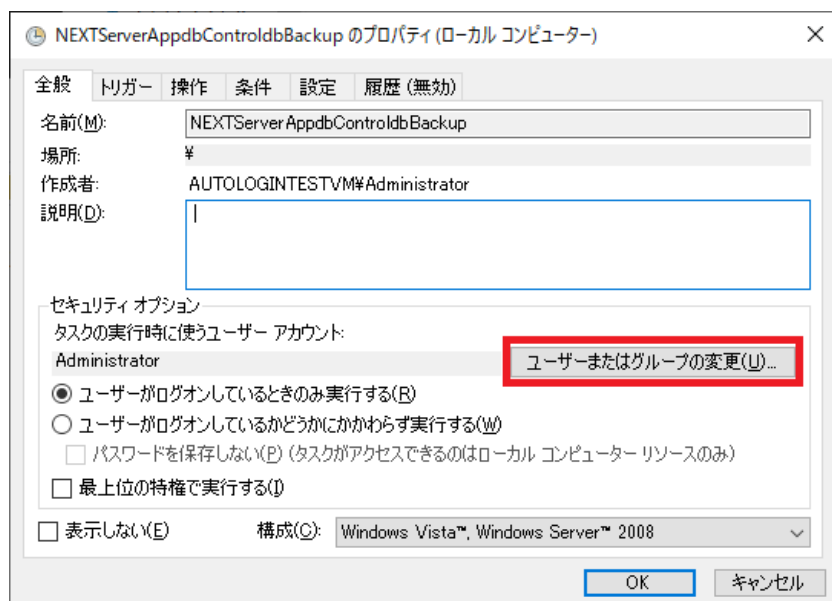
9. 「基本タスクの作成ウィザード」の「プログラムの開始」画面が表示されます。<参照>をクリックして「12.2.1. バックアップ用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを選択して<次へ>をクリックします。



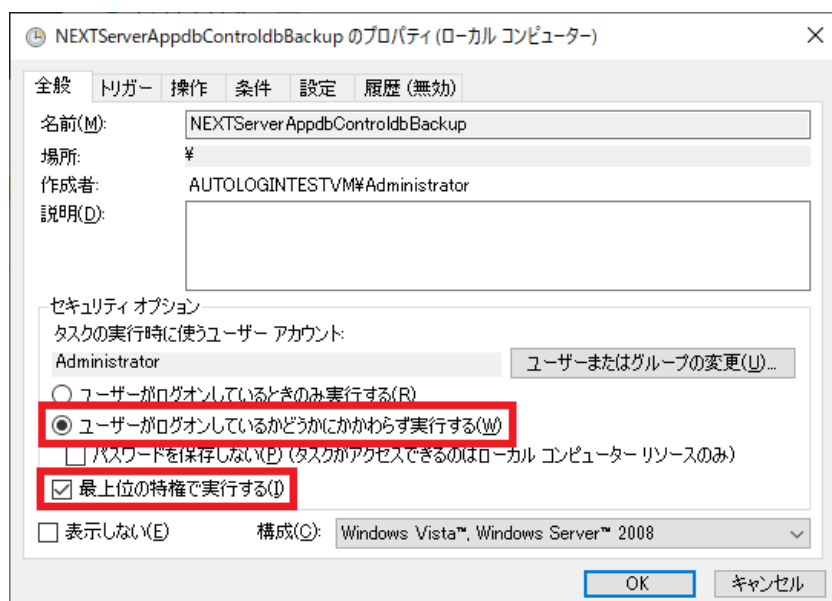
10. 「基本タスクの作成ウィザード」の「要約」画面が表示されます。「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」にチェックして<完了>をクリックします。



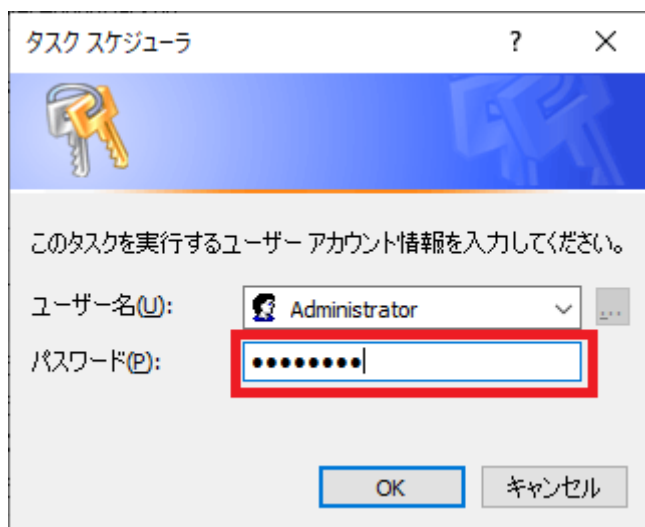
11. 作成したタスクのプロパティ画面が表示されます。<ユーザーまたはグループの変更>をクリックしてバックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザーに変更してください。



12. 「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」にチェックします。また、「最上位の特権で実行する」にもチェックして<OK>をクリックします。



13. 「ユーザーアカウント制御のパスワード入力画面」が表示されます。「バックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザー」のパスワードを入力し<OK>をクリックして設定は完了です。



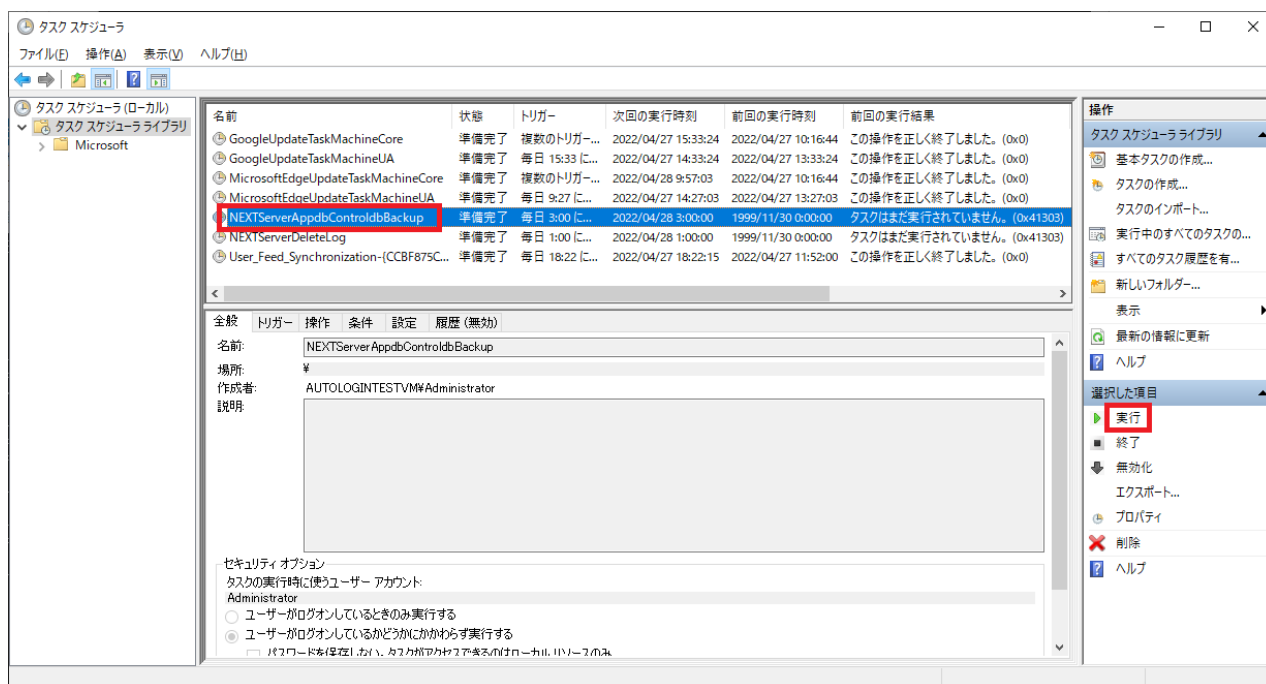
Info 入力した「バックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザー」のユーザー名、またはパスワードを変更した場合は、手順 11 の設定から行う必要があります。

12.2.3. バックアップ用タスクスケジューラの動作確認

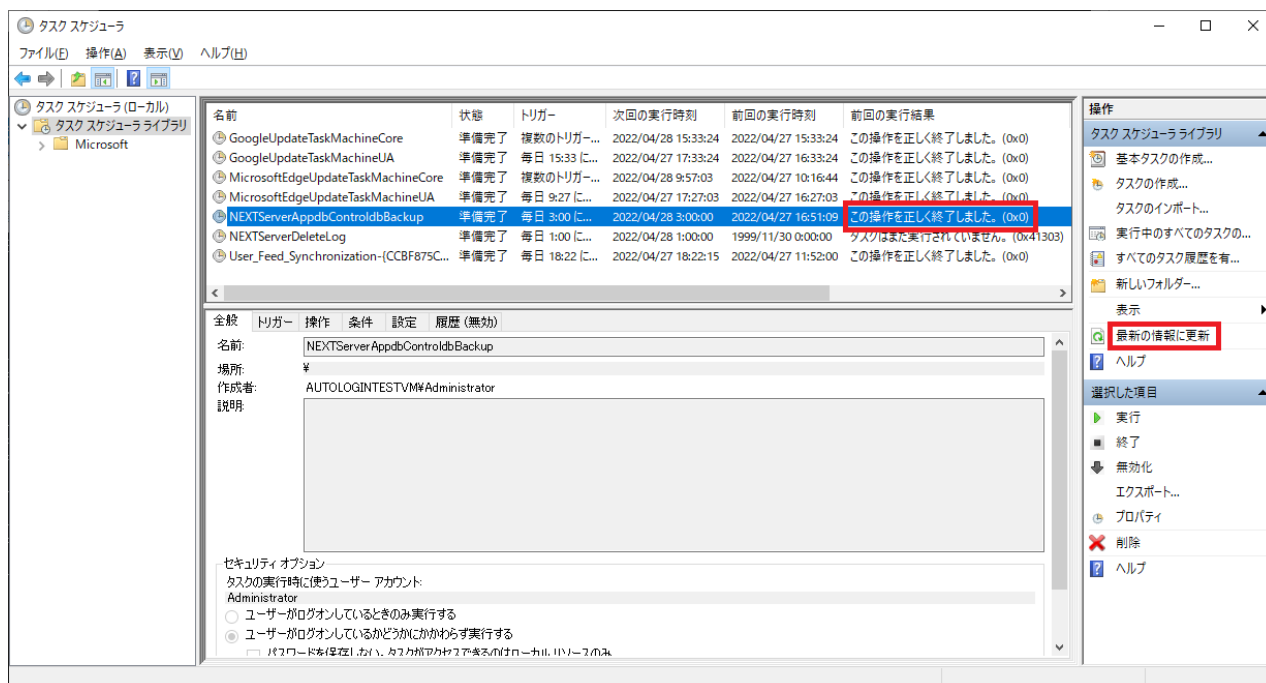
作成したタスクスケジューラが正常に動作するか、一度、手動でバックアップ用タスクスケジューラを実行して確認します。タスクスケジューラの手動実行、確認は以下の手順で行います。

- 「12.2.2. バッチファイルをタスクスケジューラに登録」にて登録したタスクを選択して、「操作」ウィンドウの「実行」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerAppdbControldbBackup」というタスク名に設定したものとして説明します。



2. しばらく待ってから「最新の情報に更新」をクリックします。実行したタスクの「前回の実行結果」が「この操作を正しく終了しました。(0x0)」と表示されればバックアップは完了です。
※バッチファイルに設定した「バックアップファイル名」のフォルダにバックアップファイルが生成されます。



Info 「前回の実行結果」が「現在タスクを実行中です。(0x41301)」と表示された場合は、しばらく待ってから再度「最新の情報に更新」をクリックしてください。

Info 「前回の実行結果」が「(0x1)」と表示された場合は、バックアップに失敗しています。失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 1 から実行してください。

- ・バックアップのバッチファイルの設定内容が間違っている
- ・タスクスケジューラの登録内容が間違っている
(「最上位の特権で実行する」が未チェック状態になっている、など)

12.3.NEXT ログ DB ファイルをバックアップする

NEXT ログ DB ファイルのバックアップを定期的に行う設定の手順について説明します。

12.3.1. バックアップ用バッチファイルを作成

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows アクセサリ]-[メモ帳]を選択してメモ帳を開き、下記内容をコピーしてメモ帳に貼り付けてください。

```
@echo off

: **** DB パスワードの設定 ****
: DB パスワードが「password」の場合は、「set PGPASSWORD=password」となります。
set PGPASSWORD=password

: **** pg_dump の配置場所 ****
: postgresQL のインストール先が「C:¥Program Files¥PostgreSQL」の場合は
: 「set PGDUMPPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"」となります。
set PGDUMPPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"

: **** バックアップファイル名 ****
: バックアップファイルを「C:¥backup¥logdb_YYMMDD_hhmmss.dump」としたい場合は
: 「set PGBKUPPATH="C:¥backup¥logdb"」となります。 注) 拡張子は不要です
set PGBKUPPATH="C:¥backup¥logdb"

: **** バックアップする DB 名 ****
: 「NEXT ログ DB ファイル」をバックアップする場合は「set PGBKUPFILE=logdb」となりま
す。
set PGBKUPFILE=logdb

set d=%date%
set yyyy=%d:~-10,4%
set mm=%d:~-5,2%
```

```

set dd=%d:~-2,2%
set t=%time: =0%
set hh=%t:~0,2%
set mn=%t:~3,2%
set ss=%t:~6,2%
%PGDUMPPATH%¥pg_dump -Fc -w -p 5432 -U postgres -
f %PGBKUPPATH%_%yyyy%%mm%%dd%_%hh%%mn%%ss%.dump %PGBKUPFILE%
if "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** バックアップが正常に終了しました。 *****
    exit /b 0
) else (
    echo ***** バックアップに失敗しました。 *****
    exit /b 1
)

```

3. コピーした内容の下記内容をご使用の環境に合わせて修正してください。

項目	説明
DB パスワードの設定	NEXT サーバーのインストール時に「データベースパスワード設定画面」で設定したパスワードを設定してください。
pg_dump.exe の配置場所	NEXT サーバーのインストールでは、通常、「C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin」となります。
バックアップファイル名	バックアップファイルの保存ファイル名になります。 ※例示の BAT では、バックアップ実行時の“年月日_時分秒”がファイル名の末尾に自動的に付加されます。 ※ファイル拡張子は「.dump」となります（設定時は拡張子不要）。 ※任意のファイル名で構いません。
バックアップする DB 名	バックアップする DB 名になります。 NEXT ログ DB ファイルをバックアップする場合は「logdb」を設定してください。

4. 修正したファイルを任意の場所に、拡張子「.bat」として保存してください。

※例として「C:¥backup」に「logdb_bkup.bat」というファイル名で保存したものと説明します。

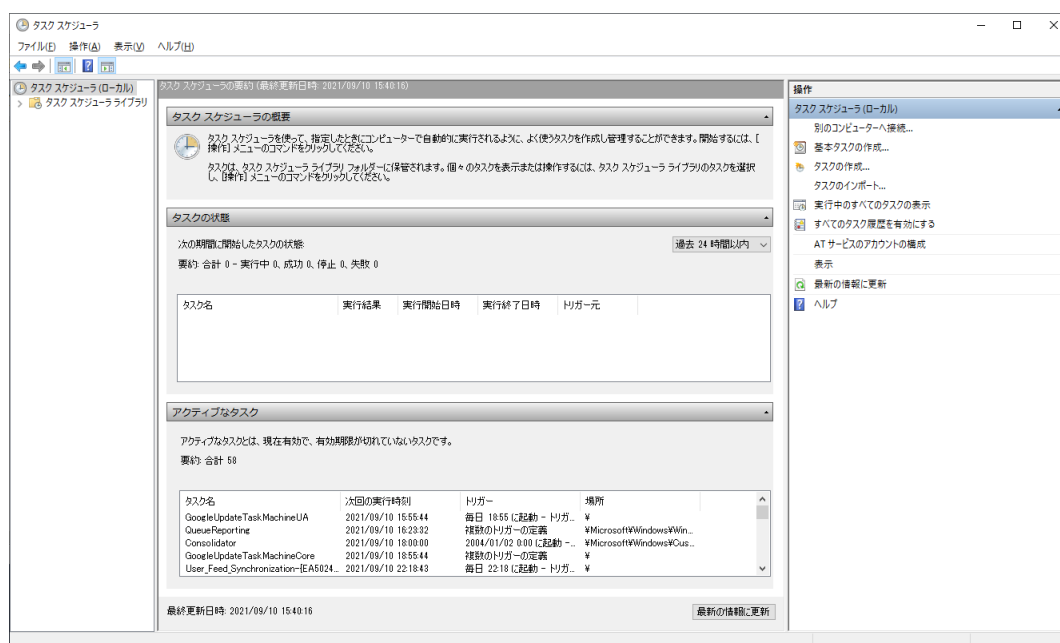
12.3.2. バッチファイルをタスクスケジューラに登録

例として、「12.3.1. バックアップ用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを、毎日 AM3:00 にバックグラウンドで実行するタスクスケジューラ登録の手順を説明します。

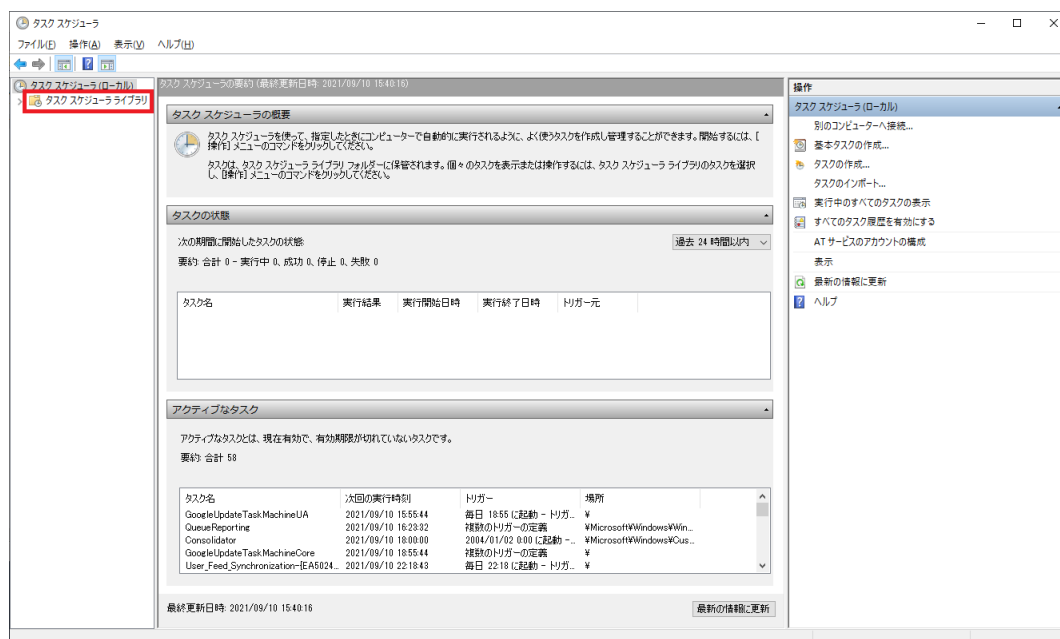
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

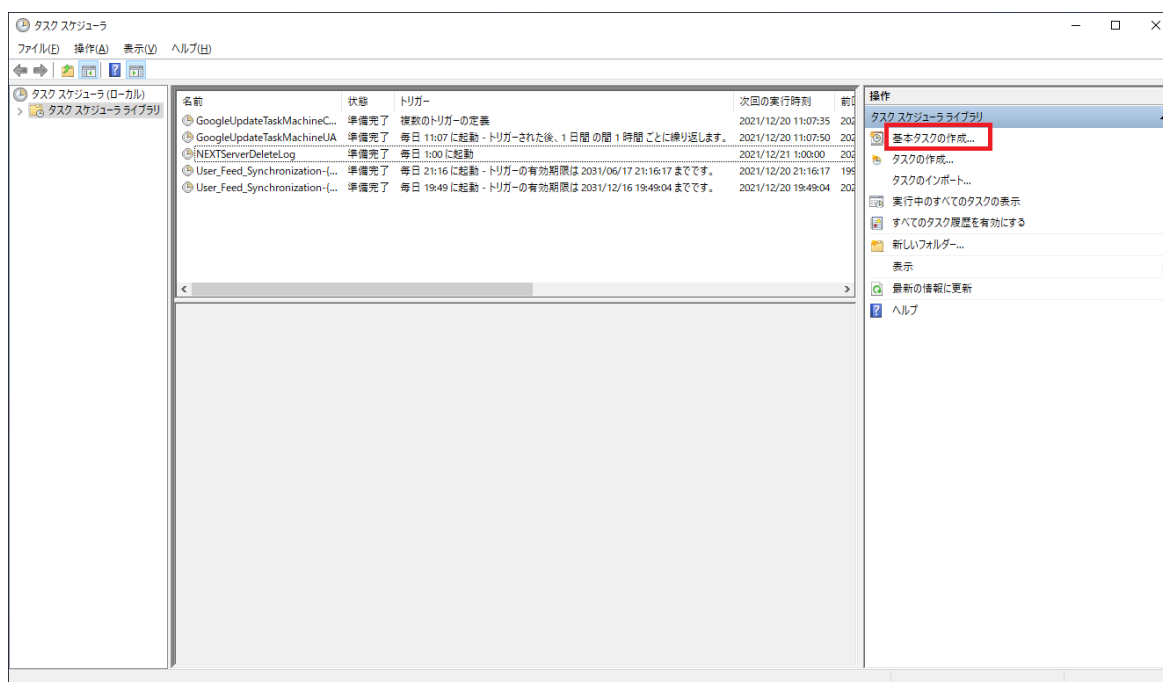
2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。



3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。「操作」ウィンドウの「基本タスクの作成」をクリックします。



5. 「基本タスクの作成ウィザード」の「基本タスクの作成」画面が表示されます。「名前」に任意のタスク名を入力して<次へ>をクリックします。

※例として「NEXTServerLogdbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。

The screenshot shows a dialog box titled "基本タスクの作成ウィザード" (Basic Task Creation Wizard) with a close button (X) in the top right corner. The main title is "基本タスクの作成" (Basic Task Creation). On the left, there is a vertical navigation pane with four items: "基本タスクの作成" (selected), "トリガー" (Trigger), "操作" (Operation), and "完了" (Completed). The main area contains the following text: "このウィザードでは、よく使うタスクをすばやくスケジュールします。複数のタスクの操作やトリガーなどの詳細オプションや設定は、[操作] ペインの [タスクの作成] コマンドを使ってください。" (This wizard allows you to quickly schedule commonly used tasks. For detailed options and settings such as multiple task operations and triggers, please use the [Task Creation] command in the [Operation] pane.) Below this text, there are two fields: "名前(A):" (Name) with the value "NEXTServerLogdbBackup" entered, and "説明(D):" (Description) which is currently empty. At the bottom right, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

6. 「基本タスクの作成ウィザード」の「タスク トリガー」画面が表示されます。定期的にバックアップを行いたい設定を選択して<次へ>をクリックします。

※例として「毎日」に設定しています。

The screenshot shows the same dialog box as in step 5, but now the title is "タスクトリガー" (Task Trigger). The left navigation pane has "タスクトリガー" selected. The main area contains the text "いつタスクを開始しますか?" (When do you want to start the task?). Below this text, there is a list of radio button options: "毎日(D)" (Daily) - selected, "毎週(W)" (Weekly), "毎月(M)" (Monthly), "1回限り(O)" (One-time only), "コンピューターの起動時(H)" (At computer startup), "ログオン時(L)" (At logon), and "特定イベントのログへの記録時(E)" (At recording to log for specific event). At the bottom right, there are three buttons: "< 戻る(B)" (Back), "次へ(N) >" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

7. 「基本タスクの作成ウィザード」の「タスク トリガー」の「毎日」画面が表示されます。定期的にバックアップを行いたい時間を設定して<次へ>をクリックします。
※例として「AM3:00:00」に設定しています。

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box with the 'Daily' step selected. The 'Start' field is set to '2021/09/16' and the 'Time' field is set to '3:00:00'. The 'Repeat' field is set to '1' day. The 'Time zone' checkbox is checked. The 'Next' button is highlighted.

基本タスクの作成ウィザード

毎日

基本タスクの作成
トリガー
毎日 開始(S): 2021/09/16 3:00:00 タイムゾーン間で同期(O)
間隔(C): 1 日
操作
完了

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

8. 「基本タスクの作成ウィザード」の「操作」画面が表示されます。「プログラムの開始」に設定して<次へ>をクリックします。

The screenshot shows the 'Basic Task Creation Wizard' dialog box with the 'Operation' step selected. The 'Task' field is set to 'プログラムの開始'. The 'Next' button is highlighted.

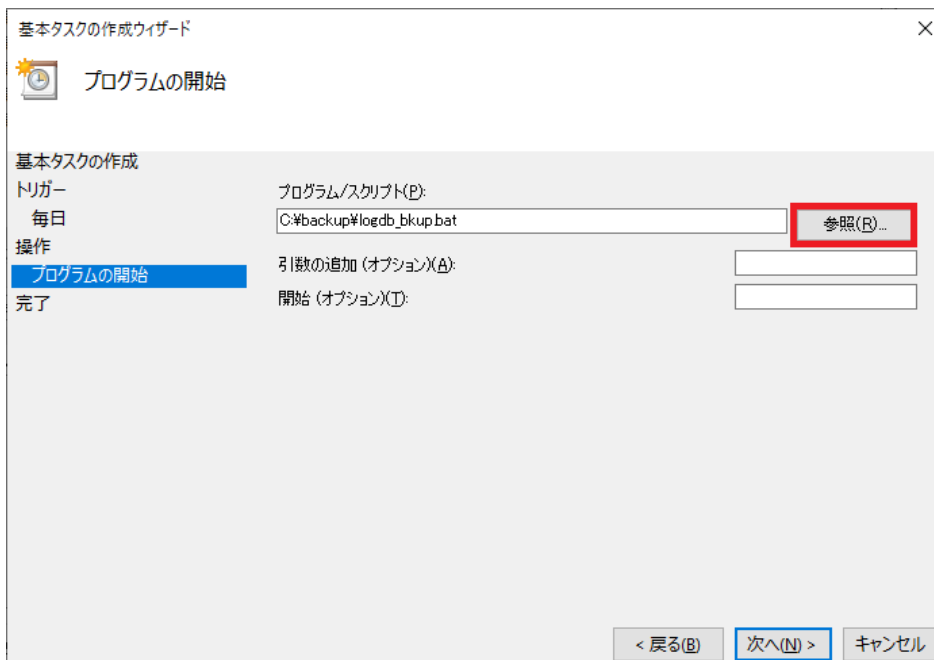
基本タスクの作成ウィザード

操作

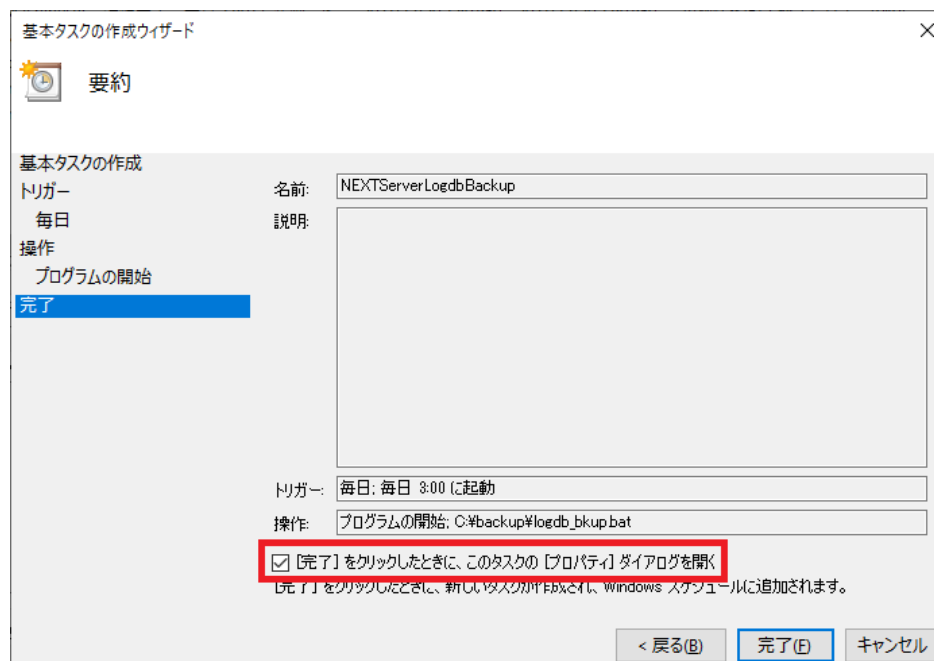
基本タスクの作成
トリガー
毎日
タスクでどの操作を実行しますか?
操作 プログラムの開始(O)
完了 電子メールの送信 (非推奨)(S)
 メッセージの表示 (非推奨)(M)

<戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

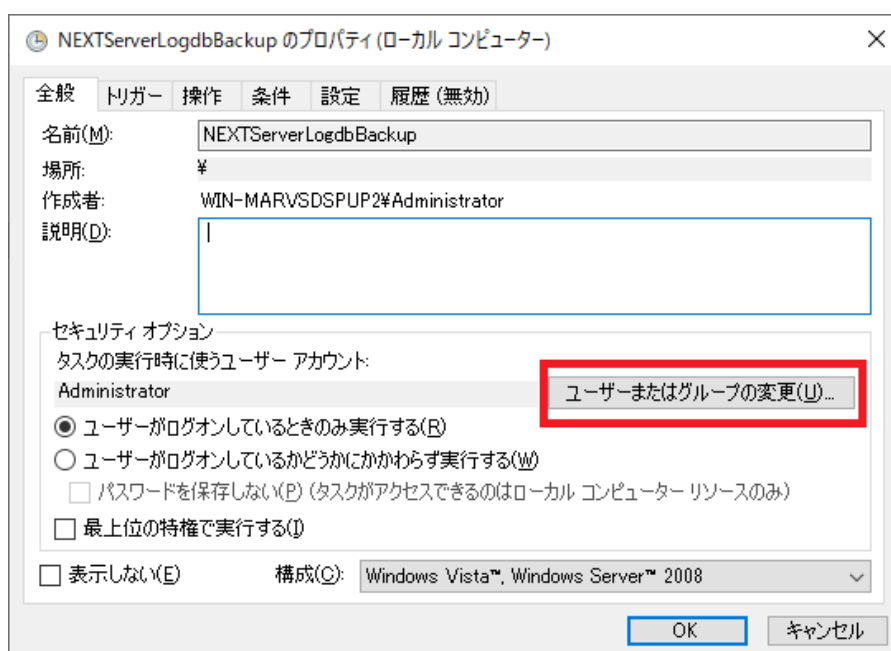
9. 「基本タスクの作成ウィザード」の「プログラムの開始」画面が表示されます。<参照>をクリックして「12.3.1. バックアップ用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを選択して<次へ>をクリックします。



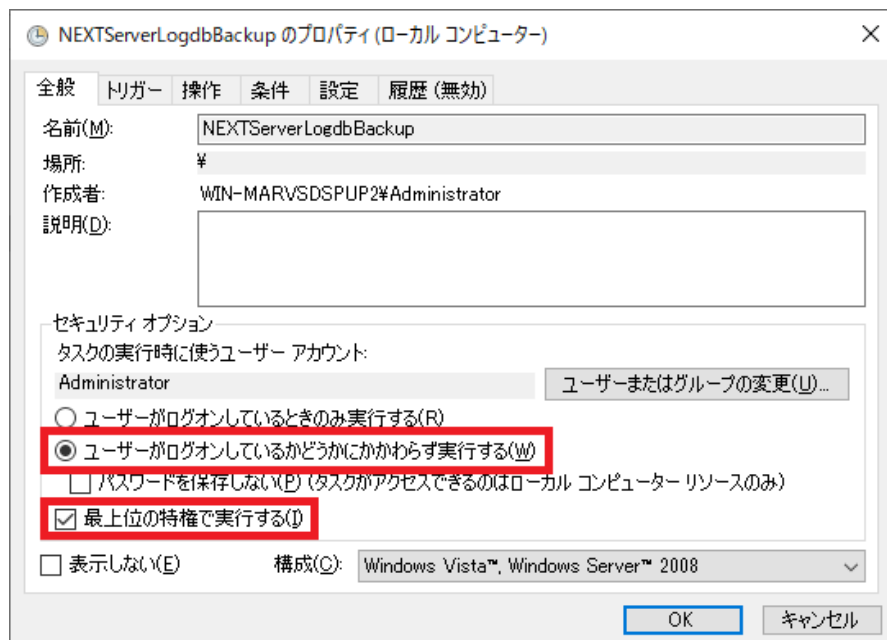
10. 「基本タスクの作成ウィザード」の「要約」画面が表示されます。「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」にチェックして<完了>をクリックします。



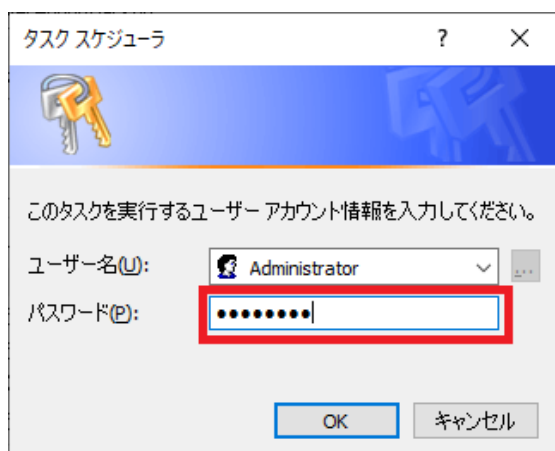
11. 作成したタスクのプロパティ画面が表示されます。<ユーザーまたはグループの変更>をクリックしてバックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザーに変更してください。



12. 「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」にチェックします。また、「最上位の特権で実行する」にもチェックして<OK>をクリックします。



13. 「ユーザーアカウント制御のパスワード入力画面」が表示されます。「バックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザー」のパスワードを入力し<OK>をクリックして設定は完了です。



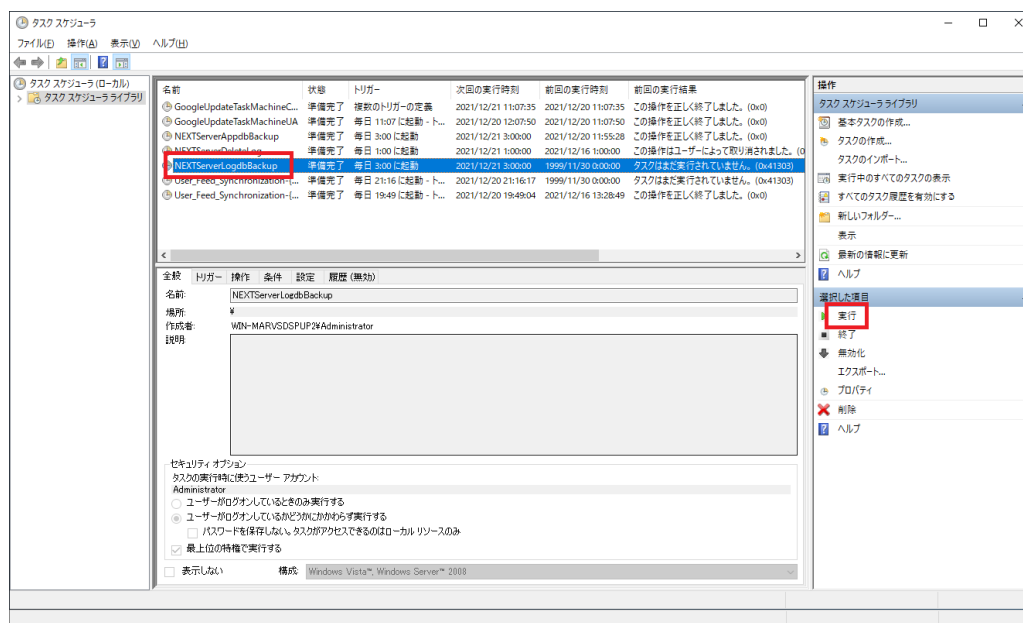
Info 入力した「バックアップ用タスクスケジューラを実行するユーザー」のユーザー名、またはパスワードを変更した場合は、手順 11 の設定から行う必要があります。

12.3.3. バックアップ用タスクスケジューラの動作確認

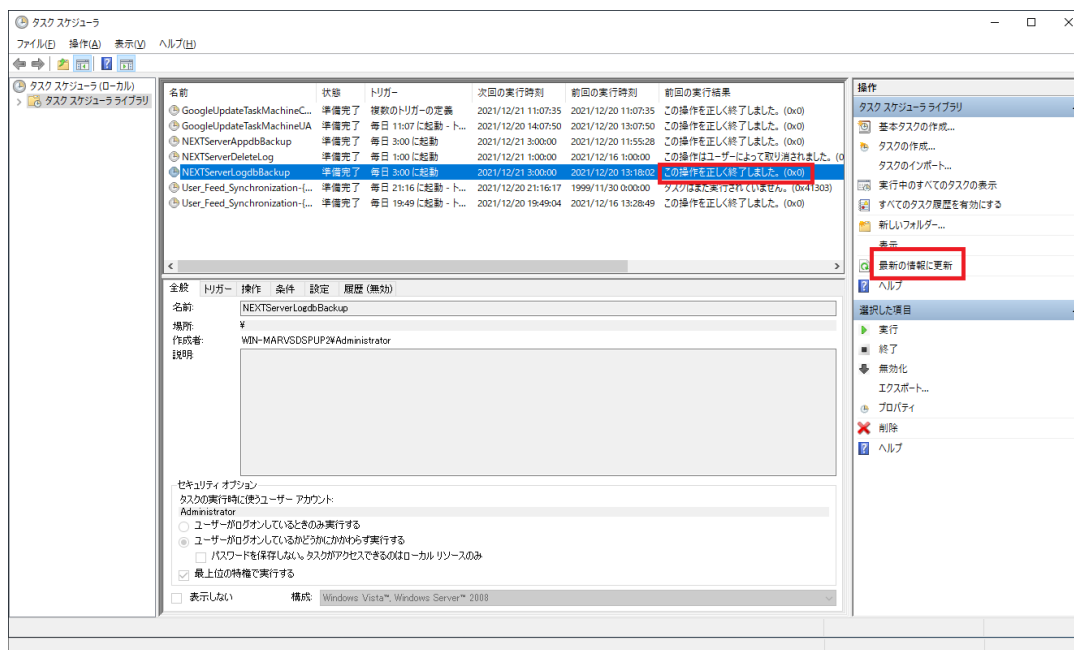
作成したタスクスケジューラが正常に動作するか、一度、手動でバックアップ用タスクスケジューラを実行して確認します。タスクスケジューラの手動実行、確認は以下の手順で行います。

1. 「12.3.2. バッチファイルをタスクスケジューラに登録」にて登録したタスクを選択して、「操作」ウィンドウの「実行」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerLogdbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。



2. しばらく待ってから「最新の情報に更新」をクリックします。実行したタスクの「前回の実行結果」が「この操作を正しく終了しました。(0x0)」と表示されればバックアップは完了です。
 ※バッチファイルに設定した「バックアップファイル名」のフォルダにバックアップファイルが生成されます。



Info 「前回の実行結果」が「現在タスクを実行中です。(0x41301)」と表示された場合は、しばらく待ってから再度「最新の情報に更新」をクリックしてください。

Info 「前回の実行結果」が「(0x1)」と表示された場合は、バックアップに失敗しています。失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 1 から実行してください。

- ・バックアップのバッチファイルの設定内容が間違っている
- ・タスクスケジューラの登録内容が間違っている
 （「最上位の特権で実行する」が未チェック状態になっている、など）

13. リストア

13.1. 概要

NEXT サーバーのデータベースファイルをリストアする手順について記します。
リストアの対象となるデータベースは以下があります。

- NEXT 管理 DB ファイル
ユーザー情報やクライアント設定などのアプリケーションに関連するデータが保存されたデータベースファイルです。
- NEXT ログ DB ファイル
NEXT マネージャーで閲覧できるログデータが保存されたデータベースファイルです。
- NEXT コントロール設定 DB ファイル
NEXT マネージャーで設定する「コントロール設定」に関連するデータが保存されたデータベースファイルです。

Info ローカル CSV ファイルと顔画像ファイルは、本書で例示している手順ではバックアップしていない為、リストアはされません。

リカバリ実施の流れは以下となります。

1. 現在のデータベースファイルのバックアップ
2. IIS の停止
3. タスクスケジューラの無効化
4. リストア用バッチファイルの作成
5. データベースファイルのリストア
6. IIS の開始
7. タスクスケジューラの有効化

13.2. NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをリストアする

NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB が破損した場合や、特定のバックアップした時点まで NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB を戻す場合にリストアすることができます。NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB のリストアを行う手順について説明します。

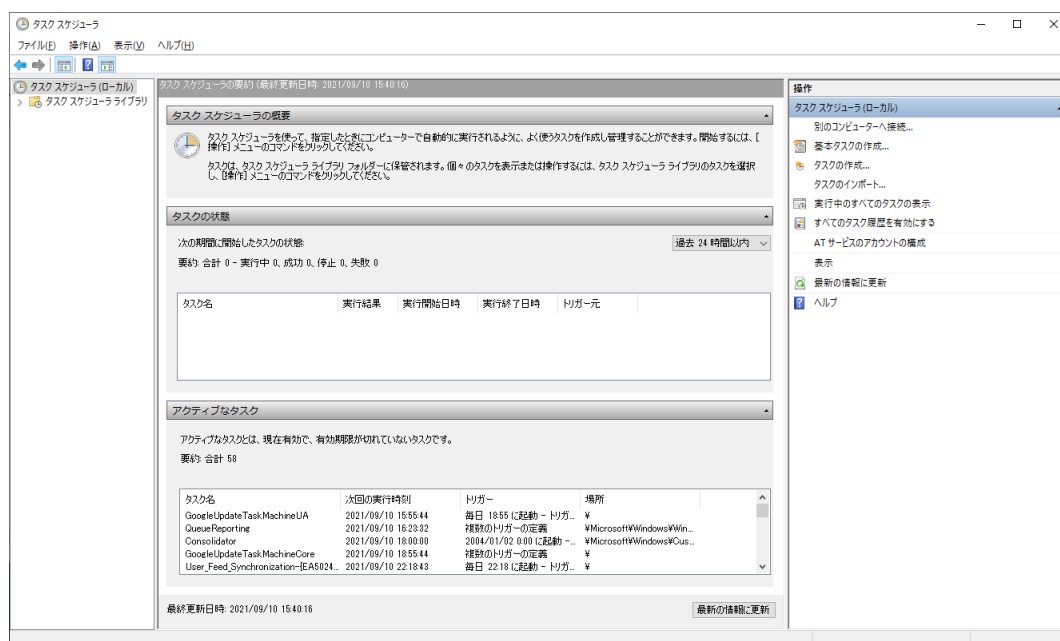
13.2.1. 現在の NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB をバックアップ

※リストアに失敗した場合、元の DB に戻すために予めバックアップを実行することを推奨します。

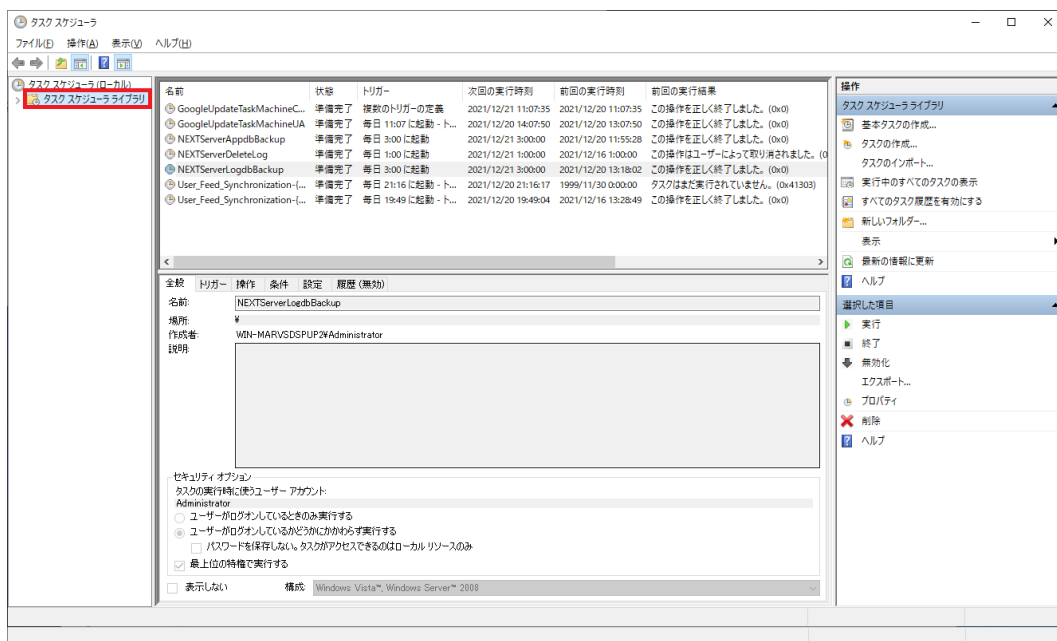
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。

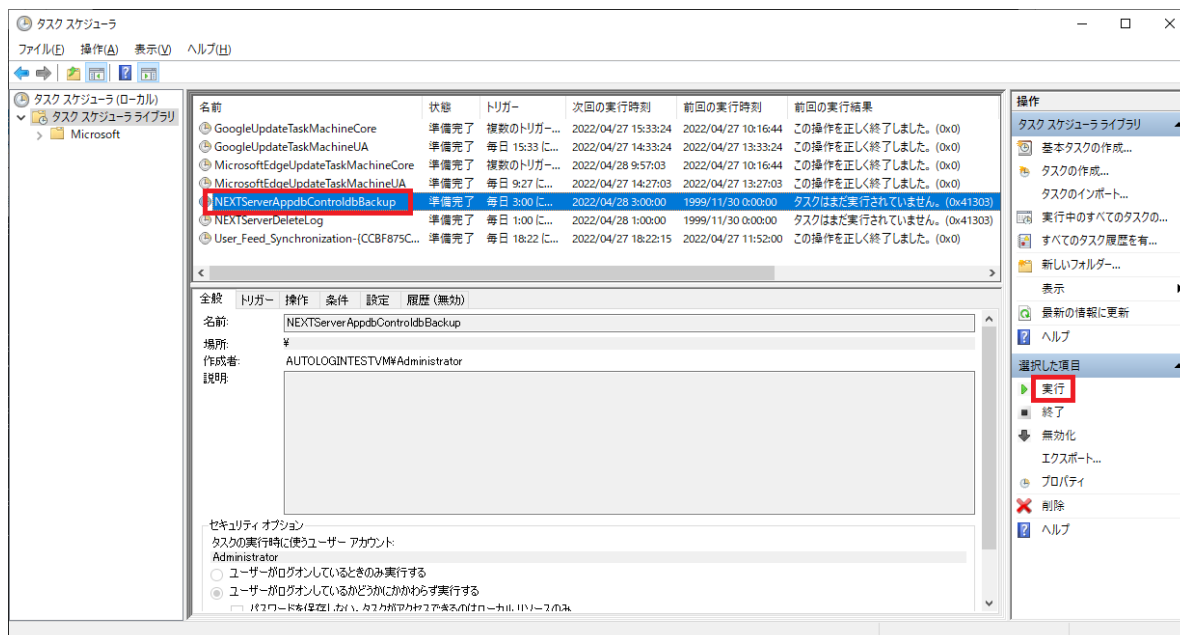


3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。

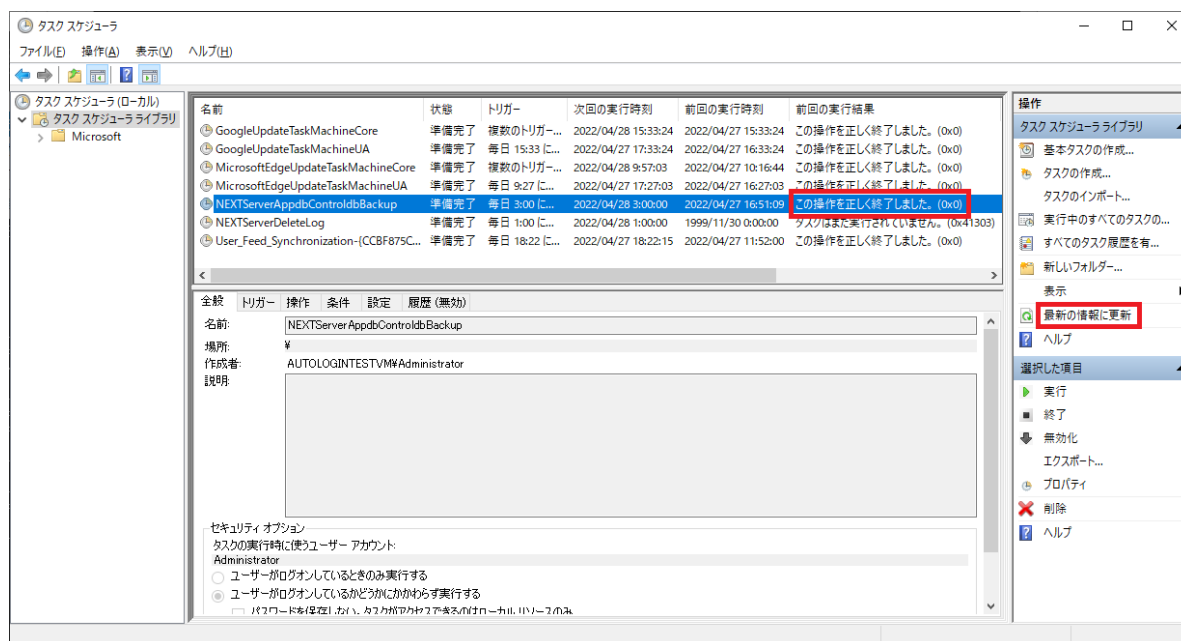


4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB のバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「実行」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerAppdbControldbBackup」というタスク名に設定したものとして説明します。



5. しばらく待ってから「最新の情報に更新」をクリックします。実行したタスクの「前回の実行結果」が「この操作を正しく終了しました。(0x0)」と表示されればバックアップは完了です。
 ※バッチファイルに設定した「バックアップファイル名」のフォルダにバックアップファイルが生成されます。



Info 「前回の実行結果」が「現在タスクを実行中です。(0x41301)」と表示された場合は、しばらく待ってから再度「最新の情報に更新」をクリックしてください。

Info 「前回の実行結果」が「(0x1)」と表示された場合は、バックアップに失敗しています。失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 4 から実行してください。

- ・バックアップのバッチファイルの設定内容が間違っている

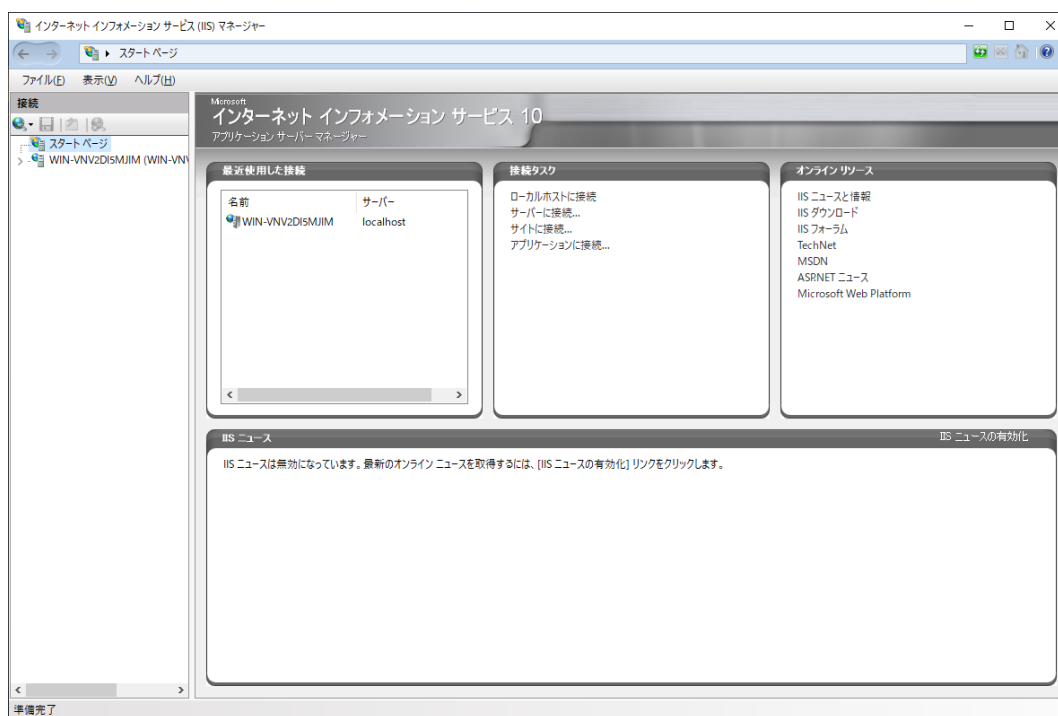
13.2.2. IIS の停止

リストアを行う際は、必ず IIS を停止してから行ってください。

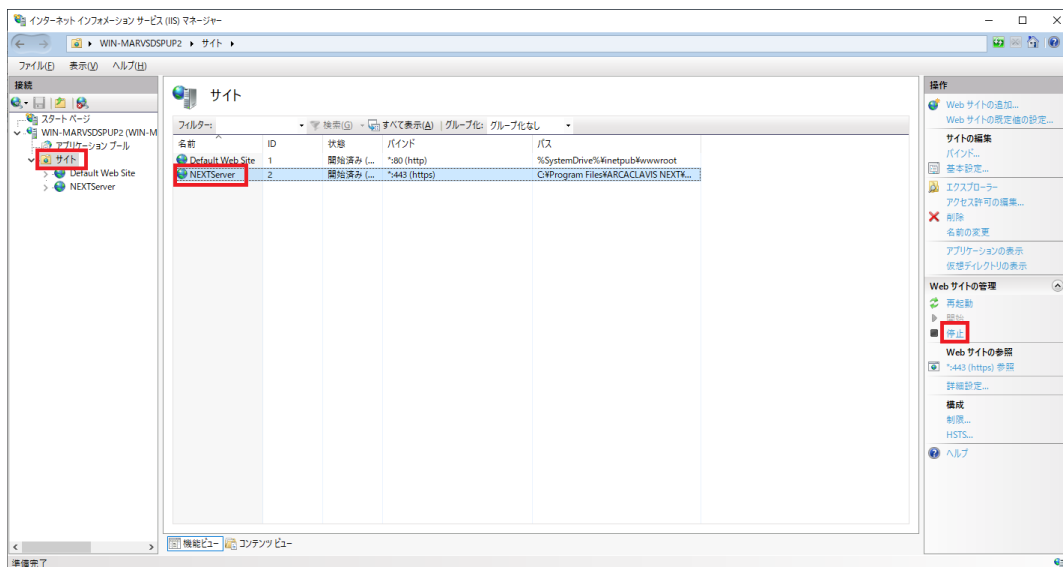
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン Web サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

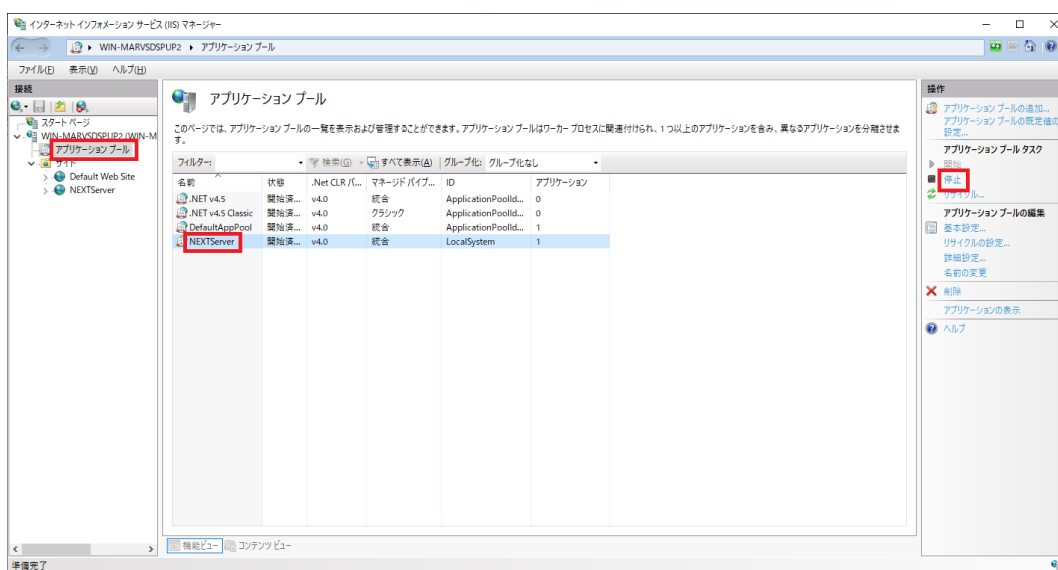
2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を選択してインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。



- IIS マネージャーの「接続」ビューの「サイト」をクリックし、「機能」ビューから「NEXTServer」をクリックして、「操作」ウィンドウの「停止」をクリックします。



- 「接続」ビューの「アプリケーションプール」をクリックし、「機能」ビューから「NEXTServer」をクリックして、「操作」ウィンドウの「停止」をクリックします。



13.2.3. タスクスケジューラの無効化

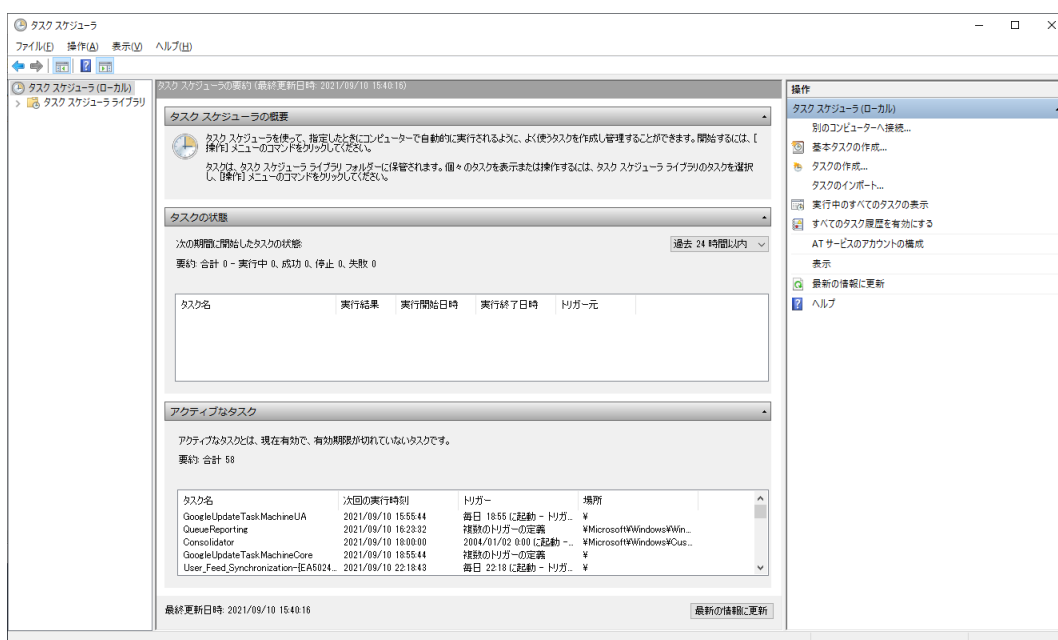
リストアを行う際は、ログ管理用タスクスケジューラ、及びバックアップ用タスクスケジューラを無効化してから行ってください。

※タスクスケジューラが動作する時間とリストアする時間が被らなければ無効化の操作は不要です。

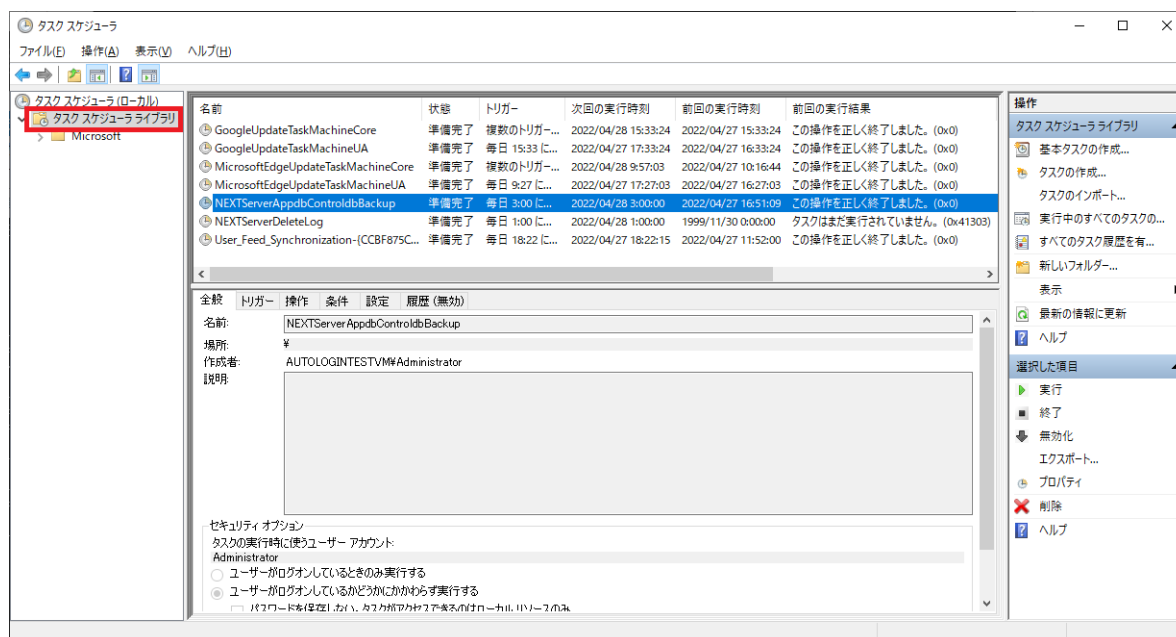
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。

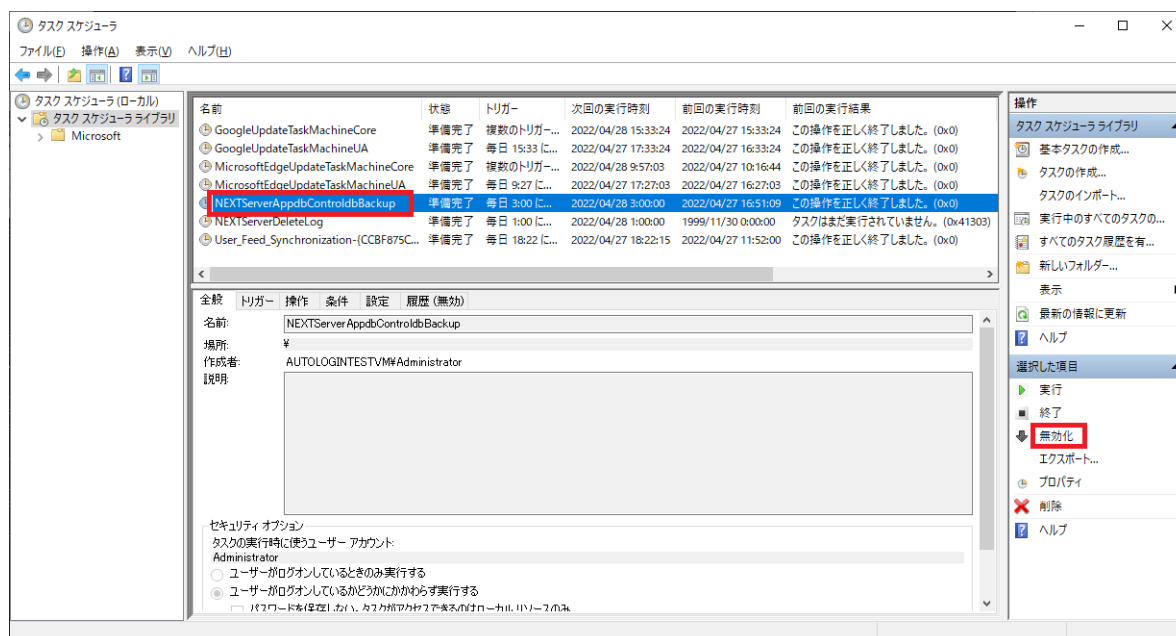


3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



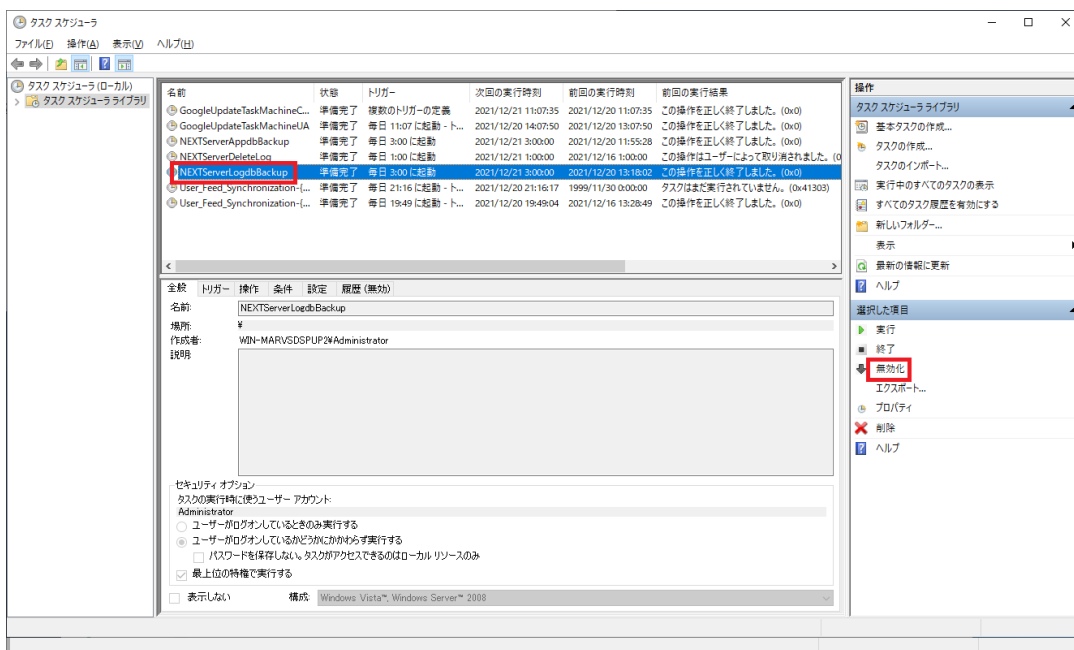
4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB のバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「無効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerAppdbControldbBackup」というタスク名に設定したものとして説明します。



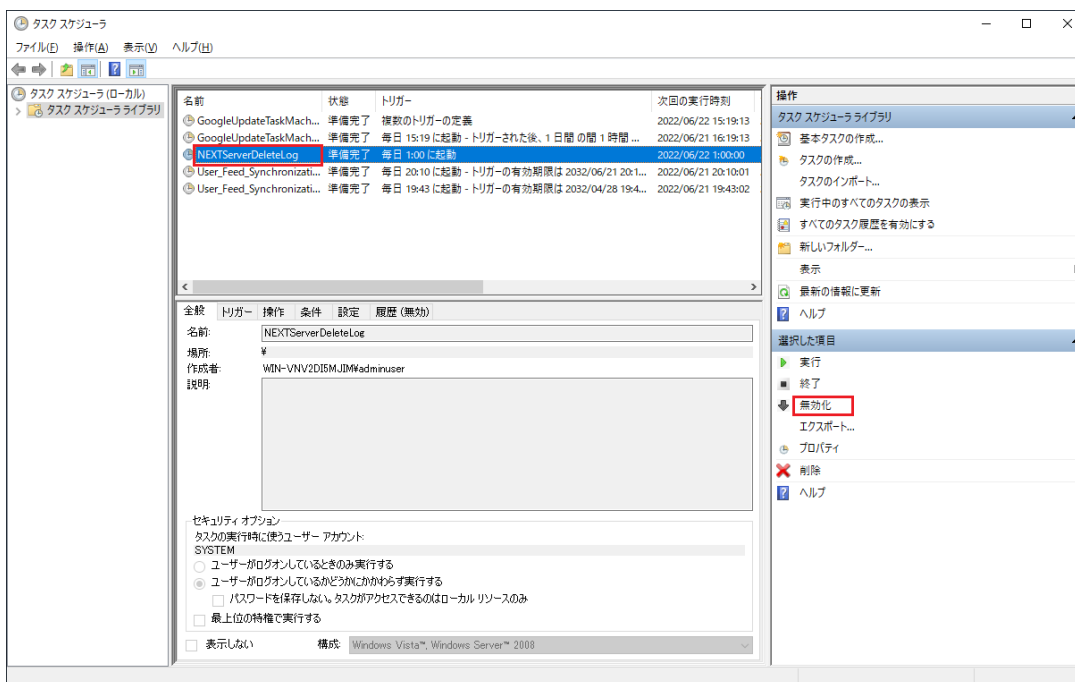
5. 同様に、NEXT ログ DB ファイルのバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「無効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerLogdbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。



6. 同様に、ログ管理用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「無効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerDeleteLog」というタスク名に設定したものと説明します。



13.2.4. NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB のリストア用バッチファイルを作成

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows アクセサリ]-[メモ帳]を選択してメモ帳を開き、下記内容をコピーしてメモ帳に貼り付けてください。

```
@echo off

: **** DB パスワードの設定 ****
: DB パスワードが「password」の場合は、「set PGPASSWORD=password」となります。
set PGPASSWORD=password

: **** pg_restore.exe の配置場所 ****
: postgresSQL のインストール先が「C:¥Program Files¥PostgreSQL」の場合は
: 「set PGRESTOREPATH = "C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"」となります。
set PGRESTOREPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"

: **** リストアするファイル名 ****
: 「C:¥backup¥appdb_20210915_155952.dump」を使用してリストアする場合は
: 「set PGRESTOREFILE = "C:¥backup¥appdb_20210915_155952.dump"」となります。
set PGRESTOREAPPFILE="C:¥backup¥appdb_20210915_155952.dump"
set PGRESTORECTLFILE="C:¥backup¥controldb_20210915_155952.dump"

: **** リストアする DB 名 ****
: 「NEXT 管理 DB ファイル」をリストアする場合は「set PGRESTOREAPPDB=appdb」、
: 「NEXT コントロール設定 DB ファイル」をリストアする場合は「set
PGRESTORECTLDB=controldb」となります。
set PGRESTOREAPPDB=appdb
set PGRESTORECTLDB=controldb

%PGRESTOREPATH%¥pg_restore.exe -w -c -p 5432 -U postgres -
d %PGRESTOREAPPDB% %PGRESTOREAPPFILE%
if not "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** NEXT 管理 DB ファイルのリストアに失敗しました。 *****
    exit /b 1
)
```

```

%PGRESTOREPATH%¥pg_restore.exe -w -c -p 5432 -U postgres -
d %PGRESTORECTLDDB% %PGRESTORECTLFILFILE%
if "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** リストアが正常に終了しました。 *****
) else (
    echo ***** NEXT コントロール設定 DB ファイルのリストアに失敗しました。 *****
    exit /b 1
)
pause

```

3. コピーした内容の下記内容をご使用の環境に合わせて修正してください。

項目	説明
DB パスワードの設定	NEXT サーバーのインストール時に「データベースパスワード設定画面」で設定したパスワードになります。
pg_restore.exe の配置場所	NEXT サーバーのインストールでは、通常、「C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin」となります。
リストアするファイル名	リストアで使用するファイル名になります。 ※任意のファイル名で構いません。拡張子は「.dump」とします。
リストアする DB 名	リストアする DB 名になります。 NEXT 管理 DB ファイルをリストアする場合は「appdb」を、NEXT コントロール設定 DB ファイルをリストアする場合は「controldb」を設定してください。

4. 修正したファイルを任意の場所に、拡張子「.bat」として保存してください。
※例として「C:¥backup」に「appdb_controldb_restore.bat」というファイル名で保存したものと
して説明します。

13.2.5. NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをリストア

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. 「13.2.4. NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルのリストア用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを選択し、「右クリック」-「管理者として実行」してください。
3. コマンドプロンプトに「***** リストアが正常に終了しました。 *****」と表示されるとリストアは完了となります。

Info 「***** NEXT 管理 DB ファイルのリストアに失敗しました。 *****」、または「***** NEXT コントロール設定 DB ファイルのリストアに失敗しました。 *****」と表示された場合は、リストアに失敗しています。
失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 2 から実行してください。

- ・リストアのバッチファイルの設定内容が間違っている
- ・リストアのバッチファイルを管理者として実行していない

※問題が見つからない場合はバックアップファイルが破損している可能性があるため、「13.2.1. 現在の NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルをバックアップ」で作成したバックアップファイルを使用してリストアを行ってください。

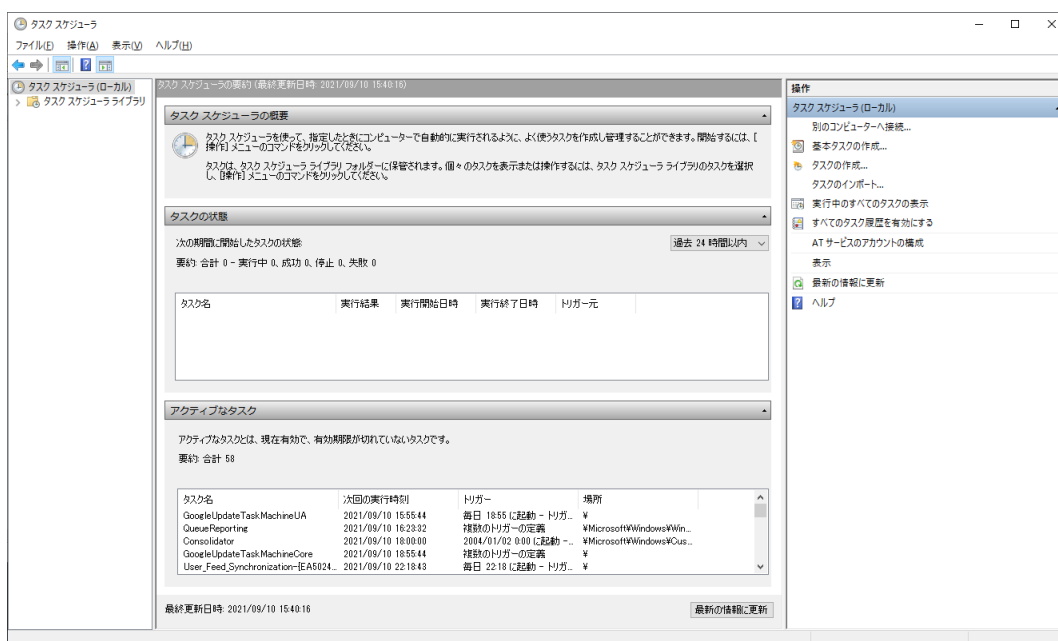
13.2.6. IIS の開始

リストアの作業が完了した後に停止させた IIS を開始してください。

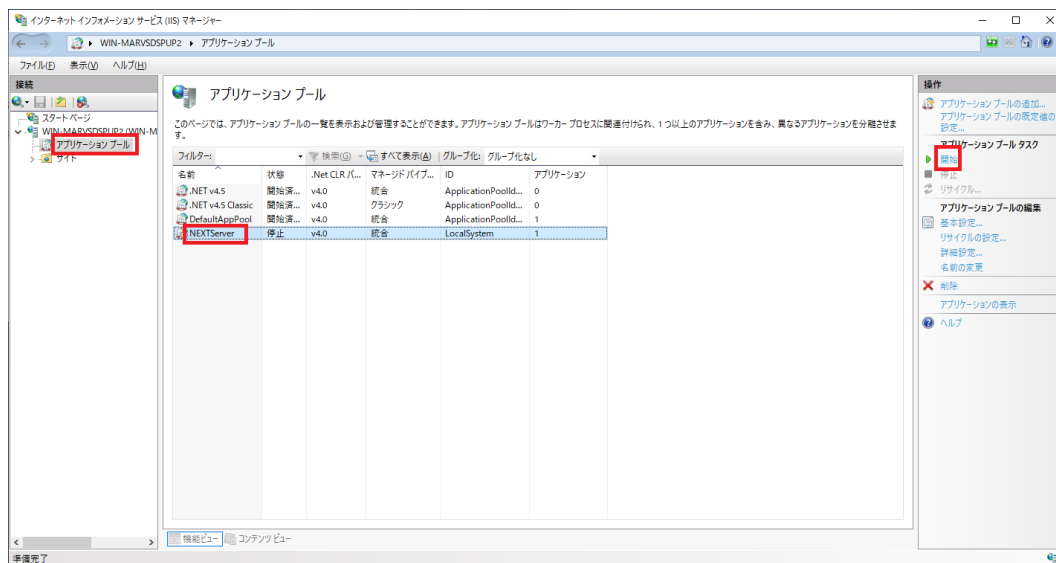
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン Web サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

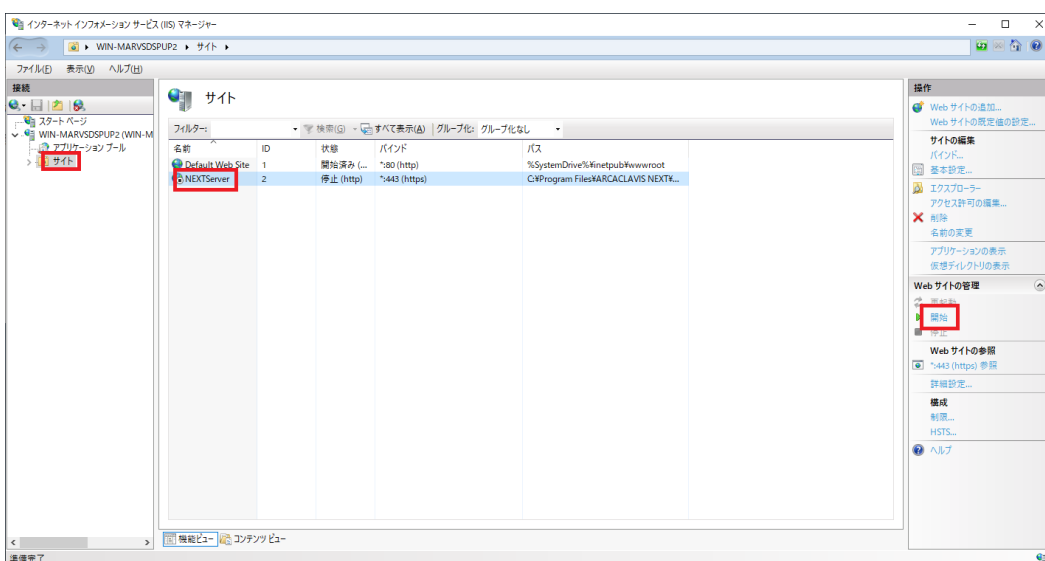
2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を選択してインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。



- IIS マネージャーの「接続」ビューの「アプリケーションプール」をクリックし、「機能」ビューから「NEXTServer」をクリックして、「操作」ウィンドウの「開始」をクリックします。



- 「接続」ビューの「サイト」をクリックし、「機能」ビューから「NEXT Server」をクリックして、「操作」ウィンドウの「開始」をクリックします。



13.2.7. タスクスケジューラの有効化

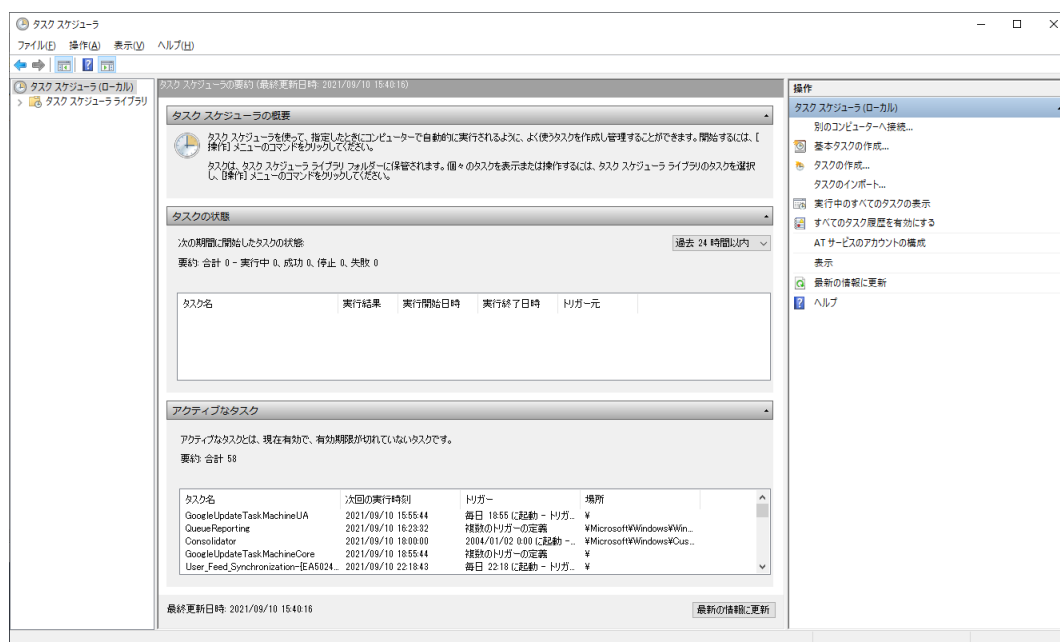
リストアの作業が完了した後に無効化したログ管理用タスクスケジューラ、及びバックアップ用タスクスケジューラを有効化してください。

※「13.2.3. タスクスケジューラの無効化」でタスクスケジューラを無効化していなければ有効化の操作は不要です。

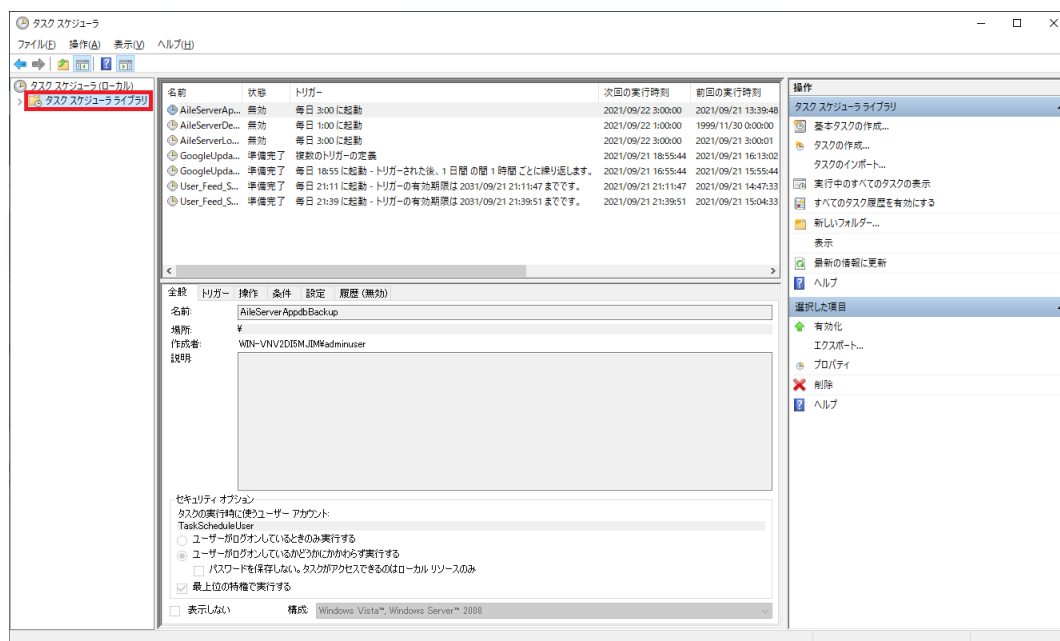
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン Web サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。

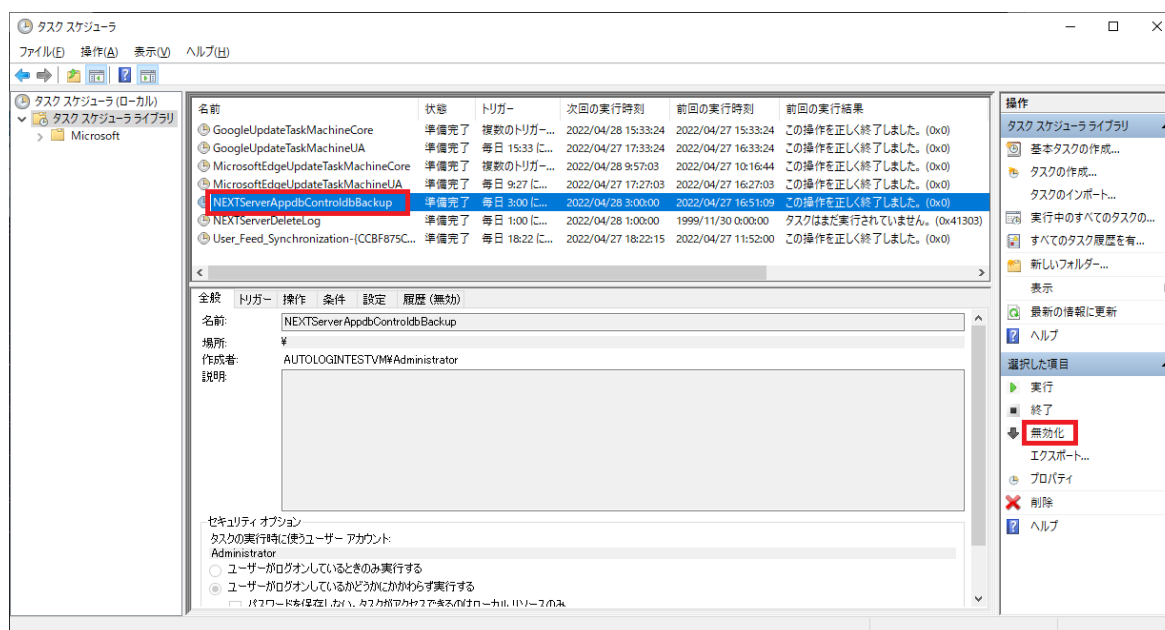


3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。



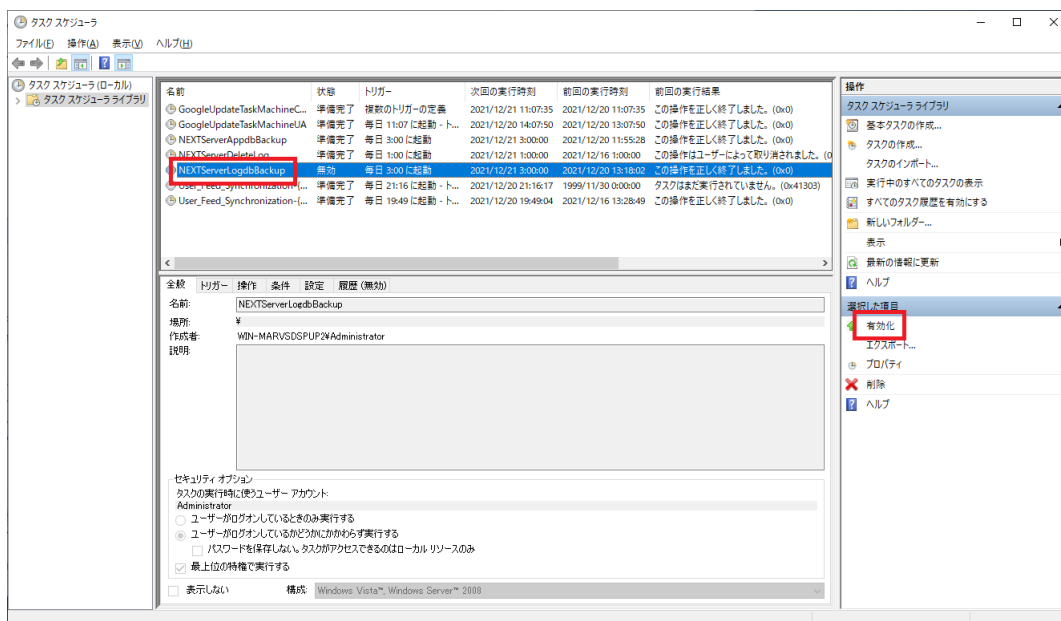
4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。NEXT 管理 DB ファイル、NEXT コントロール設定 DB ファイルのバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「有効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerAppdbControldbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。



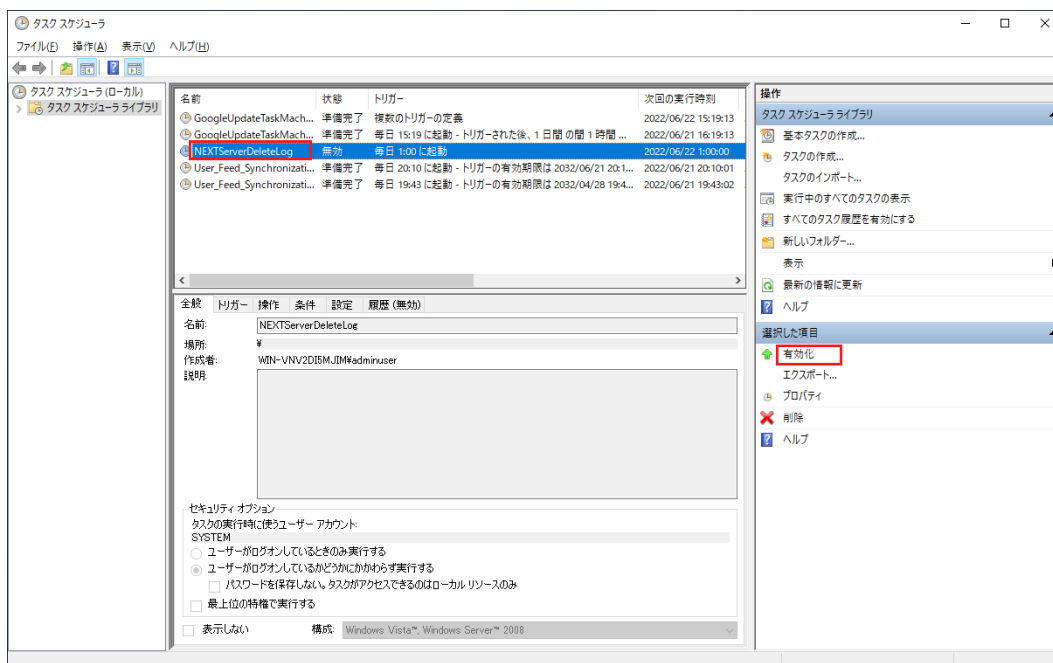
5. 同様に、NEXT ログ DB ファイルのバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「有効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerLogdbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。



6. 同様に、ログ管理用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「有効化」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerDeleteLog」というタスク名に設定したものと説明します。



13.3. NEXT ログ DB ファイルをリストアする

NEXT ログ DB ファイルが破損した場合や、特定のバックアップした時点まで NEXT ログ DB ファイルを戻す場合にリストアすることができます。

NEXT ログ DB ファイルのリストアを行う手順について説明します。

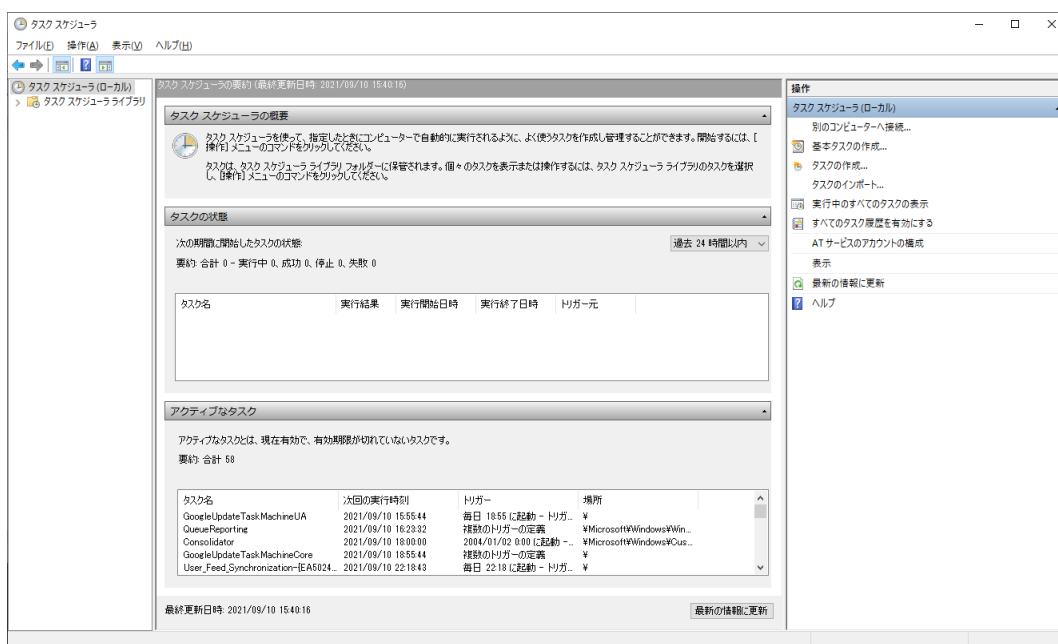
13.3.1. 現在の NEXT ログ DB ファイルをバックアップ

※リストアに失敗した場合、元の DB に戻すために予めバックアップを実行することを推奨します。

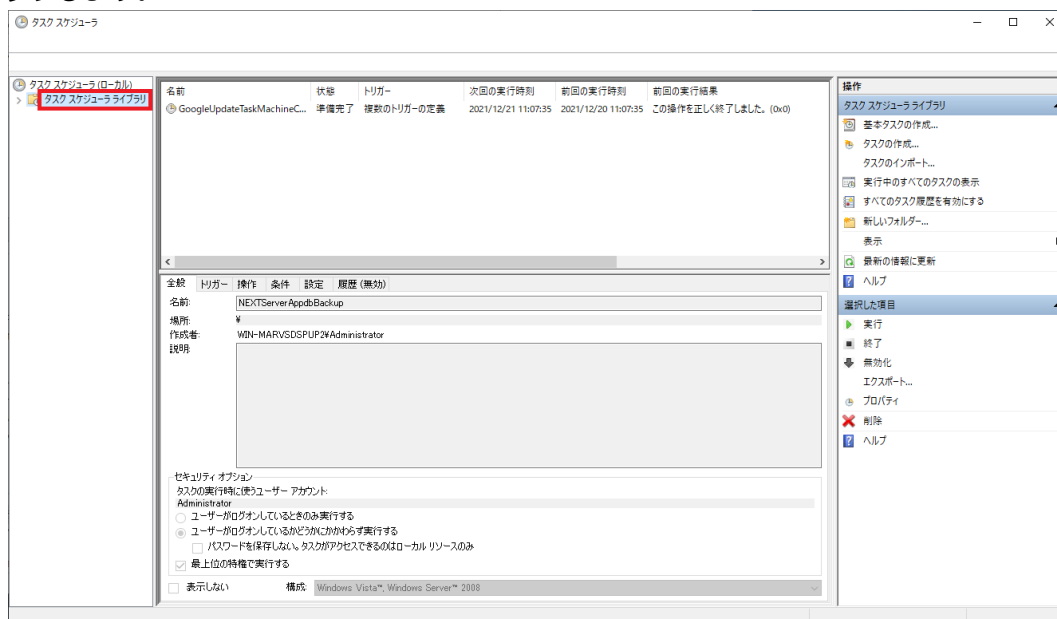
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[タスク スケジューラ]を選択してタスク スケジューラを開きます。

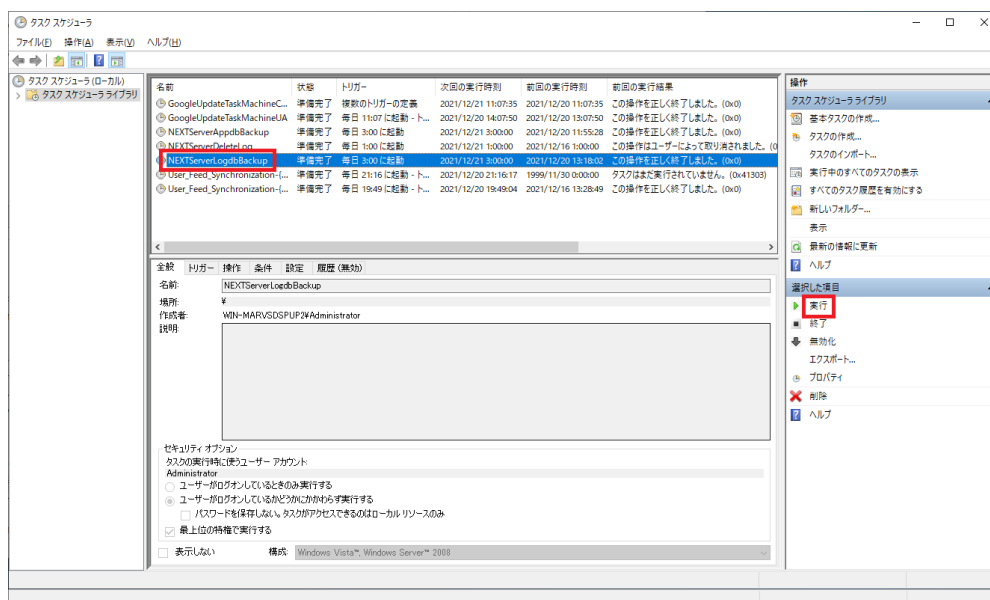


3. 「タスク スケジューラ(ローカル)」画面が表示されます。「タスク スケジューラ ライブラリ」をクリックします。

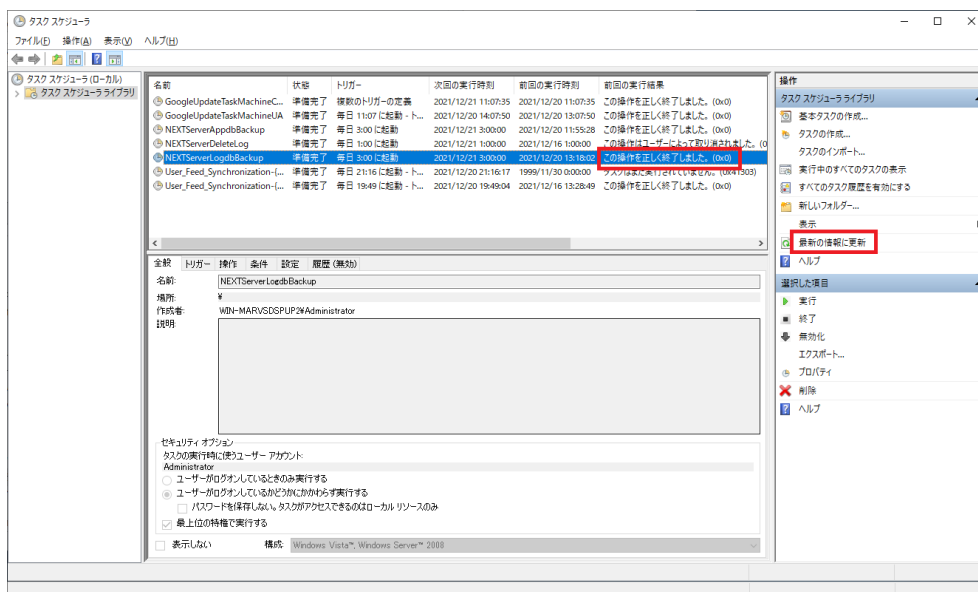


4. 「機能」ビューに「タスク スケジューラ ライブラリ」画面が表示されます。NEXT ログ DB ファイルのバックアップ用タスクスケジューラをクリックして、「操作」ウィンドウの「実行」をクリックしてください。

※例として「NEXTServerLogdbBackup」というタスク名に設定したものと説明します。



5. しばらく待ってから「最新の情報に更新」をクリックします。実行したタスクの「前回の実行結果」が「この操作を正しく終了しました。(0x0)」と表示されればバックアップは完了です。
 ※バッチファイルに設定した「バックアップファイル名」のフォルダにバックアップファイルが生成されます。



Info 「前回の実行結果」が「現在タスクを実行中です。(0x41301)」と表示された場合は、しばらく待ってから再度「最新の情報に更新」をクリックしてください。

Info 「前回の実行結果」が「(0x1)」と表示された場合は、バックアップに失敗しています。失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 3 から実行してください。

- ・バックアップのバッチファイルの設定内容が間違っている

13.3.2. IIS の停止

リストアを行う際は、必ず IIS を停止してから行ってください。

IIS の停止を行う手順は、「13.2.2. IIS の停止」を参照してください。

13.3.3. タスクスケジューラの無効化

リストアを行う際は、ログ管理用タスクスケジューラ、及びバックアップ用タスクスケジューラを無効化してから行ってください。

※タスクスケジューラが動作する時間とリストアする時間が被らなければ無効化の操作は不要です。

タスクスケジューラの無効化を行う手順は、「13.2.3. タスクスケジューラの無効化」を参照してください。

13.3.4. NEXT ログ DB ファイルのリストア用バッチファイルを作成

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows アクセサリ]-[メモ帳]を選択してメモ帳を開き、下記内容をコピーしてメモ帳に貼り付けてください。

```
@echo off

: **** DB パスワードの設定 ****
: DB パスワードが「password」の場合は、「set PGPASSWORD=password」となります。
set PGPASSWORD=password

: **** pg_restore.exe の配置場所 ****
: postgresql のインストール先が「C:¥Program Files¥PostgreSQL」の場合は
: 「set PGRESTOREPATH = "C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"」となります。
set PGRESTOREPATH="C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin"

: **** リストアするファイル名 ****
: 「C:¥backup¥logdb_20210915_155952.dump」を使用してリストアする場合は
: 「set PGRESTOREFILE = "C:¥backup¥logdb_20210915_155952.dump"」となります。
set PGRESTOREFILE="C:¥backup¥logdb_20210915_155952.dump"

: **** リストアする DB 名 ****
: 「NEXT ログ DB ファイル」をリストアする場合は「set PGRESTOREDB=logdb」となります。
set PGRESTOREDB=logdb
```

```

%PGRESTOREPATH%¥pg_restore.exe -w -c -p 5432 -U postgres -
d %PGRESTOREDB% %PGRESTOREFILE%

if "%ERRORLEVEL%"=="0" (
    echo ***** リストアが正常に終了しました。 *****
) else (
    echo ***** リストアに失敗しました。 *****
)
pause

```

3. コピーした内容の下記内容をご使用の環境に合わせて修正してください。

項目	説明
DB パスワードの設定	NEXT サーバーのインストール時に「データベースパスワード設定画面」で設定したパスワードになります。
pg_restore.exe の配置場所	NEXT サーバーのインストールでは、通常、「C:¥Program Files¥PostgreSQL¥bin」となります。
リストアするファイル名	リストアで使用するファイル名になります。 ※任意のファイル名で構いません。拡張子は「.dump」とします。
リストアする DB 名	リストアする DB 名になります。 NEXT ログ DB ファイルをリストアする場合は「logdb」を設定してください。

4. 修正したファイルを任意の場所に、拡張子「.bat」として保存してください。
※例として「C:¥backup」に「logdb_restore.bat」というファイル名で保存したものとして説明します。

13.3.5. NEXT ログ DB ファイルをリストア

1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン DB サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. 「13.3.4. NEXT ログ DB ファイルのリストア用バッチファイルを作成」で作成したバッチファイルを選択し、「右クリック」-「管理者として実行」してください。
3. コマンドプロンプトに「***** リストアが正常に終了しました。 *****」と表示されればリストアは完了です。

Info 「***** リストアに失敗しました。 *****」と表示された場合は、リストアに失敗しています。
失敗する要因としては以下が考えられますので、再度確認して手順 2 から実行してください。

- ・リストアのバッチファイルの設定内容が間違っている
- ・リストアのバッチファイルを管理者として実行していない

※問題が見つからない場合はバックアップファイルが破損している可能性があるため、「13.3.1. 現在の NEXT ログ DB ファイルをバックアップ」で作成したバックアップファイルを使用してリストアを行ってください。

13.3.6. IIS の開始

リストアの作業が完了した後に停止させた IIS を開始してください。

IIS の開始を行う手順は、「13.2.6. IIS の開始」を参照してください。

13.3.7. タスクスケジューラの有効化

リストアの作業が完了した後に無効化したログ管理用タスクスケジューラ、及びバックアップ用タスクスケジューラを有効化してください。

※「13.3.3 タスクスケジューラの無効化」でタスクスケジューラを無効化していなければ有効化の操作は不要です。

タスクスケジューラの有効化を行う手順は、「13.2.7. タスクスケジューラの有効化」を参照してください。

付録

IC カードを忘れた/紛失した、カメラを忘れた/壊れてしまった

NEXT クライアントの利用者本人が二要素認証のための IC カードを忘れた、外出時にカメラが壊れたなどで NEXT による画面ロックを解除できないと業務が止まることを避けるため、緊急パスワードで一時的に Windows へサインインします。

NEXT 緊急パスワードを発行する

緊急パスワードの発行は管理者が NEXT マネージャーで行います。
発行手順は、「9.6. NEXT 緊急パスワードの発行」を参照してください。

NEXT 緊急パスワードを利用して Windows へサインインする

発行された緊急パスワードを管理者から NEXT クライアントの利用者へ通知を受け、NEXT クライアントで緊急パスワードでのサインインを行います。
緊急パスワードのサインイン手順は、「ARCACLAVIS NEXT クライアント操作ガイド」を参照してください。

NEXT ユーザーのロックアウト

NEXT ユーザーは、ポリシー設定でロックアウトのしきい値を設定している場合、NEXT 認証に失敗し続け、その失敗回数がポリシー設定の指定回数を超えるとロックアウトします。

NEXT 認証の失敗は以下のように管理されます。

- ・ 認証方式によらず、各 NEXT ユーザー単位でロックカウンタを持っており、失敗回数を管理していません。
- ・ NEXT 認証が成功した場合、ロックカウンタを 0 回に戻します。
ただし、ワンタイムパスワード認証によるサインイン成功時は、ロックカウンタをリセットしません。
- ・ NEXT 認証が失敗した場合、ロックカウンタをカウントアップします。
- ・ カウントアップ方式のため、ポリシー設定を変更した場合、以下のような影響を受けます。
 - ・ ポリシー設定値を減らすと、残試行回数が減ることになります
 - ・ ポリシー設定値を増やすと、アカウントロック中だったユーザーがアカウントロックと判定されなくなる場合があります
- ・ 運用中にポリシー設定でしきい値を変更した場合でも、各 NEXT ユーザー単位のロックカウンタはそのままとなります。しきい値を少なくする場合は、ご注意ください。

以下の NEXT 認証の失敗はカウントされます。

- ・ NEXT クライアントでの NEXT パスワード認証の失敗
- ・ NEXT クライアントでの IC カード情報登録時の NEXT 認証の失敗
- ・ NEXT クライアントでの IC カード認証時の IC カード照合の失敗
- ・ NEXT クライアントでの顔情報登録時の NEXT 認証の失敗
- ・ NEXT クライアントでの顔認証時の NEXT 認証の失敗
- ・ NEXT クライアントでの NEXT 緊急パスワード認証の失敗
- ・ NEXT マネージャーへのパスワード認証によるサインイン失敗

以下の NEXT 認証の失敗はカウントされません。

- ・ NEXT クライアントでの NEXT サーバーに対してオフライン状態での認証
- ・ NEXT クライアントでの顔認証時の顔照合の失敗
- ・ NEXT マネージャーへのワンタイムパスワード認証によるサインイン失敗

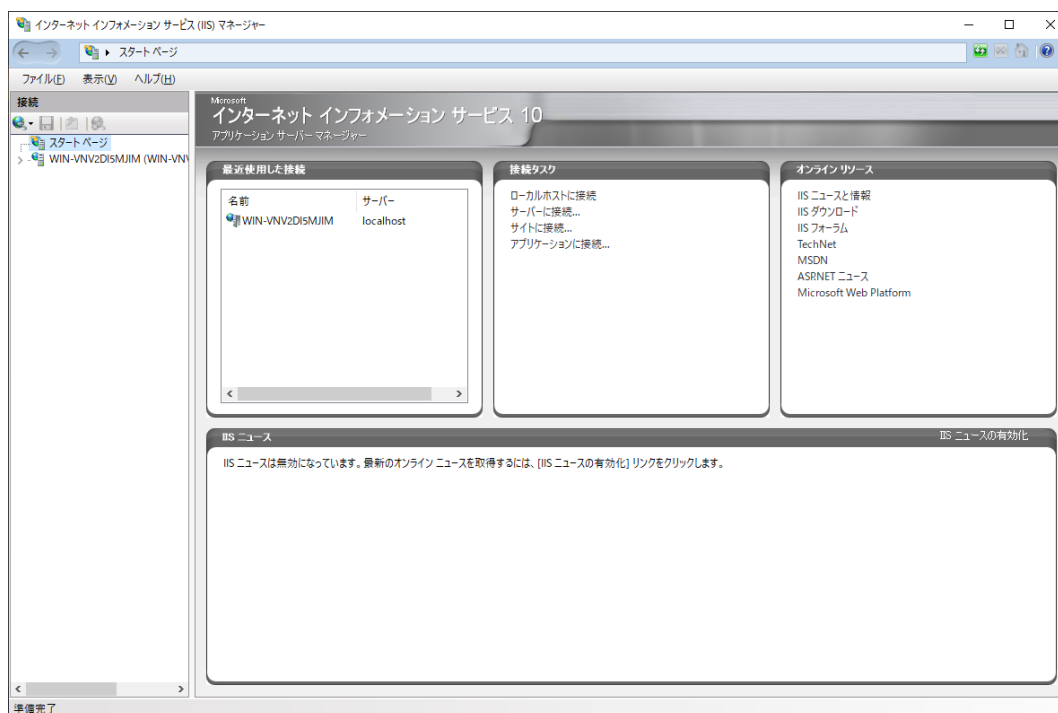
NEXT マネージャーの Web サイト再起動

NEXT マネージャーの Web サイト再起動は以下の手順で行います。

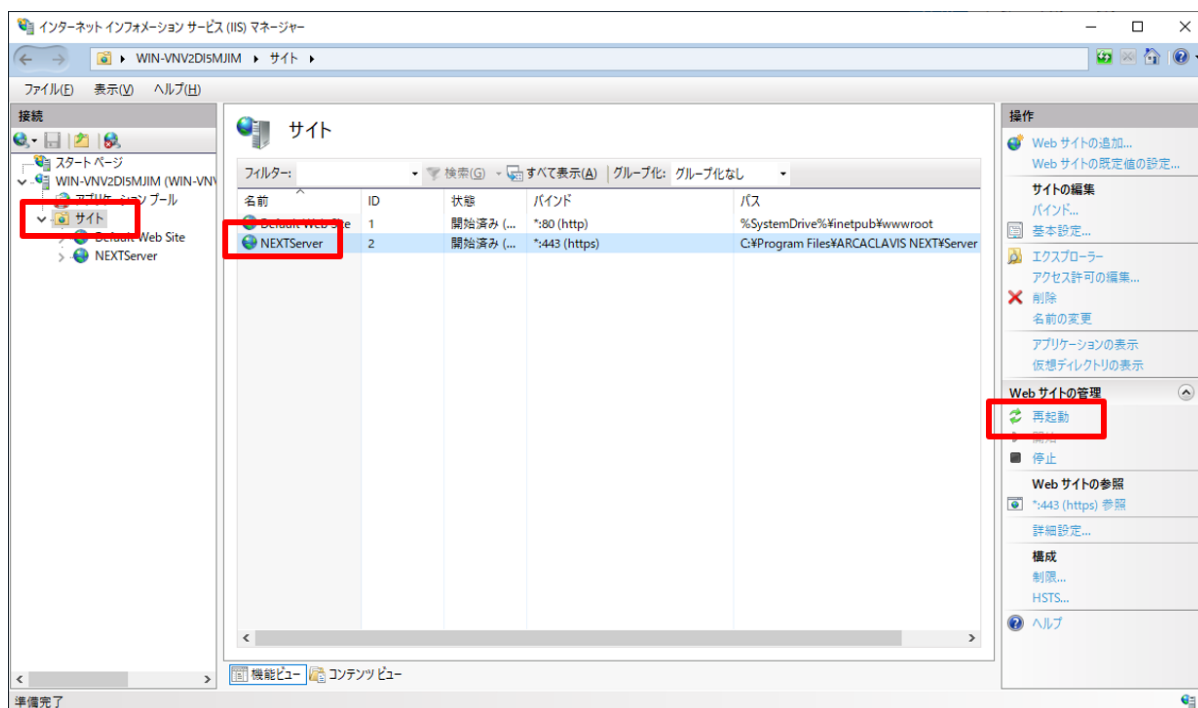
1. NEXT オールインワンサーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

Info NEXT オールイン Web サーバーと NEXT オールイン DB サーバーの 2 台構成時は、NEXT オールイン Web サーバーに管理者権限のユーザーでサインインしてください。

2. スタートメニューから[Windows 管理ツール]-[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を選択してインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。



3. IIS マネージャーの「接続」ビューの「サイト」をクリックし、「機能」ビューから「NEXTServer」をクリックして、「操作」ウィンドウの「再起動」をクリックします。



NEXT ユーザーの状態と NEXT 認証の可否

NEXT 緊急パスワードの発行

アカウントの状態によって NEXT 緊急パスワードが発行できるかどうかが変わります。

緊急パスワード発行の可、不可	アカウントの状態
発行が可能	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEXT パスワードが有効期限切れ ・ 初回サインイン時に NEXT パスワード変更が必要 ・ NEXT ユーザーがオフライン有効日数の期限切れ
発行が不可	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEXT ユーザーが無効 ・ NEXT ユーザーが有効期限切れ ・ NEXT ユーザーがロックアウトされている

NEXT マネージャーへの NEXT パスワードでのサインイン

アカウントの状態によって NEXT マネージャーにパスワード認証でサインインできるかどうかが変わります。

認証の可、不可	アカウントの状態
サインインが不可	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEXT ユーザーが無効 ・ NEXT ユーザーが有効期限切れ ・ NEXT ユーザーがロックアウトされている
パスワード変更後にサインインが可能 ※サインイン時に NEXT パスワードの変更が行われます	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEXT パスワードが有効期限切れ ・ 初回サインイン時に NEXT パスワード変更が必要

NEXT マネージャーへのワンタイムパスワードでのサインイン

アカウントの状態によって NEXT マネージャーにワンタイムパスワードでサインインできるかどうかが変わります。

認証の可、不可	アカウントの状態
サインインが可能	<ul style="list-style-type: none">• NEXT ユーザーがロックアウトされている• NEXT パスワードが有効期限切れ
サインインが不可	<ul style="list-style-type: none">• NEXT ユーザーが無効• NEXT ユーザーが有効期限切れ
パスワード変更後にサインインが可能 ※サインイン時に NEXT パスワードの変更が行われます	<ul style="list-style-type: none">• 初回サインイン時に NEXT パスワード変更が必要

NEXT ユーザーの状態ごとの復帰

アカウントの状態によって NEXT ユーザーの復帰方法が異なります。

アカウントの状態	NEXT マネージャーの関連する設定項目	NEXT マネージャーでの復帰方法	NEXT クライアントでの復帰方法（オンラインのみ）
NEXT ユーザーが無効	[NEXT ユーザー一覧]-[ユーザー管理]-[無効]	無効に設定されている NEXT ユーザーの「無効」をオフに設定してください。（※1）	NEXT クライアントからの復帰はできません。（※2）
NEXT ユーザーが有効期限切れ	[NEXT ユーザー一覧]-[ユーザー管理]-[有効期間(開始)] [NEXT ユーザー一覧]-[ユーザー管理]-[有効期間(終了)]	有効期限が切れている NEXT ユーザーの「有効期間(開始)」、または「有効期間(終了)」を正しい日付に設定してください。（※1）	NEXT クライアントからの復帰はできません。（※2）
NEXT ユーザーがロックアウトされている	[ポリシー設定]-[NEXT ユーザーのロックアウトのしきい値]	ロックアウトされている NEXT ユーザーの[NEXT パスワードリセット]を行ってください。（※3）	NEXT クライアントからの復帰はできません。（※2）
NEXT パスワードが有効期限切れ	[ポリシー設定]-[NEXT パスワード有効日数]	NEXT パスワードの有効期限が切れている NEXT ユーザーで下記いずれかを行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT マネージャーへのサインイン時に NEXT パスワードを変更してください。 ・NEXT パスワードの有効期限が切れている NEXT ユーザーの[編集]から NEXT パスワードを変更してください。 （※3） <ul style="list-style-type: none"> ・NEXT マネージャーへワンタイムパスワードでサインインし、NEXT パスワードを変更してください。（※3） 	NEXT 認証後に NEXT パスワード変更を行ってください。 ただし、オフライン時は NEXT パスワード変更はできません。

アカウントの状態	NEXT マネージャーの関連する設定項目	NEXT マネージャーでの復帰方法	NEXT クライアントでの復帰方法（オンラインのみ）
初回サインイン時に NEXT パスワード変更が必要	[ポリシー設定]- [初回サインイン時に NEXT パスワードを変更する]	NEXT マネージャーへのサインイン時に NEXT パスワードを変更してください。	NEXT 認証後に NEXT パスワード変更を行ってください。 ただし、オフライン時は NEXT パスワード変更はできません。
NEXT ユーザーがオフライン有効日数の期限切れ	[ポリシー設定]- [オフライン有効日数] ※「0」に設定すると無期限となります	NEXT サーバーからの復帰はできません。	オンライン状態で NEXT 認証を行ってください。

- ※1：管理者権限の NEXT ユーザーが 1 つ、かつ管理者権限の NEXT ユーザーが無効状態の場合は復帰できません。管理者(ビルトイン)ユーザーをリセットするか、サポートにお問い合わせください。管理者(ビルトイン)ユーザーをリセットする手順については、「ARCACLAVIS NEXT トラブルシューティングガイド」を参照してください。
- ※2：NEXT マネージャーでの復帰方法を行った後に、NEXT クライアントでのサインインが可能となります。
- ※3：NEXT マネージャーでの復帰方法を行った際に NEXT パスワードを変更した場合は、管理者から利用者に変更後の NEXT パスワードを通知してください。NEXT パスワードの変更は任意です。

NEXT パスワードの変更

NEXT パスワードを変更した際の「NEXT パスワードの更新日時」、「ロックアウトの解除」は以下のルールで行われます。

NEXT パスワードの変更方法		NEXT パスワードの更新日時	ロックアウトの解除
NEXT マネージャー	管理者ポータルで NEXT ユーザーを新規に登録する ※CSV インポートからの追加も含む	変更される	解除しない
	管理者ポータルで NEXT ユーザーの編集を行い、NEXT パスワードを入力した状態で更新する ※CSV インポートからの更新も含む	変更される	解除しない
	管理者ポータルで NEXT ユーザーの編集を行い、NEXT パスワードを入力しない状態で更新する ※CSV インポートからの更新も含む	変更されない	解除しない
	管理者ポータルで NEXT パスワードリセットを実行する	変更される	解除する
	ユーザーポータルで NEXT パスワード変更を実行する	変更される	解除しない
	NEXT パスワードの有効期限が切れている状態で、NEXT マネージャーへのサインイン時に NEXT パスワードを変更する	変更される	解除しない
	NEXT クライアント	NEXT パスワードの有効期限が切れている状態で、NEXT 認証後に NEXT パスワードを変更する	変更される

編集・著作 株式会社両備システムズ

ARCACLAVIS は、株式会社両備システムズの登録商標です。

記載されている社名、製品名等は各社の商標または登録商標です。

記載されている内容は予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

本書の内容については万全を期して作成致しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどのお気づきの点がありましたらご連絡ください。

また、株式会社両備システムズの許可なく、複製・改変などを行うことはできません。